
JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理 9.0 製品ガイド

2008 年 12月

Copyright © 2003, 2008, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

商標と登録商標について

OracleはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

ライセンス制約の保証と結果的に生じる損害の免責

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

米国特許第5,781,908、5,828,376、5,950,010、5,960,204、5,987,497、5,995,972、5,987,497、6,223,345号により保護されています。その他の特許は申請中です。

保証免責

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

制限付権利

このソフトウェアまたは関連ドキュメントが、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供される場合は、次のNoticeが適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are “commercial computer software” or “commercial technical data” pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

危険な用途への使用について

このソフトウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、このソフトウェアを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

第三者のコンテンツ、製品、サービスに対する免責

このソフトウェアおよびドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても、一切の責任を負いかねます。

Contains GNU libgmp library; Copyright © 1991 Free Software Foundation, Inc. This library is free software which can be modified and redistributed under the terms of the GNU Library General Public License.

Includes Adobe® PDF Library, Copyright 1993–2001 Adobe Systems, Inc. and DL Interface, Copyright 1999–2008 Datalogics Inc. All rights reserved. Adobe® is a trademark of Adobe Systems Incorporated.

Portions of this program contain information proprietary to Microsoft Corporation. Copyright 1985–1999 Microsoft Corporation.

Portions of this program contain information proprietary to Tenberry Software, Inc. Copyright 1992–1995 Tenberry Software, Inc.

Portions of this program contain information proprietary to Premia Corporation. Copyright 1993 Premia Corporation.

This product includes code licensed from RSA Data Security. All rights reserved.

This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>).

This product includes cryptographic software written by Eric Young (ey@cryptsoft.com).

This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com). All rights reserved.

This product includes the Sentry Spelling–Checker Engine, Copyright 1993 Wintertree Software Inc. All rights reserved.

Open Source Disclosure

Oracle takes no responsibility for its use or distribution of any open source or shareware software or documentation and disclaims any and all liability or damages resulting from use of said software or documentation. The following open source software may be used in Oracle's JD Edwards EnterpriseOne products and the following disclaimers are provided:

This product includes software developed by the Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>). Copyright (c) 1999–2000 The Apache Software Foundation. All rights reserved. THIS SOFTWARE IS PROVIDED “AS IS” AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE APACHE SOFTWARE FOUNDATION OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

目次

はじめに

この PeopleBook について	xv
JD Edwards EnterpriseOneアプリケーション導入の事前要件.....	xv
アプリケーションの基礎.....	xv
最新版ドキュメンテーションの入手とドキュメンテーションのダウンロード.....	xvi
最新版ドキュメンテーションの入手(英語版のみ).....	xvi
ドキュメンテーションのダウンロード.....	xvi
追加情報.....	xvi
表記規則.....	xviii
表記規則.....	xviii
注意事項の表示.....	xix
国、地域、業種の表記.....	xix
通貨コード.....	xx
ご意見、ご要望をお寄せください.....	xx
製品ガイドで使用する共通フィールド.....	xx

まえがき

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOneアパレル管理 – まえがき.....	xxiii
JD Edwards EnterpriseOne製品.....	xxiii
JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基礎.....	xxiii
この製品ガイドで使用する共通フィールド.....	xxiv

第 1 章

JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理 – はじめに.....	1
JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理の概要.....	1
JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理のビジネス・プロセス.....	1
JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理の統合.....	2
JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理の導入.....	5
グローバル導入の手順.....	5
アパレル管理の導入手順.....	6

第 2 章

JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理システムについて.....	7
---	---

業務環境および概念.....	7
製鉄業.....	8
製紙業.....	8
家具産業.....	8
アパレル産業.....	8
JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理システムの概要.....	11
JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理システム.....	11
産業内の取引.....	13

第 3 章

JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理システムの設定.....	17
JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理システムの有効化.....	17
JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理システムの有効化について.....	17
JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理システムの有効化に使用するフォーム.....	17
JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理システムの有効化.....	17

第 4 章

JD Edwards EnterpriseOne在庫管理のアパレル管理用操作.....	19
品目管理について.....	19
製品構造.....	20
例外管理.....	24
品目作成プロセス.....	24
在庫トランザクションについて.....	25
サイズ・マトリックス・グリッドの定義.....	26
サイズ管理について.....	26
サイズ・マトリックス・グリッドの定義に使用するフォーム.....	28
グリッド・コードの定義.....	28
サイズ・マトリックス・グリッドの定義.....	29
サイズ分割の定義.....	29
サイズ加重の定義.....	31
システム固定情報SPLITCおよびSPLITCの設定の検証.....	31
レベル・タイプの定義.....	31
レベル・タイプについて.....	32
事前設定.....	33
レベル・タイプの定義に使用するフォーム.....	33
レベル・タイプの定義.....	33
品目構造の定義.....	34
品目構造について.....	35

品目構造の定義に使用するフォーム.....	35
品目構造コードの定義.....	35
品目構造の定義.....	36
システム固定情報STRUCTUREの設定の検証.....	37
マトリックス入力のレベル・カラム見出しの定義.....	37
マトリックス入力のレベル・カラム見出しの定義に使用するフォーム.....	37
マトリックス入力のレベル・カラム見出しの定義.....	37
標準品目からスタイル品目への変換.....	38
スタイル品目マスター変換について.....	38
スタイル品目マスター変換プログラムの実行.....	38
ルート品目の作成.....	38
スタイル品目の作成について.....	38
事前設定.....	40
ルート品目の作成に使用するフォーム.....	41
スタイル品目マスター(PCW51)の処理オプションの設定.....	41
スタイル品目の作成.....	43
スタイル品目ルート・レベル0への構造の追加.....	43
子スタイル品目のオンデマンド生成.....	44
スタイル品目のコピー.....	44
組成、ラベルおよび追加情報の定義.....	46
組成およびラベルについて.....	46
事前設定.....	47
組成およびラベルの定義に使用するフォーム.....	48
組成管理の処理.....	48
スタイル品目追加情報の処理.....	49
スタイル品目のバッチ生成.....	50
スタイル品目のバッチ生成について.....	50
事前設定.....	50
子スタイル品目の作成/処理プログラム(RCW01)の実行.....	50
UCCおよびEAN13生成の設定.....	50
UCCおよびEAN13生成について.....	50
UCCまたはEAN13生成の設定に使用するフォーム.....	51
会社UCCコードの記述2へのアクセス.....	51
会社UCCコードの定義.....	52
EAN13の生成プログラム(RCW28)の処理オプションの設定.....	52
EAN13の生成レポート(RCW28)の実行.....	53
品目階層の作成.....	53
品目階層について.....	53
品目階層の作成に使用するフォーム.....	54
品目階層の作成.....	54

品目改訂の処理.....	55
品目の改訂について.....	55
スタイル品目の改訂に使用するフォーム.....	56
品目改訂の処理.....	56
スタイル品目の在庫出庫.....	57
スタイル品目の在庫出庫について.....	57
事前設定.....	57
スタイル品目の在庫出庫に使用するフォーム.....	58
マトリックス入力(PCW10)の処理オプションの設定.....	58
スタイル品目の在庫出庫.....	59
スタイル品目の在庫調整.....	59
スタイル品目の在庫調整について.....	60
事前設定.....	60
スタイル品目の在庫調整に使用するフォーム.....	61
スタイル品目の在庫調整.....	61
スタイル品目の在庫移動.....	61
スタイル品目の在庫移動について.....	62
事前設定.....	62
スタイル品目の在庫移動に使用するフォーム.....	63
スタイル品目の在庫移動.....	63
スタイル品目の在庫状況の検討.....	63
スタイル品目の在庫状況の検討について.....	64
スタイル品目の在庫状況の検討に使用するフォーム.....	64
在庫状況(PCW05)の処理オプションの設定.....	64
スタイル品目の在庫状況の検討.....	66
スタイル品目データの除去.....	67
スタイル品目の除去プログラムについて.....	67
事前設定.....	68
スタイル品目マスターの除去レポートの検討.....	68
スタイル品目マスターの除去レポートの処理オプションの設定.....	69
スタイル品目残の除去レポートの検討.....	69
スタイル品目残の除去レポートの処理オプションの設定.....	70
スタイル品目残の除去ログ・レポートの検討.....	70
スタイル品目マスターの除去ログ・レポートの検討.....	71

第 5 章

コレクション管理の処理.....	73
コレクション管理について.....	73
コレクションUDCの設定.....	75

コレクションUDCについて.....	76
コレクションUDCの設定に使用するフォーム.....	76
コレクション構造コードの定義.....	76
シーズン・コードUDCの設定.....	77
シーズン年UDCの設定.....	77
コレクション構造の定義.....	77
コレクション構造について.....	77
事前設定.....	77
コレクション構造の定義に使用するフォーム.....	78
コレクション構造の定義.....	78
コレクションの作成.....	79
コレクションの作成について.....	79
コレクションの作成に使用するフォーム.....	80
コレクション管理(PCW07)の処理オプションの設定.....	80
コレクション見出しの作成.....	81
コレクション構造詳細の作成.....	82
スタイル品目のコレクションへの追加.....	83
コレクション・テンプレートの設定.....	84
コレクション・テンプレートについて.....	84
事前設定.....	86
コレクション・テンプレートの設定に使用するフォーム.....	87
コレクション・テンプレート名の定義.....	87
コレクション・テンプレートの作成.....	87
コレクション別スタイル品目の処理.....	89
コレクション別スタイル品目について.....	89
コレクション別スタイル品目の処理に使用するフォーム.....	89
コレクション別スタイル品目(PCW54)の処理オプションの設定.....	90
コレクション別スタイル品目の処理.....	91

第 6 章

JD Edwards EnterpriseOne受注管理のアパレル管理用操作.....	93
アパレル管理用JD Edwards EnterpriseOne受注管理について.....	93
事前設定.....	97
スタイル品目の価格表の設定.....	97
スタイル品目の価格表について.....	97
事前設定.....	100
スタイル品目の価格表の設定に使用するフォーム.....	100
価格表(PCW17)の処理オプションの設定.....	100
スタイル品目の価格表の設定.....	101

スタイル品目の価格表の除去.....	102
価格表の作成レポートの実行.....	102
スタイル品目の価格の丸め.....	102
価格の丸め方法について.....	102
価格の丸め規則について.....	103
事前設定.....	104
スタイル品目の丸め価格に使用するフォーム.....	104
スタイル品目の丸め方法の設定.....	104
スタイル品目の丸め規則の設定.....	105
スタイル品目の価格表為替レートの設定.....	106
価格表為替レートの設定について.....	107
事前設定.....	107
スタイル品目の価格表為替レートの設定に使用するフォーム.....	107
スタイル品目の価格表為替レートの設定.....	107
スタイル品目の価格表の生成.....	108
価格表生成について.....	108
事前設定.....	111
スタイル品目の価格表生成に使用するフォーム.....	112
価格表生成(PCW25)の処理オプションの設定.....	112
価格表生成(RCW07)の処理オプションの設定.....	113
スタイル品目の価格表の生成.....	113
1つのスタイル品目の価格の生成.....	114
品目例外の作成.....	115
受注オーダー入力(P42101)を使用したスタイル品目の受注オーダーの作成.....	115
スタイル品目の受注オーダーの作成について.....	115
事前設定.....	117
スタイル品目の受注オーダーの作成に使用するフォーム.....	118
スタイル品目の受注オーダーの作成.....	118
受注オーダー入力(P4210)を使用したスタイル品目の受注オーダーの入力.....	121
スタイル品目の受注オーダー入力について.....	121
事前設定.....	121
スタイル品目の受注オーダーの入力に使用するフォーム.....	124
スタイル品目の受注オーダーの印刷.....	124
事前設定.....	124
スタイル品目の受注オーダーの印刷.....	124
受注オーダー・スタイル品目の一括更新の実行.....	125
受注オーダー・スタイル品目の一括更新について.....	125
事前設定.....	125
受注オーダー・スタイル品目の一括更新の実行に使用するフォーム.....	125
受注オーダー - スタイル品目の一括更新(PCW61)の処理オプションの設定.....	126

受注オーダー・スタイル品目の一括更新の実行.....	128
----------------------------	-----

第 7 章

JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理における割当の処理.....	131
JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理での割当について.....	131
事前設定.....	133
この章で使用する共通用語.....	135
標準引当処理について.....	136
引当規則の設定.....	138
引当規則について.....	138
事前設定.....	140
引当規則の設定に使用するフォーム.....	141
引当規則のコードの定義.....	141
スタイル品目の引当規則の定義.....	142
カテゴリ・コードの優先順位値の設定.....	143
手動割当の実行.....	144
手動割当について.....	144
事前設定.....	145
手動割当の実行.....	145
自動割当の実行.....	146
自動割当について.....	146
自動割当の実行.....	148
割当提案の生成.....	150
割当提案について.....	150
割当提案のアルゴリズムについて.....	150
例: 割当提案のアルゴリズムの設定と実行.....	153
事前設定.....	162
割当/納入提案の生成プログラム(RCW06)の処理オプションの設定.....	162
割当提案の生成.....	165
納入提案の生成.....	165
納入提案について.....	165
納入提案のアルゴリズムについて.....	166
事前設定.....	170
納入提案の生成.....	170
割当/納入提案の検証.....	170
割当/納入提案の検証について.....	171
割当/納入提案の検証に使用するフォーム.....	171
割当/納入提案(PCW29)の処理オプションの設定.....	172
割当/納入提案のオーダーの検討.....	172

割当/納入提案の品目の検討.....	173
割当/納入提案のオーダー詳細の検討.....	174
割当/納入提案の改訂.....	174
割当/納入提案のバッチによる検証.....	175

第 8 章

JD Edwards EnterpriseOne製造データ管理のアパレル管理用操作.....	177
アパレル管理用JD Edwards EnterpriseOne製造データ管理について.....	177
事前設定.....	177
スタイル品目の部品表の設定.....	178
スタイル品目の部品表について.....	178
事前設定.....	183
スタイル品目の部品表の設定に使用するフォーム.....	184
スタイル品目ルート・レベル0の部品表の入力.....	185
部品表の関連の入力.....	185
部品表の用途の入力.....	186
部品表の例外の定義.....	187
オンデマンドによる子スタイル品目の部品表の生成.....	187
子スタイル品目の部品表のバッチ生成.....	188
スタイル品目の部品表のコピー.....	188
スタイル品目の作業工程指示の作成.....	189
スタイル品目の作業工程指示の作成について.....	189
事前設定.....	190
スタイル品目の作業工程指示の作成に使用するフォーム.....	191
スタイル品目ルート・レベル0の作業工程指示の入力.....	192
子スタイル品目の作業工程の生成.....	192
作業工程の例外の定義.....	192
スタイル品目の外注作業の設定.....	193
スタイル品目の外注作業について.....	193
事前設定.....	196
スタイル品目の外注作業の設定に使用するフォーム.....	197
スタイル品目外注作業の為替レート(PCW62)の処理オプションの設定.....	197
スタイル品目外注作業の為替レートの設定.....	197
スタイル品目の外注作業詳細の作成.....	198
スタイル品目の外注作業詳細のコピー.....	200

第 9 章

アパレル管理の資材計画作業の処理.....	201
-----------------------	-----

アパレル管理の資材計画作業について.....	201
スタイル品目の計画メッセージの処理.....	204
スタイル品目の計画メッセージについて.....	204
引当可能数量計算について.....	205
調整計算について.....	206
事前設定.....	208
スタイル品目の計画メッセージの処理に使用するフォーム.....	208
メッセージのマトリックス管理(PCW47)の処理オプションの設定.....	210
スタイル品目のメッセージの処理.....	211
スタイル品目のメッセージのサイズ別数量の追加.....	212
スタイル品目のメッセージの分割.....	212
スタイル品目のメッセージのグループ化.....	213
スタイル品目の調整値の計算.....	214
スタイル品目の転送オーダーの生成.....	214

第 10 章

JD Edwards EnterpriseOne製造現場管理のアパレル管理用操作.....	217
アパレル管理用JD Edwards EnterpriseOne製造現場管理について.....	217
スタイル品目のマスター作業オーダーの処理.....	217
スタイル品目のマスター作業オーダーについて.....	218
事前設定.....	224
スタイル品目のマスター作業オーダーの処理に使用するフォーム.....	224
スタイル品目のマスター作業オーダー処理(PCW49)の処理オプションの設定.....	226
スタイル品目の作業オーダー処理(R31F410)の処理オプションの設定.....	230
スタイル品目のマスター作業オーダー見出しの入力.....	230
スタイル品目のマスター作業オーダー詳細の入力.....	231
スタイル品目のマスター作業オーダーの検討.....	232
スタイル品目のマスター作業オーダー部品リストの作成.....	232
スタイル品目のマスター作業オーダー部品リストの改訂.....	233
スタイル品目のマスター作業オーダー作業工程指示の作成.....	234
スタイル品目のマスター作業オーダーの処理.....	234
スタイル品目のマスター作業オーダーの完了.....	234

第 11 章

JD Edwards EnterpriseOne調達管理のアパレル管理用操作.....	237
アパレル管理用JD Edwards EnterpriseOne調達管理について.....	237
事前設定.....	240
スタイル品目の購買価格の作成.....	241

スタイル品目の購買価格について.....	241
スタイル品目の購買価格の作成に使用するフォーム.....	242
スタイル品目仕入先価格/カタログ(PCW55)の処理オプションの設定.....	242
スタイル品目仕入先価格/カタログ見出しの作成.....	242
スタイル品目の購買価格の作成.....	243
スタイル品目の一括オーダーの入力.....	243
スタイル品目の一括オーダーについて.....	244
事前設定.....	244
スタイル品目の一括オーダーの入力に使用するフォーム.....	244
スタイル品目の一括オーダーの入力.....	245
スタイル品目の購買オーダーの入力.....	245
スタイル品目の購買オーダー入力について.....	245
事前設定.....	246
スタイル品目の購買オーダーの入力に使用するフォーム.....	247
スタイル品目の購買オーダーの入力.....	247
スタイル品目の一括オーダーのリリース.....	249
スタイル品目の一括オーダー・リリースについて.....	249
事前設定.....	250
スタイル品目の一括オーダーのリリースに使用するフォーム.....	251
スタイル品目の一括オーダーのリリース.....	251
スタイル品目の購買オーダーの印刷.....	252
スタイル品目の購買オーダーの印刷.....	252
 付録 A	
JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理システムで使用するテーブル.....	253
JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理システムで使用するテーブル.....	253
 JD Edwards EnterpriseOne用語集.....	263
 索引	279

この PeopleBook について

JD Edwards EnterpriseOne製品ガイドでは、オラクル社のJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの導入と使用に必要な情報が提供されています。

この章では、次の内容について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOneアプリケーション導入の事前要件
- アプリケーションの基礎
- 最新版ドキュメンテーションの入手とドキュメンテーションのダウンロード
- 追加情報
- 表記規則
- ご意見、ご要望について
- 製品ガイドで使用する共通フィールド

注意: 製品ガイドでは、追加の説明が必要な場合のみ、フィールドやチェックボックスなどの説明を記載しています。処理や業務の説明箇所に、そこで使用されるフィールドの説明がない場合は、追加の説明が必要ないか、または、項、章、製品ガイド全体、製品ライン全体で使用される共通フィールドとして説明されています。すべてのJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションで共通して使用されるフィールドは、この章で説明します。

JD Edwards EnterpriseOneアプリケーション導入の事前要件

このガイドの内容を十分に理解して活用するには、JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基本的な使い方を熟知している必要があります。

また、少なくとも1つの入門トレーニング・コースを修了することをお薦めします。

この製品ガイドでは、ユーザーがJD Edwards EnterpriseOneのメニューやフォーム、ウィンドウを使用して、アプリケーションを操作したり、情報を追加、更新、削除したりできることを前提としています。また、Webブラウザと、Microsoft WindowsまたはWindows NTの操作に習熟していることも必要です。

これらの製品ガイドでは、JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションを効果的に導入および使用するために必要な情報を提供します。そのため、アプリケーションの操作手順など基本的な説明は省略されています。

アプリケーションの基礎

各アプリケーションの製品ガイドでは、それぞれのJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションを導入して使用するための情報を提供しています。

一部のアプリケーションでは、システムの設定や設計に必要な基本情報は、このガイドの姉妹編ともいえるアプリケーションの基礎製品ガイドに記載されています。ほとんどの製品ラインには、アプリケーションの基礎製品ガイドが用意されています。それぞれの製品ガイドのまえがきの章に、関連するアプリケーションの基礎製品ガイドの情報が記載されています。

アプリケーションの基礎製品ガイドで取り上げている項目は、どのJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションにも当てはまる、あるいはその多くに共通する重要なものです。JD Edwards EnterpriseOneシステムを導入する際は、製品ラインの中から1つのアプリケーションだけを導入する場合でも、いくつかのアプリケーションを組み合わせで導入する場合でも、あるいは製品ライン全体を導入する場合でも、アプリケーションの基礎製品ガイドに書かれている内容を十分に理解しておく必要があります。このガイドの内容が、アプリケーションの導入に着手する出発点となります。

最新版ドキュメンテーションの入手とドキュメンテーションのダウンロード

この項では、次の方法について説明します。

- 最新版ドキュメンテーションの入手（英語版のみ）
- ドキュメンテーションのダウンロード

最新版ドキュメンテーションの入手（英語版のみ）

本リリースおよび旧リリースの最新版および追加ドキュメンテーションは、オラクル社のPeopleSoft Customer Connection Webサイトから入手できます。オラクル社のPeopleSoft Customer ConnectionのDocumentationセクションから、ファイルをダウンロードして製品ガイド・ライブラリに追加することができます。このセクションでは、CD-ROMで提供されているすべてのJD Edwards EnterpriseOneドキュメンテーションに対する更新事項など、最新かつ有益な資料が提供されます。

重要: アップグレードを行う際は、その前にオラクル社のPeopleSoft Customer Connectionサイトで、アップグレードに関する最新情報があるかどうかを確認してください。オラクル社では、アップグレード手法の向上に伴い、常に最新の情報を掲載するようにしています。

関連項目:

オラクル社のPeopleSoft Customer Connection: http://www.oracle.com/support/support_peoplesoft.html

ドキュメンテーションのダウンロード

すべてのJD Edwards EnterpriseOneドキュメンテーションは、CD-ROMで提供されているだけでなく、オラクル社のWebサイトでも提供されています。Oracle Technology Networkから、PDF版のJD Edwards EnterpriseOneドキュメンテーションをダウンロードできます。PDFファイルは、ソフトウェアの出荷後すぐにメジャー・リリース別にオンラインで提供されます。

参照: Oracle Technology Network: <http://www.oracle.com/technology/documentation/psftent.html>

追加情報

オラクル社のPeopleSoft Customer Connection Webサイトから、次の情報を入手できます。

情報	ナビゲーション
アプリケーションのメンテナンス情報	「Updates + Fixes」
ビジネス・プロセス図	「Support」、「Documentation」、「Business Process Maps」
インタラクティブ・サービス・リポジトリ	「Support」、「Documentation」、「Interactive Services Repository」
ハードウェア要件とソフトウェア要件	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Implementation Documentation and Software」、「Hardware and Software Requirements」
インストール・ガイド	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Implementation Documentation and Software」、「Installation Guides and Notes」
統合情報	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Implementation Documentation and Software」、「Pre-Built Integrations for PeopleSoft Enterprise and JD Edwards EnterpriseOne Applications」
最低要件	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Supported Platforms」
最新版ドキュメンテーション	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」
製品ガイド・サポート・ポリシー	「Support」、「Support Policy」
プレリリース・ノート	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Release Notes」
製品出荷予定	「Support」、「Roadmaps + Schedules」
リリース・ノート	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Release Notes」
リリース・バリュープロポジション	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Release Value Proposition」
製品概要	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Statement of Direction」
トラブルシューティング情報	「Support」、「Troubleshooting」
アップグレード関連のドキュメンテーション	「Support」、「Documentation」、「Upgrade Documentation and Scripts」

表記規則

ここでは、次の事項について説明します。

- 表記規則
- 注意事項の表示
- 国、地域、業種の表記
- 通貨コード

表記規則

製品ガイドは、次の表記規則に従って記述されています。

表記規則	説明
太字	PeopleCodeの関数名、メソッド名、言語要素や、関数呼び出しでそのまま記述すべきPeopleCodeの予約語は太字で記述しています。
斜体	PeopleCodeの構文で、プレースホルダとなる引数部分は斜体になっています。
キー+キー	キーを組み合わせる操作を示しています。キー名とキー名の間にプラス記号がある場合は、最初のキーを押しながら2番目のキーを押すという意味です。たとえば、[Alt]+[W]は、[Alt]キーを押しながら[W]キーを押すことを表します。
固定幅のフォント	PeopleCodeのプログラムや、その他のコードの例の表記には、この固定幅のフォントを使用しています。
... (省略記号)	PeopleCodeの構文で、先行要素の任意の繰り返しを示します。
{ } (中かっこ)	PeopleCodeの構文で、2つの選択肢のうちいずれか一方を選択することを示します。選択肢は縦棒()で区切られています。
[] (角かっこ)	PeopleCodeの構文で、省略できる要素を示します。
& (アンパサンド)	PeopleCodeの構文で、アンパサンドが頭に付いたパラメータはインスタンス化されたオブジェクトであることを示します。 また、PeopleCodeの変数は必ずアンパサンドが頭に付きます。

注意事項の表示

表記規則

注意

JD Edwards EnterpriseOneシステムを使って作業するときの注意事項が書かれています。

注意: 注意事項は、このような形式で示しています。

システムが正しく機能するために必ず守っていただきたい大切な事柄は、“重要:”と示されています。

重要: 重要な注意事項は、このような形式で示しています。

警告

システムの導入にあたって、特に注意しなければならない重要な事柄は、“警告:”と示されています。“警告:”と書かれた部分には十分な注意を払ってください。

警告: 警告は、このような形式で示しています。

相互参照

相互参照は、“参照”または“関連項目”という形で示しています。通常は、それぞれの説明の後に、その内容に関連する他のドキュメンテーションが示されています。

国、地域、業種の表記

特定の国、地域、業種にのみ関連する情報については、国や地域名などをかっこ書きで付記して示しています。このような国や地域の表示は、通常は項の見出しに付記されますが、注意事項などに付記されることもあります。

特定の国を対象とした見出しの例: 「(FRA)従業員の採用」

特定の地域を対象とした見出しの例: 「(中南米)減価償却の設定」

国の表記

国際標準化機構(ISO)が定める国コードを使って表記しています。

地域の表記

地域を表す名称で表記しています。以下に例を示します。

- アジア太平洋
- ヨーロッパ
- 中南米
- 北米

業種の表記

業種を表す名称か略称を使用して表記しています。以下に例を示します。

- USF(米国連邦政府)

- E&G(教育/公的機関)

通貨コード

金額はISOが定める通貨コードを使って表記しています。

ご意見、ご要望をお寄せください

お客様のご意見は非常に貴重です。製品ガイドおよびその他のオラクル社の参考資料やトレーニング・ガイドについて、変更のご希望がございましたら、ぜひご一報ください。日本オラクル株式会社WPTG-Japanのランゲージ・マネージャまで、ご意見、ご要望をお寄せください(宛先: 〒107-0061 東京都港区北青山2-5-8 オラクル青山センター)。電子メール(etsjpn_us@oracle.com)でも受け付けております。

いただいた電子メールすべてにご返答のできない場合もありますが、弊社では皆様のご意見やご要望に留意し、貴重な情報として今後の参考にさせていただきます。

製品ガイドで使用する共通フィールド

住所録番号	エンティティのマスター・レコードを識別する固有の番号を入力します。住所録番号は、顧客、仕入先、会社、従業員、応募者、加入者、テナントなどのIDとして使用できます。アプリケーションによっては、フォーム上の住所録番号フィールドが、顧客番号、仕入先番号、会社番号、従業員ID、応募者ID、加入者番号などに相当する場合もあります。
仮定通貨コード	取引金額の表示に使用される通貨を指定する3文字のコードを入力します。このコードを指定することにより、取引の入力時に実際に使用された通貨ではなく、指定した通貨に基づいて取引金額を参照することができます。
バッチ番号	システムによって処理される取引のグループを識別する番号が表示されます。入力フォームでは、ユーザーがバッチ番号を割り当てるか、または自動採番プログラム(P0002)を使用して自動的に割り当てることができます。
バッチ日付	バッチが作成される日付を入力します。このフィールドを空白のままにすると、システム日付がバッチ日付として使用されます。
バッチ状況	<p>バッチの転記状況を示すユーザー定義コード(UDC)テーブル(98/1C)のコードが表示されます。値は次のとおりです。</p> <p>空白: バッチは転記されず、承認が保留状態になります。</p> <p>A: バッチにエラーがなく転記が承認されますが、保留状態でまだ転記されていません。</p> <p>D: バッチが正常に転記されています。</p> <p>E: バッチにエラーが発生しました。転記の前にエラーを修正する必要があります。</p> <p>P: バッチの転記処理中です。転記処理が完了するまで、バッチにアクセスすることはできません。転記中にエラーが発生した場合は、バッチ状況コードがEに変更されます。</p>

	U: 別のユーザーがバッチを操作中のため一時的に使用できないか、またはバッチの処理中に停電があったため、バッチが使用中と認識されています。
事業所	倉庫、作業、プロジェクト、作業場、支店、工場など、配送業務や製造業務が行われる場所や単位を表すコードを入力します。システムによっては、ビジネスユニットと呼ばれる場合もあります。
ビジネスユニット	原価のトラッキング対象となる個々の事業単位を表す英数字のコードを入力します。システムによっては、事業所と呼ばれる場合もあります。
カテゴリ・コード	特定のカテゴリ・コードを表すコードを入力します。カテゴリ・コードはユーザー定義コードの1つで、各組織の情報追跡(トラッキング)やレポートの要件に合わせてカスタマイズできます。
会社	特定の企業、組織、団体などを識別するコードを入力します。会社コードはF0010テーブルにすでに存在しており、完全な貸借対照表を持つ法人に対応する必要があります。
通貨コード	取引の通貨を表す3文字のコードを入力します。JD Edwards EnterpriseOneでは、国際標準化機構(ISO)が定める通貨コードを使用しています。通貨コードは、F0013テーブルに定義されています。
伝票会社	<p>伝票に関連付けられている会社番号を入力します。この番号は、伝票番号、伝票タイプ、元帳日付とあわせて使用され、当初伝票を一意に識別します。</p> <p>会社と会計年度別に次の番号を割り当てる場合は、伝票会社に基づいて、該当する会社に正確な“次の番号”が割り当てられます。</p> <p>2つ以上の当初伝票が同じ伝票番号と伝票タイプを持つ場合は、伝票会社を使用して必要な伝票を表示できます。</p>
伝票番号	伝票、請求書、仕訳、タイム・シートなどの当初伝票を識別する番号が表示されます。入力フォームでは、ユーザーが当初伝票番号を割り当てるか、または自動採番プログラムを使用して自動的に割り当てることができます。
伝票タイプ	<p>ユーザー定義コード・テーブル(00/DT)に定義された、取引の発生元と目的を表す2文字のユーザー定義コード(伝票、請求書、仕訳、タイム・シートなど)を入力します。JD Edwards EnterpriseOneでは、伝票タイプ用に次のプレフィックスが予約されています。</p> <p>P: 買掛金伝票 R: 売掛金伝票 T: 時間および給与伝票 I: 在庫伝票 O: 購買オーダー伝票 S: 受注オーダー伝票</p>
有効日付	<p>住所、品目、取引、またはレコードがアクティブになる日付を入力します。このフィールドの意味は、プログラムによって異なります。たとえば、有効日付で次の日付を表すことができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 住所の変更が有効になる日付 • 賃貸契約が有効になる日付

- 価格が有効になる日付
- 為替レートが有効になる日付
- 税率が有効になる日付

会計期間、会計年度

元帳で使用される会計期間および会計年度を示す数値を入力します。多くのプログラムでは、このフィールドを空白のままにできます。その場合、会社名および番号プログラム(P0010)で定義された現在の会計期間と会計年度が使用されます。

元帳日付

取引を転記する会計期間を特定する日付を入力します。取引で入力した日付と会社割り当てられた会計期間パターンが比較されて、適切な会計期間番号と会計年度が取得されると同時に、日付検証が実行されます。

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOneアパレル管理 – まえがき

この章では、次の内容について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOne製品
- JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基礎
- この製品ガイドで使用する共通フィールド

JD Edwards EnterpriseOne製品

この製品ガイドには、次のJD Edwards EnterpriseOne製品が関連しています。

- JD Edwards EnterpriseOne Financials
- JD Edwards EnterpriseOne在庫管理
- JD Edwards EnterpriseOne製造管理
- JD Edwards EnterpriseOne調達/外注管理
- JD Edwards EnterpriseOne所要量計画
- JD Edwards EnterpriseOne受注管理
- JD Edwards EnterpriseOne輸送管理
- JD Edwards EnterpriseOne倉庫管理

JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基礎

システムの設定や設計に必要な基本情報は、このドキュメンテーションの姉妹編とも言える『JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理 9.0 製品ガイド』に記載されています。

JD Edwards EnterpriseOneの最低要件に記載されているとおりに、リリースでサポートされているプラットフォームに準拠する必要があります。また、JD Edwards EnterpriseOneは、オラクル社の他の製品と統合、連結または連携する場合があります。オラクル社の様々な製品の互換性を確保するため、プログラムの事前設定やバージョンの相互参照マニュアルについて<http://oracle.com/contracts/index.html>のプログラム・ドキュメンテーションにある相互参照資料を参照してください。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理 9.0 製品ガイド、「JD Edwards EnterpriseOne在庫管理 – まえがき」

この製品ガイドの内容は、発行時点で最新のものです。最新のドキュメンテーションは、<https://support.oracle.com/>のMy Oracle Supportを参照してください。追加情報は、My Oracle Supportの掲載番号(ドキュメンテーションID) 1228573.1の『JD Edwards EnterpriseOne Apparel Management 9.0 Documentation Overview』で参照することもできます。

この製品ガイドで使用する共通フィールド

事業所

原価のトラッキング対象となる業務の単位を表す英数字のコードです。たとえば、倉庫保管場所、作業、プロジェクト、作業場、事業所、工場などをビジネスユニットとして設定できます。ビジネスユニットを伝票、事業体、または個人に割り当てて、管轄別のレポートを作成できます。たとえば、ビジネスユニット別の未決済買掛金/売掛金レポートを作成して、管轄部門ごとの設備をトラッキングできます。ビジネスユニットにセキュリティが設定されていると、権限のないユーザーにはビジネスユニットに関する情報が表示されない場合があります。

スタイル品目ルート・レベル0

複数レベルのスタイル品目構造で親スタイル品目（または最初のレベル）を表すコードです。1つの品目構造には、レベル0からレベル9まで、最大10のレベルを設定できます。親品目は複数レベルの品目構造の最初のレベルで、スタイル品目ルート・レベル0と呼ばれます。スタイル品目ルート・レベル0には、スタイル品目の定義が保存されます。最初のレベルで定義された基本属性は、階層内の下位レベル（または子）のスタイル品目に継承されます。

たとえば、ジーンズ（JEA）がスタイル品目ルート・レベル0に設定された場合、ウエスト28インチで丈が30インチのファスナー付の黒いジーンズは、ジーンズの子品目 JEA.BLACK.ZIP.28.30 となります。

第 1 章

JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理 – はじめに

この章では、JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理の概要と次の内容について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理のビジネス・プロセス
- JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理の統合
- JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理の導入

JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理の概要

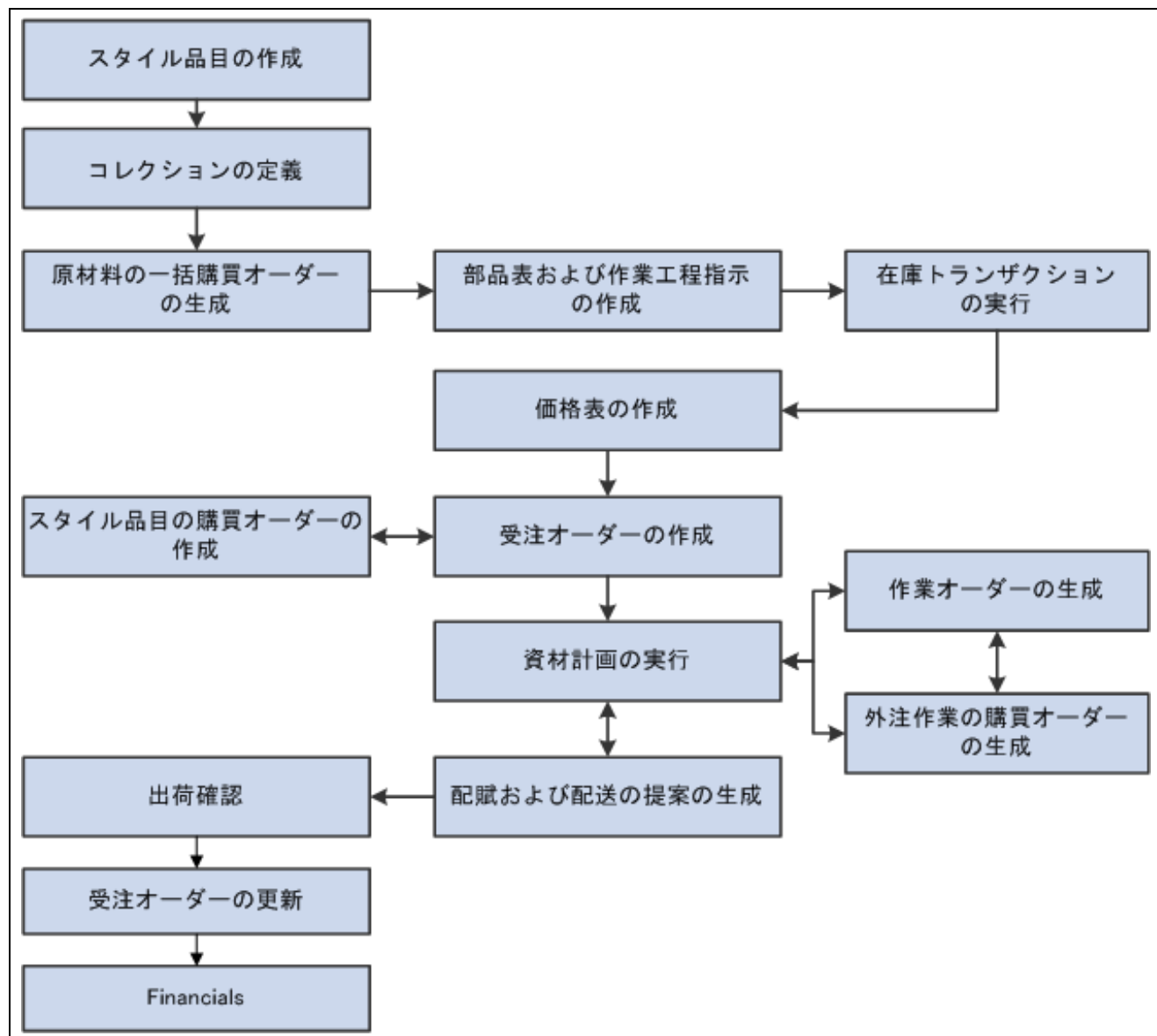
オラクル社のJD Edwards EnterpriseOneアパレル管理システムでは、流通業および製造業がサポートされています。JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理システムでは、複数属性のスタイル品目の定義、コレクションの管理、スタイル品目所要量の予測、スタイル品目の販売、資材の調達、スタイル品目の製造、在庫の割当、およびスタイル品目の顧客への納入を処理することができます。

JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理システムを使用すると、次のことができます。

- 複数属性のスタイル品目とその関連データの設定および管理
- コレクションの定義および管理
- スタイル品目所要量の予測
- 個々の品目、コレクションおよび流通チャネルの特性に基づくスタイル品目の価格設定
- スタイル品目情報のマトリックス入力を使用した受注オーダーの入力
- スタイル品目情報のマトリックス入力を使用した購買オーダーの入力
- スタイル品目のオーダーに在庫を割り当てるための計画の生成
- マトリックス入力を使用したスタイル品目の在庫管理
- コレクションがある場合とない場合のスタイル品目を製造するための資材調達
- 外注作業を使用したスタイル品目の製造プロセスの全部または一部の委託
- 部品表、作業工程、作業オーダーなどの製造機能のスタイル品目に対する設定および管理

JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理のビジネス・プロセス

次のプロセス・フローは、JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理のビジネス・プロセスを表しています。



JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理のビジネス・プロセスのフロー

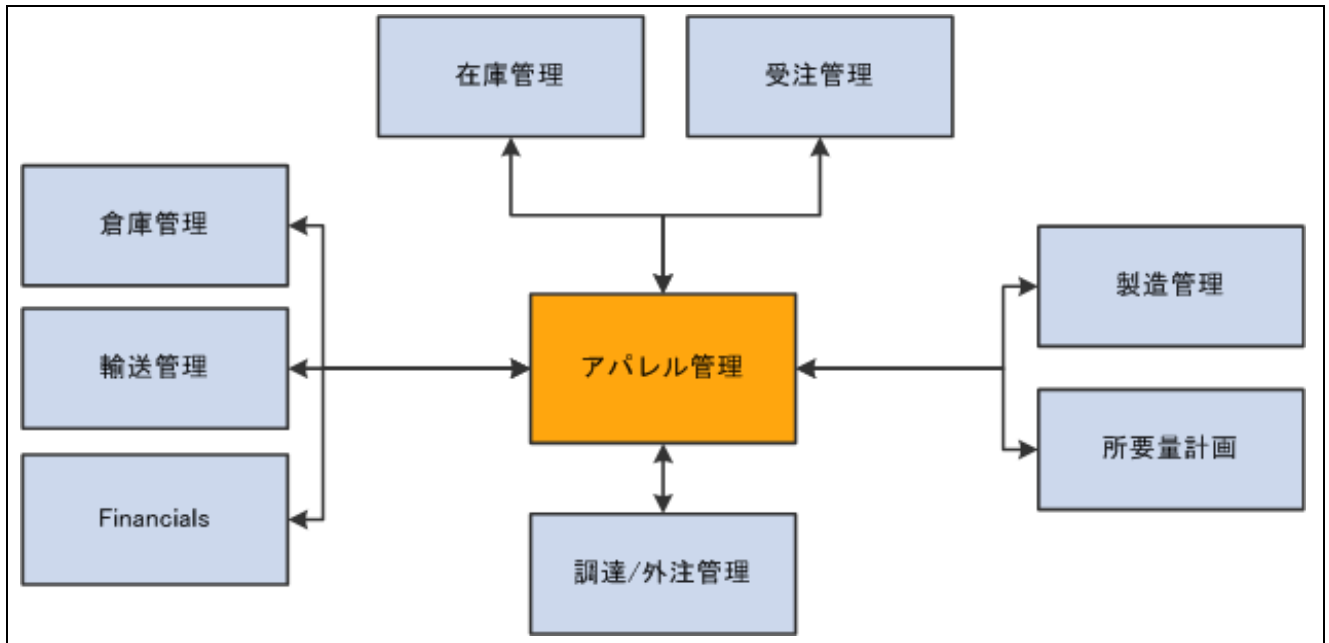
これらのビジネス・プロセスについては、この製品ガイドの各関連ビジネス・プロセスの章で説明します。

JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理の統合

JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理は、JD Edwards EnterpriseOneの基本機能をサポートする統合ソリューションです。システムが統合することによって、流通業および製造業をサポートしています。

JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理システムにはバルク在庫、上級在庫、上級価格設定などの基本機能がないため、Supply Chain Managementとは完全に統合されません。

JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理は、オラクル社の次のJD Edwards EnterpriseOne製品と統合されています。



JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理システムの統合

統合における考慮事項については、この製品ガイドの導入に関する章で説明します。

JD Edwards EnterpriseOne Financials

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne Financials製品は、汎用性があり、費用対効果の高い、時間節約に役立つ財務情報管理ソリューションを提供します。JD Edwards EnterpriseOne Financials製品を構成する各システムを使用すると、財務ユーザーが通常共有する情報をトラッキングできます。

JD Edwards EnterpriseOne在庫管理

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムでは、品目情報、売上原価と購買原価、および保管場所別の引当可能数量が保存されます。JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理システムでは、JD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムを使用して、スタイル品目を設定します。JD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムのプログラムでは、識別方法、在庫方法などの品目の情報が定義されます。

JD Edwards EnterpriseOne在庫管理では、在庫などの保管場所と製造現場の間での資材移動をトラッキングできます。在庫出庫と引当の管理、オーダーの完了、および製造プロセス全体のオーダー数量のトラッキングも可能です。

JD Edwards EnterpriseOne製造管理

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne製造管理製品には、オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne製造データ管理(PDM)システムやJD Edwards EnterpriseOne製造現場管理(SFM)システムなど、いくつかのJD Edwards EnterpriseOneシステムが含まれています。

JD Edwards EnterpriseOne製造データ管理システムを使用すると、部品表と作業工程の定義によって、各製造品目に関する情報を整理および管理できます。

JD Edwards EnterpriseOne製造現場管理システムでは、製造作業オーダーを管理、追跡して、工場の内外の部品の流れを制御できます。また、製品の完成に必要な情報を効果的に管理、伝達できます。

オラクル社の JD Edwards EnterpriseOne 製造原価計算および製造会計システムは、他の JD Edwards EnterpriseOne システムと連動し、すべての製品原価と製造原価を追跡管理します。JD Edwards EnterpriseOne 製造原価計算システムでは、原価情報を保管したり検索できます。JD Edwards EnterpriseOne 製造原価計算システムで原価を設定すると、JD Edwards EnterpriseOne 製造会計システムによりその原価がトラッキングされて差異勘定が報告され、製造取引が総勘定元帳に転記されます。

JD Edwards EnterpriseOne 調達/外注管理

オラクル社の JD Edwards EnterpriseOne 調達/外注管理製品には、オラクル社の JD Edwards EnterpriseOne 調達管理システムなど、いくつかの JD Edwards EnterpriseOne システムが含まれています。

JD Edwards EnterpriseOne 調達管理システムでは、購買業務を全面的に管理します。JD Edwards EnterpriseOne 調達管理では、スタイル品目の製造に使用する原材料の一括オーダーおよび購買オーダーを生成できます。また、スタイル品目の作業工程指示に基づいて、外注作業の購買オーダーを自動的に生成することもできます。

JD Edwards EnterpriseOne 所要量計画

オラクル社の JD Edwards EnterpriseOne 所要量計画システムでは、受注オーダーと予測を使用して、部品表で品目から構成品までの需要量を算定します。このシステムでは、部品表を使用して、部品リストのない計画オーダーと作業オーダーの構成品所要量の確定も行います。

JD Edwards EnterpriseOne 流通所要量計画、JD Edwards EnterpriseOne 基準生産日程計画および JD Edwards EnterpriseOne 資材所要量計画では、有効な製造スケジュールの管理に必要な購買および製造オーダーが作成されます。

JD Edwards EnterpriseOne 受注管理

オラクル社の JD Edwards EnterpriseOne 受注管理 (SOM) システムでは、受注オーダーの処理を全面的に管理します。このシステムでは、価格表の定義、スタイル品目情報のマトリックス入力およびコレクション管理を行うことができます。

JD Edwards EnterpriseOne 輸送管理

オラクル社の JD Edwards EnterpriseOne 輸送管理システムでは、JD Edwards EnterpriseOne システムと統合して、運送業者向け機能および出荷機能を提供します。

積荷および配送の確認の際に、製品の原価情報が取り込まれ、JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理システムから在庫がリリースされます。取り込まれる原価情報は、JD Edwards EnterpriseOne システムで積荷および配送確認済として報告された受注オーダーを基準としています。

さらに、総勘定元帳も更新されます。

JD Edwards EnterpriseOne 倉庫管理

JD Edwards EnterpriseOne 倉庫管理は、製造/流通プロセスに不可欠な部分です。このシステムは、JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理システムおよび JD Edwards EnterpriseOne 製造現場管理システムと連動して、企業が生産および出荷する在庫や製品を管理します。

JD Edwards EnterpriseOne 倉庫管理システムでは、品目の入荷と保管から取得と出荷まで、倉庫作業を全面的に管理します。

JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理の導入

この項では、JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理システムを導入するために必要な手順の概要を説明します。

導入の計画段階では、インストール・ガイドやトラブルシューティング情報など、オラクル社が提供するすべての情報を活用してください。『この製品ガイドについて』のまえがきの章では、参考となるリソースの一覧が提供されています。また、各リソースの最新バージョンの掲載場所についても記載があります。

JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理システムについて、どのESU(電子ソフトウェア更新)をインストールするかを決める際は、EnterpriseOne and World Change Assistantを使用します。JavaベースのツールであるEnterpriseOne and World Change Assistantを使用すると、必要となるESUを検索してダウンロードするためにかかる時間を75%以上削減できます。さらに、複数のESUを一度にインストールすることも可能です。

参照: JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 Software Update Guide

関連項目:

グローバル導入の手順

次の表に、JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理システムのグローバル導入の推奨手順を示します。

手順	参照
1. グローバル・ユーザー定義コード(UDC)テーブルを設定します。	JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 System Administration Guide、「Working with User Defined Codes」
2. 会計期間パターンを設定します。	JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「組織の設定」、「会計期間パターンの設定」
3. 会社を設定します。	JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「組織の設定」、「会社の設定」
4. ビジネスユニットを設定します。	JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「組織の設定」、「ビジネスユニットの設定」
5. 自動採番を設定します。	JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「自動採番の設定」
6. (省略可)勘定科目と勘定科目表を設定します。	JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「勘定科目表の作成」、「勘定科目の設定」
7. 一般会計固定情報を設定します。	JD Edwards EnterpriseOne 一般会計 9.0 製品ガイド、「一般会計システムのセットアップ」、「一般会計固定情報の設定」
8. 通貨コードや為替レートなどの多通貨処理を設定します。	JD Edwards EnterpriseOne 多通貨処理 9.0 製品ガイド、「JD Edwards EnterpriseOne 多通貨処理 – まえがき」
9. (省略可)元帳タイプ規則を設定します。	JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「組織の設定」
10. 住所録レコードを設定します。	JD Edwards EnterpriseOne 住所録 9.0 製品ガイド、「住所録レコードの入力」

手順	参照
11. デフォルト事業所およびプリンタを設定します。	JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 Development Tools: Report Printing Administration Technologies Guide、「Working with Report Printing Administration」
12. 事業所固定情報を設定します。	JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理 9.0 製品ガイド、「在庫管理システムの設定」、「事業所固定情報の定義」
13. 流通/製造AAI(自動仕訳)を設定します。	JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理 9.0 製品ガイド、「在庫管理システムの設定」、「流通管理システムのAAI設定」
14. 伝票タイプを設定します。	JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理 9.0 製品ガイド、「在庫管理システムの設定」、「伝票タイプ情報の設定」
15. 製造現場カレンダーを設定します。	JD Edwards EnterpriseOne 製造現場管理 9.0 製品ガイド、「製造現場管理システムの設定」、「製造現場カレンダーの設定」
16. 製造固定情報を設定します。	JD Edwards EnterpriseOne 製造データ管理 9.0 製品ガイド、「製造データ管理の設定」、「製造固定情報の設定」

アパレル管理の導入手順

次の表に、JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理システムのアプリケーション別の推奨導入手順を示します。

手順	参照
1. JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理システムを有効化します。	JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理 9.0 製品ガイド、「JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理システムの設定」

第 2 章

JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理システムについて

この章では、次の内容について説明します。

- 業務環境および概念
- JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理システムの概要

業務環境および概念

品目に複数の特性を求める現在の市場では、グローバル競争が激化しています。どの企業も、市場シェアとサプライチェーンを拡大するためにグローバル化が必要とされています。このような企業では、コスト効率を上げ回答時間を短縮するために外注業者が利用されます。また、パートナー企業による保管梱包サービスを使用して、ロジスティクス機能を外注する企業もあります。

このようなビジネス・モデルの目的は、需要にすばやく対応するとともに、ビジネス・サイクル全体の管理を強化することです。パートナー企業の間では、サプライチェーンに対する協業的なアプローチが採用されています。

顧客の要望は、頻繁に変わるとともに、独自のものを求めるようになってきています。このような難しい需要を満たし、さらに市場におけるポジショニングを維持するには、最終品目の数を増やすとともに、最終品目をカスタマイズする必要があります。これにより、スタイル品目の要件が作成されます。スタイル品目とは、スタイル、生地、色、丈、その他の変数などの特性が組み合わされた品目のことをいいます。子スタイル品目や最終スタイル品目の数は、親レベルのスタイル品目の属性とレベルの数に基づきます。

オラクル社の JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理システムは、サイズ、丈、色、幅、原材料など、様々な複数の属性を持つ製品をサポートします。JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理システムの機能は、次のような産業に適用できます。

- 製鉄
- 製紙
- 家具
- アパレル
- カーペット
- リネン
- 自動車部品
- 家電
- 医療

製鉄業

製鉄業では、熱間圧延鋼板を製造します。熱間圧延鋼板は、たとえば、幅6フィート、直径5フィート、重さ約40,000ポンドのロールで保管されます。熱間圧延鋼製品には、原材料、内径(厚さ)、幅などの特性があります。

鋼鉄の供給業者は、製造業者から熱間圧延鋼を購入し、鋼板をレベリング処理します。レベリング処理によって平らに広げられた鋼板は、適切な長さに切断されます。板状で提供される鋼板製品は、キャビネット、レジスタやラジエータの格子などの鋼板部品、鉄骨建築の金属屋根材や羽目板の製造に使用されます。鋼板を販売するときの製品特性は、原材料、内径(厚さ)、幅、長さです。

製鉄業のスタイル品目の例としては、金属屋根材があります。金属屋根材がスタイル品目の場合、内径14の圧延鋼材、幅4フィート、長さ10フィート、緑色などがスタイル品目の属性やレベルとなります。

製紙業

製紙業では、印刷用紙、コンデンサ用紙、ティー・バッグ、ペーパー・タオル、トイレット・ペーパーなどの紙製品を生産します。製紙の特性には、用途にあわせて特別に調合された化学合成物で構成される原材料や、色、厚さ、幅などがあり、顧客が指定したロール幅ごとに出荷されます。

製紙業のスタイル品目の例としては、ペーパー・タオルがあります。ペーパー・タオルのロールには、次の特性があります。

- 何枚重ねか(1、2など)
- シートのサイズ(11 × 11インチなど)
- シートの(複数枚重ねの場合は1枚の)厚さ
- ロールごとのシート数(90など)
- 芯のタイプ(直径および原材料)

紙は、顧客が指定した仕様に応じて、製造、重ねと巻取り、切断が行われます。ペーパー・タオルのロールはパレットに積まれて倉庫に出荷され、梱包され、流通に乗せられます。ペーパー・タオルは、1ロールごと、または3、6、12ロールごとに梱包され、販売されます。

家具産業

家具産業では、様々な構成の家具を製造します。たとえば、スタイル品目がソファの場合、フレーム、脚、アーム、座面のクッション、背もたれのクッションなどの変数から構成されます。

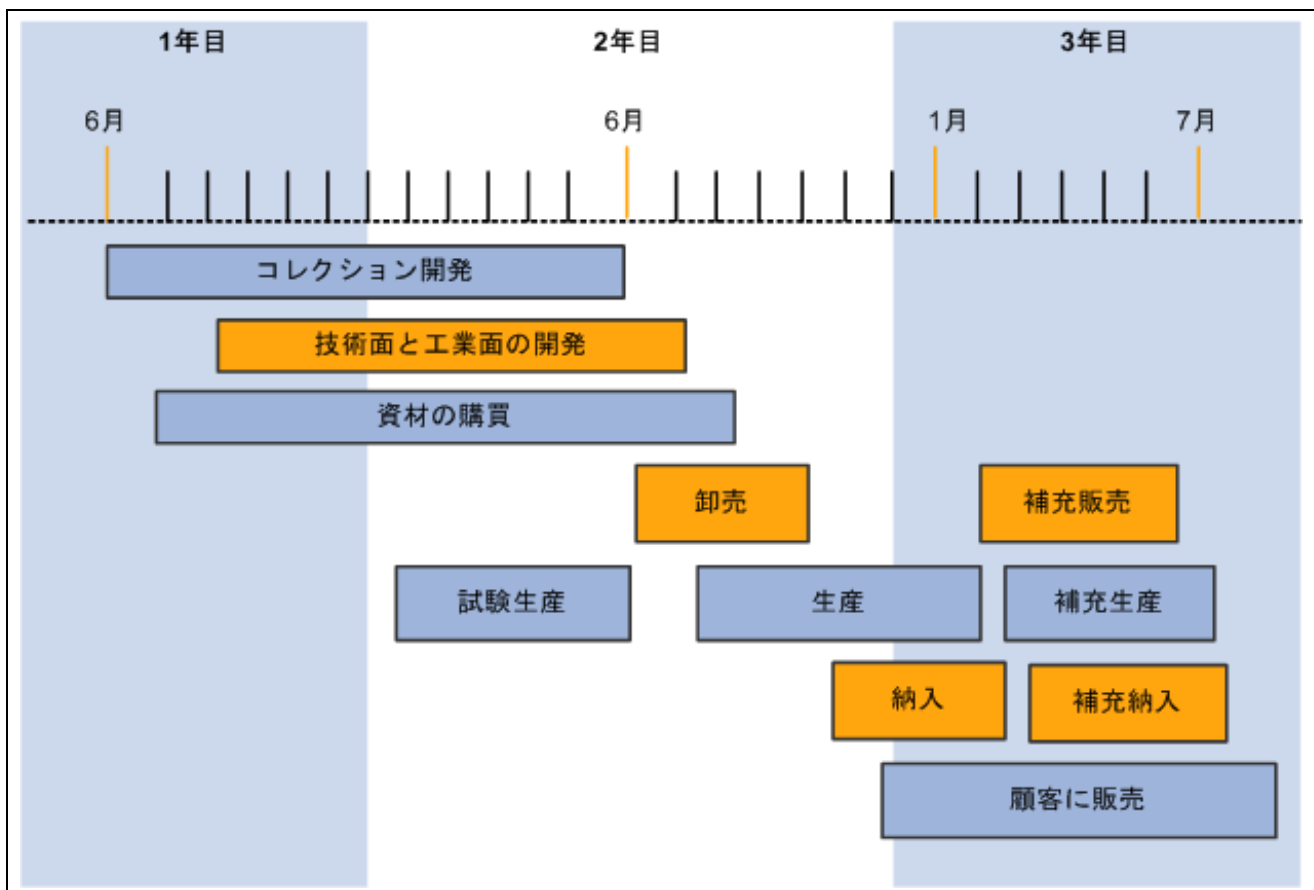
アパレル産業

アパレル産業は、顧客にあわせて様々な製品を提供する必要があるため、競争が激しい市場です。アパレル産業では顧客層が細分化されており、商品構成の複雑さが増しています。顧客ごとに様々な要望があり、それぞれに同時に応える必要があります。

アパレル産業の購買消費者は、男性、女性および子供に分けられます。

アパレル産業のスタイル品目の例としては、ジーンズがあります。ジーンズでは裾上げが行われるため、既製の価格内でカスタマイズのサービスが受けられます。

アパレル製造業のビジネス・モデルでは、デザイン、マーケティングおよび流通の期間が急激に短縮しています。アパレル品目における企画から納入までの期間は通常、約2年です。次の図は、アパレル品目の製品ライフサイクルを示しています。



アパレル製品のライフサイクル

製品のライフサイクルは、アパレル品目のデザインから始まります。コレクションを使用する場合、コレクション開発も着手されます。季節品目と通年品目について、製品開発とコレクション開発が行われます。

季節品目に対して作成される予測は、通常、流行に基づく最も妥当な見積として定義されます。まず品目レベルで予測が行われ、品目レベルでの資材所要量計画(MRP)の生成に進みます。

季節品目として始まった品目も、可能であれば、通年品目になることが望まれます。季節品目の例としては、水着があります。水着は、ある市場では季節品目ですが、水着を一年中販売する市場では通年品目になる可能性があります。

通年品目の予測は、ほぼ標準的なものです。ここでも品目レベルで予測が行われ、品目レベルでのMRPに進みます。通年品目の納入は短期間で行われます。通年品目の例としてはジーンズがあり、これは一年中入手可能です。

アパレル品目の開発が始まるとすぐに、技術面と工業面での開発計画が始まります。技術面および工業面の開発段階では、品目の生産に必要な部品表と作業工程が作成されます。また、この段階では、生産に必要な機械や、外注作業の委託要件が決定されます。

資材の購買業務では、生地、ファスナー、ボタンなど、アパレル品目の生産に必要な品目を入手します。生地の必要ヤード数を最初から特定できる場合は、購買の一括オーダーを使用します。一括オーダーと仕入先を入力して必要な資材数量を確保し、後から任意の時点で購買オーダーをリリースして製造プロセスをサポートします。

アパレル品目を約9か月かけて開発した後、試験生産が始まります。

開発の最初の年の終わりに、卸売が開始します。開発、計画および購買段階の終わりに、アパレル品目の生産が開始します。生産がある程度進むと、納入が始まります。4週間から6週間という短期間ですべての品目が納入されます。

最終段階として、補充品目の販売、生産および納入が行われます。補充オーダーを受けても生産しない場合、残っているあらゆる品目を使用して補充が行われます。

通年アパレル品目のライフサイクルは、常に資材が必要になるため、季節別のコレクションとは少し異なる動きになります。

既製品は標準的なサイズで生産され、在庫から引き当てられます。顧客が既製品を購入するときは、スタイル、色、サイズなどの特性が考慮されます。

子供服の場合、同じ品目が様々なサイズで生産されます。

アパレルの既製品には、たとえば、次のものがあります。

- 靴下
- 下着および水着
- 革製品
- アクセサリー
- スポーツウェア

靴下

靴下は既製品目です。フットカバーや足首丈の靴下もあります。

靴下の製造工程は次のとおりです。

1. 糸の生産
2. 染色
3. 編み立て
4. かがり縫い

流通チャンネルでは、梱包、ブランド付け、販売が行われます。同じ靴下に別々のブランド名が付けられることもあります。

靴下には、糸の重さ、寸法（編物）、最終品目の販売ユニットなど、複数の単位があります。たとえば、1足で販売されたり、2足組または3足組で販売されたりします。

下着および水着

下着および水着は複数属性の品目です。管理する属性の数は、この2つの品目で同じではありません。スタイル、色およびサイズによって、様々な構成が製造されます。スタイルは、スタイリストが描画したものによって区別されます。スタイルが常に同じでも、色とサイズは異なることがあります。

トップスは、スタイル、色、ストラップ、サイズおよびカップで構成されます。ボトムスは、スタイル、色およびサイズで構成されます。

下着および水着は、販売地域によって、季節品目にも通年品目にもなります。季節によって色が変わり、色によって価格が変わることがあります。

革製品

アパレル産業の革製品には、ジャケット、ベスト、帽子、ブーツ、ズボン、ベルトなど、消費者が身につけるあらゆる革製の物が含まれます。

アクセサリ

アクセサリには、ネックレス、イヤリング、ブレスレットなどがあります。アクセサリには、たとえばブライダル、ビンテージ、ウェスタンなどのテーマがあります。

スポーツウェア

アパレル産業では、男性用、女性用、および子供用のスポーツウェアを生産しています。品目には、ジャケット、ズボン、トップス、帽子、靴下、ヘッドバンド、リストバンドなどがあります。

JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理システムの概要

ここでは、次の事項について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理システム
- 産業内の取引

JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理システム

JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理システムでは、流通業および製造業のスタイル品目がサポートされています。JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理システムは、オラクル社の他のJD Edwards EnterpriseOneシステムと統合して、完全なサプライチェーン・ソリューションを作成します。JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理システムを使用すれば、複雑な製品構成と、絶えず変化する製品ラインを、サプライチェーン全体で効率よく管理できます。

次の表は、JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理システムの主な用語を定義したものです。

用語	説明
スタイル品目	スタイル、生地、色、丈、その他の変数などの特性を組み合わせた品目です。品目には最大10個のレベルを設定できます。
スタイル品目ルート・レベル0	複数レベルのスタイル品目構造で親スタイル品目（または最初のレベル）を表す品目です。スタイル品目ルート・レベル0の1つの品目構造には、レベル0からレベル9まで、最大10のレベルを設定できます。親品目は複数レベルの品目構造の最初のレベルで、スタイル品目ルート・レベル0と呼ばれます。スタイル品目ルート・レベル0には、スタイル品目の特性が保存されます。最初のレベルで定義された基本属性は、階層内の下位レベル（または子）のスタイル品目に継承されます。
スタイル	品目のデザインや図面です。
色	品目の色です。

用語	説明
複数属性	<p>たとえば、シャツのポケット、色、ファスナーなど、品目の特性であり、選択肢です。</p> <p>選択肢は変数と呼ばれることもあります。</p>
コレクション	<p>品目の統一性のある集まりです。次のような項目についてまとめられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 同時に発表される • 1つのブランド(製造業者) • 1つのシーズンおよび年 • 1つの市場 <p>コレクションは、販売期間が限られています。コレクションは、たとえば、男性、女性、または子供向けの品目で構成されるコレクションのように、分けられます。1つの品目は、同時に複数のコレクションに含めることができます。</p> <p>1つのコレクションには、たとえば50、100または1000のスタイルを含めることができます。</p> <p>コレクションをカタログ用として使用することもできます。</p>
継承	<p>スタイル品目のデータは、スタイル品目ルート・レベル0(親品目)から子レベルのスタイル品目に渡されます。品目の作成および変更時に、子レベルのスタイル品目は、スタイル品目ルート・レベル0の品目から特性を継承します。</p>
例外	<p>変更がすでに適用されている特定のフィールドに対して、変更を継承しないスタイル品目およびスタイル品目グループへの変更を管理する方法。</p> <p>子スタイル品目に変更を加える場合、親レベルで行われた変更が継承されないように、変更を加えるプロパティは例外として設定されます。例外は、上書きされないように、継承の対象外となります。例外は、レコードごとではなくフィールドごとに検証されます。</p> <p>たとえば、スタイル品目ルート・レベル0でシャツの価格を指定した場合、この価格は子スタイル品目に継承されます。特大(XL)サイズのシャツの価格を変更した場合、これより上のレベルでさらに価格が変更されても、その変更はXLサイズのシャツに継承されません。</p>
ラベル	<p>ラベルには、スタイル品目の製造国、組成およびクリーニング・コードの情報を記載する必要があります。1つのスタイル品目には、1つ以上の組成を定義できます。たとえば、アパレル産業では、スタイル品目で使用される主な生地や裏地の組成を定義します。</p>

複数の属性がスタイル品目に関連付けられているため、スタイル品目のビジネス・プロセスは標準的に製造された品目のビジネス・プロセスよりも複雑になることがあります。

JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理システムは、JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理と統合して、スタイル品目を定義および管理します。JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理システムでは、複数レベルの階層定義に基づいて、子スタイル品目のグループを表示、調整、在庫および移動できます。

製造業者またはデザイナーは、特定市場の新しいトレンドを発信するためにシーズンごとにコレクションを発表します。コレクション・テンプレートは、1つ以上のコレクションからスタイル品目を集めたサブセットです。コレクション・テンプレートは、受注オーダー入力時および購買オーダー入力時にオーダー入力処理を簡略化するために使用されます。コレクション・テンプレートには、頻繁にオーダーするスタイル品目を含めます。

JD Edwards EnterpriseOne 受注管理では、アパレル管理向けに、顧客オーダーをサポートするマトリックス入力フォームが提供されます。各スタイル品目やコレクション・テンプレートに対して、サイズ、色、その他の属性ごとに品目数量を入力できるマトリックス入力フォームが表示されます。JD Edwards EnterpriseOne 受注管理は、アパレル管理向けに、販売価格表、割当、在庫管理、コレクション管理と統合されます。受注オーダーのスタイル品目のみを一括更新することもできます。

JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理システムには、スタイル品目の卸売割当と納入を効率化する機能があります。割当規則を使用すると、引当可能なスタイル品目を効果的かつ効率的に配賦し、受注オーダーに充当できるようになります。割当提案と納入提案を生成します。割当提案を使用すると、製品が不足している場合に、引当可能な在庫を複数の受注オーダーに分配することができます。納入提案を使用すると、顧客への納入を一貫性のある方法で処理できます。

引当規則を設定したスタイル品目の割当を実行するには、割当提案と納入提案を生成し、それらを検証します。

JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理システムでスタイル品目ルート・レベル0と子スタイル品目を設定した後、JD Edwards EnterpriseOne 製造データ管理システムを使用して、スタイル品目を生産するための部品表の設定や作業工程の作成、外注作業の設定を行うことができます。

JD Edwards EnterpriseOne 所要量計画システムとJD Edwards EnterpriseOne アパレル管理システムは、統合してスタイル品目の資材計画をサポートします。これらのシステムは、最下位レベルの子スタイル品目のマトリックス表示を可能にすることで、メッセージの検討を容易にし、データの一貫性を維持します。スタイル品目のメッセージの処理、サイズ別数量の追加、メッセージの分割、メッセージのグループ化、調整値の計算、転送オーダーの生成を行うことができます。

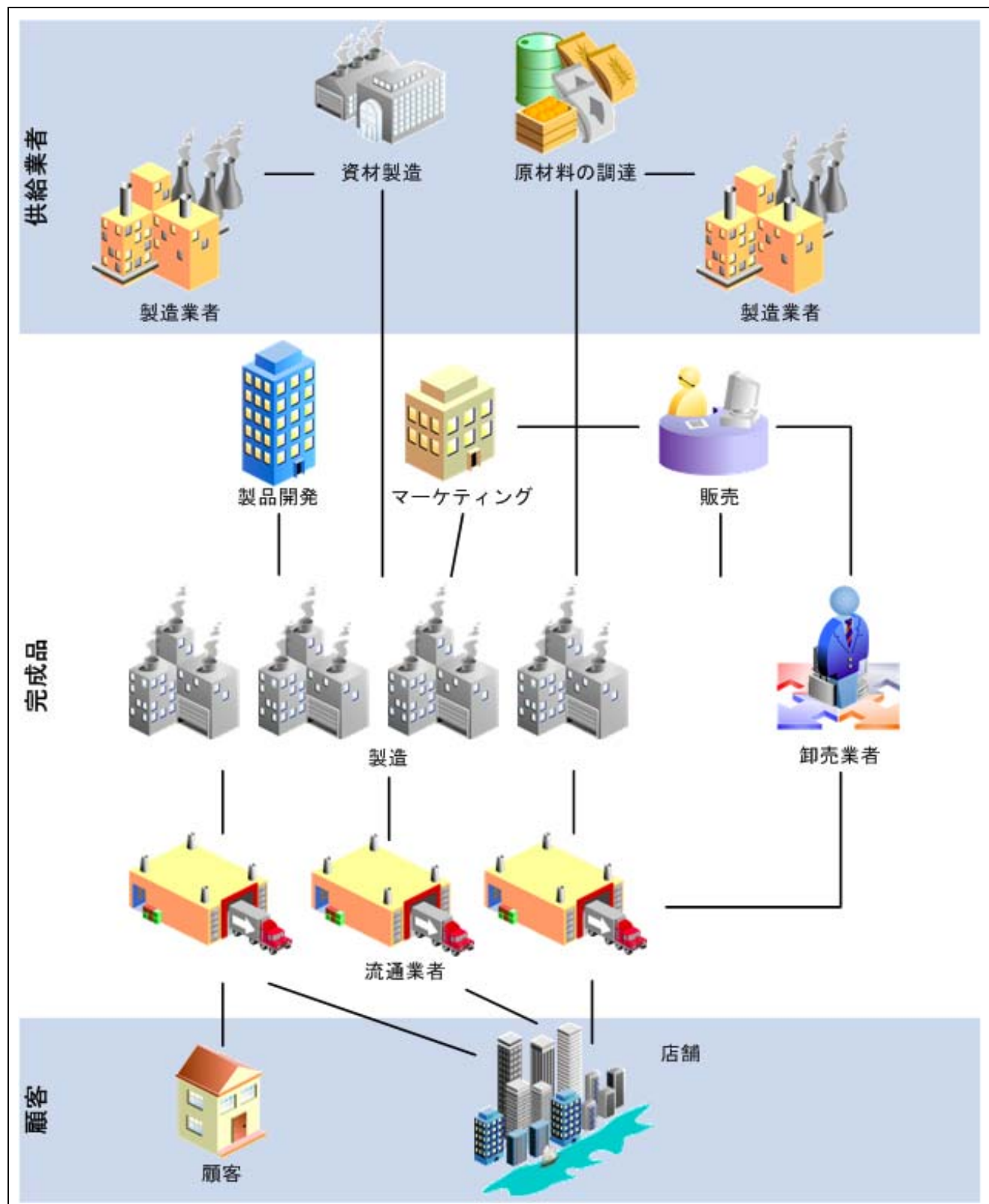
スタイル品目とコレクション、部品表および作業工程を入力してから、JD Edwards EnterpriseOne 製造現場管理システムのプログラムを使用して、スタイル品目の製造を実行できます。JD Edwards EnterpriseOne 製造現場管理システムでは、製造作業オーダーの管理とトラッキングが可能です。マスター作業オーダーは、子スタイル品目に対応する個々の標準製造作業オーダーの集まりです。

JD Edwards EnterpriseOne 調達管理システムでは、JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理システムと統合して、スタイル品目およびコレクションの購買価格の作成、一括オーダーの入力、購買オーダーの入力、一括オーダーのリリース、購買オーダーの印刷を行うことができます。

産業内の取引

JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理システムでは、スタイル品目の製造および卸売配賦をサポートします。

次の図は、JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理の産業内取引を示しています。



JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理の産業内取引

JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理システムでは、JD Edwards EnterpriseOne製造管理システムと統合して、スタイル品目の計画と製造をサポートします。作業の外注もサポートされています。

JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理システムでは、JD Edwards EnterpriseOne流通管理システムと統合して、スタイル品目の販売と流通をサポートします。卸売配賦には流通業者への販売が含まれます。

注意: JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理システムでは委託販売はサポートされておらず、小売のソリューションはありません。

第 3 章

JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理システムの設定

この章では、JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理システムを有効にする方法について説明します。

JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理システムの有効化

この項では、JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理システムの有効化の概要と、アパレル管理システムを有効にする方法について説明します。

JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理システムの有効化について

スタイル品目データを入力して処理する前に、JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理システムを有効にする必要があります。アパレル管理システムを有効にすると、JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理システムとオラクル社の他のJD Edwards EnterpriseOneシステムとの間にリンクが作成されます。JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理システムのシステム・コードは41Fです。システム41Fを有効にするには、OneWorldシステム制御ファイル・テーブル (F99410) に次のデータを含むレコードが存在する必要があります。

- 「データ項目」フィールドのSY41F
- 「使用モジュール」フィールドの「はい」

EnterpriseOneシステム制御プログラム (P99410) を使用して、システム41Fを有効にします。JD Edwards EnterpriseOneシステムでは、F99410テーブルにシステム固定情報が保存されます。

JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理システムの有効化に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
EnterpriseOneシステム・コントロールの処理	W99410A	「略式コマンド」フィールドに「P99410」と入力して、[Enter]を押します。	JD Edwards EnterpriseOneシステムを有効にするフォームにアクセスします。
EnterpriseOneシステム制御 - 改訂	W99410B	「EnterpriseOneシステム・コントロールの処理」フォームで、データ項目SY41Fを含むローを選択し、「選択」をクリックします。	JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理システムを有効化します。

JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理システムの有効化

「EnterpriseOneシステム制御 - 改訂」フォームにアクセスします。

JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理システムを有効化するには、次の手順に従います。

1. 「データ項目」フィールドの値がSY41Fになっていることを確認します。
SY41Fに関連付けられたシステム固定情報の記述である「アパレル管理モジュールの使用」が、名称記述フィールドに表示されます。
2. モジュールの存在オプションで「はい」を選択します。
3. 「OK」をクリックして、JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理システムを有効にします。

データ項目

情報単位を識別および定義するコードが表示されます。最大8文字の英数字コードで、ブランクおよび特殊文字(%、&、+など)は使用できません。新しいデータ項目を作成するには、システム・コード55から59までを使用します。エイリアスは変更できません。

名称記述

データ項目の記述を表示します。大文字と小文字でテキストを入力します。この名称を使用して、類似したデータ項目が検索されます。名称記述を入力するには、次の規則に従います。

日付: すべての日付フィールドは、「日付」という語で始まるようにします。

金額: すべての金額フィールドは、「金額」という語で始まるようにします。

単位: 単位、数量および量のフィールドはすべて、「単位」という語で始まるようにします。

名称: すべての30バイトの記述フィールドは、「名称」という語で始まるようにします。

プロンプト: Y/Nの入力が要求されるすべてのフィールドは、「プロンプト」という語で始まるようにします。

住所番号: すべての住所番号(従業員、顧客、所有者)は、「住所番号」という語で始まるようにします。

モジュールの存在

特定のモジュールがシステムにインストールされているかどうかを示すオプションを選択します。

第 4 章

JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理の パレル管理用操作

この章では、品目管理および在庫トランザクションの概要と、次の方法について説明します。

- サイズ・グリッドの定義
- レベル・タイプの定義
- 品目構造の定義
- マトリックス入力のレベル・カラム見出しの定義
- 標準品目からスタイル品目への変換
- ルート品目の作成
- 組成、ラベルおよび追加情報の定義
- スタイル品目のバッチ生成
- UCCおよびEAN-13生成の設定
- 品目階層の作成
- 品目改訂の処理
- スタイル品目の在庫出庫
- スタイル品目の在庫調整
- スタイル品目の在庫移動
- スタイル品目の在庫状況の検討
- スタイル品目データの除去

品目管理について

JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理システムでは個々の在庫品目が定義されるため、サプライチェーン全体での在庫の操作が可能になります。品目という用語は、在庫内のすべての構成品、原材料、組立品および完成品を指します。また、購買して在庫には入れない消耗品も該当します。在庫の処理を実行する前に、在庫にある品目に関する情報を指定する必要があります。品目情報、売上および購買原価、保管場所別の引当可能数量などの情報を指定することで、サプライチェーン全体で各品目を追跡および処理できます。

JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理システムでは、標準の在庫品目よりも複雑なスタイル品目をサポートします。スタイル品目には、サイズ、丈、幅、色などの多数の属性があります。これらのバリエーションの取扱いを容易にするために、バリエーションを様々な階層レベルとして製品内に定義します。これらのレベルをスタイル品目に定義すると、品目のバリエーションごとに品目番号が作成されます。スタイル品目と異なり、標準のJD Edwards EnterpriseOne品目には複数のレベルが設定されません。

JD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムは、JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理と統合して、スタイル品目を定義および管理します。スタイル品目固有の機能が含まれるJD Edwards EnterpriseOne在庫管理プログラムは次のとおりです。

- 品目マスター (P4101)
- スタイル品目マスター (PCW51)
- 事業所品目 (P41026)
- マトリックス・グリッド (PCW03)
- サイズ加重の入力 (PCW32)
- サイズ定義による自動分割 (PCW33)
- 品目レベル・タイプ (PCW011)
- 品目構造の処理 (PCW01)
- 組成の入力 (PCW44)
- スタイル品目追加情報 (PCW45)

スタイル品目に対応する詳細は、スタイル品目マスター・プログラムで入力する必要があります。スタイル品目マスターの情報は次のとおりです。

- 品目番号
- 品目名
- 記述
- 品目に関する一般情報

スタイル品目を作成すると、JD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムによって、スタイル品目の詳細が品目構造定義 (FCW02) テーブルと品目マスター (F4101) に保存され、追加情報がスタイル品目追加情報テーブル (PCW45) に保存されます。

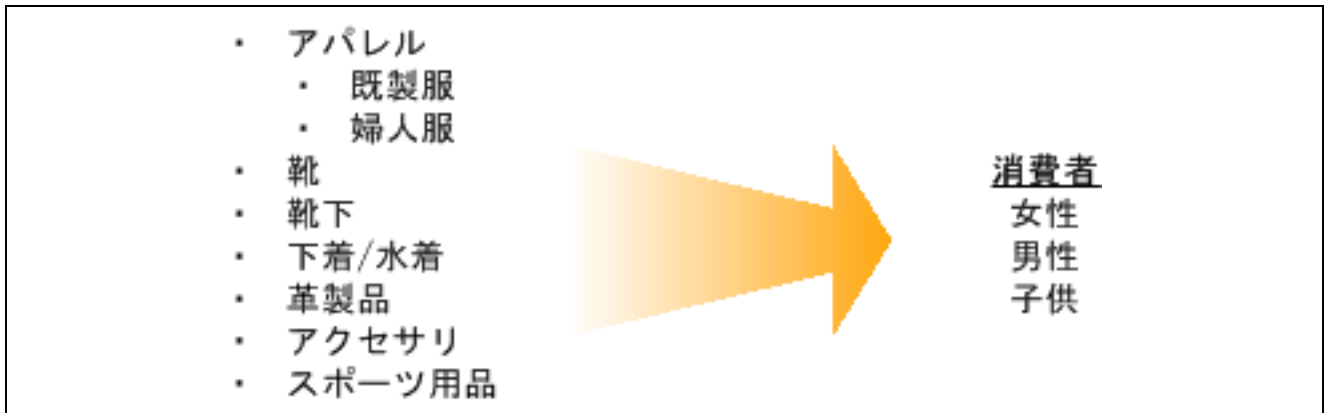
ここでは、次の事項について説明します。

- 製品構造
- 例外管理
- 品目作成プロセス

製品構造

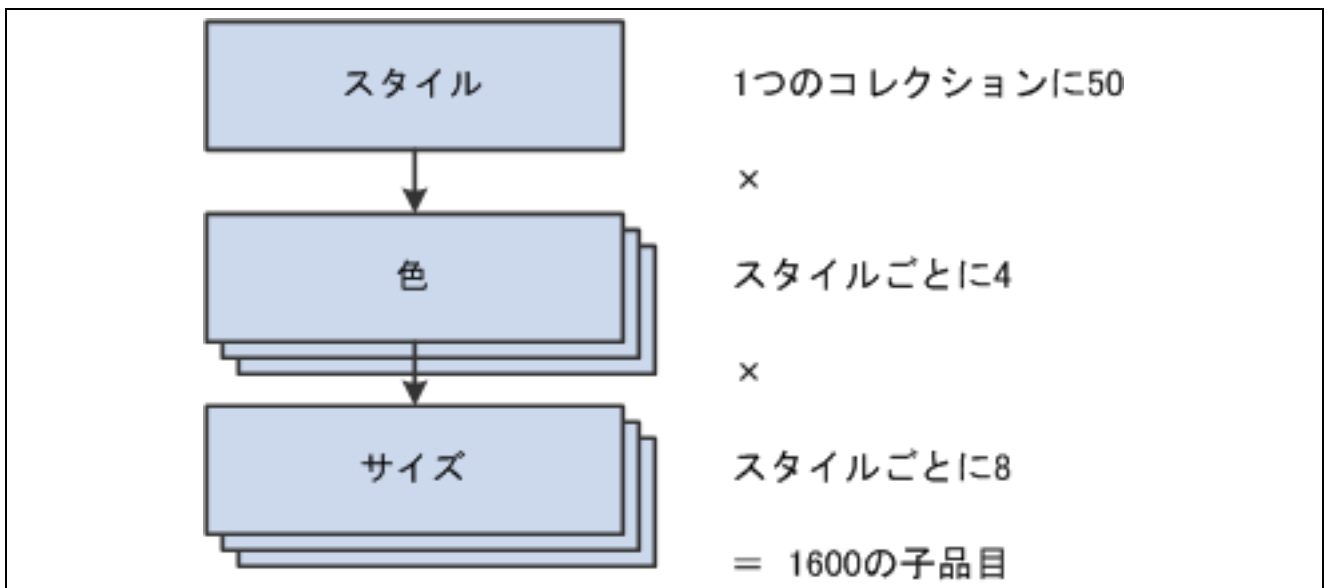
スタイル品目は、親としてのスタイル品目ルート・レベル0と、その親に関連付けられた子品目で構成される独自の製品構造を持ちます。

アパレル産業では、様々な製品が生産されるだけでなく、顧客ベースも男性や女性、様々な年齢層にわたります。次の図は、アパレル産業の様々な製品と消費者を示しています。



アパレル製品の顧客ベース

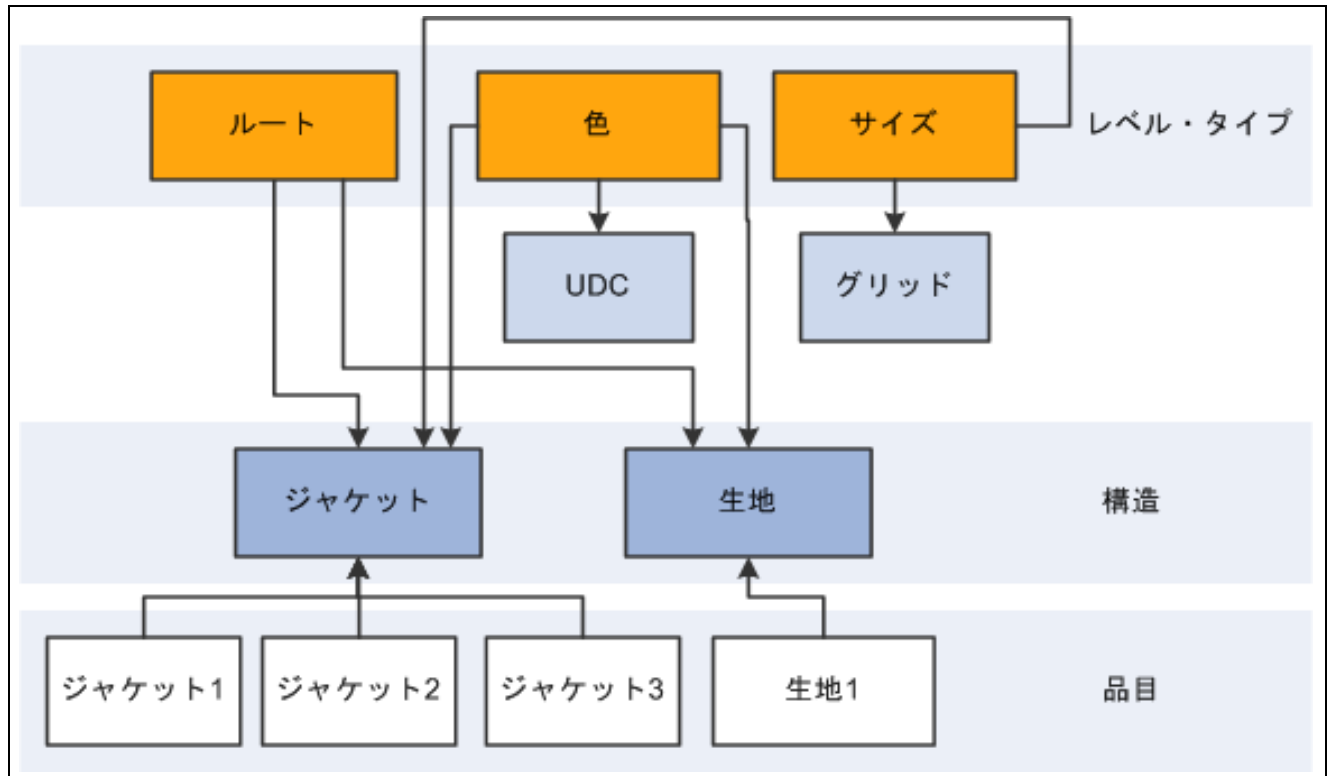
各製品には多数のバリエーションがあります。たとえば、シャツひとつとっても様々なスタイル、色、サイズがあります。これらの製品バリエーションを管理するには、階層レベルを使用して製品の詳細を定義する必要があります。次の図は、スタイル品目の階層レベルを示しています。



スタイル品目の製品構造

製品の一般属性を定義するには、第1レベルの製品階層であるスタイル品目ルート・レベル0を使用します。スタイル品目ルート・レベル0で指定する詳細は、階層内の下位レベルに継承されます。スタイル品目ルート・レベル0から継承される基本属性に加えて、子品目の追加情報も指定できます。これらの追加詳細は子品目に固有です。

品目構造を定義することで、製品階層に様々なバリエーション・レベルを定義します。次の図は、品目構造定義を示しています。



スタイル品目ジャケットのスタイル品目構造

レベル

バリエーションは、製品内の様々な製品階層レベルとして定義できます。色、サイズ、スタイルなどのバリエーションを様々なレベルとして階層に定義できます。製品階層に指定できるレベルは最大10です。第1レベルはスタイル品目ルート・レベル0で、スタイルやその他の一般情報などの基本属性を定義します。製品階層の下位レベルは、スタイル品目ルート・レベル0から基本属性を継承します。品目レベル・タイプ・プログラム(PCW011)を使用すると、特定の構造または複数の構造にレベルを添付できます。レベル・タイプは品目レベル・タイプ・テーブル(FCW011)に保存されます。

製品階層のレベルは、他の属性を使用して制御します。色を表すレベルは、ユーザー定義コード(UDC)から属性が取得されます。また、サイズを定義するレベルの制御はサイズ・マトリックス・グリッドで行います。

参照: JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理 9.0 製品ガイド、「JD Edwards EnterpriseOne在庫管理のアパレル管理用操作」、「レベル・タイプの定義」

構造

構造は、製品の様々なバリエーションあるいはレベルを添付するのに使用される場所です。たとえば、製品ジーンズのバリエーションを定義する必要があるとします。バリエーションは、品目レベル・タイプ・プログラムを使用して様々なレベルとして定義します。次に、UDCを使用してレベル・タイプに定義されたバリエーションを添付して、製品に適用される構造を定義します。

構造を定義するには、品目構造の処理プログラムを使用します。構造の詳細は、品目構造詳細テーブル(FCW01)に保存されます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理 9.0 製品ガイド、「JD Edwards EnterpriseOne在庫管理のアパレル管理用操作」、「品目構造の定義」

スタイル品目の特性

JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理システムのスタイル品目の基本特性は次のとおりです。

- 複数レベル構造
スタイル品目の詳細は、階層構造で定義します。スタイル、ウォッシュ加工、色、幅、丈など、10レベルまで定義できます。
- 柔軟性
レベル構造定義を管理することにより、膨大な数の子レベルのスタイル品目を管理できます。たとえば、色、サイズ、複数の属性、丈などです。
- スタイル品目のグループの処理
スタイル品目のグループを入力、変更および表示できます。
- 継承
子レベルのスタイル品目は、スタイル品目の作成時と変更時の両方で、ルート・レベルのスタイル品目から特性を継承します。
- サイズ・グリッド
サイズ・グリッドを使用すると、すべてのスタイル品目レベルを一度に表示および更新できます。
- 例外管理
継承された属性のバリエーションは、製品階層の任意のレベルで作成できます。
- マトリックスの集中使用
マトリックスは、受注オーダー、購買オーダーおよび作業オーダーの処理時に使用できます。
- ラベルおよび組成
組成の原材料のリストは、各原材料の割合で指定できます。ラベルは組成情報から構成されます。

マトリックス

製品には通常数多くのバリエーションがありますが、それらは同じ基本的な属性を共有しています。たとえば、スタイル品目ルートレベル0のジーンズがあるとしたします。顧客は、スキニー、ショート、ストレートレッグ、ブーツカット、色あせなど、ジーンズの特性にバリエーションを要求する場合があります。製品階層でバリエーションを扱うには、スタイル品目ルート・レベル0のジーンズを入力し、マトリックス定義を作成します。マトリックスを使用すると、スタイル品目ルート・レベル0を入力するだけで、スタイル品目に設定されているすべてのバリエーションに簡単にアクセスできます。

JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理システムでは、次のマトリックスが使用されます。

- オーダー管理
 - 受注オーダー
 - 購買オーダー
 - 作業オーダー
- 在庫管理
 - トランザクション
 - 在庫照会
- 受注オーダーおよび購買オーダーのレポート

例外管理

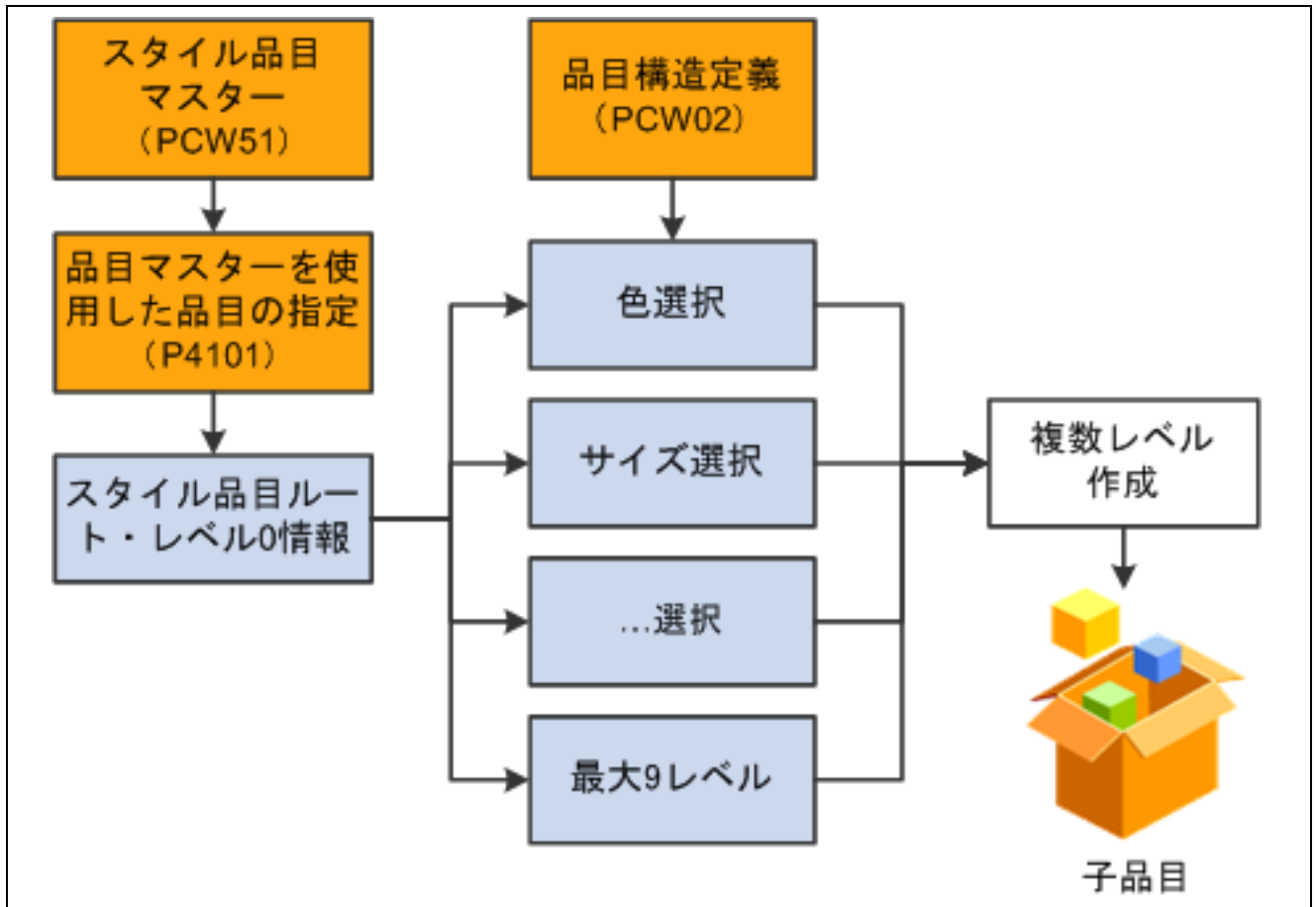
製品構造の各レベルには、様々な属性を含めることができます。使用可能な子スタイル品目の数は、製品の属性およびレベルの数に基づきます。スタイル品目階層のスタイル品目ルート・レベル0で設定される属性は、下位レベルまたは子スタイル品目に継承されます。ただし、属性の継承について例外を定義できます。たとえば、スタイル品目ルート・レベル0でシャツの価格を指定した場合、この価格は子スタイル品目に継承されます。超特大(XXL)サイズのシャツの価格を変更した場合、これより上のレベルでさらに価格が変更されても、その変更はXXLサイズのシャツに継承されません。

品目作成プロセス

JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理システムでスタイル品目を作成するには、スタイル品目マスター・プログラム(PCW51)を使用します。品目を作成する場合は、次の詳細を指定する必要があります。

- 品目ID
- 品目記述
- 品目規則
- 品目原価と価格
- 品目の加重と単位

スタイル品目を定義する場合は、最初に基本UDCを定義し、システム・セットアップを実行します。次に、レベルと、カラム位置の詳細を定義します。最後に、UDCを品目構造に添付します。品目定義はすべてのレベルの製品階層で指定する必要があります。次の図は、スタイル品目の作成プロセスを示しています。



スタイル品目の作成プロセス

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理 9.0 製品ガイド、「JD Edwards EnterpriseOne在庫管理のアパレル管理用操作」、「ルート品目の作成」

在庫トランザクションについて

会社は、在庫トランザクションを定期的を使用して施設内および施設間で品目を移動します。在庫トランザクションには、次の3つのタイプがあります。

- 出庫。通常は保管場所からの在庫の除去が記録されます。
- 調整。実地棚卸とシステム棚卸間の差異を調整します。
- 移動。事業所内の保管場所間および事業所間の移動を記録します。

在庫トランザクションでは、在庫数量、保管場所またはロットをユーザーが直接更新できます。在庫移動によって、品目元帳が必ず更新されます。JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理システムでは、複数レベルの階層定義に基づいて、子スタイル品目のグループを表示、調整、出庫および移動できます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理 9.0 製品ガイド、「JD Edwards EnterpriseOne在庫管理のアパレル管理用操作」、「スタイル品目の在庫出庫」

参照: JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理 9.0 製品ガイド、「JD Edwards EnterpriseOne在庫管理のアパレル管理用操作」、「スタイル品目の在庫調整」

参照: JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理 9.0 製品ガイド、「JD Edwards EnterpriseOne在庫管理のアパレル管理用操作」、「スタイル品目の在庫移動」

参照: JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理 9.0 製品ガイド、「JD Edwards EnterpriseOne在庫管理のアパレル管理用操作」、「スタイル品目の在庫状況の検討」

サイズ・マトリックス・グリッドの定義

この項では、サイズ管理の概要と次の方法について説明します。

- グリッド・コードの定義
- サイズ・マトリックス・グリッドの定義
- サイズ分割の定義
- サイズ加重の定義
- システム固定情報SPLITCおよびSPLITIの設定の検証

サイズ管理について

サイズは、ほとんどのスタイル品目で属性またはレベルの1つになります。サイズ・マトリックス・グリッドでは、女性用シャツ、ベルト、男性用スラックスなど、特定の品目タイプで使用可能なすべてのサイズを定義します。グリッドは、業界の測定基準に基づきます。また、地域や国によっても異なります。

サイズ・マトリックス・グリッドを使用する場合は、品目の生産国を考慮してください。次の図に示すように、サイズ表示は国によって異なります。

FR	34	36	38	40	42	44	46	48	50
DE	32	34	36	38	40	42	44	46	48
ES	34	36	38	40	42	44	46	48	50
IT	38	40	42	44	46	48	50	52	54
UK	6	8	10	12	14	16	18	20	22
US	4	6	8	10	12	14	16	18	20
INTL	XS	S	M	M	L	L	XL	XL	XXL
NUM	2	2	3	3	4	4	5	5	6

女性用の服のサイズの国別比較

サイズ・マトリックス・グリッドを定義するには、マトリックス・グリッド・プログラム(PCW03)を使用します。サイズ・グリッドはマトリックス・グリッド・テーブル(FCW03)に保存されます。

品目レベル(サイズ、幅、丈など)を特定のサイズ・マトリックス・グリッドに関連付けるには、グリッドごとにグリッド・コードを設定し、これらのグリッド・コードを品目レベルに添付する必要があります。

様々な品目、国および言語に、複数のサイズ・マトリックス・グリッドを設定できます。1つの品目に対して、特定のサイズ・マトリックス・グリッド内の範囲にある各サイズを使用できます。たとえば、米国向けの女性用シャツのサイズにサイズ・マトリックス・グリッドを指定するとします。グリッドには、4から30のサイズの値が含まれます。ただし、6から18のサイズのみが生産される女性用シャツもあります。

サイズ・マトリックス・グリッドは言語別に設定することもできます。同じサイズ・マトリックス・グリッド・コードに対して、中国語のサイズのセットとフランス語のサイズのセットを定義できます。

サイズ定義は、ローカライゼーション国コードと使用言語の組合せを使用してFCW03から取得されます。一致するものが見つかるまで、次に示す各組合せが記載順に検索されます。

1. ユーザー・プロファイルの改訂プログラム(P0092)で設定されたローカライゼーション国コードと使用言語の両方。
2. ユーザー・プロファイルの改訂プログラムで設定されたローカライゼーション国コードと、ブランクまたは国内の使用言語。
3. ブランク国コードと、ユーザー・プロファイルの改訂プログラム(P0092)で設定された使用言語。
4. ブランク国コードとブランク使用言語。

サイズ・マトリックス・グリッドを定義すると、サイズ分割ルールやサイズ加重ルールを指定して、受注オーダーにあわせて在庫を割り当てることもできます。この情報は、サイズ定義による自動分割テーブル(FCW031)およびサイズによる数量の自動分割の指定テーブル(FCW47)に保存されます。

サイズ別分割ルールは、特定のグリッド・コードに対して定義します。品目カテゴリ・コードまたは顧客カテゴリ・コードを分割ルールに添付することもできます。これにより、特定の品目および顧客にのみ分割ルールが適用されます。サイズ別の分割はパーセンテージで表されます。これらのパーセンテージの合計は、常に100%になるようにする必要があります。これらのルールは、受注オーダーおよび購買オーダーの入力時に使用されます。たとえば、S、M、Lのサイズがあるとします。品目数量を分割するルールを次のように設定できます。

- S - 25%
- M - 50%
- L - 25%

顧客が100着の品目を注文し、この分割ルールを使用しているとすると、この例では、Sサイズの品目が25着、Mサイズの品目が50着、Lサイズの品目が25着、顧客に納品されることになります。

サイズ別に在庫を割り当てるもうひとつの方法として、サイズ加重があります。サイズ別加重ルールは、特定のグリッド・コードに対して定義します。サイズ別の加重は乗数で表されます。これらのルールは、割当の実行時に使用されます。たとえば、加重の定義をサイズ38が1、サイズ39が3、サイズ40が2に設定するとします。この例では、サイズ40はサイズ38の2倍、サイズ39は3倍の数量が顧客に納品されることになります。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理 9.0 製品ガイド、「JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理における割当の処理」

サイズ・マトリックス・グリッドの定義に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
グリッド・コード - ユーザー定義コードの処理	W0004AA	「スタイル品目管理」(G41F461)、「グリッド・コード」	グリッド・コードを定義します。
マトリックス・グリッドのサイズ定義の処理	WCW03A	「スタイル品目設定」(G41F42)、「マトリックス・グリッド」	サイズ・マトリックス・グリッドを定義、検討、更新および削除します。
マトリックス・グリッドのサイズ定義の改訂	WCW03B	「スタイル品目設定」(G41F42)、「マトリックス・グリッド」 「追加」をクリックします。	サイズ・マトリックス・グリッドを定義します。
サイズ定義による自動分割の処理	WCW33C	「スタイル品目設定」(G41F42)、「マトリックス・グリッド」 分割ルールを定義するグリッド・コードを選択し、「ロー」メニューから「サイズ分割」を選択します。	サイズ分割を定義、検討、更新および削除します。
サイズ定義による自動分割	WCW33B	「スタイル品目設定」(G41F42)、「マトリックス・グリッド」 「サイズ定義による自動分割の処理」フォームで、「追加」をクリックします。	サイズ分割を定義します。
サイズ加重の改訂 (画面上では「サイズ重量の改訂」)	WCW32B	「スタイル品目設定」(G41F42)、「マトリックス・グリッド」 加重ルールを定義するグリッド・コードを選択し、「ロー」メニューから「サイズ加重」(画面上では「サイズ重量」)を選択します。	サイズ加重を定義します。
一般パラメータ - ユーザー定義コードの処理	W0004AA	「スタイル品目管理」(G41F461)、「一般パラメータ」	システム固定情報SPLITCおよびSPLITIの設定を検証します。

グリッド・コードの定義

「グリッド・コード - ユーザー定義コードの処理」フォームにアクセスします。

これは41F/GD UDCです。

1. 「追加」をクリックします。
2. 「ユーザー定義コード」フォームで、「コード」、「記述1」、「特殊取扱」、「ハードコード」のカラムに値を入力します。

複数のグリッド・コードを同時に定義できます。

3. 「OK」をクリックして、新しいグリッド・コードを作成します。

注意: グリッド・コードは、品目マスターのどのカテゴリ・コードでも保持されるような有効なUDC値として定義する必要があります。サイズ・グリッド・コードに使用されるカテゴリ・コードは、レベル・タイプを定義するときに定義されます。たとえば、SRP3を使用する場合は、グリッド・コード値を41/S3に追加する必要があります。

参照: JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理 9.0 製品ガイド、「JD Edwards EnterpriseOne在庫管理のアパレル管理用操作」、「レベル・タイプの定義」

サイズ・マトリックス・グリッドの定義

「マトリックス・グリッドのサイズ定義の改訂」フォームにアクセスします。

1. 「グリッド・コード」フィールドに値を入力します。
2. 必要に応じて、ローカライゼーション国コードを入力します。

注意: サイズ・グリッド・コードに国別のサイズ定義を定義する場合は、ローカライゼーション国コードを入力する必要があります。ユーザー・プロファイルの改訂プログラム(P0092)で設定されたローカライゼーション国コードを使用して、サイズ・グリッド・コード定義が取得されます。ユーザー・プロファイルの改訂プログラムで設定されたローカライゼーション国コードにサイズ・グリッド・コード定義が存在しない場合は、ブランクのローカライゼーション国コードで定義されたサイズ・グリッド・コード定義が使用されます。

3. 必要に応じて、「言語」フィールドに値を入力します。

注意: サイズ・グリッド・コードに言語別のサイズ定義を定義する場合は、言語を入力する必要があります。ユーザー・プロファイルの改訂プログラム(P0092)で設定された使用言語を使用して、言語別のサイズ・グリッド・コード定義がFCW03から取得されます。たとえば、使用言語が中国語に設定されている場合は、中国語用に定義されたサイズ定義が使用されます。ユーザー・プロファイルの改訂プログラムで設定された使用言語にサイズ・グリッド・コード定義が存在しない場合は、国内言語(ブランク値)に定義されたサイズ・グリッド・コード定義が使用されます。

4. 「値」フィールドに、サイズ・マトリックス・グリッドのサイズ値を入力します。値は30個まで入力できます。

サイズ分割の定義

「サイズ定義による自動分割」フォームにアクセスします。

マトリックス・グリッド - サイズ定義による自動分割

OK(O) 取消(L) ツール(T)

グリッド・コード ジーンズ

品目カテゴリ・コード メジャー分類 - デフォルト

顧客カテゴリ・コード 合計パーセント

	パーセント	
値1	<input type="text" value="26"/>	<input type="text" value="2.00"/>
値2	<input type="text" value="28"/>	<input type="text" value="3.00"/>
値3	<input type="text" value="30"/>	<input type="text" value="5.00"/>
値4	<input type="text" value="32"/>	<input type="text" value="10.00"/>
値5	<input type="text" value="34"/>	<input type="text" value="30.00"/>
値6	<input type="text" value="36"/>	<input type="text" value="25.00"/>
値7	<input type="text" value="38"/>	<input type="text" value="15.00"/>
値8	<input type="text" value="40"/>	<input type="text" value="5.00"/>
値9	<input type="text" value="42"/>	<input type="text" value="3.00"/>
値10	<input type="text" value="44"/>	<input type="text" value="2.00"/>

「サイズ定義による自動分割」フォーム

サイズ分割を定義するには、次の手順に従います。

1. サイズ分割を特定の品目に適用する場合は、「品目カテゴリ・コード」フィールドに値を入力します。

注意: このフィールドに入力した値は、このサイズ分割を使用する品目にも添付する必要があります。このコードを添付する品目マスターのフィールドを定義するには、システム固定情報SPLITIを使用します。

2. サイズ分割を特定の顧客に適用する場合は、「顧客カテゴリ・コード」フィールドに値を入力します。

注意: このフィールドに入力した値は、このサイズ分割を使用する顧客にも添付する必要があります。このコードを添付する住所録のフィールドを定義するには、システム固定情報SPLITCを使用します。

3. 各値に割り当てる数量のパーセンテージを入力し、「OK」をクリックします。パーセンテージの合計は100%になる必要があります。

注意: すべてのサイズに値を入力してください。これより、スタイル品目のサイズを後で有効にする場合に、新しく有効にしたサイズでサイズ分割が即座に使用可能になります。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理 9.0 製品ガイド、「JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理における割当の処理」

サイズ加重の定義

「サイズ加重の改訂」(画面上では「サイズ重量の改訂」)フォームにアクセスします。

1. 各値に乗数を入力します。
2. 「OK」をクリックします。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理 9.0 製品ガイド、「JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理における割当の処理」

システム固定情報SPLITCおよびSPLITCの設定の検証

「一般パラメータ - ユーザー定義コードの処理」フォームにアクセスします。

これは41F/00 UDCです。

1. SPLITCコードを選択します。
このコードは、特定の顧客にサイズ分割を添付するのに使用されます。固定情報は、サイズ定義による自動分割の顧客カテゴリ・コードの保持に使用される住所録のカテゴリ・コードを定義します。
2. 「分割カテゴリ住所録」が「記述01」カラムの記述になっていることを確認します。
3. AC03が「特殊取扱」カラムに入力されていることを確認します。これは、サイズ分割の顧客カテゴリ・コードを保存する住所録のカテゴリ・コードです。AC03以外のカテゴリ・コードを使用する場合は、この値を変更します。
4. Yが「ハードコード」カラムに入力されていることを確認します。
5. 変更した場合は、「OK」をクリックします。
6. SPLITIコードを選択します。
このコードは、特定の品目にサイズ分割を添付するのに使用されます。固定情報は、サイズ定義による自動分割の品目カテゴリ・コードの保持に使用される品目マスターのカテゴリ・コードを定義します。
7. 「分割カテゴリ品目」が「記述01」カラムの記述になっていることを確認します。
8. SRP1が「特殊取扱」カラムに入力されていることを確認します。これは、サイズ分割の品目カテゴリ・コードを保存する品目マスターのカテゴリ・コードです。SRP1以外のカテゴリ・コードを使用する場合は、この値を変更します。
9. Yが「ハードコード」カラムに入力されていることを確認します。
10. 変更した場合は、「OK」をクリックします。

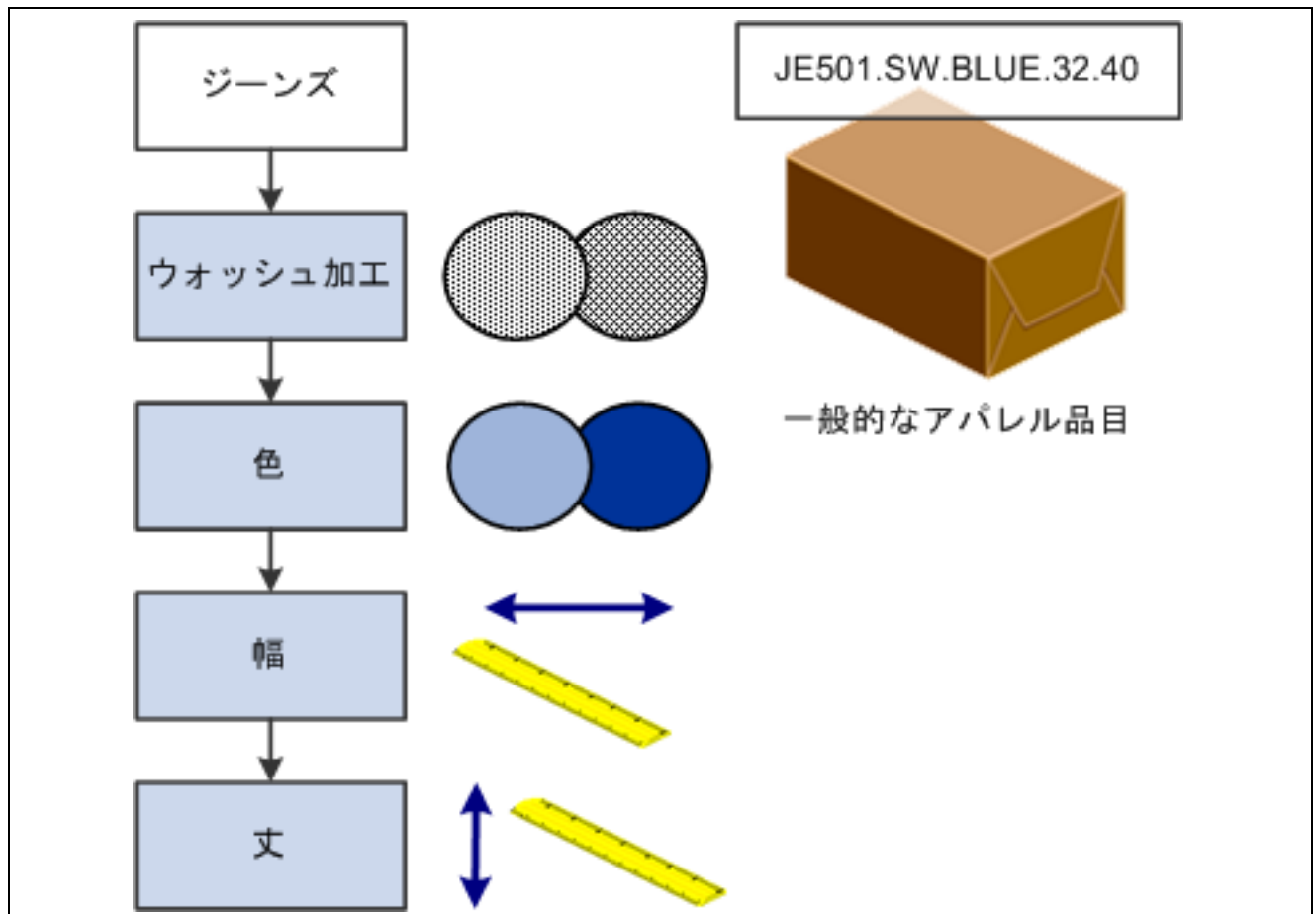
レベル・タイプの定義

この項では、レベル・タイプの概要、事前設定、およびレベル・タイプの定義方法について説明します。

レベル・タイプについて

レベル・タイプとは、特定のスタイル品目に関連付けられる実際のレベルまたは属性です。1つの品目に10レベルまで定義できます。第1レベルのスタイル品目ルート・レベル0では、品目の基本スタイルを定義します。レベルによってスタイル品目の階層が構成されます。色、ウォッシュ加工、幅および丈は、すべてレベル・タイプの例です。レベル・タイプを定義するには、品目レベル・タイプ・プログラム(PCW011)を使用します。レベル・タイプ情報は品目レベル・タイプ・テーブル(FCW011)に保存されます。

次の図は、複数レベルで構成されるスタイル品目を示しています。スタイル品目ルート・レベル0はジーンズです。



スタイル品目ジーンズのレベル

レベル・タイプを定義する場合は、レベルの有効値がサイズ・マトリックス・グリッド(グリッド・コード)とUDCのどちらから提供されるかを指定します。グリッド・コードを使用するレベル(ウェスト・サイズや脚丈など)の場合は、品目マスターのカテゴリ・コード・フィールドと関連付ける必要があります。カテゴリ・コード・フィールドには、グリッド・コード値が保持されます。UDCを使用するレベル(ウォッシュ加工や色のタイプなど)の場合は、UDCを適切に定義する必要があります。

特定の品目に使用されるレベル・タイプはすべて1つの品目構造にグループ化されます。レベルの値はスタイル品目の作成に使用されます。前述の図では、品目構造はスタイル品目ルート・レベル0のジーンズと、その後に続くウォッシュ加工、色、幅および丈のレベルで構成されています。スタイル品目を作成する場合、これらの各レベルの値が品目名の一部に含まれます。この例では、JE501.SW.BLUE.32.40になります。この品目名の例では、SWはストーンウォッシュ加工、BLUEはジーンズの色、32は幅の値、40は丈の値を示しています。また、これらのレベルが子スタイル品目の作成と命名にどのように反映されるかも定義します。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- レベル・タイプの有効値の定義に使用するカスタムUDCコードと値を作成する必要があります。
たとえば、色のレベル・タイプを作成する場合は、赤、黒、青、緑および白の色を表す有効値が含まれるようにUDC 41F/COを作成する必要があります。
- 品目構造コードを保持する品目マスターのカテゴリ・コードを決定する必要があります。

レベル・タイプの定義に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
品目レベル・タイプの処理	WCW011A	「スタイル品目設定」(G41F42)、「レベル・タイプの定義」	品目レベル・タイプを定義、検討、更新および削除します。
品目レベル・タイプの改訂	WCW011B	「スタイル品目設定」(G41F42)、「レベル・タイプの定義」 「追加」をクリックします。	レベル・タイプを定義します。

レベル・タイプの定義

「品目レベル・タイプの改訂」フォームにアクセスします。

レベル・タイプの定義 - 品目レベル・タイプの改訂

OK(O) 取消(L) ツール(T)

レベル・タイプ・コード J

記述行1 Inseam

コード定義

第2品目コード/記述 D

コード/記述の長さ 2

カラム位置 3

カテゴリ・コード・エイリアス・スタイル

UDCを使用して定義

製品コード

ユーザー定義コード

グリッドを使用して定義

グリッド・カテゴリ・コード・エイリアス・スタイル SRP3

「品目レベル・タイプの改訂」フォーム

レベル・タイプを定義するには、次の手順に従います。

1. スタイル品目の属性を定義するコードを「レベル・タイプ・コード」フィールドに指定します。このコードは、品目構造の定義のレベルとして使用されます。
2. レベル・タイプ・コードの記述を記述フィールドに入力します。
3. スタイル品目の生成に第2品目コードを使用する場合は「第2品目コード/記述」フィールドにCを、記述を使用する場合はDを入力します。

たとえば、レベル・タイプが色で、このレベルの値コードがBLCK、記述がBLACKとします。このフィールドにCを入力すると、BLCKが使用されます。このフィールドにDを入力すると、BLACKが使用されます。

注意: サイズ・グリッドを使用するサイズ関連のレベルを定義している場合は、スタイル品目の作成時に実際のサイズを確認できるように、「第2品目コード/記述」フィールドにDを入力してください。

4. このレベルのコードまたは記述の長さを決定する値を「コード/記述の長さ」フィールドに指定します。
5. このレベルのカラム位置を「カラム位置」フィールドに入力します。この値により、レベルの配置位置が決定されます。この値は、“部品表の関連”でマトリックス入力のカラム・レベル見出し用を使用され、さらに、品目階層をFCW02テーブルに保存するためにも使用されます。
6. 品目マスターの販売カテゴリ・コードをレベル・タイプ・コードで更新する場合は、その販売カテゴリ・コードを「カテゴリ・コード・エイリアス・スタイル」フィールドに入力します。この情報を収集してレポートを作成できます。
7. このレベルの値に使用するUDCテーブルを「製品コード」フィールドと「ユーザー定義コード」フィールドに指定します。

このレベル・タイプに使用するカスタムUDCコードと値を作成しておく必要があります。

8. レベルがサイズ・グリッドに基づいている場合は、「UDCを使用して定義」セクションを空白のままにします。かわりに、品目に使用されるサイズ・グリッドを定義するカテゴリ・コードを品目マスターに指定する必要があります。このコードを「グリッド・カテゴリ・コード・エイリアス・スタイル」フィールドに入力します。

注意: ここで選択するカテゴリ・コードには、グリッド・コードを有効なUDC値として定義する必要があります。たとえば、SRP3を選択してグリッド・コードを保持する場合は、グリッド・コード値を41/S3 UDCテーブルに追加する必要があります。

9. 「OK」をクリックします。

品目構造の定義

この項では、品目構造の概要と次の方法について説明します。

- 構造コードの定義
- 品目構造の定義
- システム固定情報STRUCTUREの設定の検証

品目構造について

レベル・タイプを作成したら、特定のスタイル品目に使用されるレベルを決定する必要があります。これにより、これらのすべてのレベルを特定の順序で格納する品目構造を定義できます。新しい構造コードをUDC 41F/ISに作成し、次に品目構造の処理プログラム(PCW01)を使用して、その品目構造を定義します。このプログラムで定義した品目構造の情報は、品目構造詳細テーブル(FCW01)に保存されます。品目構造を定義したら、構造の値を含むカテゴリ・コードを品目マスターに定義します。このカテゴリ・コードは、特定の構造をスタイル品目に添付するのに使用されます。使用するカテゴリ・コードを定義するには、値STRUCTUREを41F/00 UDCに入力する必要があります。

次の図は、様々なスタイル品目における品目構造の設定例を示しています。

	ドレス	ブラジャー	男性用 ジャケット	皮製バッグ	指輪	ジーンズ
レベル0	スタイル	スタイル	スタイル	スタイル	スタイル	スタイル
レベル1	色	色	布	バリエーション	サイズ	生地
レベル2	サイズ	サイズ	色	色		色
レベル3		カップ	サイズ			バリエーション
レベル4			丈			サイズ
レベル5						丈

様々なスタイル品目の構造の例

品目構造の定義に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
品目構造 - ユーザー定義コードの処理	W0004AA	「スタイル品目管理」 (G41F461)、「品目構造」	品目構造コードを定義、改訂または削除します。
品目構造の処理	WCW01D	「スタイル品目設定」 (G41F42)、「品目構造の定義」	品目構造を検討、改訂または削除します。
品目構造の定義	WCW01B	「スタイル品目設定」 (G41F42)、「品目構造の定義」 ローを選択して「選択」をクリックします。	品目構造を定義します。
一般パラメータ - ユーザー定義コードの処理	W0004AA	「スタイル品目管理」 (G41F461)、「一般パラメータ」	システム固定情報 STRUCTUREの設定を検証します。

品目構造コードの定義

「品目構造 - ユーザー定義コードの処理」フォームにアクセスします。

これは41F/IS UDCです。

1. 「追加」をクリックします。
2. 「ユーザー定義コード」フォームで、「コード」、「記述1」、「特殊取扱」、「ハードコード」の列にグリッドの値を入力します。
複数の品目構造コードを同時に定義できます。
3. 「OK」をクリックして、新しい品目構造コードを作成します。

品目構造の定義

「品目構造の処理」フォームにアクセスします。

1. 定義する品目構造を「品目構造」フィールドに入力します。
2. 「追加」をクリックします。

注意:「品目構造の定義」フォームでは、第1レベル(レベル0)のレベル・タイプ・コードは常にROOになります。この値は変更できません。レベル0は常にスタイル品目ルート・レベル0です。

3. 品目構造に含めるレベルごとに、次のフィールドに値を入力します。

レベル・タイプ・コード	スタイル品目の属性を定義するコードを入力します。このコードは、品目構造の定義のレベルとして使用されます。
区切文字 (Y/N)	区切り文字を必須とするかどうかを指定する値を入力します。値は次のとおりです。 Y: 区切り文字は必須です。 N: 区切り文字は必須ではありません。
区切文字コード	スタイル品目の各レベル値を連結するコードを入力します。このフィールドに入力した値は、「区切文字 (Y/N)」フィールドの値がYに設定されている場合にのみ使用されます。たとえば、スタイル品目がシャツで色が青、XLサイズ、選択した区切り文字が「/」の場合、スタイル品目は「Shirt/Blue/XL」と表示されます。
マトリックス行 (Y/N)	マトリックスを表示するかどうかを決定する値を入力します。値はYまたはNです。最初のローの値は、マトリックスを表示するかどうかに対応しています。 Y: マトリックスが表示されます。 N: マトリックスは表示されません。 最後のローは、マトリックスを横方向または縦方向のどちらで表示するかに対応しています。 Y: 横方向 N: 縦方向 最初のローの値がNの場合は、マトリックスが表示されないため、最後のローの値には影響はありません。

品目構造には、スタイル品目ルート・レベル0を除き9レベルまで入力できます。

システム固定情報STRUCTUREの設定の検証

「一般パラメータ - ユーザー定義コードの処理」フォームにアクセスします。

これは41F/00 UDCです。

1. STRUCTUREコードを選択します。
2. 「品目構造格納用エイリアス」が「記述1」カラムの記述になっていることを確認します。
3. SRP1が「特殊取扱」カラムに入力されていることを確認します。これは、構造を保存する品目マスターのカテゴリ・コードです。SRP1以外のカテゴリ・コードを使用する場合は、この値を変更します。
4. Yが「ハードコード」カラムに入力されていることを確認します。
5. 変更した場合は、「OK」をクリックします。

注意: 41F/IS UDCに定義する品目構造は、品目構造に使用する品目マスターのいずれのカテゴリ・コードでも有効なUDC値になるように定義する必要があります。たとえば、システム固定情報STRUCTUREを定義してSRP1を使用する場合は、すべての品目構造コードを41/S1 UDCテーブルの有効値として設定する必要もあります。

マトリックス入力のレベル・カラム見出しの定義

マトリックス入力内に表示されるカラムまたはフィールド・テキストの記述を指定し、それらの表示順序を指定する必要があります。

カラム見出しは、レベル・タイプに定義したカラム位置に直接関連付けられます。

この項では、マトリックス入力のレベル・カラム見出しの定義方法について説明します。

マトリックス入力のレベル・カラム見出しの定義に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
カラム見出し - ユーザー定義コードの処理	W0004AA	「スタイル品目管理」(G41F461)、「カラム見出し」	UDCを定義、検討または削除します。
カラム見出し - ユーザー定義コード	W0004AI	「スタイル品目管理」(G41F461)、「カラム見出し」 「追加」をクリックします。	マトリックス入力のレベル・カラム見出しを定義します。

マトリックス入力のレベル・カラム見出しの定義

「カラム見出し - ユーザー定義コードの処理」フォームにアクセスします。

これは41F/CH UDCです。

1. 「追加」をクリックします。
2. カラム見出しの表示順序(例: 1、2、3)を「コード」フィールドに入力します。
3. カラム見出しに表示するテキストを「記述1」フィールドに入力します。
4. 「OK」を入力して、新しいカラム見出しの値を保存します。

標準品目からスタイル品目への変換

この項では、スタイル品目マスターの変換の概要と、スタイル品目マスター変換(RCW04)プログラムの実行方法について説明します。

スタイル品目マスター変換について

JD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムおよびJD Edwards EnterpriseOneアパレル管理システムでは、品目構造定義(FCW02)テーブルと品目マスター(F4101)にスタイル品目を保存します。スタイル品目の追加情報はスタイル品目追加情報テーブル(PCW45)に保存され、標準のJD Edwards EnterpriseOne品目はF4101テーブルに保存されます。スタイル品目マスター変換プログラム(RCW04)を使用すると、標準のJD Edwards EnterpriseOne品目をスタイル品目に変換できます。スタイル品目マスター変換プログラムを実行すると、標準品目の詳細がFCW02テーブルおよびFCW61テーブルにコピーされます。変換された品目詳細には、スタイル品目マスター・プログラム(PCW51)からアクセスできます。

注意: スタイル品目レコードがFCW02テーブルに存在する品目は、スタイル品目とみなされます。

スタイル品目マスター変換プログラムの実行

「定期処理」(G41F20)、「スタイル品目マスター」を実行します。

ルート品目の作成

この項では、スタイル品目の作成の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- スタイル品目マスター(PCW51)の処理オプションの設定
- スタイル品目の作成
- スタイル品目ルート・レベル0への構造の追加
- 子スタイル品目のオンデマンド生成
- スタイル品目のコピー

スタイル品目の作成について

顧客の需要に基づいて、様々な製品が必要になる場合があります。また、1つの製品に多数のバリエーションが存在する場合もあります。たとえば、シャツという製品には様々なタイプのスタイルや色、サイズがあります。これらのバリエーションを製品ごとに管理するには、スタイル品目マスター・プログラム(PCW51)を使用して、様々な階層レベルで製品詳細を定義する必要があります。

これらのバリエーションからすべての子スタイル品目をどのように作成するかを指定するには、スタイル品目マスター・プログラムの処理オプションを設定します。スタイル品目マスター・プログラムの処理オプションの設定に基づいて、次のいずれかの方法を使用して子スタイル品目が作成されます。

- 自動
スタイル品目ルート・レベル0の品目詳細と品目構造の情報を指定すると、すべての子スタイル品目が自動的に作成されます。子スタイル品目の自動作成は、スタイル品目ルート・レベルの作成プロセスを終了すると実行されます。
- オンデマンド

品目作成プロセスの終了時に子スタイル品目を手動で作成することもできます。この場合は、スタイル品目ルート・レベル0の品目詳細と品目構造の情報を指定した後に、「品目構造定義」フォームで「子品目の作成」ボタンをクリックする必要があります。

- バッチ

スタイル品目ルート・レベル0の品目詳細と品目構造の情報を指定した後に、子スタイル品目の作成/処理プログラム(RCW01)を実行して子スタイル品目を作成します。

複数レベルからなるスタイル品目の構造では、品目階層の第1レベル(スタイル品目ルート・レベル0)は、品目に関する基本詳細で構成されます。標準のJD Edwards EnterpriseOne品目の詳細に加えて、スタイル品目ルート・レベル0でスタイル品目に次の詳細を指定する必要があります。

- 品目構造
- スタイル品目に使用されるサイズ・マトリックス・グリッド
- 追加のカテゴリ・コード、品目モデル番号、主原材料品目番号、クリーニング・コードなどの追加情報
- 組成の詳細

組成の詳細は、スタイル品目にとって重要です。スタイル品目に使用される各原材料のパーセンテージを指定します。

品目の基本属性は、上位レベル(親)から下位レベル(子)に継承されます。作成するすべてのスタイル品目に対応するレコードがJD Edwards EnterpriseOneアパレル管理システムによって品目構造定義(FCW02)テーブルと品目マスター(F4101)に作成されます。品目に指定した追加データは、スタイル品目追加情報テーブル(FCW61)に保存されます。

スタイル品目は、コレクション別スタイル品目(PCW54)プログラムを使用して作成することもできます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理 9.0 製品ガイド、「コレクション管理の処理」、「コレクションの作成」

スタイル品目マスター・プログラムはスタイル品目作成のエントリ・ポイントとして機能し、品目構造定義(PCW02)プログラムは終了ポイントとして機能します。品目マスター(P4101)プログラムに設定した処理オプションに基づいて、スタイル品目ルート・レベル0の一般属性の指定に使用するフォームが品目の作成時に表示されます。

重要: スタイル品目は、キット(在庫タイプK)およびコンフィギュレーション品目(在庫タイプC)では使用できません。スタイル品目、キット、コンフィギュレーション品目はそれぞれ別のビジネス・モデルをサポートしているため、相互排他的です。

子スタイル品目はキット内の構成品にできますが、スタイル品目は親のキット品目(在庫タイプK)にはできません。

スタイル品目はスタイル品目マスター・プログラムで作成できます。品目構造定義プログラムを使用すると、複数レベルの構造を表示および編集できます。構造で定義する品目レベル・タイプに従って、各レベルの詳細が「品目構造定義」フォームにリストまたはグリッドのいずれかの形式で表示されます。スタイル品目マスター・プログラムの処理オプションで、子レベルの品目定義を手動作成するように設定している場合は、次の操作を実行します。

- スタイル品目階層に適用されるバリエーションの各レベルを構成する。「品目構造定義」フォームで、品目階層に設定する必要があるレベルを選択し、「ロー」メニューから「レベルの構成」を選択します。
- 品目階層の各レベルを構成した後に、最終レベルの品目定義を作成する。「品目構造定義」フォームで、「子品目の作成」をクリックします。

スタイル品目マスター・プログラムの「削除処理」タブで、「レベル全体の削除」処理オプションを設定すると、スタイル品目レコードを削除できます。削除できないスタイル品目の詳細のログは、スタイル品目マスターの除去ログ・テーブル (FCW88) に記録されます。FCW88テーブルは一時ワークファイルです。このファイルは、削除処理が完了するとクリアされます。スタイル品目マスター・プログラムの「削除処理」タブで設定した「詳細ログ・レポート」処理オプションに基づいて、スタイル品目マスターの除去ログ・レポート (RCW36) が呼び出され、削除できないスタイル品目が出力されます。また、スタイル品目マスターの除去レポート (RCW32) を使用してスタイル品目レコードを削除することもできます。削除できないスタイル品目は、スタイル品目マスターの除去ログ・レポート (RCW36) を呼び出して出力できます。これらの除去レポートを手動で実行することもできます。

注意: スタイル品目を削除すると、スタイル品目マスター・プログラムからスタイル品目マスターの除去ログ・レポートとスタイル品目残の除去ログ・レポート (RCW34) が呼び出されます。事業所品目プログラム (P41026) の「バージョン」タブで「スタイル品目残の除去 (RCW34)」処理オプションを使用すると、削除できない事業所品目レコードの出力に使用されるスタイル品目残の除去ログ・レポートのバージョンを指定できます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理 9.0 製品ガイド、「スタイル品目データの除去」、「スタイル品目マスターの除去レポートの検討」

事前設定

スタイル品目マスター・プログラムはスタイル品目マスターの作成プロセスのエントリ・ポイントとして機能します。スタイル品目の作成を開始すると、スタイル品目マスター・プログラムによって品目マスター・プログラム (P4101) が呼び出されます。品目マスター・プログラムによって、基本品目の詳細の入力が容易になります。また、スタイル品目と標準のJD Edwards EnterpriseOne品目が統合されます。このため、スタイル品目の作成を開始する前に、品目マスター・プログラムを設定する必要があります。スタイル品目の作成時に品目詳細を入力する場合に、次に記載したフォームを表示するには、品目マスター・プログラムの「スタイル」タブで、「スタイル品目追加情報」、「組成」および「構造定義」の処理オプションを設定する必要があります。

- 「スタイル品目追加情報」(WCW45A)。スタイル品目に適用される補助カテゴリ・コードとクリーニング・コードを指定します。
- 「組成の処理」(WCW44A)。スタイル品目の製造に使用する原材料と、組成におけるそれらの割合を定義します。
- 「品目構造定義」(WCW02B)。子レベル品目定義を表示および作成します。スタイル品目マスター・プログラムの処理オプションで、品目を手動作成するように設定している場合は、「品目構造定義」フォームを使用して品目階層および最終レベル品目を作成する必要があります。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理 9.0 製品ガイド、「品目マスター (P4101) の処理オプションの設定」

ルート品目の作成に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
スタイル品目マスター表示の処理	WCW51E	「スタイル品目管理」(G41F11)、「スタイル品目の処理」	スタイル品目を追加および検討します。
品目マスターの改訂	W4101A	「スタイル品目マスター表示の処理」フォームで、「追加」をクリックします。	スタイル品目ルート・レベル0の詳細を入力します。
複数レベル品目の改訂	WCW02AB	「スタイル品目マスター表示の処理」フォームで、スタイル品目を検索して選択します。	スタイル品目構造および最終レベル品目定義を検討および変更します。
組成の処理	WCW44A	「複数レベル品目の改訂」フォームで組成の詳細を指定する必要がある品目を選択し、「ロー」メニューから「組成」を選択します。	原材料の組成の詳細を指定します。
カテゴリ・コード	W4101B	「複数レベル品目の改訂」フォームで組成の詳細を指定する必要がある品目を選択し、「ロー」メニューから「カテゴリ・コード」を選択します。	構造コード、構造に適用されるマトリックス・グリッド、および分類コードを追加します。
スタイル品目追加情報	WCW45A	「複数レベル品目の改訂」フォームで追加情報を指定する必要がある品目を選択し、「ロー」メニューから「スタイル品目追加情報」を選択します。	スタイル品目ルート・レベル0で、追加カテゴリ・コードやクリーニング・コードなどの追加情報を指定します。

スタイル品目マスター(PCW51)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

構造

この処理オプションでは、スタイル品目階層に子スタイル品目を作成する方法と、スタイル品目に適用されるサイズ・グリッドを選択する方法を指定します。

1. 品目構造の作成

子スタイル品目をどのように作成するかを指定します。値は次のとおりです。

- 1: スタイル品目マスター・プログラム(PCW51)で「閉じる」をクリックしたときに、子品目を作成します。
- 2: オンデマンドで子品目を作成します。「品目構造定義」フォームで、「子品目の作成」ボタンをクリックする必要があります。
- 3: 子スタイル品目の作成/処理プログラム(RCW01)を使用して、子品目をバッチで作成します。

2. サイズ・グリッドの選択

「品目構造定義」(WCW02B)フォームにサイズ・グリッドをどのように表示するかを指定します。値は次のとおりです。

1: サイズ・グリッドが選択された状態で表示されます。使用しないサイズ・グリッドを選択解除する必要があります。

ブランク: サイズ・グリッドが選択解除された状態で表示されます。サイズ・グリッドを手動で選択する必要があります。

部品表

1. 部品表の作成

子スタイル品目の部品表をどのように作成するかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 子スタイル品目の部品表をオンデマンドで作成します。「部品表の処理」(WCW12BA)フォームで、「フォーム」メニューから「作成」を選択する必要があります。

1: 子スタイル品目の部品表をバッチで作成します。子スタイル品目の部品表の作成プログラム(RCW53)を実行します。

バージョン

この処理オプションでは、スタイル品目の作成または変更時にアクセスする各プログラムのバージョンを指定します。

1. 品目マスターのバージョン(P4101)

品目マスター・プログラム(P4101)にアクセスする際に使用するバージョンを指定します。

この処理オプションをブランクにすると、デフォルト・バージョンとしてZJDE0003が使用されます。

2. 仕入先/品目関係(P43090)

仕入先/品目関係プログラム(P43090)にアクセスする際に使用するバージョンを指定します。

この処理オプションをブランクにすると、デフォルト・バージョンとしてZJDE0001が使用されます。

3. 子スタイル品目の部品表の作成(RCW53)

スタイル品目の部品表プログラム(PCW12B)から呼び出される子スタイル品目の部品表の作成プログラム(RCW53)のバージョンを指定します。

この処理オプションをブランクにすると、デフォルト・バージョンとしてXJDE0001が使用されます。

4. 部品表の改訂(P3002)

スタイル品目マスター・プログラム(PCW51)から呼び出される部品表の改訂プログラム(P3002)のバージョンを指定します。

この処理オプションをブランクにすると、デフォルト・バージョンとしてZJDE0001が使用されます。

5. 作業工程マスターの処理(P3003)

スタイル品目マスター・プログラム(PCW51)から呼び出される作業工程マスターの処理プログラム(P3003)のバージョンを指定します。

この処理オプションをブランクにすると、デフォルト・バージョンとしてZJDE0001が使用されます。

削除処理

1. レベル全体の削除

スタイル品目の複数レベル階層から品目を削除するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: すべてのレベルが削除可能な場合にのみ削除します。子品目が階層の親レベルの下に作成されていない場合、階層内のスタイル品目を削除できます。また、親品目のすべての子品目が削除対象の場合は、親レベルを削除できます。

1: レベルに品目が存在する場合でも削除します。階層内の任意のレベルを、そのレベルに子品目が存在する場合であっても削除できます。

2. 詳細ログ・レポート

スタイル品目マスターの除去ログ・レポート(RCW36)を実行して詳細ログ・レポートを出力するかどうか、を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 詳細ログ・レポートを出力しません。

1: 詳細ログ・レポートを出力します。

スタイル品目の作成

「品目マスターの改訂」フォームにアクセスします。

スタイル品目を作成するには、次の手順に従います。

1. スタイル品目の固有識別子を「品目番号」フィールドに入力します。

注意: 品目階層のスタイル品目ルート・レベル0の品目および子品目の品目番号は25文字を超えないようにしてください。

2. スタイル品目の内容を表す記述を「記述」フィールドに入力します。
3. 品目の検索に使用されるテキストを「検索テキスト」フィールドに指定します。
4. 品目に必要な詳細を各フィールドに入力します。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理 9.0 製品ガイド、「品目マスター情報の入力」

5. 「OK」をクリックして、変更を保存します。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理 9.0 製品ガイド、「品目情報の入力」

スタイル品目ルート・レベル0への構造の追加

「スタイル品目マスター表示の処理」フォームにアクセスします。

スタイル品目ルート・レベル0の品目に構造を追加するには、次の手順に従います。

1. 「スタイル品目マスター表示の処理」フォームで、スタイル品目ルート・レベル0を検索して選択します。
2. 「複数レベル品目の改訂」フォームで、スタイル品目ルート・レベル0を選択し、「ロー」メニューから「カテゴリ・コード」を選択します。
3. 必要な構造コードを該当のフィールドに入力します。

注意: 構造コードを入力するフィールドは、フィールドの設定内容によって異なります。このフィールドは、41F/00 UDCのSTRUCTURE値を使用して設定します。たとえば、構造コードを保持するフィールドとしてSRP1を定義した場合は、必要な構造コードをこのフォームの「販売カタログ区分」フィールドに入力します。

構造コードを入力してエラーが発生した場合は、適切なUDCテーブルに構造コードを追加しているかどうかを確認してください。たとえば、「販売カタログ区分」フィールドを使用している場合は、構造コードをUDC 41/S1に追加する必要があります。

参照: JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理 9.0 製品ガイド、「JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理システムの設定」

4. 添付した構造コードのマトリックス・グリッド・コードを該当のフィールドに入力します。

注意: マトリックス・グリッド・コードを入力するフィールドは、フィールドの設定内容によって異なります。この情報は、レベルの定義時に品目レベル・タイプ・プログラムで設定します。たとえば、サイズ・グリッドコードを保持するフィールドとしてSRP3を定義した場合は、必要なサイズ・グリッドコードをこのフォームの該当のフィールドに入力します。

マトリックス・グリッド・コードを入力してエラーが発生した場合は、適切なUDCテーブルにマトリックス・グリッド・コードを追加しているかどうかを確認してください。たとえば、SRP3フィールドを使用している場合は、サイズ・グリッド・コードをUDC41/S3に追加する必要があります。グリッド・コードに使用するSRPフィールドは、マトリックス・グリッド・プログラムで指定します。

5. 「OK」をクリックして、変更を保存します。

子スタイル品目のオンデマンド生成

「スタイル品目マスター表示の処理」フォームにアクセスします。

1. 子スタイル品目の生成に必要なスタイル品目ルート・レベル0を検索して選択します。
2. 「ロー」メニューから「構造定義」を選択します。
3. 「品目構造定義」フォームで、レベルに適用されるUDC値をすべて選択します。値は個々に選択するか、「すべて選択」ボタンを使用して一度にすべての値を選択します。
4. 「品目構造定義-マトリックス」フォームで、必要なサイズ・グリッド値を選択します。
5. 「品目構造定義」フォームで、「子品目の作成」をクリックし、スタイル品目ルート・レベル0で選択した値の子スタイル品目を生成します。

スタイル品目のコピー

「複数レベル品目の改訂」フォームにアクセスします。

スタイル品目の処理 - 複数レベル品目の改訂

選択(S) 検索(I) 閉じる(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)


構造: JEA
レベル名: JE501.L Original Jean

レコード 1 - 5

記述
<input checked="" type="radio"/> JE501.L / Original Jean
<input type="radio"/> D /
<input type="radio"/> RG /
<input type="radio"/> SD /
<input type="radio"/> SW /

テキスト1

Courier New 10 B / U



「複数レベル品目の改訂」フォーム

注意: このタスクでは、事業所間でスタイル品目ルート・レベル0および子スタイル品目の情報をコピーする手順について説明します。

スタイル品目をコピーするには、次の手順に従います。

1. 「複数レベル品目の改訂」フォームで、コピーするスタイル品目ルート・レベル0を選択します。
2. 「ロー」メニューから「品目事業所」を選択します。
3. 「事業所品目の処理」フォームで品目のローを選択し、「コピー」をクリックします。
4. 「品目/事業所情報」フォーム(W41026A)の「事業所」フィールドに値を入力し、「OK」をクリックします。
5. 「事業所品目の処理」フォームで、「閉じる」をクリックします。

スタイル品目ルート・レベル0およびすべての子品目の事業所レコードが作成されます。

注意: スタイル品目マスター・プログラムでスタイル品目をコピーして、スタイル品目を作成することもできます。スタイル品目マスター・プログラムでスタイル品目を選択して、「コピー」を選択すると、構造コードやサイズ・グリッド・コードなど、選択したスタイル品目に適用された構造定義が再利用されます。

重要: コピーする品目番号のデータ内容を確認してください。

「事業所品目の処理」フォーム (W41026E) に入力した品目番号は、「複数レベル品目の改訂」フォーム (WCW02AB) で選択したスタイル品目に基づいて最初に照会されます。

「事業所品目の処理」フォームで品目番号を変更すると、そのスタイル品目の事業所レコードのみが作成されます。子スタイル品目の事業所レコードは作成されません。また、子スタイル品目の事業所レコードを後で作成することもできません。

子スタイル品目の事業所レコードを作成するには、スタイル品目ルート・レベル0を削除し、スタイル品目マスター・プログラムと複数レベル品目の改訂プログラムを使用して、設定処理の最初からスタイル品目ルート・レベル0を再作成します。JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理システムのロジックを開始するには、スタイル品目マスター・プログラムと複数レベル品目の改訂プログラムを使用して、スタイル品目の作成プロセスに従う必要があります。

組成、ラベルおよび追加情報の定義

この項では、組成とラベルの概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 組成管理の処理
- スタイル品目追加データの処理

組成およびラベルについて

次の表は、スタイル品目ラベルに必要な項目を示しています。

ラベル項目	説明
製造国	製品が製造された国
組成	品目の製造に使用される原材料とそれぞれの割合
ユーザー・クリーニング・コード	洗濯や乾燥に関する指示など、スタイル品目の取扱いに関する情報

製造国および組成の情報は、各地域の法令に応じて、インボイスなどの輸出用の書類で必要になる場合があります。スタイル品目に関するこれらの情報を取得するには、2つのプログラムを使用します。

品目の組成は、組成入力プログラム (PCW44) で定義します。組成情報は、組成テーブル (FCW60) に保存されます。1つのスタイル品目には、1つ以上の組成を定義できます。たとえば、主原材料または生地
の組成と裏地の組成を指定する必要が生じる場合があります。スタイル品目を構成する原材料とそれらの割合をすべて指定します。たとえば、主原材料が綿90%とウール10%、裏地がシルク100%のスタイル品目があるとし
ます。これらの情報をすべて、その品目の組成に記録します。

クリーニング・コードなどの追加情報を定義するには、スタイル品目追加情報プログラム(PCW45)を使用します。追加情報は、スタイル品目追加情報テーブル(FCW61)に保存されます。「ドライ・クリーニングのみ」や「漂白剤禁止」などのクリーニング・コードをスタイル品目に対して指定できます。スタイル品目追加情報を保存するために、10個のカテゴリ・コードを設定して使用することもできます。これらの追加カテゴリ・コードは、品目マスター・プログラムで設定したカテゴリ・コードには関連付けられず、どの処理にも使用されません。これらの情報は参照用およびレポート用に使用できます。スタイル品目の作成プロセスでは、品目マスター・プログラムのカテゴリ・コードが使用されます。

新しい品目を作成するとき、スタイル品目マスター・プログラム(PCW51)から組成入力プログラムとスタイル品目追加情報プログラムの両方を品目の作成中に呼び出すことができます。その場合、該当する処理オプションを、呼び出す品目マスター(P4101)のバージョンに対して設定する必要があります。

クリーニング・コード

クリーニング・コードは、スタイル品目の取扱いに関する情報を消費者に提供します。スタイル品目のラベルには注意表示が記載されます。たとえば、ラベルには「中温の洗濯機洗い、漂白剤使用不可、低温のタンブル乾燥可」のように記載されます。標準のクリーニング・コードは、洗濯、塩素漂白、アイロン、ドライ・クリーニング、乾燥の5つの基本カテゴリに分類できます。各クリーニング・コードは、それぞれのUDCテーブルに関連付けられます。それぞれのUDCテーブルで、既存の値を使用したり、新しい値を定義できます。前述のクリーニング・コードや、スタイル品目に関するその他の情報を更新するには、スタイル品目追加情報プログラムを使用します。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- スタイル品目の組成を構成する原材料のタイプをUDC 41F/MTで定義します。
- 組成を定義するスタイル品目の部品(例: 袖、裏地)をUDC 41F/MPで定義します。
- 次のクリーニング・コードの値を検証または設定します。これらの値は「スタイル品目管理」メニュー(G41F461)にあります。
 - 洗濯(UDC 41F/C1)
 - 塩素漂白(UDC 41F/C2)
 - アイロン(UDC 41F/C3)
 - ドライ・クリーニング(UDC 41F/C4)
 - 乾燥(UDC 41F/C5)
- 補助カテゴリ・コードを使用する場合は、次のカテゴリ・コードの値を設定します。これらの値は「スタイル品目管理」メニュー(G41F461)にあります。
 - カテゴリ・コード1(UDC 41F/S1)
 - カテゴリ・コード2(UDC 41F/S2)
 - カテゴリ・コード3(UDC 41F/S3)
 - カテゴリ・コード4(UDC 41F/S4)
 - カテゴリ・コード5(UDC 41F/S5)
 - カテゴリ・コード6(UDC 41F/S6)
 - カテゴリ・コード7(UDC 41F/S7)
 - カテゴリ・コード8(UDC 41F/S8)
 - カテゴリ・コード9(UDC 41F/S9)

- カテゴリ・コード10 (UDC 41F/S0)

組成およびラベルの定義に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
組成の処理	WCW44A	<p>「スタイル品目管理」(G41F11)、「スタイル品目の処理」</p> <p>「スタイル品目マスター表示の処理フォーム」で、グリッドからローを選択し、「選択」をクリックします。次に、「複数レベル品目の改訂」フォームで品目を選択し、「ロー」メニューから「組成」を選択します。</p> <p>処理オプションが正しく設定されている場合は、品目の作成時にこのフォームが表示されます。</p>	組成情報を検討します。
組成	WCW44B	<p>「スタイル品目管理」(G41F11)、「スタイル品目の処理」</p> <p>「組成の処理」フォームで、「追加」をクリックするか、ローを選択して「選択」をクリックします。</p>	組成情報を追加、削除または更新します。
スタイル品目追加情報	WCW45A	<p>「スタイル品目管理」(G41F11)、「スタイル品目の処理」</p> <p>「スタイル品目マスター表示の処理フォーム」で、グリッドからローを選択し、「選択」をクリックします。次に、「複数レベル品目の改訂」フォームで品目を選択し、「ロー」メニューから「スタイル品目追加情報」を選択します。</p> <p>処理オプションが設定されている場合は、品目の作成時にこのフォームが表示されます。</p>	スタイル品目追加情報を処理します。

組成管理の処理

「組成」フォームにアクセスします。

1. 組成を定義するスタイル品目の部品を「組成」フィールドに追加します。たとえば、裏地の組成を定義する必要がある場合があるとします。「検索/選択」を使用すると、UDC 41F/MPから有効値を取得できます。

品目全体に1つの組成を定義する場合は、このフィールドをブランクにします。

2. グリッドの「原材料%」カラムと「原材料」カラムに値を入力します。「検索/選択」を使用すると、41F/MTから原材料を取得できます。

原材料の割合の合計はグリッドの下に表示されます。合計が100%になるようにしてください。100%にしないと、エラーが発生します。

3. スタイル品目の組成を構成する原材料をすべて入力したら、「OK」をクリックします。

スタイル品目追加情報の処理

「スタイル品目追加情報」フォームにアクセスします。

スタイル品目の処理 - スタイル品目追加情報

OK(O) 取消(L) ツール(T)

第2品目 No. JE501.L Original Jean

補足カテゴリ・コード


カテゴリ・コード1	D	標準	カテゴリ・コード6		.
カテゴリ・コード2	.	.	カテゴリ・コード7		.
カテゴリ・コード3		.	カテゴリ・コード8		.
カテゴリ・コード4		.	カテゴリ・コード9		.
カテゴリ・コード5		.	カテゴリ・コード10		.

クリーニング・コード

洗濯	8	塩素漂白	0	アイロン	0	ドライ・クリーニング		乾燥	2
----	---	------	---	------	---	------------	--	----	---



手洗い



塩素漂白禁止



アイロン・スチーム禁止



タンブル乾燥可

「スタイル品目追加情報」フォーム

注意: これらのグラフィックはソフトウェアに付属していません。クリーニング・コードのUDCは、ユーザーが必要に応じて設定する必要があります。

1. スタイル品目の追加定義に使用する補助カテゴリ・コードを入力します。カテゴリ・コードは10個まで入力できます。これらのコードは参照用およびレポート用にのみ使用できます。
2. 必要に応じて、次の各クリーニング・コードの値を入力します。
 - 洗濯 (UDC 41F/C1)
 - 塩素漂白 (UDC 41F/C2)
 - アイロン (UDC 41F/C3)
 - ドライ・クリーニング (UDC 41F/C4)
 - 乾燥 (UDC 41F/C5)
3. 「OK」をクリックします。

スタイル品目のバッチ生成

この項では、スタイル品目のバッチ生成の概要、事前設定、および子スタイル品目の作成/処理プログラム(RCW01)の実行方法について説明します。

スタイル品目のバッチ生成について

スタイル品目マスター・プログラムの処理オプションに基づいて、子スタイル品目を自動、オンデマンドまたはバッチで作成できます。スタイル品目マスター・プログラムの「構造」タブの「品目構造の作成」処理オプションで2を指定してオンデマンド作成を選択するか、または3を指定してバッチ作成を選択すると、スタイル品目ルート・レベル0を作成して品目構造定義プログラムを終了しても、子品目は作成されません。子スタイル品目をバッチ作成するには、ルート・レベル品目の作成後に子スタイル品目の作成/処理プログラムを実行します。子スタイル品目を作成すると、子スタイル品目の詳細を編集したり、継承された属性に例外を定義できます。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理 9.0 製品ガイド、「JD Edwards EnterpriseOne在庫管理のアパレル管理用操作」、「ルート品目の作成」

事前設定

この項で説明されているタスクを実行するには、事前に次の作業を行う必要があります。

- スタイル品目マスター・プログラムの「構造」タブの「品目構造の作成」処理オプションに「3」を入力します。
- 品目の作成または変更時に、スタイル品目ルート・レベル0に有効な品目構造を添付します。

子スタイル品目の作成/処理プログラム(RCW01)の実行

「定期処理」(G41F20)、「子スタイル品目の作成/処理」を選択します。

UCCおよびEAN13生成の設定

この項では、UCCおよびEAN13生成の概要と次の方法について説明します。

- 会社UCCコードの記述2へのアクセス
- 会社UCCコードの定義
- EAN13の生成レポート(RCW28)の処理オプションの設定
- EAN13の生成レポートの実行

UCCおよびEAN13生成について

米国総一商法典(UCC)やカナダ電子商取引協議会(EGCC)、国際EAN協会(International Article Numbering Association)は、識別コードの規格と情報伝送手順を定めています。これはUCC 128準拠として知られていて、仕入先と顧客(小売業者)間の出荷情報を統一された製品IDで行うよう促進する規格です。各国は、この規格に基づいて、13桁の情報をを使用して各品目に識別コードを割り当てることができます。13桁の一意の識別コードは、統一製品コード(UPC)と呼ばれています。UPCコードは次の要素から構成されています。

- UCCまたはEANで割り当てられる7桁の会社IDまたは製造業者ID。会社IDはUDC 41/UCに保存する必要があります。北米の会社の会社IDは、最初の桁が常にゼロでコードに固定されているので、残る6桁のみで表されます。
- 会社によって割り当てられる5桁の製品ID。5桁の製品IDはシステムで生成され、品目番号と異なる番号を使用できます。
- チェック用の1文字。

スタイル品目の複数レベル階層には複数の子品目が含まれるため、階層のすべての子品目に13桁のUPCを手動で割り当てることは簡単ではありません。スタイル品目または品目階層内の子レベルのすべての品目にUCCまたはEAN-13コードを生成するには、EAN13の生成レポート(RCW28)を使用します。

また、スタイル品目マスター・プログラムから「保管/出荷」フォームにアクセスして、UPCコードを手動で入力することもできます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne Warehouse Management 9.0 Implementation Guide、「Setting Up Item Information」

UCCまたはEAN13生成の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
スタイル品目マスター表示の処理	WCW51E	「スタイル品目管理」(G41F11)、「スタイル品目の処理」	スタイル品目を検討します。
複数レベル品目の改訂	WCW02AB	「スタイル品目マスター表示の処理」フォームで、スタイル品目を検索して選択します。	スタイル品目の詳細を検討および変更します。
保管/出荷	W4101D	「複数レベル品目の改訂」フォームで、複数レベルのスタイル品目を選択し、「ロー」メニューから「保管/出荷」を選択します。	品目の出荷情報を設定します。
ユーザー定義コードの処理	W0004AA	「略式コマンド」に「UDC」と入力します。	会社UCCコードを入力します。
ユーザー定義コード・タイプの処理	W0004AD	「ユーザー定義コードの処理」フォームで、UDC 41/UCから会社IDを検索し、グリッド値から会社UCCコードを選択して、「フォーム」メニューから「コード・タイプ」を選択します。	記述2オプションを有効にします。

会社UCCコードの記述2へのアクセス

UPCコードはUDC 41/UCテーブルに保存する必要があります。13桁のUPCコードの最初の7桁は会社UCCコード(会社ID)に使用され、次の5桁は一意の製品IDになります。階層内の子品目のUPCコードはすべて同じ会社IDになりますが、製品IDは品目ごとに異なります。EAN13の生成プログラムを実行して会社のUPCコードを自動的に生成するには、製品IDを記述2として入力します。

「ユーザー定義コードの処理」フォームにアクセスします。

会社UCCコードの記述2にアクセスするには、次の手順に従います。

1. UDC 41/UCを検索します。
2. 必要な会社を選択し、「フォーム」メニューから「コード・タイプ」を選択します。
3. 「ユーザー定義コード・タイプの処理」フォームで、値リストからUCを検索して選択します。
4. 「ユーザー定義コード・タイプ」フォームの「2行目入力 (Y/N)」フィールドで「Y」を選択します。
5. 「OK」をクリックして、変更を保存します。
6. 「記述02」カラムが「ユーザー定義コードの処理」フォームに表示されていることを確認します。
7. UPCコードを自動的に生成する必要がある会社を選択し、記述2として5桁の数値コードを「記述2」フィールドに入力します。
8. 「OK」をクリックして、変更を保存します。

スタイル品目にUCCまたはEANコードを生成するたびに、会社UCCコードの記述2として入力した製品IDに対して、UCCまたはEANコードが自動的に追加されます。たとえば、ある会社の最初の品目に入力した記述2が12345とします。EAN13の生成プログラム(RCW28)を実行すると、記述2にその値が追加され、次の品目のUPCコードが自動的に生成されます。2番目の品目のUPCコードは12346、3番目の品目のUPCコードは12347になり、以降同様に続きます。最大値の99999に達すると、製品IDはリセットされます。

注意: EAN13の生成プログラムを実行する前に、UPCコードを自動的に生成する必要がある会社を指定する必要があります。この値は、EAN13の生成プログラムの処理オプションの「値」タブにある「会社UCCコード」フィールドに入力します。

会社UCCコードの定義

「ユーザー定義コードの処理」フォームにアクセスします。

会社UCCコードを定義するには、次の手順に従います。

1. 41/UC UDCを検索します。
2. 「追加」をクリックします。
3. 「ユーザー定義コード」フォームで、「最後」ボタンをクリックします。
4. 7桁の会社UCCコードを「コード」フィールドに入力します。
5. 会社UCCコードの内容を表す記述を「記述1」フィールドに入力します。
6. 「OK」をクリックして、変更を保存します。

EAN13の生成プログラム(RCW28)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

値

- | | |
|-------------|----------------------------|
| 1. 会社UCCコード | UDC 41/UCから会社UCCコードを指定します。 |
|-------------|----------------------------|

処理

- | | |
|--------------|--|
| 1. 第3品目番号の更新 | レポートの実行時に、生成したEANコードで第3品目番号を更新するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
1: 生成したEANコードで第3品目番号を更新します。
ブランク: 第3品目番号を更新しません。 |
|--------------|--|

2. 変更情報の転送

生成したEANコードで第3品目番号が更新されるテーブルを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 生成したEANコードで品目マスターの第3品目番号のみを更新します。

1: 生成したEANコードで事業所品目ファイルの第3品目番号を更新します。

2: 選択したテーブルの第3品目番号のみを更新します。テーブルのリストを定義するには、UDC 40/ICを使用します。

EAN13の生成レポート(RCW28)の実行

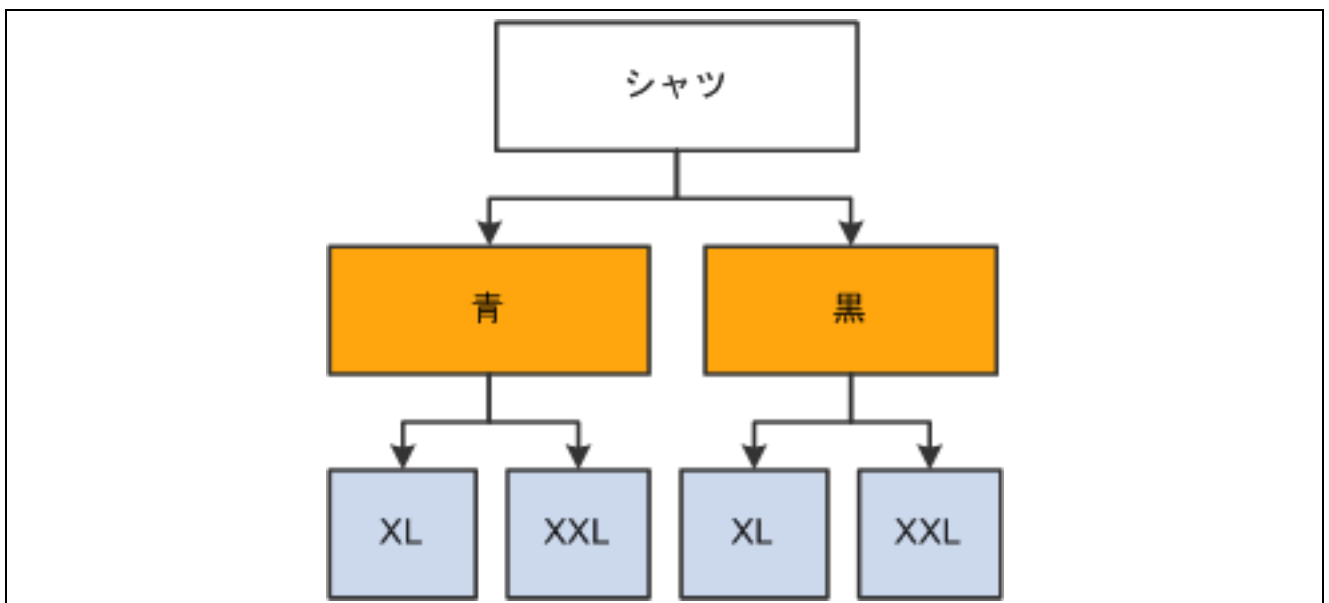
「アパレル上級/技術的操作」(G41F31)、「EAN13の生成」を選択します。

品目階層の作成

この項では、品目階層の概要と作成方法について説明します。

品目階層について

顧客ベースの拡大によって、スタイル品目のバリエーションが多数必要となることがあります。これらのバリエーションに対応するには、複数レベルの階層構造でバリエーションを様々な階層レベルとして使用して、スタイル品目を定義する必要があります。JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理システムでは、品目階層によって品目の構造を定義します。1つの製品内にバリエーションを設定する場合、品目階層には10レベルまで設定できます。次の図は、スタイル品目階層の例を示しています。



スタイル品目シャツの品目階層

品目階層では、スタイル品目に適用されるバリエーションのレベルと、各レベル内のバリエーションを定義します。たとえば、シャツには、スタイル、ウォッシュ加工、色、サイズなどのレベルを設定できます。色を定義するレベルは、スタイル品目に適用される色のバリエーションで構成されます。スタイル、原材料の組成、クリーニング・コードなどの基本属性のほとんどは第1レベルで定義されます。第1レベルは、階層のスタイル品目ルート・レベル0とも呼ばれます。スタイル品目ルート・レベル0で定義される共通の属性は、階層の下位レベルに継承されます。各レベルとその詳細は、品目レベル・タイプ・プログラム(PCW011)を使用して定義します。次に、品目構造の処理プログラム(PCW01)を使用して、レベル・タイプを構造コード(UDC 41F/IS)に添付する必要があります。品目階層は、品目の作成または更新処理時に、構造コードをスタイル品目に添付して作成できます。

構造コードをスタイル品目に添付するだけでは、品目階層の作成プロセスは完了しません。品目階層の作成プロセスでは、各階層レベルで子スタイル品目も作成する必要があります。子品目の定義は、自動、オンデマンドまたはバッチで作成できます。階層の子スタイル品目の定義を作成するモードは、スタイル品目マスター・プログラムの処理オプションで設定します。子スタイル品目の定義を手動で作成するには、品目構造定義プログラム(PCW02)を使用します。

スタイル品目階層には、親レベルのスタイル品目ルート・レベル0と子スタイル品目が設定されています。品目階層と子スタイル品目を作成すると、子レベルや親レベルの品目を削除できなくなります。ただし、スタイル品目マスター・プログラムの「削除処理」タブの「レベル全体の削除」処理オプションを使用すると、階層内の子または親レベルの品目を削除できます。

品目階層の各レベルは、複数レベル品目の改訂プログラム(PCW02A)で設定できます。レベルに添付されるグリッドまたはUDC値を選択または選択解除できます。子スタイル品目は、品目階層の各レベルで定義したバリエーションに基づいて作成されます。たとえば、マトリックス・サイズ・グリッドが構造コードに添付され、スタイル品目に適用されるとします。グリッド値が32、34、36、38および40で、サイズ40の子スタイル品目を生成しない場合は、40以外のすべての値を選択します。これにより、選択したバリエーションを子レベルとして含む品目階層が生成されます。

注意: 子スタイル品目を作成すると、各レベルで指定した値は変更できません。

品目階層の作成に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
品目構造定義	WCW02B	「スタイル品目マスター表示の処理」フォームで、スタイル品目ルート・レベル0を選択し、「ロー」メニューから「構造定義」を選択します。	スタイル品目階層を処理します。

品目階層の作成

「品目構造定義」フォームにアクセスします。

品目階層を作成するには、次の手順に従います。

1. 「スタイル品目マスター表示の処理」フォームで、スタイル品目を検索して選択します。
2. 「複数レベル品目の改訂」フォームで、スタイル品目を選択し、「ロー」メニューから「カテゴリ・コード」を選択します。
3. 構造コードを「販売カタログ区分」フィールドに入力し、添付された構造のマトリックス・グリッド・コードを該当のフィールドに入力します。
4. 「OK」をクリックして、変更を保存します。
5. 「複数レベル品目の改訂」フォームで、「閉じる」をクリックします。

6. 「スタイル品目マスター表示の処理」フォームで、スタイル品目ルート・レベル0を選択し、「ロー」メニューから「構造定義」を選択します。
7. 「品目構造定義」フォームで、スタイル品目を選択して、「子品目の作成」をクリックします。

注意: 品目の作成時に構造コードを指定すると、「品目構造定義」フォームがスタイル品目作成の終了ポイントとして表示されます。この場合は、前述のすべての手順を実行する必要はありません。「品目構造定義」フォームが表示されたら、かわりに「子品目の作成」ボタンをクリックする必要があります。

また、スタイル品目マスター・プログラムの「構造」タブの「品目構造の作成」処理オプションで、子スタイル品目が自動生成されるように設定すると、構造が自動生成されます。

品目改訂の処理

この項では、品目改訂の概要と処理方法について説明します。

品目の改訂について

JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理システムでスタイル品目を作成した後、詳細を検討して変更する必要が生じる場合があります。標準のJD Edwards EnterpriseOne品目と異なり、スタイル品目は複数レベルの形式で指定されます。複数レベル品目の改訂プログラム(PCW02A)を使用すれば、品目定義のスタイル品目階層の各レベルを変更できます。

複数レベル品目の改訂プログラムでは、次のことができます。

- 品目階層のツリー構造での表示。
- 品目階層に作成された品目の検討。
- 子スタイル品目に関する詳細の品目階層の各レベルでの定義または変更。
- 属性のバリエーションの定義。バリエーションは、親レベルのスタイル品目から階層内の子レベルのスタイル品目に継承されます。継承された属性の例外を階層内の任意の子レベルに対して定義できます。
- スタイル品目ルート・レベル0へのメディア・オブジェクトの添付。

注意: スタイル品目に変更を加えるには、スタイル品目マスター・プログラムと複数レベル品目の改訂プログラムを使用する必要があります。継承や例外などのスタイル品目固有の機能は、スタイル品目マスター・プログラムと複数レベル品目の改訂プログラムを使用してスタイル品目に変更を加える場合にのみ有効になります。

スタイル品目の改訂に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
スタイル品目マスター表示の処理	WCW51E	「スタイル品目管理」(G41F11)、「スタイル品目の処理」	スタイル品目ルート・レベル0の詳細を定義または変更します。
複数レベル品目の改訂	WCW02AB	「スタイル品目マスター表示の処理」フォームでレコードを選択し、「ロー」メニューから「改訂」を選択します。	子品目の詳細を検討および変更します。
品目マスターの改訂	W4101A	「複数レベル品目の改訂」フォームで、変更する子レベルまたはスタイル品目ルート・レベル0を選択し、「ロー」メニューから「品目の改訂」を選択します。	品目定義を検討および変更します。
優先基本価格の処理	W4106J	「複数レベル品目の改訂」フォームで、品目を選択し、「ロー」メニューから「基本価格の改訂」を選択します。	子スタイル品目の品目価格の例外を検討および指定します。

品目改訂の処理

複数レベルの品目階層に対して品目の詳細を定義または変更できます。

「複数レベル品目の改訂」フォームにアクセスします。

スタイル品目の処理 - 複数レベル品目の改訂

選択(S) 検索(I) 閉じる(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

☒ ☐ ☒ ☐ ☐ ☒

構造 JEA


レベル名 JE501.L Original Jean

レコード 1 - 5

記述
JE501.L / Original Jean
+ D /
+ RG /
+ SD /
+ SW /

テキスト1

Courier New 10 B / U



「複数レベル品目の改訂」フォーム

品目改訂を処理するには、次の手順に従います。

1. 「複数レベル品目の改訂」フォーム(WCW02AB)で、変更する必要がある品目階層のレベルを選択します。
2. 「ロー」メニューから必要なフォームにアクセスし、必要に応じて変更します。

注意: スタイル品目の詳細を更新する場合は、第2品目番号を変更できません。

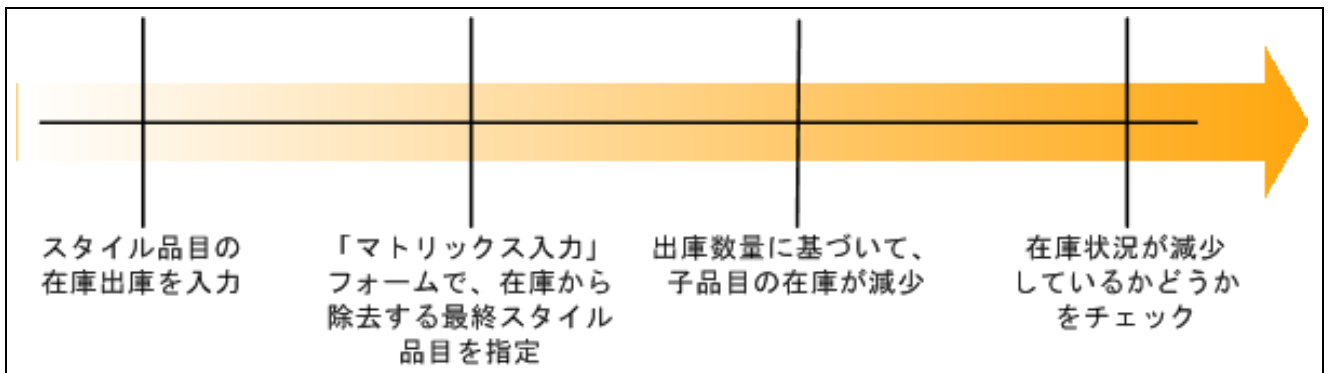
スタイル品目の在庫出庫

この項では、スタイル品目の在庫出庫の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- マトリックス入力(PCW10)の処理オプションの設定
- スタイル品目の在庫出庫

スタイル品目の在庫出庫について

在庫を出庫する場合は、その在庫を保管場所から除去します。在庫は、在庫出庫プログラム(P4112)を使用して出庫できます。次の図は、スタイル品目の在庫出庫処理を示しています。



スタイル品目の在庫出庫処理

スタイル品目の在庫状況は、マトリックス表示で確認できます。

注意: マトリックス入力プログラム(PCW10)では、在庫出庫プログラムで入力した単位に関係なく、数量の処理時に基本単位のみをサポートします。

スタイル品目ルート・レベル0の基本単位以外の取引単位を入力すると、単位が異なることを知らせる警告メッセージが表示されます。在庫出庫プログラムまたはマトリックス入力グリッドに最初に入力した数量の処理には、基本単位が使用されます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理 9.0 製品ガイド、「在庫出庫」

事前設定

JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理システムで在庫を出庫するには、在庫出庫プログラムの次の処理オプションを設定する必要があります。

- 品目の検索時に、標準品目番号のビジュアル・アシストをスタイル品目番号のビジュアル・アシストで一時変更するかどうかを指定します。この機能を有効にするには、「デフォルト」タブの「品目の検索/選択」処理オプションに「1」を入力します。

- 「バージョン」タブの「マトリックス入力(PCW10)」処理オプションで、マトリックス入力プログラム(PCW10)のバージョンを指定します。マトリックス入力プログラムを使用して、スタイル品目のマトリックス・データが取得されます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理 9.0 製品ガイド、「在庫出庫(P4112)の処理オプションの設定」

スタイル品目の在庫出庫に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
出庫処理	W4112D	「在庫管理」(G41F12)、「在庫出庫」	在庫出庫を検討します。
在庫出庫	W4112A	「出庫処理」フォームで、「追加」をクリックします。	スタイル品目の在庫を出庫します。
マトリックス入力	WCW10B	「在庫出庫」フォームで、「品目番号」フィールドにスタイル品目番号を入力します。出庫するスタイル品目が「マトリックス入力」フォームにマトリックス構造で表示されます。	スタイル品目と子スタイル品目の在庫状況をマトリックス形式で表示します。また、出庫するスタイル品目の数量および保管場所/ロットの情報を入力することもできます。

マトリックス入力(PCW10)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

デフォルト

- 1. 在庫状況 (Y/N)**

在庫状況を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

Y: スタイル品目の保管場所の在庫状況が表示されます。

N: 在庫状況は表示されません。

これらの値を使用するアプリケーションは、受注オーダー入力 (P4210 および P42101)、購買オーダー入力 (P4310)、在庫出庫 (P4112)、在庫移動 (P4113) および在庫調整 (P4114) です。
- 2. マトリックス・コード/記述**

マトリックス・コードに関する情報の表示方法を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: マトリックス・コードが表示されます。

1: マトリックス・コードの記述が表示されます。

2: マトリックス・コードと記述が連結され、「コード/記述」の形式(「/」は区切り文字)で表示されます。

これらの値を使用するアプリケーションは、受注オーダー入力 (P4210 および P42101)、購買オーダー入力 (P4310)、入荷確認 (P4312)、在庫出庫 (P4112)、在庫移動 (P4113) および在庫調整 (P4114) です。

販売/購買

- 1. 分割コード**

数量を自動的に分割するかどうかと、自動分割を手動入力で一時的に変更できるかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 数量は自動的に分割されません。

1: 数量を自動分割し、手動による値の一時変更を有効にします。

2: 数量を自動分割し、手動による値の一時変更を有効にしません。

これらの値を使用するアプリケーションは、受注オーダー入力 (P4210) および購買オーダー入力 (P4310) です。

2. 在庫状況のタイプ

標準の在庫状況を表示するか、割当可能な数量を表示するかを指定します。「在庫状況」処理オプションで指定した値が使用されるようにするには、この処理オプションの値をYに設定する必要があります。値は次のとおりです。

ブランク: 標準の在庫状況が表示されます。

1: 割当可能な数量が表示されます。

これらの値を使用するアプリケーションは、受注オーダー入力 (P4210 および P42101) です。

スタイル品目の在庫出庫

「出庫在庫」フォームにアクセスします。

スタイル品目の在庫を出庫するには、次の手順に従います。

1. 必要な値を「事業所」フィールドに入力します。
2. 「元帳日付」フィールドに日付を入力します。
3. 「トランザクション日付」フィールドに、トランザクションの完了日を入力します。
4. 出庫する品目の固有識別子を「品目番号」フィールドに入力します。このフィールドには、子レベルの品目またはスタイル品目ルート・レベル0を入力します。
5. 「マトリックス入力」フォームで、出庫する品目の数量をマトリックス・グリッドに入力します。必要に応じて、保管場所とロットの情報を指定することもできます。品目階層で選択した品目のレベルに基づいて、そのレベルに適用される子品目を表示して出庫できます。たとえば、「在庫出庫」フォームでスタイル品目ルート・レベル0を選択すると、階層内のすべての子品目について出庫数量を入力できます。
6. 「OK」をクリックして、変更を保存します。
変更を保存すると、更新された品目数量がマトリックス・グリッドの在庫出庫グリッドにロードされます。また、「マトリックス入力」フォームで入力した保管場所とロットの情報もロードされます。
7. 「在庫出庫」フォームで、「OK」をクリックして変更を保存します。

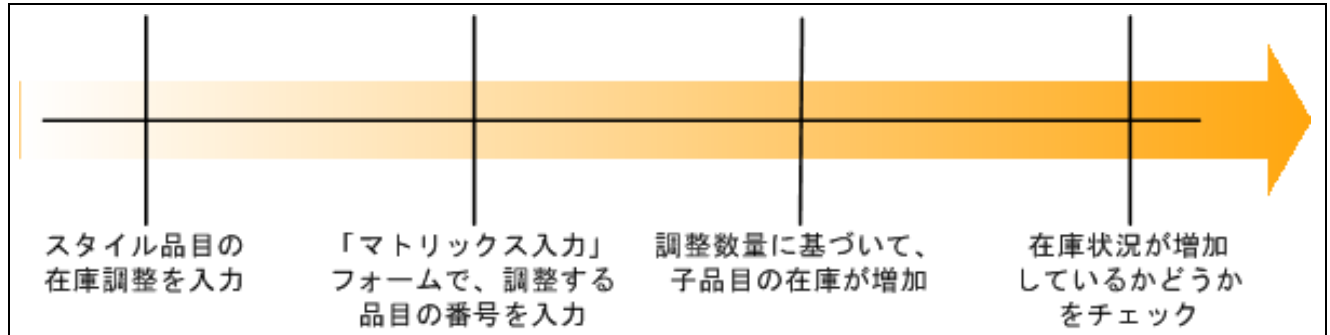
スタイル品目の在庫調整

この項では、スタイル品目の在庫調整の概要、事前設定、およびスタイル品目の在庫調整の方法について説明します。

スタイル品目の在庫調整について

品目の実地棚卸とシステム上の棚卸間の差異を調整するには、在庫調整を使用します。在庫調整を入力すると、実地棚卸を実施せずに事業所内の手持数量と在庫品目の原価を増減させることができます。たとえば、ある保管場所について記録上の品目数量と実際の数量に相違がある場合、在庫を調整できます。

処理オプションを設定すると、スタイル品目のデフォルト値および在庫状況をマトリックス構造で表示できます。次の図は、スタイル品目の在庫調整プロセスを示しています。



スタイル品目の在庫調整プロセス

JD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムで調整を入力するには、在庫調整プログラム(P4114)を使用します。スタイル品目の在庫状況は、マトリックス表示で確認できます。

注意: マトリックス入力プログラム(PCW10)では、在庫調整プログラムで入力した単位に関係なく、数量の処理時に基本単位のみをサポートします。

スタイル品目ルート・レベル0の基本単位以外の取引単位を入力すると、単位が異なることを知らせる警告メッセージが表示されます。在庫調整プログラムまたはマトリックス入力グリッドに最初に入力した数量の処理には、基本単位が使用されます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理 9.0 製品ガイド、「在庫調整」

事前設定

JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理で在庫を調整するには、在庫調整プログラムの次の処理オプションを設定する必要があります。

- 品目の検索時に、標準品目番号のビジュアル・アシストをスタイル品目番号のビジュアル・アシストで一時変更するかどうかを指定します。この機能を有効にするには、「デフォルト」タブの「品目の検索/選択」処理オプションに「1」を入力します。
- 「バージョン」タブの「マトリックス入力(PCW10)」処理オプションで、マトリックス入力プログラム(PCW10)のバージョンを指定します。マトリックス入力プログラムを使用して、スタイル品目のマトリックス・データが取得されます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理 9.0 製品ガイド、「在庫調整(P4114)の処理オプションの設定」

スタイル品目の在庫調整に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
在庫調整の処理	W4114B	「在庫管理」(G41F12)、「在庫調整」	在庫調整を検討します。
在庫調整	W4114A	「在庫調整の処理」フォームで、「追加」をクリックします。	スタイル品目の在庫を調整します。
マトリックス入力	WCW10B	「在庫調整」フォームで、「品目番号」フィールドにスタイル品目番号を入力します。調整するスタイル品目が「マトリックス入力」フォームにマトリックス構造で表示されます。	スタイル品目と子スタイル品目の在庫状況をマトリックス形式で表示します。また、調整するスタイル品目の数量および保管場所/ロットの情報を入力することもできます。

スタイル品目の在庫調整

「在庫調整」フォームにアクセスします。

スタイル品目の在庫を調整するには、次の手順に従います。

1. 必要な値を「事業所」フィールドに入力します。
2. 「元帳日付」フィールドに日付を入力します。
3. 「トランザクション日付」フィールドに、トランザクションの完了日を入力します。
4. 品目番号を「品目番号」フィールドに入力します。
5. 「マトリックス入力」フォームで、調整する各品目の数量をマトリックス・グリッドに入力します。必要に応じて、保管場所とロットの情報を指定することもできます。品目階層で選択した品目のレベルに基づいて、そのレベルに適用される子品目を表示して調整できます。たとえば、「在庫調整」フォームでスタイル品目ルート・レベル0を選択すると、階層内のすべての子品目について調整数量を入力できます。
6. 「OK」をクリックして、変更を保存します。
変更を保存すると、スタイル品目の数量がマトリックス・グリッドの在庫調整グリッドにロードされます。また、「マトリックス入力」フォームで入力した保管場所とロットの情報もロードされます。
7. 「在庫調整」フォームで、「OK」をクリックして変更を保存します。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理 9.0 製品ガイド、「在庫調整」

スタイル品目の在庫移動

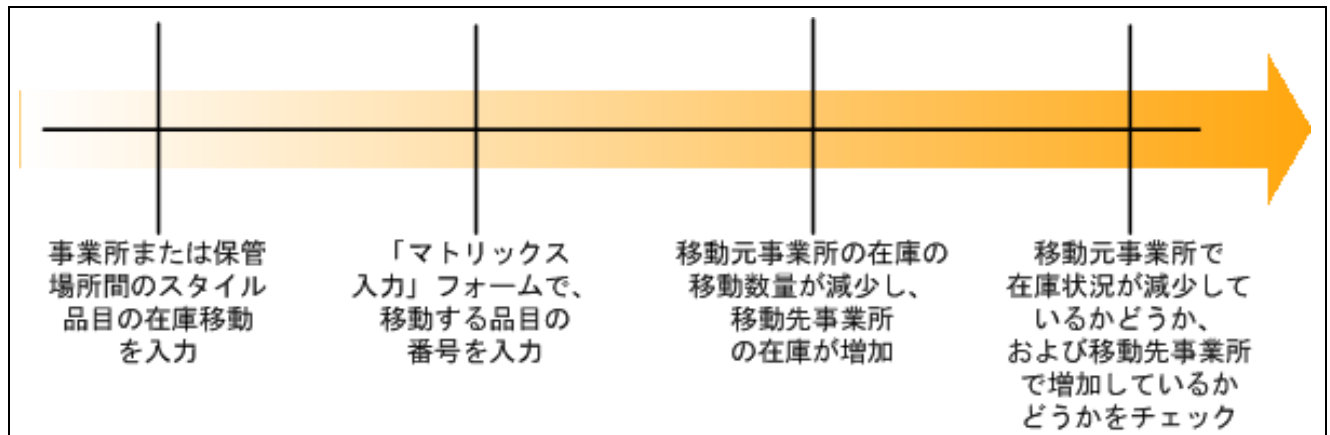
この項では、スタイル品目の在庫移動の概要、事前設定、およびスタイル品目の在庫移動の方法について説明します。

スタイル品目の在庫移動について

保管場所間で在庫を移動する必要が生じる場合があります。在庫移動では、出庫および調整と同様のプロセスに従いますが、移動先および移動元の事業所と保管場所を指定する点が異なります。これらの保管場所は、同じ事業所内にしたり、異なる事業所にすることができます。

同じ事業所内で在庫を移動する場合、在庫状況は必ずしも変更されるとはかぎりません。2つの異なる事業所間で在庫を移動する場合は、移動元事業所の手持数量が減少し、移動先事業所の手持数量が増加します。

スタイル品目は2つの保管場所間で移動できます。スタイル品目を移動する場合は、スタイル品目階層内の各スタイル品目またはすべての子品目を選択します。次の図は、スタイル品目の在庫移動プロセスを示しています。



スタイル品目の在庫移動プロセス

2つの保管場所間で在庫を移動するには、在庫移動プログラム(P4113)を使用します。スタイル品目の在庫状況は、マトリックス表示で確認できます。

注意: マトリックス入力プログラム(PCW10)では、在庫移動プログラムで入力した単位に関係なく、数量の処理時に基本単位のみをサポートします。

スタイル品目ルート・レベル0の基本単位以外の取引単位を入力すると、単位が異なることを知らせる警告メッセージが表示されます。在庫移動プログラムまたはマトリックス入力グリッドに最初に入力した数量の処理には、基本単位が使用されます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理 9.0 製品ガイド、「在庫移動」

事前設定

JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理で在庫を移動するには、在庫移動プログラムの次の処理オプションを設定する必要があります。

- 品目の検索時に、標準品目番号のビジュアル・アシストをスタイル品目番号のビジュアル・アシストで一時変更するかどうかを指定します。この機能を有効にするには、「デフォルト」タブの「品目の検索/選択」処理オプションに「1」を入力します。
- 「バージョン」タブの「マトリックス入力(PCW10)」処理オプションで、マトリックス入力プログラム(PCW10)のバージョンを指定します。マトリックス入力プログラムを使用して、スタイル品目のマトリックス・データが取得されます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理 9.0 製品ガイド、「在庫移動(P4113)の処理オプションの設定」

スタイル品目の在庫移動に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
在庫移動の処理	W4113A	「在庫管理」(G41F12)、「在庫移動」	在庫移動を検討します。
在庫移動	W4113B	「在庫移動の処理」フォームで、「追加」をクリックします。	スタイル品目の在庫を移動します。
マトリックス入力	WCW10B	「在庫移動」フォームで、「品目番号」フィールドにスタイル品目番号を入力します。移動するスタイル品目が「マトリックス入力」フォームにマトリックス構造で表示されます。	スタイル品目と子スタイル品目の在庫状況をマトリックス形式で表示します。また、移動するスタイル品目の数量および保管場所/ロットの情報を入力することもできます。

スタイル品目の在庫移動

「在庫移動」フォームにアクセスします。

スタイル品目の在庫を移動するには、次の手順に従います。

1. 「トランザクション日付」フィールドに、トランザクションの日付を入力します。
2. 「元帳日付」フィールドに元帳日付を入力します。
3. 在庫の移動元の事業所と移動先の事業所をそれぞれ「移動元事業所」フィールドと「移動先事業所」フィールドに入力します。
4. 移動する品目の固有識別子を「品目番号」フィールドに入力します。
5. 「マトリックス入力」フォームで、移動する各品目の数量をマトリックス・グリッドに入力します。必要に応じて、保管場所とロットの情報を指定することもできます。品目階層で選択した品目のレベルに基づいて、そのレベルに適用される子品目を表示して移動できます。たとえば、「在庫移動」フォームでスタイル品目ルート・レベル0を選択すると、階層内のすべての子品目について移動数量を入力できます。
6. 「OK」をクリックして、変更を保存します。
変更を保存すると、スタイル品目の数量がマトリックス・グリッドの在庫移動グリッドにロードされます。また、「マトリックス入力」フォームで入力した保管場所とロットの情報もロードされます。
7. 「在庫移動」フォームで、品目の移動元の保管場所と移動先の保管場所をそれぞれ「移動元保管場所」フィールドと「移動先保管場所」フィールドに入力します。

注意: 移動元保管場所と移動先保管場所は、「マトリックス入力」フォームで入力できます。「マトリックス入力」フォームで入力した値は、「在庫移動」フォームで入力した値によって一時変更されます。

8. 「OK」をクリックして、変更を保存します。

スタイル品目の在庫状況の検討

この項では、スタイル品目の在庫状況の概要と次の方法について説明します。

- スタイル品目在庫状況プログラム(PCW05)の処理オプションの設定
- スタイル品目の在庫状況の検討

スタイル品目の在庫状況の検討について

手持数量に影響するトランザクションは引当可能数量に影響を与えます。数量情報は、在庫の日常管理に不可欠です。現在および将来の必要数を把握するには、在庫状況の詳細が役立ちます。JD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムでは、入庫数量と手持数量の合計から出庫数量を差し引くことで、品目の在庫状況を判断します。事業所ごとの在庫状況の計算方法は、事業所固定情報プログラム(P41001)を使用して定義する必要があります。在庫状況は、システムによるバックオーダー、取消、顧客納入時期の計算方法に影響します。

スタイル品目の在庫状況は、スタイル品目在庫状況プログラム(PCW05)で判断します。スタイル品目は、スタイル品目ルート・レベル0から子レベル品目の定義まで表示できます。スタイル品目の在庫状況も、品目階層の各レベルについてマトリックス内にまたはツリー形式で表示できます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理 9.0 製品ガイド、「在庫状況の定義」

事前設定

この項で説明されているタスクを実行するには、在庫状況プログラム(P41202)の処理オプションを設定する必要があります。

スタイル品目の在庫状況の検討に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
スタイル品目在庫状況	WCW05A	「在庫管理」(G41F12)、「スタイル品目在庫状況」	スタイル品目の在庫状況を検討します。
在庫状況の処理	W41202A	「スタイル品目在庫状況」フォームで、「スタイル品目ルート・レベル0」フィールドからスタイル品目ルート・レベル0を選択し、「検索」をクリックします。必要な子品目をグリッド値から選択し、「ロー」メニューから「在庫状況」を選択します。	標準品目とスタイル品目の両方の在庫状況を表示します。

在庫状況(PCW05)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

処理

スタイル品目の在庫状況に関する各種の情報を指定し、「スタイル品目在庫状況」フォームに表示できます。「処理」タブで設定した処理オプションに基づいて、それらの詳細を含むフィールドが表示または非表示になります。

1. 手持数量

この処理オプションでは、手持数量を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 手持数量を表示しません。

1: 手持数量を表示します。

- 2. ハード・コミット数量** 受注オーダーのハード・コミット数量を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
空白: ハード・コミット数量を表示しません。
1: ハード・コミット数量を表示します。
- 3. ソフト・コミット数量** 受注オーダーのソフト・コミット数量および作業オーダー部品リストのソフト・コミット数量を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
空白: ソフト・コミット数量を表示しません。
1: ソフト・コミット数量を表示します。
- 4. 引当数量** 引当数量の合計を表示するかどうかを指定します。合計引当数量は、事業所固定情報の在庫状況の計算設定に基づいて計算されます。事業所固定情報で設定されている場合、合計引当数量には、受注オーダーのハードおよびソフト・コミット数量、作業オーダー部品リストのソフト・コミット数量、受注オーダーの将来引当数量、作業オーダー入荷のハード・コミット数量、受注オーダーのその他数量1、および受注オーダーのその他数量2が含まれます。値は次のとおりです。
空白: 合計引当数量を表示しません。
1: 合計引当数量を表示します。
- 5. 引当可能数量** 引当可能数量を表示するかどうかを指定します。引当可能数量は、事業所固定情報の在庫状況の計算設定に基づいて計算されます。値は次のとおりです。
空白: 引当可能数量を表示しません。
1: 引当可能数量を表示します。
- 6. 購買オーダー数量** 購買オーダー数量を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
空白: 購買オーダー数量を表示しません。
1: 購買オーダー数量を表示します。
- 7. 作業オーダー入荷数量** 作業オーダー入荷数量を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
空白: 作業オーダー入荷数量を表示しません。
1: 作業オーダー入荷数量を表示します。
- 8. 検査中数量** 検査中数量を表示するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。
空白: 検査中数量を表示しません。
1: 検査中数量を表示します。
- 9. 積送中数量** 積送中数量を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
空白: 積送中数量を表示しません。
1: 積送中数量を表示します。
- 10. 作業中数量1** ユーザー定義作業1の数量を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
空白: ユーザー定義作業1の数量を表示しません。
1: ユーザー定義作業1の数量を表示します。

- 11. 作業中数量2** ユーザー定義作業2の数量を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
blank: ユーザー定義作業2の数量を表示しません。
1: ユーザー定義作業2の数量を表示します。
- 12. 購買オーダー数量 - その他1** 「その他購買数量1」フィールドに数量を表示するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。
blank: 「その他購買数量1」フィールドに数量を表示しません。
1: 「その他購買数量1」フィールドに数量を表示します。
- 13. その他数量1受注オーダーの数量** 「その他受注数量1」フィールドに数量を表示するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。
blank: 「その他受注数量1」フィールドに数量を表示しません。
1: 「その他受注数量1」フィールドに数量を表示します。
- 14. その他数量2受注オーダーの数量** 「その他数量2受注オーダーの数量」フィールドに数量を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
blank: 「その他数量2受注オーダーの数量」フィールドに数量を表示しません。
1: 「その他数量2受注オーダーの数量」フィールドに数量を表示します。
- 15. 引当可能数量とソフト・コミット数量の合計** 受注オーダーと作業オーダー部品リストの引当可能数量とソフト・コミット数量の合計を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
blank: 引当可能数量とソフト・コミット数量の合計を表示しません。
1: 引当可能数量とソフト・コミット数量の合計を表示します。

バージョン

- 1. 在庫状況 (P41202)** 在庫状況の表示に使用する在庫状況プログラム (P41202) のバージョンを指定します。
blankの場合、デフォルト・バージョンとしてバージョンZJDE0001が使用されます。
- 2. 需要/供給 (P4021)** 需要と供給の情報の表示に使用する需要/供給プログラム (P4021) のバージョンを指定します。
blankの場合、デフォルト・バージョンとしてバージョンZJDE0001が使用されます。
- 3. 品目元帳 (P4111)** 品目元帳の表示に使用する品目元帳プログラム (P4111) のバージョンを指定します。
blankの場合、デフォルト・バージョンとしてバージョンZJDE0001が使用されます。

スタイル品目の在庫状況の検討

「スタイル品目在庫状況」フォームにアクセスします。

スタイル品目在庫状況 - スタイル品目在庫状況

検索(🔍) 閉じる(🔒) ロー(📄) ツール(🔧)

スタイル品目ルート・レベル0 ★ J776 SFC Jean 4 事業所

ツリー表示 マトリック表示

レコード 1-1 グリッドのカスタマイズ

レベル名	手持 数量	ハード・コミット 数量	ソフト・コミット 数量	引当 数量	引当可能 数量	野 長
J776 / SFC Jean 4						

「スタイル品目在庫状況」フォーム

スタイル品目の在庫状況を検討するには、次の手順に従います。

1. 「スタイル品目ルート・レベル0」フィールドにスタイル品目ルート・レベル0を入力し、「検索」をクリックします。
2. 「ツリー表示」または「マトリックス表示」のいずれかを選択し、スタイル品目階層の表示方法を指定します。
3. 子スタイル品目の保管場所およびロットの在庫状況の詳細を検討する場合は、「レベル名」フィールドで子スタイル品目を選択し、「ロー」メニューから「在庫状況」を選択します。
4. フィールドを検討し、「閉じる」をクリックします。

スタイル品目データの除去

この項では、スタイル品目の除去プログラムの概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- スタイル品目マスターの除去レポートの検討
- スタイル品目マスターの除去レポートの処理オプションの設定
- スタイル品目残の除去レポートの検討
- スタイル品目残の除去レポートの処理オプションの設定
- スタイル品目残の除去ログ・レポートの検討
- スタイル品目マスターの除去ログ・レポートの検討

スタイル品目の除去プログラムについて

JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理システムの在庫管理システムは、次の除去専用プログラムで構成されます。

- スタイル品目マスターの除去(RCW32)。スタイル品目レコードを除去します。
- スタイル品目残の除去(RCW33)。スタイル品目残レコードを除去します。

スタイル品目レコードまたはスタイル品目残レコードを除去する場合は、削除できないレコードの詳細をスタイル品目マスターの除去ログ(RCW36)レポートおよびスタイル品目残の除去ログ(RCW34)レポートを使用してそれぞれ出力できます。

事前設定

この項で説明されているタスクを実行するには、事前に次の作業を行う必要があります。

- 除去で影響を受けるファイルのコピーを保存します。
- 除去するデータを他のユーザーが使用していないことを確認します。

スタイル品目マスターの除去レポートの検討

「アパレル上級/技術的操作」(G41F31)、「スタイル品目マスターの除去」を選択します。

次のテーブルに保存されているスタイル品目マスターの詳細を削除するには、スタイル品目マスターの除去レポート(RCW32)を使用します。

- 品目マスター(F4101)
- 品目構造定義(FCW02)
- メディア・オブジェクト・ストレージ(F00165)
- 仕入先価格/カタログ(F41061)
- 品目単位換算係数(F41002)
- 品目相互参照(F4104)
- コレクション詳細(FCW07)
- 価格表明細(FCW34)
- コレクション・テンプレート詳細(FCW56)
- スタイル品目追加情報(FCW61)
- 仕入先価格/カタログ - 詳細(FCW71)

スタイル品目を削除対象にするかどうかは、スタイル品目マスターの除去レポートの「処理」タブの「レベル全体の削除」処理オプションを設定して定義できます。

スタイル品目マスター・レコードを除去する場合は、スタイル品目マスターの除去レポートで、レコードを削除対象にするかどうかのチェックに必要な検証を実行します。スタイル品目マスター・レコードを除去する前に、そのレコードが次のテーブルと関連付けられていないかどうか検証されます。

- 品目保管場所(F41021)
- 事業所品目(F4102)
- 品目原価(F4105)
- ロット・マスター(F4108)
- 部品表マスター(F3002)
- 作業工程マスター(F3003)

スタイル品目マスターの除去レポートの「処理」タブで設定した「詳細ログ・レポート」処理オプションに基づいて、スタイル品目マスターの除去ログ・プログラム(RCW36)が呼び出され、削除できないスタイル品目の詳細ログが出力されます。

スタイル品目マスターの除去ログ・レポートでは、レコードを削除できない理由を分析できます。

また、スタイル品目マスター・レコードを除去して、スタイル品目マスター・プログラム(PCW51)を使用して詳細ログ・レポートを出力することもできます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理 9.0 製品ガイド、「JD Edwards EnterpriseOne在庫管理のアパレル管理用操作」、「ルート品目の作成」、「スタイル品目の作成」

スタイル品目マスターの除去レポートの処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

処理

1. レベル全体の削除

スタイル品目の複数レベル階層から品目を削除するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: すべてのレベルが削除可能な場合にのみ削除します。子スタイル品目が階層の親レベルの下に作成されていない場合は、階層のスタイル品目を削除できます。また、親品目のすべての子品目が削除対象の場合は、親レベルを削除できます。

1: レベルに品目が存在する場合でも削除します。子スタイル品目が特定レベルに存在する場合でも、階層のすべてのレベルを削除できます。

2. 詳細ログ・レポート

スタイル品目マスターの除去ログ・レポート(RCW36)を実行して、詳細ログ・レポートを出力するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 詳細ログ・レポートを出力しません。

1: 詳細ログ・レポートを出力します。

スタイル品目残の除去レポートの検討

「アパレル上級/技術的操作」(G41F31)、「スタイル品目残の除去」を選択します。

次のテーブルに保存されているスタイル品目事業所レコードを除去するには、スタイル品目残の除去レポート(RCW33)を使用します。

- 品目原価(F4105)
- 品目単位換算係数(F41002)
- 品目保管場所(F41021)
- 品目追加原価要素(F30026)
- 仕入先価格/カタログ(F41061)
- 仕入先/品目関係(F43090)
- 価格表明細(FCW34)
- スタイル品目の外注作業詳細へのコピー(FCW93)
- 仕入先価格/カタログ - 詳細(FCW71)

スタイル品目残の除去レポートの「処理」タブの「レベル全体の削除」処理オプションに基づいて、複数レベルのスタイル品目事業所レコードを削除するかどうかを定義できます。品目残レコードを削除する前に、「レベル全体の削除」処理オプションだけでなく、次の検証も実行されます。

- 作業オーダー・マスター(F4801)に作業オーダーが存在しない。

- 作業オーダー部品リスト(F3111)に部品リストが存在しない。
- 部品表マスター(F3002)に部品表が存在しない。
- 品目保管場所ファイル(F41021)に2次保管場所が存在しない。
- 品目保管場所レコードの次のフィールドにデータが存在しない。
 - 手持数量
 - ハード・コミット
 - ソフト・コミット
 - バックオーダー数量
 - オーダー中数量
 - アウトバウンド数量(EDI)
 - インバウンド数量(EDI)

除去できないスタイル品目残レコードの詳細ログ・レポートは、スタイル品目残の除去レポートの「処理」タブの「詳細ログレポート」処理オプションを設定して出力することもできます。

注意: スタイル品目残レコードは、スタイル品目残の除去レポートでしか削除できません。標準のJD Edwards EnterpriseOne品目残高レコードを削除するには、品目残高の除去(F4102)レポート(R4102P)を使用する必要があります。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理 9.0 製品ガイド、「品目残高の除去プログラムの実行」

スタイル品目残の除去レポートの処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

処理

1. レベル全体の削除

スタイル品目の複数レベル階層からスタイル品目事業所レコードを削除するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: すべてのレベルが削除可能な場合にのみ削除します。子スタイル品目が階層の親レベルの下に作成されていない場合、階層内のスタイル品目事業所レコードを削除できます。また、親品目のすべての子品目が削除対象の場合は、親レベルを削除できます。

1: レベルに品目が存在する場合でも削除します。階層内の任意のスタイル品目事業所レコードを、そのレベルに子スタイル品目が存在する場合であっても削除できます。

2. 詳細ログ・レポート

スタイル品目残の除去ログ・レポート(RCW34)を実行して、除去できないスタイル品目残レコードの詳細ログ・レポートを出力するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 詳細ログ・レポートを出力しません。

1: 詳細ログ・レポートを出力します。

スタイル品目残の除去ログ・レポートの検討

削除できないスタイル品目残レコードの詳細を分析するには、スタイル品目残の除去ログ・レポート(RCW34)を使用します。

スタイル品目残の除去ログ・レポートは、次のプログラムから呼び出すことができます。

- スタイル品目残の除去 (RCW33)

スタイル品目残の除去レポートを実行すると、スタイル品目残の除去ログ・レポートが呼び出され、削除できないスタイル品目残レコードの詳細が表示されます。スタイル品目残の除去ログ・レポートは、スタイル品目残の除去レポートの「処理」タブの「詳細ログ・レポート」処理オプションが設定されている場合にのみ呼び出されます。

- スタイル品目マスター (PCW51)

スタイル品目マスター・レコードを削除すると、スタイル品目残の除去ログ・レポートとスタイル品目マスターの除去ログ・レポートが呼び出されます。この場合は、スタイル品目マスター・プログラムの「削除処理」タブで、「詳細ログ・レポート」処理オプションを設定する必要があります。

- 事業所品目 (P41026)

複数レベル品目の改訂 (PCW02A) プログラムから事業所品目プログラムにアクセスして、スタイル品目事業所レコードを削除すると、スタイル品目残の除去ログ・レポートが呼び出されます。この場合は、次の条件が満たされている場合にのみスタイル品目残の除去ログ・レポートが呼び出されます。

- JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理システムが有効になっている場合。
- 事業所品目レコードがスタイル品目用の場合。
- スタイル品目マスター・プログラムの「削除処理」タブで、「詳細ログ・レポート」処理オプションが設定されている場合。

スタイル品目マスターの除去ログ・レポートの検討

除去できないスタイル品目を出力するには、スタイル品目マスターの除去ログ・レポート (RCW36) を使用します。スタイル品目マスターの除去ログ・レポートが呼び出され、削除できないスタイル品目レコードの詳細が出力されます。スタイル品目マスターの除去ログ・レポートは、スタイル品目マスター・プログラムとスタイル品目マスターの除去レポートの両方から呼び出すことができます。

スタイル品目マスターの除去レポートの「処理」タブ、またはスタイル品目マスター・プログラムの「削除処理」タブで設定した処理オプションに基づいて、除去できないスタイル品目の詳細ログ・レポートを出力するかどうかを定義できます。詳細ログ・レポートを出力するように処理オプションを設定している場合、スタイル品目マスターの除去ログ・レポートを呼び出すには、スタイル品目マスターの除去レポートを実行する必要があります。スタイル品目マスター・プログラムからスタイル品目レコードを削除すると、スタイル品目マスターの除去ログ・レポートが自動的に呼び出されます。

注意: スタイル品目マスター・プログラムからスタイル品目マスターの除去ログ・レポートを呼び出すと、スタイル品目残の除去ログ・レポート (RCW34) が呼び出されます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理 9.0 製品ガイド、「JD Edwards EnterpriseOne在庫管理のアパレル管理用操作」、「ルート品目の作成」、「スタイル品目マスター (PCW51) の処理オプションの設定」

第 5 章

コレクション管理の処理

この章では、コレクション管理の概要、および次の方法について説明します。

- コレクションのユーザー定義コード(UDC)の設定
- コレクション構造の定義
- コレクションの作成
- コレクション・テンプレートの設定
- コレクション別スタイル品目の処理

コレクション管理について

コレクションとは、統一性のあるスタイル品目の集まりです。製造業者またはデザイナーは、特定市場の新しいトレンドを発信するためにシーズンごとにコレクションを発表します。アパレル業界には、冬物コレクションや夏物コレクションなどシーズンごとのコレクション、革製品コレクションや木綿製品コレクションなどテーマ別のコレクションなど、数多くのコレクションがあります。

コレクションにより、カタログ、シーズン商品、コレクションの重複、期間、対象顧客、価格設定条件をトータルに管理できます。また、必要に応じて、配賦の管理を強化するためにコレクション別にオーダーを入力できます。

コレクションの主な特徴は次のとおりです。

- 1つのブランド(製造業者)に対して導入される。
- 期限がある。
一般に、コレクションは1つのシーズンまたは年に対して作成および市場投入されます。
- 特に、1つ以上の市場のために作成される。
- マルチレベル構造である。

コレクション構造により、基本コレクションおよびコレクション内の様々なバリエーションの属性が定義されます。コレクション構造は、テーマ、ブランドおよびスタイルなど複数のレベルで構成されます。

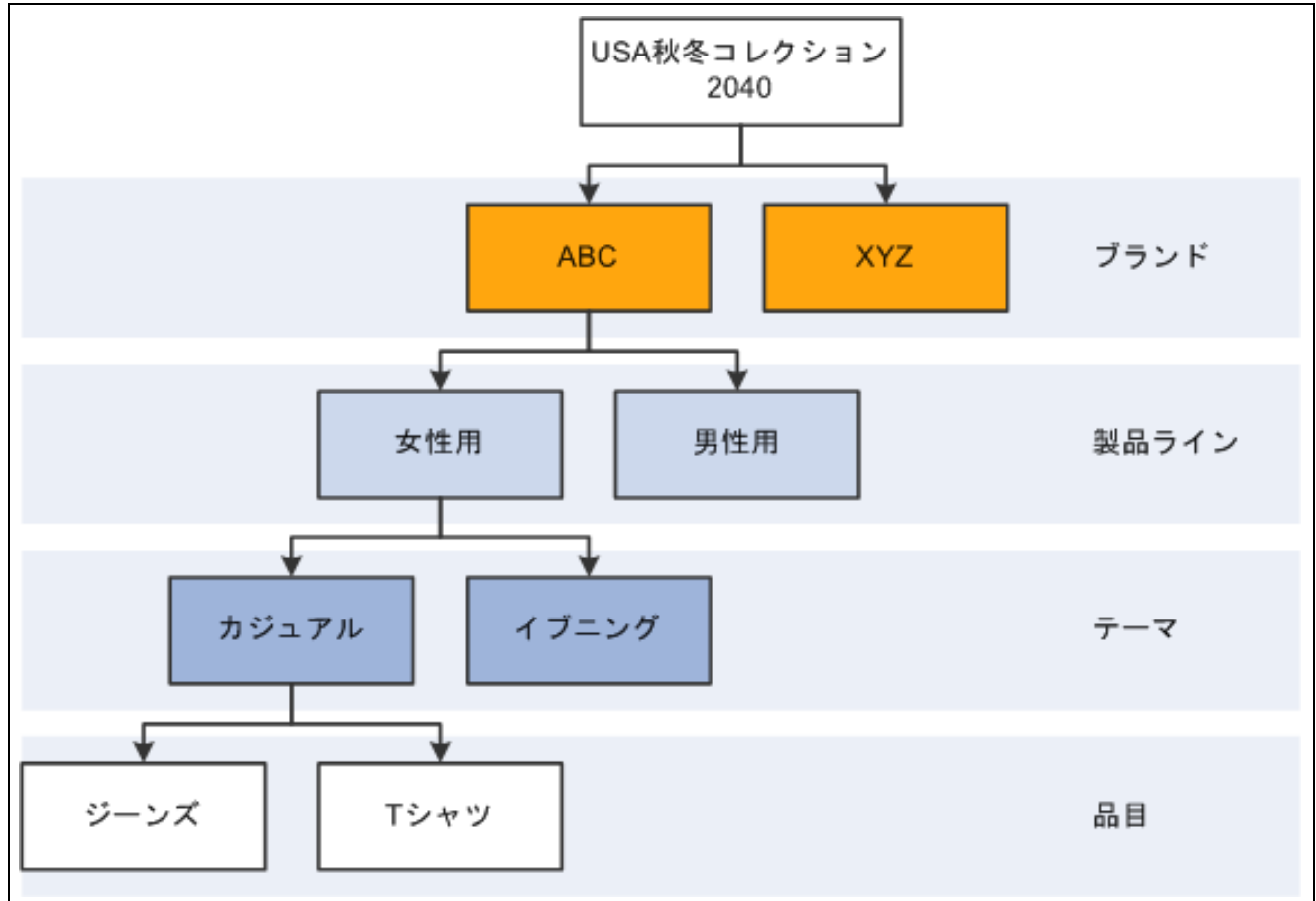
- 他のコレクションにある同じスタイル品目を同時に含めることができる。
- 受注オーダー、購買オーダーおよび製造現場管理で使用される。

コレクションを導入することで、次のことが可能になります。

- 関連するスタイル品目のグループ化。
- 受注、購買または作業オーダーに使用されるスタイル品目の管理。
- コレクション別スタイル品目プログラム(PCW54)を使用した、スタイル品目の詳細の表示および変更。

- コレクション・テンプレート入力プログラム(PCW42)を使用した、1つ以上のコレクションからのコレクション・テンプレートの作成。これらの事前定義テンプレートを使用して、オーダー入力を簡略化します。
- シーズンおよびコレクション別の販売価格の管理。

コレクション構造により、コレクション内のレベルまたはセグメントが定義されます。1つのコレクション構造に、最大5つのレベルを設定できます。これらのレベルは、コレクションの様々なブランド、製品ライン、テーマおよび品目を表しています。たとえば、ヨーロッパ夏物コレクションというコレクションには、コレクションが定義されている顧客グループ(女性、男性など)およびコレクションに含まれているスタイル品目のバリエーション(カジュアル、イブニングなど)に基づいて、様々な詳細レベルを設定できます。次の図では、コレクションUSAはブランド、製品ライン、テーマおよびスタイル品目の各レベルで構成されています。



コレクションUSAの構造

コレクションの設定は、スタイル品目の設定と類似しています。両方とも、レベルを作成して構造を定義するためです。

コレクションを定義するステップは次のとおりです。

1. コレクション構造コードを定義します。
41F/CS UDCを使用して、コレクション構造コードを定義します。
2. シーズン・コードおよびシーズン年を定義します。
シーズン・コードおよびシーズン年は、41F/SEおよび41F/SY UDCで定義します。
3. 独自のUDCを作成して、コレクション・レベルまたはセグメントを作成します。
4. UDCをコレクション構造コードに添付して、コレクション構造を定義します。

コレクション構造コード定義プログラム(PCW06)を使用して、コレクションに使用するUDCを指定します。

5. コレクションを作成します。

コレクション管理プログラム(PCW07)を使用して、コレクション名、シーズン・コード、シーズン年およびコレクションに関するその他の基本情報を指定します。

6. コレクション構造を作成します。

コレクション詳細構造作成プログラム(PCW16)を使用して、コレクション構造を構成するコレクション・レベルまたはセグメントを指定します。このプログラムには、コレクション管理プログラムからアクセスします。コレクション詳細構造作成プログラムに直接アクセスすることはできません。

7. コレクション構造に対してスタイル品目を追加および削除します。

品目コレクション詳細プログラム(PCW081)を使用して、コレクション構造にスタイル品目を追加します。このプログラムには、コレクション管理プログラム内のコレクション詳細プログラム(PCW08)からアクセスします。品目コレクション詳細プログラムに直接アクセスすることはできません。

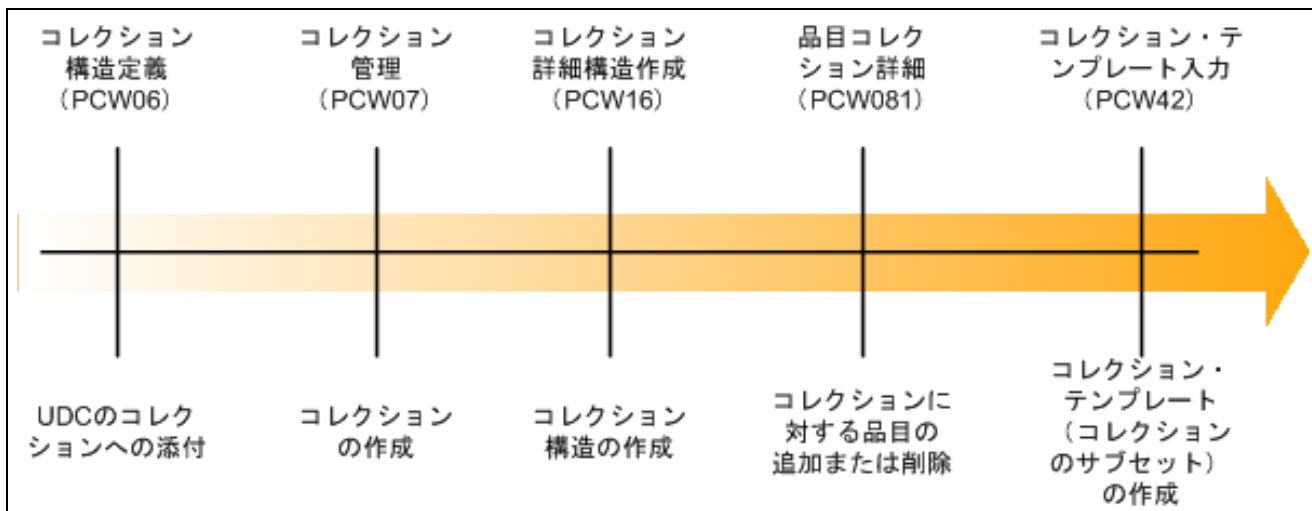
8. コレクション・テンプレートを作成します。

コレクション・テンプレート入力プログラム(PCW42)を使用して、受注オーダー入力および購買オーダー入力を簡略化するためのコレクション・テンプレートを作成します。

コレクション・テンプレートにより、スタイル品目を1つ以上のコレクションから集めて1つのサブセットにグループ化できます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理 9.0 製品ガイド、「コレクション管理の処理」、「コレクション・テンプレートの設定」

次の図は、コレクション管理プロセスを示しています。



コレクション管理プロセス・フロー

注意: すべてのスタイル品目をコレクションに添付する必要はありません。特定ビジネス・プロセスのニーズにあわせて、適切なスタイル品目を持つコレクションを使用します。

コレクションUDCの設定

この項では、コレクションUDCの概要と次の方法について説明します。

- コレクション構造コードの定義

- シーズン・コードUDCの設定
- シーズン年UDCの設定

コレクションUDCについて

コレクションの構造を定義する前に、41F/CS UDCでコレクション構造コードを作成する必要があります。コレクション構造を定義するときに、使用するコレクション構造コードを指定します。

コレクションは特定の年およびシーズンに関連付ける必要があるため、UDC 41F/SEおよび41F/SYを使用してシーズン・コードおよびシーズン年を設定する必要があります。シーズン・コードの例として、夏、冬、秋および春などがあります。ただし、シーズン・コードはユーザーが定義する値であるため、これらの値に限定されません。シーズン・コードおよびシーズン年の値を定義した後、コレクション見出しの作成時に、コレクションに関連付けるシーズン・コードおよびシーズン年を指定します。

参照: JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理 9.0 製品ガイド、「コレクション管理の処理」、「コレクションの作成」、「コレクション見出しの作成」

コレクションUDCの設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
コレクション構造 - ユーザー定義コードの処理	W0004AA	「コレクション管理」(G41F462)、「コレクション構造」	ユーザー定義コードを定義、検討、更新または削除します。
コレクション構造 - ユーザー定義コード	W0004AI	「コレクション管理」(G41F462)、「コレクション構造」	コレクション構造コードを定義します。
シーズン・コード - ユーザー定義コードの処理	W0004AA	「コレクション管理」(G41F462)、「シーズン・コード」	シーズン・コードを検討、改訂または削除します。
シーズン・コード - ユーザー定義コード	W0004AI	「コレクション管理」(G41F462)、「シーズン・コード」 「追加」をクリックします。	シーズン・コードUDCを設定します。
シーズン年 - ユーザー定義コードの処理	W0004AA	「コレクション管理」(G41F462)、「シーズン年」	シーズン年を検討、改訂または削除します。
シーズン年 - ユーザー定義コード	W0004AI	「コレクション管理」(G41F462)、「シーズン年」 「追加」をクリックします。	シーズン年UDCを設定します。

コレクション構造コードの定義

コレクション構造コード(41F/CS)を定義します。

「コレクション構造 - ユーザー定義コード」フォームにアクセスします。

1. 「コード」、「記述1」、「特殊取扱コード」および「ハードコード」の各カラムのグリッドに値を入力します。
一度に複数の品目構造コードを定義できます。
2. 「OK」をクリックして、新しいコレクション構造コードを作成します。

シーズン・コードUDCの設定

「シーズン・コード - ユーザー定義コード」フォームにアクセスします。

1. 「コード」および「記述1」カラムに値を入力します。
たとえば、「SP」、「SU」、「FA」および「WN」というコードと「春」、「夏」、「秋」および「冬」という説明を入力できます。
2. 「OK」をクリックして、新しいシーズン・コードを作成します。

シーズン年UDCの設定

「シーズン年 - ユーザー定義コード」フォームにアクセスします。

1. 作成する年を、「コード」および「記述1」カラムに入力します。
2. 「OK」をクリックして、新しいシーズン年を作成します。

コレクション構造の定義

この項では、コレクション構造の概要、事前設定およびコレクション構造の定義方法について説明します。

コレクション構造について

コレクション構造を使用すると、特定のコレクションで使用するレベルを定義および編成できます。1つのコレクション構造に、最大5つのレベルを設定できます。各レベルは、コレクションの様々な属性を表します。たとえば、ヨーロッパ夏物コレクションには、ブランド、製品ラインおよびテーマというレベルを設定できます。これらのレベルは、コレクション構造を定義するときに指定および編成します。1つのコレクション構造を複数のコレクションで使用できます。コレクション構造を定義するには、コレクション構造定義プログラム(PCW06)を使用します。可能なレベルなどのコレクション構造詳細は、コレクション構造定義テーブル(FCW05)に保存されます。コレクション管理プログラム(PCW07)を使用してコレクションを作成するときに、コレクション構造をコレクションに添付します。

事前設定

コレクション構造を作成する前に、構造に含めるレベルまたはセグメントを定義する必要があります。スタイル品目のレベルと同様に、これらのレベルはコレクションの様々な属性を表します。各レベルにUDCおよび有効な値を作成して、これらのレベルの内容を示します。これらのレベルは、ビジネスにあわせてすべてユーザーが定義します。たとえば、次の属性を持つコレクションを作成できます。

- ・ ブランド
- ・ 製品ライン
- ・ テーマ

前述の例のレベルに対して、次のUDCおよび値を設定できます。

属性	UDC	有効な値
ブランド	56/BR	Apollo、Gemini

属性	UDC	有効な値
製品ライン	56/PL	カジュアル、アトラクション
テーマ	56/TM	日中、イブニング、旅行

コレクション構造の定義に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
コレクション構造の処理	WCW06B	「コレクション設定」 (G41F44)、「コレクション構造定義」	コレクション構造を検討します。
コレクション構造定義	WCW06C	「コレクション設定」 (G41F44)、「コレクション構造定義」 「追加」をクリックします。	コレクション構造を定義します。

コレクション構造の定義

「コレクション構造定義」フォームにアクセスします。

コレクション構造定義 - コレクション構造定義

OK(O) 取消(L) ツール(T)





コレクション構造

F40

Fall Collection 2040

レベル番号

製品コード

ユーザー定義コード

1

56

PL

2

56

TM

「コレクション構造定義」フォーム

コレクション構造を定義するには、次の手順に従います。

1. 定義するコレクション構造を、「コレクション構造」フィールドに入力します。
2. レベルの設定に使用する製品コードおよびユーザー定義コードの値を、それぞれ「製品コード」および「ユーザー定義コード」フィールドに入力します。

たとえば、第1レベルが「製品ライン」で、有効なブランド値をUDC 56/PLに設定している場合、「製品コード」フィールドに「56」、「ユーザー定義コード」フィールドに「PL」と入力します。

「ユーザー定義コード」フィールドは、UDCタイプと呼ばれることもあります。

3. このコレクション構造に添付するすべてのレベルに対して、製品コードとユーザー定義コードの入力を繰り返します。
1つのコレクションに、最大5つのレベルを添付できます。
4. 「OK」をクリックします。

コレクションの作成

この項では、コレクションの作成の概要と次の方法について説明します。

- コレクション管理(PCW07)の処理オプションの設定
- コレクション見出しの作成
- コレクション構造詳細の作成
- スタイル品目のコレクションへの追加

コレクションの作成について

コレクションの作成は3つのステップで構成されます。コレクション見出しを作成し、コレクション構造詳細を作成します。最後に、スタイル品目をコレクションに追加します。コレクション見出しは、コレクション構造を添付する場所です。ここには、次の情報が含まれます。

- コレクション名
- シーズン・コード
- シーズン年
- コレクション構造
- 価格参照日付
- 有効日付および有効期限

コレクション見出しを作成するには、コレクション管理プログラムを使用します。コレクション見出し情報はコレクション見出しテーブル(FCW06)に保存されます。

コレクション詳細構造作成プログラム(PCW16)を使用して、構造からコレクションを作成します。このプログラムは、コレクション管理プログラムから呼び出されます。コレクション詳細構造作成プログラムで、ツリー構造の使用可能なコレクション構造レベルをコピーして貼り付け、コレクションを作成します。

スタイル品目をコレクションに追加するには、コレクション詳細プログラム(PCW081)からアクセスする品目コレクション詳細プログラム(PCW08)を使用します。このプログラムはコレクション管理プログラムから呼び出すこともできます。

コレクションの品目を表示するには、スタイル品目別コレクション詳細プログラム(PCW082)を使用します。このプログラムはコレクション詳細プログラムから呼び出すこともできます。

コレクションの様々なレベルやスタイル品目などのコレクション詳細情報は、コレクション詳細テーブル(FCW07)に保存されます。

コレクションの作成に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
コレクションの処理	WCW07A	「コレクション設定」(G41F44)、「コレクションの入力」	コレクションを検討、更新および削除します。
コレクションの改訂	WCW07B	「コレクション設定」(G41F44)、「コレクションの入力」 「追加」をクリックします。	コレクション見出しを作成します。
コレクションの作成	WCW16A	「コレクション設定」(G41F44)、「コレクションの入力」 ローを選択して「ロー」メニューから「コレクションの作成」を選択します。	コレクション構造詳細を作成します。 注意: コレクション詳細構造作成プログラムは、コレクション管理プログラムからのみアクセスできます。
コレクション詳細	WCW08A	「コレクション設定」(G41F44)、「コレクションの入力」 ローを選択して「ロー」メニューから「コレクション詳細」を選択します。	スタイル品目をコレクションに追加します。 コレクション詳細を検討します。 注意: コレクション詳細プログラムは他のアプリケーションからのみアクセスできます。
スタイル品目コレクション詳細	WCW081A	「コレクション設定」(G41F44)、「コレクションの入力」 ローを選択し、「コレクション詳細」フォームの「ロー」メニューから「品目の追加」を選択します。	スタイル品目をコレクションに追加します。 注意: 品目コレクション詳細プログラムは他のアプリケーションからのみアクセスできます。
スタイル品目別コレクション詳細	WCW082A	「コレクション設定」(G41F44)、「コレクションの入力」 ローを選択し、「コレクション詳細」フォームの「ロー」メニューから「品目の表示」を選択します。	コレクション内のスタイル品目を表示します。 注意: 品目別コレクション詳細プログラム(PCW082)は他のアプリケーションからのみアクセスできます。

コレクション管理(PCW07)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

処理

1. 異なるコレクション・レベルで同一品目を使用可

1つのコレクションに属する複数のコレクション・レベル(サブコレクション)で同一品目を使用できるかどうかを指定します。

値は次のとおりです。

ブランク: はい

2. コレクション・レベルの削除

1: いいえ

コレクション・レベルの品目が未処理の受注オーダーで使用されているかどうかを、検証するかどうか指定します。

値は次のとおりです。

ブランク: 検証しません。

1: コレクション・レベルの品目が未処理の受注オーダーで使用されている場合は、警告が発行されます。

2: コレクション・レベルの品目が未処理の受注オーダーで使用されている場合は、エラー・メッセージが発行されます。

注意: 最初の処理オプションは、コレクション詳細プログラムで使用されます。このプログラムは、「ロー」メニューを使用してスタイル品目をコレクションに追加するときに、コレクション詳細プログラムから呼び出されます。2番目の処理オプションは、コレクション詳細プログラムに適用されます。このプログラムは、「ロー」メニューを使用してコレクション詳細に移動するときに、コレクション管理プログラムから呼び出されます。

コレクション見出しの作成

「コレクションの改訂」フォームにアクセスします。

「コレクションの改訂」フォーム

コレクション見出しを作成するには、次の手順に従います。

このフォームの必須フィールドにはオレンジのアスタリスク(*)が付いています。

コレクション見出しを作成するには、次のフィールドに入力して「OK」をクリックします。

コレクション

通常は1つのブランド(製造業者)、シーズン、年および市場に向けて同時に発表される、統一性のある品目の集まりを表すコードを入力します。

コレクション見出しテーブル(FCW06)の値を入力する必要があります。

記述

コレクションの説明を入力します。

シーズン・コード	コレクションが製造されるシーズンを示すコードを入力します。
シーズン年	コレクションの製造年を示すコードを入力します。
コレクション構造	コレクション構造定義プログラムを使用して定義されたコレクション構造を入力します。コレクション構造を使用し、UDCに基づいて様々なコレクション・レベルを定義します。コレクションには最大5つのコレクション・レベルを設定できます。UDCはコレクション・レベルを表すのに対して、UDC値は各コレクション・レベルのコレクション・セグメントを表します。
価格参照日付	<p>コレクションの価格決定に使用する日付を入力します。</p> <hr/> <p>注意: 受注オーダーおよび購買オーダー入力時に、コレクションに添付されているスタイル品目の価格が「価格参照日付」フィールドを使用して取り込まれます。</p> <hr/>
有効日付	コレクションがいつ有効になるかを示す日付を入力します。この日付は参照情報としてのみ使用されます。
有効期限	コレクションがいつ期限切れになるかを示す日付を入力します。この日付は参照情報としてのみ使用されます。

コレクション構造詳細の作成

「コレクションの作成」フォームにアクセスします。

ユーザーのコレクションがツリー構造の最上部に表示され、その下に使用可能なすべてのコレクション・レベルが表示されます。このフォームを使用し、コレクションに追加するコレクション・レベルをコピーして貼り付けます。

コレクションの入力 - コレクションの作成

選択(S) 検索(I) 削除(D) 開じる(L) ツール(T)

コレクション ASIAFALL40 Asia Fall Collection 2040

シーズン・コード FA 秋

シーズン年 2040 2040

レコード 1 - 8

ASIAFALL40

Asia Fall Collection 2040

***** 使用可能なコレクション・レベル *****

Product Line

Attraction

Casual

Theme

Evening

Travel-wear

「コレクションの作成」フォーム

コレクション構造詳細を作成するには、次の手順に従います。

1. ツリー構造を展開して、使用可能なすべてのコレクション・レベル値を表示します。
2. コレクションに追加するコレクション・レベル値(「アトラクション」または「カジュアル」など)を選択します。
3. ツリー構造ウィンドウの右上隅にある「コピー」アイコンをクリックします。
4. レベルを追加するコレクションを選択します。
5. ツリー構造ウィンドウの右上隅にある「貼付け」アイコンをクリックして、レベルをコレクションに追加します。
6. コレクションに追加する次のコレクション・レベルを選択します。
7. ツリー構造ウィンドウの右上隅にある「コピー」アイコンをクリックします。
8. 前にコレクションに追加したレベルを選択して、「貼付け」をクリックします。

作成しているのはコレクションの構造であるため、レベルは入れ子になります。たとえば、「カジュアル」というレベルがある場合、「カジュアル」レベルに「旅行着」レベルを追加できます。

注意: 構造の作成中にレベルの不整合があった場合、そのレベルは追加されません。たとえば、「旅行着」は第2レベルであるため、「アジア秋物」コレクションの下に追加することはできません。「カジュアル」など第1レベルの下にのみ追加できます。

9. コレクションにコレクション・レベル値を追加するたびに、前述のステップを繰り返します。
10. コレクション・レベルを削除する場合は、レベルを選択して「削除」をクリックします。
削除しようとしているコレクション・レベルが受注オーダーで使用されている場合、「コレクション・レベルの削除」処理オプションの設定に応じて警告またはエラーが発行されます。
11. コレクション構造の作成を終了したら、「閉じる」をクリックします。

スタイル品目のコレクションへの追加

「コレクション詳細」フォームにアクセスします。

The screenshot shows a web application window titled 'コレクションの入力 - コレクション詳細'. It has a toolbar with icons for search, delete, close, zoom, and tools. The main form contains the following fields:

- コレクション: ASIAFALL40
- シーズン・コード: FA
- シーズン年: 2040

Below these fields is a table titled 'レコード 1 - 3' showing a list of items:

ASIAFALL40
Asia Fall Collection 2040
Casual
Travel-wear

「コレクション詳細」フォーム

スタイル品目をコレクションに追加するには、次の手順に従います。

1. コレクションの最下位レベルを選択して、「ロー」メニューから「品目の追加」を選択します。

注意: コレクションの最下位レベルが選択されていない場合、「ロー」メニューから操作を実行することはできません。

2. 検索するスタイル品目または他の条件をグリッドの一番上の例示照会プログラム (QBE) 行に入力して、「検索」をクリックします。
3. 各ロー見出しのチェックボックスを選択してコレクションに入れるスタイル品目を選択し、「選択」をクリックします。スタイル・ルート・レベル0の品目を選択すると、対応する子品目がコレクションに追加されます。

グリッド内の選択したローの横に、緑のチェック・マークが表示されます。

注意: 「異なるコレクション・レベルで同一品目を使用可」処理オプションの設定に応じて、1つのコレクションに属する複数のコレクション・レベル (サブコレクション) で同一品目を選択できるかどうかが決まります。処理オプションがブランクの場合は複数のコレクション・レベルで同一品目を選択でき、処理オプションの値が「1」の場合は選択できません。

4. グリッドの上のオプションを使用して、特定のスタイル品目に関連するすべての属性を表示し、コレクションに入れるスタイル品目を下位レベルで絞り込むことができます。
たとえば、「色」を選択すると、スタイル品目に関連するすべての色がグリッドに表示されます。次に「サイズ」を選択すると、スタイル品目のその色のすべてのサイズが表示されます。「黒」色のスタイル品目がコレクションにすでに入っている場合、「黒」色のすべてのサイズに緑のチェック・マークが付き、そのコレクションに関連することが示されます。
5. 特定のスタイル品目を選択解除するには、ロー見出しの緑のチェック・マークをクリックして、スタイル品目をコレクションから削除します。ロー見出しに赤のxが表示されます。
6. コレクションに入れるすべてのスタイル品目を選択したら、「閉じる」をクリックします。
7. スタイル品目が追加されたことを確認するには、「ロー」メニューから「品目の表示」を選択します。

コレクション・テンプレートの設定

この項では、コレクション・テンプレートの概要、事前設定、および次の方法について説明します。

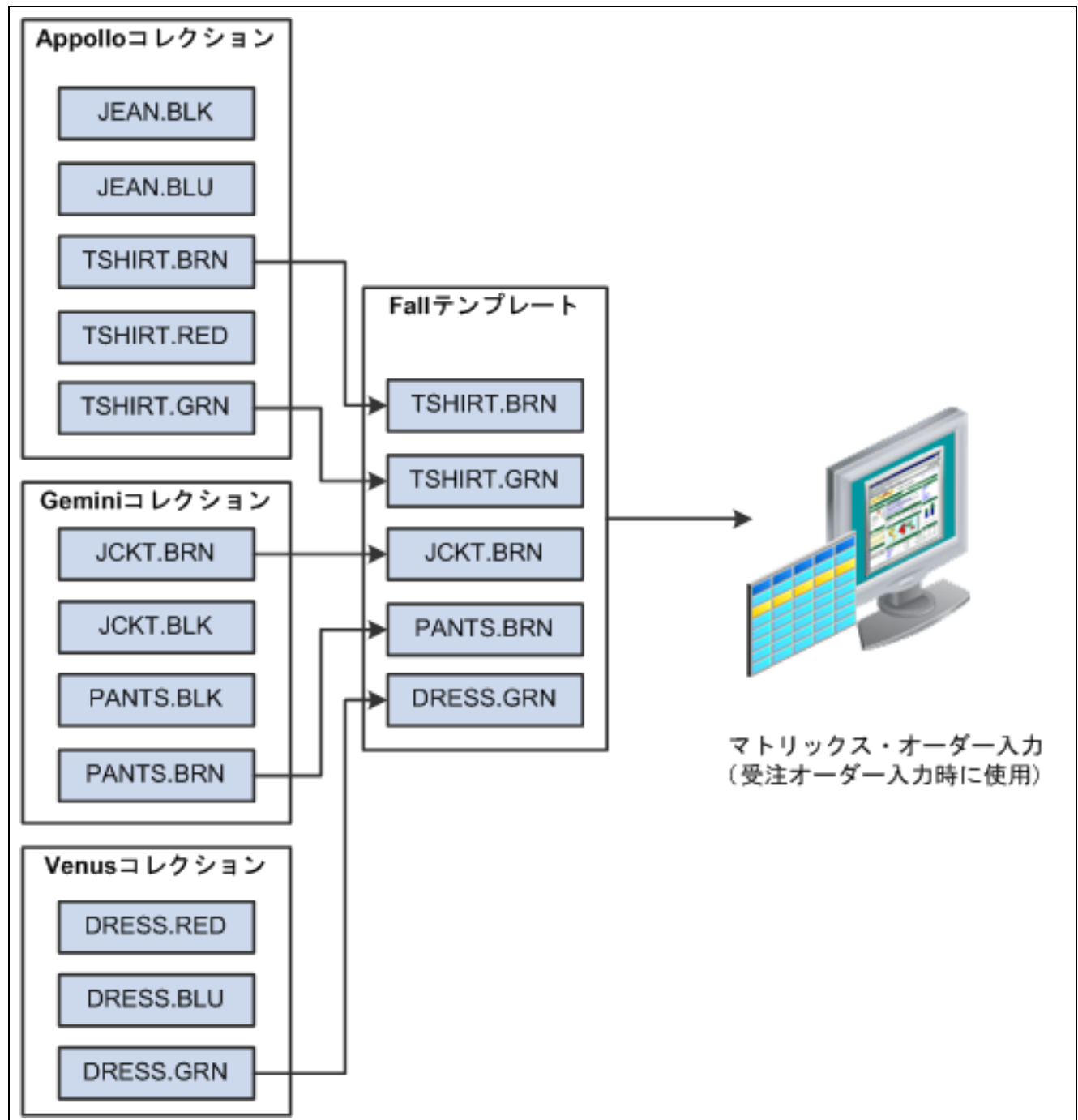
- コレクション・テンプレート名の定義
- コレクション・テンプレートの作成

コレクション・テンプレートについて

コレクション・テンプレートは、1つ以上のコレクションからスタイル品目を集めたサブセットです。複数のコレクションからスタイル品目をコレクション・テンプレートに追加できます。たとえば、6つのコレクションのもとに100のスタイル品目があり、受注オーダー入力ではそのうち3つのコレクションに関連する20のスタイル品目のみを使用する場合、その使用するスタイル品目をテンプレートに添付できます。テンプレートはすべてユーザーが定義します。事前定義テンプレートは用意されていません。テンプレートを作成するには、コレクション・テンプレート入力プログラム (PCW42) を使用します。コレクション・テンプレートはマトリックス・ワークファイル・テーブル (FCW20) に保存されます。

コレクション・テンプレートは、受注オーダー入力時および購買オーダー入力時にオーダー入力処理を簡略化するために使用されます。コレクション・テンプレートには、頻繁にオーダーするスタイル品目を含めます。コレクション・テンプレートはすべての顧客に適用されます。たとえば、頻繁にオーダーされるスタイル品目を1つのコレクションから指定してリストしたコレクション・テンプレートを作成できます。また、コレクションに関係なく、頻繁にオーダーされるスタイル品目をすべてリストしたコレクション・テンプレートを指定することもできます。オーダー入力処理が正確かつ効率的に行われるように、既存のコレクション・テンプレートは定期的に更新する必要があります。たとえば、既存のコレクション・テンプレートに対してスタイル品目を追加または削除します。受注オーダーでコレクション・テンプレートを使用する場合、使用しているコレクション・テンプレートに関連する全スタイル品目がマトリックス・オーダー入力に表示されるため、オーダーするスタイル品目を選択して適切な数量を入力することができます。

次の図は、コレクション・テンプレートを作成して受注オーダー入力に使用する方法を示しています。



コレクション・テンプレートの概要

事前設定

JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理システムでコレクション・テンプレートを作成する前に、コレクション・テンプレート入力プログラムの処理オプションを設定して、呼び出すコレクション・テンプレート・リスト・レポート(RCW10)のバージョンを指定する必要があります。このプログラムを使用して、定義するコレクション・テンプレートのマトリックス入力表示を生成します。マトリックスは、「コレクション・テンプレート詳細」フォームの「フォーム」メニューから「マトリックスの生成」を選択して呼び出します。品目の追加または削除などテンプレートに変更を加えた後に、「OK」を選択して呼び出すこともできます。

コレクション・テンプレートの設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
コレクション・テンプレートの処理	WCW42E	「コレクション設定」(G41F44)、「コレクション・テンプレートの入力」	コレクション・テンプレートを検討、改訂および削除します。
コレクション・テンプレート見出し	WCW42C	「コレクション設定」(G41F44)、「コレクション・テンプレートの入力」 「追加」をクリックします。	コレクション・テンプレート名を定義します。
コレクション・テンプレート詳細	WCW42A	「コレクション設定」(G41F44)、「コレクション・テンプレートの入力」 ローを選択して「コレクション・テンプレート見出し」フォームの「ロー」メニューから「テンプレートの更新」を選択するか、ローを選択して「コレクション・テンプレートの処理」フォームの「ロー」メニューから「テンプレートの更新」を選択します。	コレクション・テンプレートを作成します。
マトリックス表示	WCW10B	「コレクション・テンプレート詳細」フォームの「フォーム」メニューから「マトリックス表示」を選択します。	マトリックス入力プログラムに表示されるコレクション・テンプレートを検討します。このプログラムは受注オーダー、購買オーダーおよび在庫トランザクション処理時に呼び出されます。

コレクション・テンプレート名の定義

「コレクション・テンプレート見出し」フォームにアクセスします。

1. コレクション・テンプレート名および説明をグリッドに入力します。
2. 「OK」をクリックします。

コレクション・テンプレートの作成

「コレクション・テンプレート詳細」フォームにアクセスします。

コレクション・テンプレートの入力 - コレクション・テンプレート 詳細

OK(O) 削除(D) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

コレクション・テンプレート 123 test

☒ コレクション

- ☐ 111
- ☐ A001
- ☐ A10
- ☐ AAA
- ☐ AB
- ☐ ABC
- ☐ ABS
- ☐ ABS1
- ☐ AC2

→

レコード 1 - 31

レベル名	行番号	レベル
<input type="checkbox"/> SBAG.BLK	1.000	B1
<input type="checkbox"/> SBAG.BLU	2.000	B1
<input type="checkbox"/> SBAG.BRW	3.000	B1
<input type="checkbox"/> SBAG.GLD	4.000	B1
<input type="checkbox"/> SBAG.GR	5.000	B1
<input type="checkbox"/> SBAG.GRY	6.000	B1
<input type="checkbox"/> SBAG.PNK	7.000	B1
<input type="checkbox"/> SBAG.RD	8.000	B1
<input type="checkbox"/> SBAG.SLV	9.000	B1
<input type="checkbox"/> SBAG.YLW	10.000	B1

「コレクション・テンプレート詳細」フォーム

コレクション・テンプレートを作成するには、次の手順に従います。

1. 右ウィンドウのツリー構造を展開して、使用可能なすべてのコレクション・レベルおよびスタイル品目を表示します。
2. コレクション・テンプレートに追加するレベルまたは特定スタイル品目を選択し、矢印ボタンをクリックして左ウィンドウのコレクション・テンプレートに移動します。

複数のスタイル品目を含む属性またはコレクション・レベルを選択した場合、矢印ボタンをクリックすると、それらのスタイル品目すべてがコレクション・テンプレートに移動します。

3. コレクション・テンプレートに追加するすべてのスタイル品目を選択したら、「フォーム」メニューの「マトリックスの生成」を選択して、コレクション・テンプレートのマトリックス入力表示を作成します。このテンプレートは、受注オーダーおよび購買オーダー入力時に使用されます。
4. 「OK」をクリックしてレポートを実行します。

レポートの出力を検討して、結果を確認します。

コレクション・テンプレート・リスト・レポート(RCW10)が実行され、マトリックス入力表示のコレクション・テンプレートに含められるスタイル品目のリストが作成されます。

注意: このレポートは、バッチ・バージョンから手動で送信することもできます。レポートが正常に完了しなかった場合、すべてのスタイル品目が含まれないことがあります。レポートの実行が終了したことを確認してから、結果を参照してください。そうでないと、期待する結果は得られません。

5. コレクション・テンプレートに作成されたマトリックス入力表示を確認および検討するには、「フォーム」メニューから「マトリックス表示」を選択します。
6. テンプレートからすべてのスタイル品目を削除するには、「コレクション・テンプレート詳細」フォームで「フォーム」メニューから「すべて削除」を選択します。
7. テンプレートから個別にスタイル品目を削除するには、該当する品目を選択して「削除」をクリックします。

注意: 作成した既存のテンプレートを更新するには、「コレクション・テンプレートの処理」または「コレクション・テンプレート見出し」フォームでテンプレートを選択し、「ロー」メニューから「テンプレートの更新」を選択します。

コレクション別スタイル品目の処理

この項では、コレクション別スタイル品目の概要と、次の方法について説明します。

- コレクション別スタイル品目 (PCW54) の処理オプションの設定
- コレクション別スタイル品目の処理

コレクション別スタイル品目について

コレクション別スタイル品目プログラム (PCW54) は、特定コレクション内のスタイル品目にアクセスして検討および更新できるという点を除き、スタイル品目マスター・プログラム (PCW51) とよく似ています。このプログラムでは、コレクション別にスタイル品目を検索したり、コレクション詳細を検索して、それらのスタイル品目の詳細情報を検討できます。コレクションに添付されていないスタイル品目にアクセスすることもできます。

コレクション別スタイル品目の処理に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
コレクション・スタイル品目 マスター表示の処理	WCW54A	「スタイル品目管理」 (G41F11)、「コレクション別 スタイル品目の処理」	コレクション・スタイル品目 を処理します。 コレクションに関連するス タイル品目を検討します。
複数レベル品目の改訂	WCW02AB	「スタイル品目管理」 (G41F11)、「コレクション別 スタイル品目の処理」 ローを選択して「選択」をク リックするか、「ロー」メ ニューから「改訂」を選択 します。	参照: JD Edwards EnterpriseOne アパレル管 理 9.0 製品ガイド、「JD Edwards EnterpriseOne 在 庫管理のアパレル管理用 操作」、「品目改訂の処理」
品目構造定義	WCW02B	「スタイル品目管理」 (G41F11)、「コレクション別 スタイル品目の処理」 ローを選択して、「ロー」メ ニューから「構造定義」 を選択します。	参照: JD Edwards EnterpriseOne アパレル管 理 9.0 製品ガイド、「JD Edwards EnterpriseOne 在 庫管理のアパレル管理用 操作」、「品目改訂の処理」
コレクションなしの品目	WCW54C	「スタイル品目管理」 (G41F11)、「コレクション別 スタイル品目の処理」 「フォーム」メニューから「コ レクションなしの品目」 を選択します。	コレクションに関連しない スタイル品目にアクセスし て検討します。

コレクション別スタイル品目 (PCW54) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

構造

1. 品目構造の作成
子スタイル品目の作成方法を指定します。
値は次のとおりです。
1: 「閉じる」をクリックしたときに子品目を作成します。
2: 子品目をオンデマンドで作成します。「品目構造定義」フォームで「構造の作成」ボタンをクリックします。
3: 子スタイルの作成/処理プログラム (RCW01) を使用して、バッチで子品目を作成します。
2. サイズ・グリッドの選択
「品目構造定義」(WCW02B) フォームでのサイズ・グリッドの表示方法を指定します。
値は次のとおりです。
ブランク: サイズ・グリッドが選択解除された状態で表示されます。サイズ・グリッドを手動で選択する必要があります。
1: サイズ・グリッドが選択された状態で表示されます。使用しないサイズ・グリッドを選択解除する必要があります。

バージョン

1. 品目マスターのバージョン (P4101)
品目マスター・プログラム (P4101) にアクセスする際に使用するバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、デフォルト・バージョンとしてバージョン ZJDE0003 が使用されます。
2. 子スタイル品目の部品表の作成 (RCW53) (デフォルト・バージョン XJDE0001)
スタイル品目の部品表プログラム (PCW12B) から呼び出される、子スタイル品目の部品表の作成プログラム (RCW53) のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、デフォルト・バージョンとして XJDE0001 が使用されます。
3. 部品表の改訂 (P3002)
コレクション別スタイル品目プログラム (PCW54) から呼び出される、部品表の改訂プログラム (P3002) のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、デフォルト・バージョンとして ZJDE0001 が使用されます。
4. 作業工程マスターの処理 (P3003)
コレクション別スタイル品目プログラム (PCW54) から呼び出される、作業工程マスターの処理プログラム (P3003) のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、デフォルト・バージョンとして ZJDE0001 が使用されます。

コレクション

この処理オプションでは、他の値が入力されていない場合に、コレクション別スタイル品目プログラムで使用されるデフォルト値を指定します。

1. コレクション
通常は1つのブランド(製造業者)、シーズン、年および市場に向けて同時に発表される、統一性のある品目の集まりを表すコードを指定します。コレクション見出しテーブル (FCW06) の値を入力する必要があります。
2. シーズン・コード
コレクションが製造されるシーズンを示すコードを指定します。

3. シーズン年 コレクションの製造年を示すコードを指定します。

削除処理

- 1. レベル全体の削除** スタイル品目の複数レベル階層から品目を削除するかどうかを指定します。
値は次のとおりです。
ブランク: すべてのレベルが削除可能な場合にのみ削除します。子品目が階層の親レベルの下に作成されていない場合、階層内のスタイル品目を削除できます。この場合、階層内のすべてのレベルを削除できます。
1: レベルに品目が存在する場合でも削除します。階層内の任意のレベルを、そのレベルに子品目が存在する場合であっても削除できます。
- 2. 詳細ログ・レポートの生成** スタイル品目マスターの除去ログ・レポート(RCW36)を実行して詳細ログ・レポートを出力するかどうか、を指定します。
値は次のとおりです。
ブランク: 詳細ログ・レポートを出力しません。
1: 詳細ログ・レポートを出力します。

部品表

- 1. 部品表の作成** 子スタイル品目の部品表の作成方法を指定します。
値は次のとおりです。
ブランク: 子スタイル品目の部品表をオンデマンドで作成します。「部品表の処理」フォームの「フォーム」メニューから「作成」を選択します。
1: 子スタイル品目の部品表をバッチで作成します。子スタイル品目の部品表の作成プログラム(RCW53)を実行します。

コレクション別スタイル品目の処理

「コレクション・スタイル品目マスター表示の処理」フォームにアクセスします。

コレクション別スタイル品目を処理するには、次の手順に従います。

- 次のいずれかのフィールドに情報を入力して、「検索」をクリックします。
 - コレクション
 - シーズン・コード
 - シーズン年
 - 品目レベル番号

品目構造のレベルを指定する番号を入力します。品目構造ではレベル0からレベル9まで、最大10のレベルを使用できます。親品目は、複数レベル品目構造の第1レベルとして定義されます。子スタイル品目は、その親レベルから基本属性を継承します。
- コレクションに添付されていないスタイル品目を見つけるには、「フォーム」メニューから「コレクションなしの品目」を選択します。
グリッドの一番上のQBE行を使用してスタイル品目を検索し、結果を絞り込みます。

第 6 章

JD Edwards EnterpriseOne 受注管理の アパレル管理用操作

この章では、アパレル管理用JD Edwards EnterpriseOne受注管理の概要と、次の方法について説明します。

- スタイル品目の価格表の設定
- スタイル品目の価格の丸め
- スタイル品目の価格表為替レートの設定
- スタイル品目の価格表の生成
- 受注オーダー入力(P42101)を使用したスタイル品目の受注オーダーの作成
- 受注オーダー入力(P4210)を使用したスタイル品目の受注オーダーの入力
- スタイル品目の受注オーダーの印刷
- 受注オーダー・スタイル品目の一括更新の実行

アパレル管理用JD Edwards EnterpriseOne受注管理について

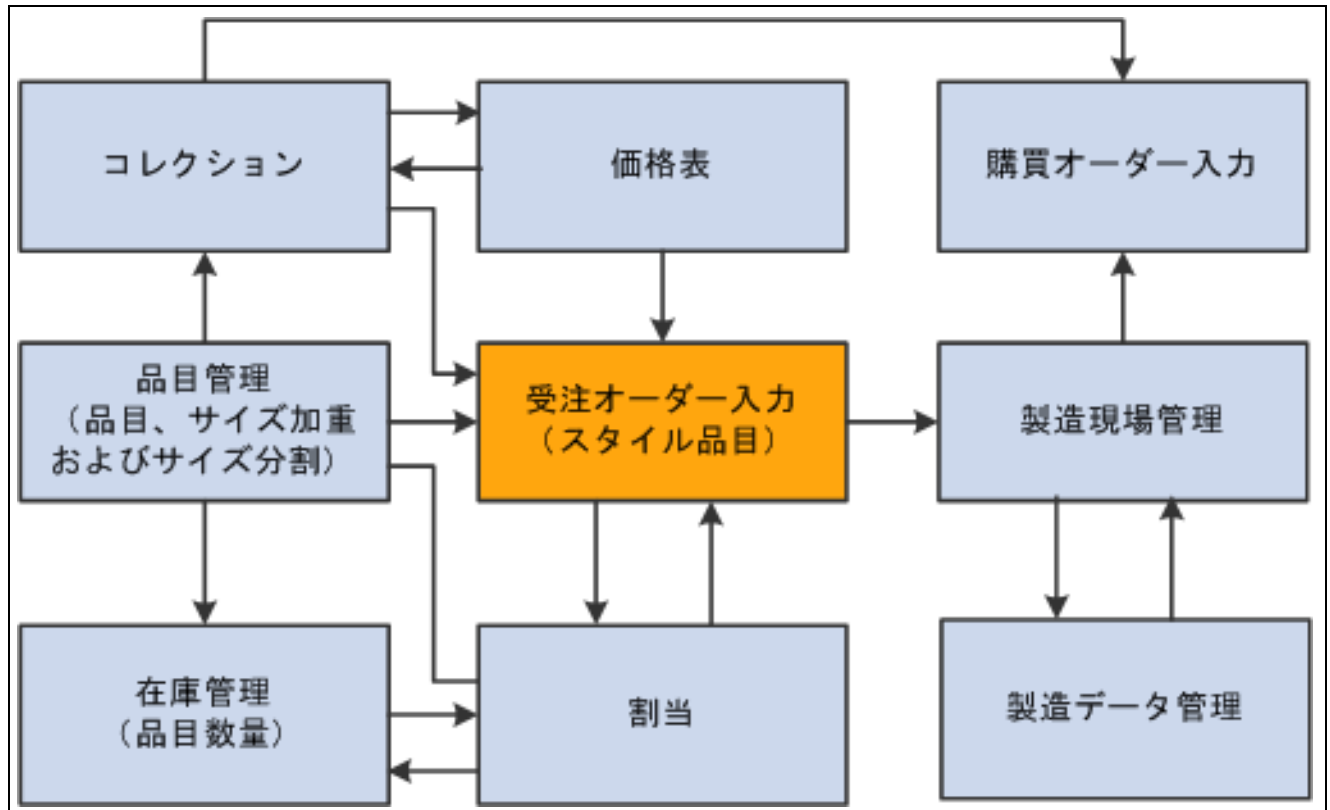
JD Edwards EnterpriseOne受注管理は、顧客サービス担当者がオーダーを受けてから顧客から支払を受けるまでの、販売プロセスの管理を支援します。この受注管理システムはJD Edwards EnterpriseOne Financials、在庫管理、製造管理、倉庫管理、輸送管理、アパレル管理およびEDIシステムと統合されており、顧客の需要を確実に満たすことができます。

JD Edwards EnterpriseOne受注管理では、アパレル管理で顧客オーダーを追加するために、マトリックス入力フォームがサポートされています。このマトリックス統合により、スタイル品目を最下位の子品目レベルではなく上位レベルで管理できます。オーダーで入力するスタイル品目またはコレクション・テンプレートごとにマトリックス入力フォームが表示され、サイズ、色または他の属性別に品目数量を入力できます。受注オーダー入力時にスタイル品目のマトリックス入力が表示されるのは、スタイル品目に品目構造が添付されている場合のみです。

参照: JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理 9.0 製品ガイド、「JD Edwards EnterpriseOne在庫管理のアパレル管理用操作」、「ルート品目の作成」、「スタイル品目ルート・レベル0への構造の追加」

JD Edwards EnterpriseOne受注管理はアパレル管理、価格表、割当、在庫管理およびコレクション管理と統合されています。

次の図は、JD Edwards EnterpriseOne受注管理の統合を示しています。



受注管理の統合

アパレル管理で使用するJD Edwards EnterpriseOne受注管理には、スタイル品目のオーダーを作成するために次の方法が用意されています。

- スタイル品目ルート・レベル0(親レベル)を使用する方法
親スタイル品目(JEANなど)を入力すると、対応するすべてのレベル(JEAN.BLK.36.34、JEAN.BLUE.32.32など)がマトリックス入力フォームに表示されます。
- 中間品目レベル(JEAN.BLKなど)を使用する方法
中間スタイル品目を入力すると、対応するすべてのレベル(JEAN.BLK.36.34、JEAN.BLK.32.30)がマトリックス入力フォームに表示されます。
- コレクション・テンプレートを使用する方法
コレクション・テンプレート入力プログラム(PCW42)で作成されるコレクション・テンプレートを使用すると、コレクション・テンプレートのすべての品目がマトリックス入力フォームに表示されます。

アパレル管理でJD Edwards EnterpriseOne受注管理を使用すると、データ入力時間およびエラーを大幅に削減できます。

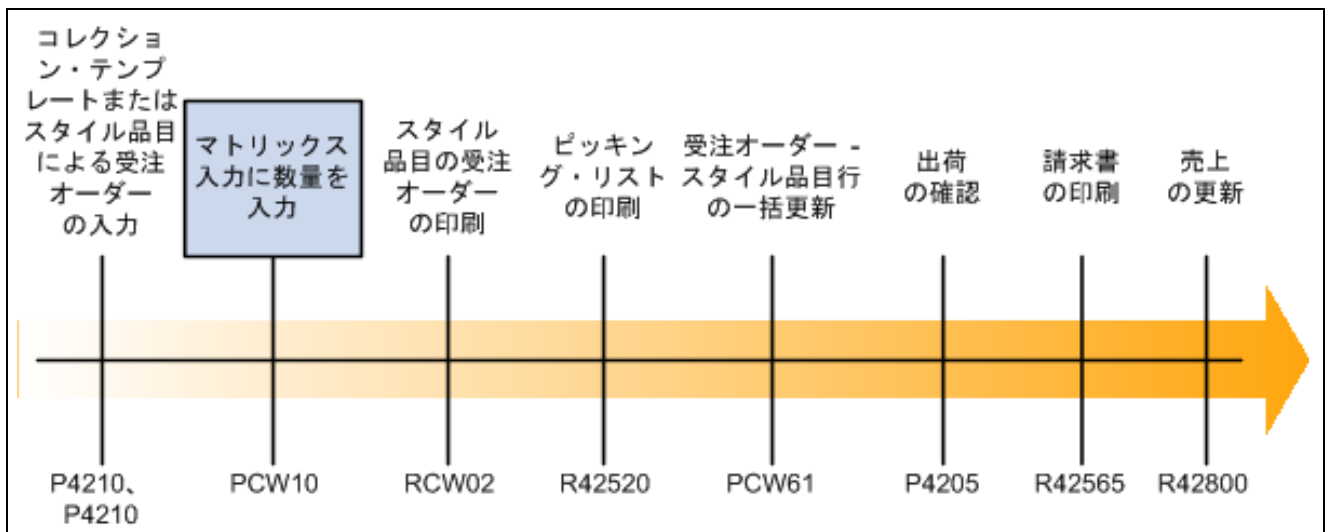
- 1つのスタイル品目ルート・レベル0(JEAN)を入力すると、下位レベルのすべての品目(EAN.BLK.26.17、JEAN.BLK.26.18)が受注オーダー明細行に自動的に表示されます。
- コレクション・テンプレートには、通常一緒に販売される同類の品目や異なる品目からなるグループが含まれます。

アパレル管理で使用する受注管理のその他の機能をいくつか次にあげます。

- 価格有効日付。コレクションで受注オーダー見出しにデフォルトで表示されます。
- 受注オーダーでのコレクションに対するスタイル品目検証。

- ・ サイズ・グリッドに定義されているサイズ分割比率に基づく、受注オーダー明細行の合計数量の分割。
- ・ スタイル品目の受注オーダー一括更新機能。引当または日付を変更したり、受注オーダー行を取り消したりするために、複数の受注オーダー明細レコードを更新します。
- ・ 受注オーダー見出しでのコレクション、シーズンおよびシーズン年の使用。
- ・ スタイル品目の外貨/国内通貨での受注オーダー。
- ・ スタイル・ルート・レベル0品目に定義された価格に基づいて、品目基本価格テーブル(F4106)でスタイル子品目の価格を更新する際に使用する、価格表の作成。
- ・ 顧客、顧客グループおよび通貨コードに基づいて価格表をコピーする機能。

次の図は、受注管理プロセスを示しています。



受注管理のプロセス・フロー

アパレル管理用受注管理のプロセス・フローは、JD Edwards EnterpriseOne 受注管理と似ており、同じプログラムを数多く使用します。このプロセス・フローは、次のステップで構成されます。

1. 受注オーダーの入力 (P4210またはP42101)。

スタイル品目を入力するか、コレクション・テンプレートを使用してオーダーを入力します。

スタイル品目を入力すると、マトリックス入力プログラム(PCW10)が開き、様々な子スタイル品目に特定の数量を入力できます。

注意: 最下位レベルの子スタイル品目を入力する場合、それより下のレベルに選択する属性がないため、マトリックス入力は開きません。

2. スタイル品目の受注オーダーの印刷 (RCW02)。

スタイル品目の受注オーダーの印刷プログラムを使用して、スタイル品目の受注オーダーをマトリックス形式で印刷します。

3. ピッキング・リストの印刷 (R42520)。

標準のJD Edwards EnterpriseOneプログラムを使用します。特定のスタイル品目機能は組み込まれていません。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 受注管理 9.0 製品ガイド、

4. (オプション) 受注オーダー・スタイル品目行の一括更新の実行 (PCW61)。

このプログラムを使用して、受注オーダー・スタイル品目行の日付の更新または引当のリセット、またはオーダー行の取消しを行います。

5. 出荷の確認 (P4205)。

標準のJD Edwards EnterpriseOneプログラムを使用します。特定のスタイル品目機能は組み込まれていません。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 受注管理 9.0 製品ガイド、

6. 請求書の印刷 (R42565)。

標準のJD Edwards EnterpriseOneプログラムを使用します。特定のスタイル品目機能は組み込まれていません。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 受注管理 9.0 製品ガイド、

7. 売上更新の実行 (R42800)。

標準のJD Edwards EnterpriseOneプログラムを使用します。特定のスタイル品目機能は組み込まれていません。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 受注管理 9.0 製品ガイド、

コレクション

受注オーダー入力はコレクション管理と統合されています。処理オプションを使用してデフォルトのコレクションを設定することにより、受注オーダーに値を自動入力できます。受注オーダー入力時にチェックを実行して、入力した品目が受注オーダーに添付されているコレクションに属しているか確認できます。または、コレクション・テンプレートを作成して受注オーダー入力を簡略化することもできます。

バックオーダー

JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理システムの受注管理プロセスでは通常、季節商品のバックオーダーは行いません。ファッションの流行は、アパレル業界のエキスパートやファッション・ショーに基づいて毎年変化します。品目の製造や納入には時間を要するため、ファッション・ショーや季節の流行に基づいて行われたオーダーは、すぐには納入されません。また、バックオーダーされた受注オーダー行はアパレル割当プロセスでは考慮されません。この2つの理由により、通常、この業界のスタイル品目の受注オーダー処理ではバックオーダーは有効化されません。

ただし、コレクションには含まれず季節品目でもない「通年スタイル品目」に対しては、必要に応じてバックオーダーを実行できます。この機能の使い方は、ビジネス・ニーズによって異なります。

参照: JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理 9.0 製品ガイド、「JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理における割当の処理」、「引当規則の設定」

データの除去

受注オーダー見出しの除去 (F4201) プログラム (R4201P) を実行すると、受注オーダー見出し (F4201) および受注オーダー見出しスタイル品目タグ・ファイル (F41F201T) テーブルからレコードが削除され、削除されたレコードがアーカイブされます。通常、受注オーダー見出しの除去 (F4201) プログラムは、受注オーダー処理の最後に実行され、受注オーダー・テーブルをクリーンアップします。これらの受注オーダー・テーブルを除去する場合、削除したレコードをアーカイブできます。F41F201T テーブルには、これに対応する受注オーダー見出しスタイル品目タグ履歴ファイル (F41F2019) という履歴テーブルがあります。このテーブルは、受注オーダー見出し履歴テーブル (F42019) と似ています。売上更新 (R42800) オプションを使用して除去を実行すると、F41F201T も除去されます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 受注管理 9.0 製品ガイド、

処理中受注オーダーの再転記

割当を使用しており、かつ未処理の提案がある場合は、処理中受注オーダーの再転記プログラム(R42995)を実行する前に、提案を検証して引当をクリアする必要があります。提案に含まれるスタイル品目を再転記すると、そのスタイル品目に引当上の問題が発生する可能性があります。

事前設定

この章で説明されているタスクを開始するには、事前に次の作業を行う必要があります。

- JD Edwards EnterpriseOne 住所録システムに顧客の住所情報が設定されていることを確認します。
参照: JD Edwards EnterpriseOne 住所録 9.0 製品ガイド、
- JD Edwards EnterpriseOne 受注管理システムがスタイル品目をサポートするように設定されていることを確認します。
参照: JD Edwards EnterpriseOne 受注管理 9.0 製品ガイド、JD Edwards EnterpriseOne -
- 顧客レコード、住所録レコードおよび顧客請求指示などの顧客情報を定義します。
参照: JD Edwards EnterpriseOne 受注管理 9.0 製品ガイド、

スタイル品目の価格表の設定

この項では、スタイル品目の価格表の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 価格表(PCW17)の処理オプションの設定
- スタイル品目の価格表の設定
- スタイル品目の価格表の除去
- 価格表の作成レポート(RCW23)の実行

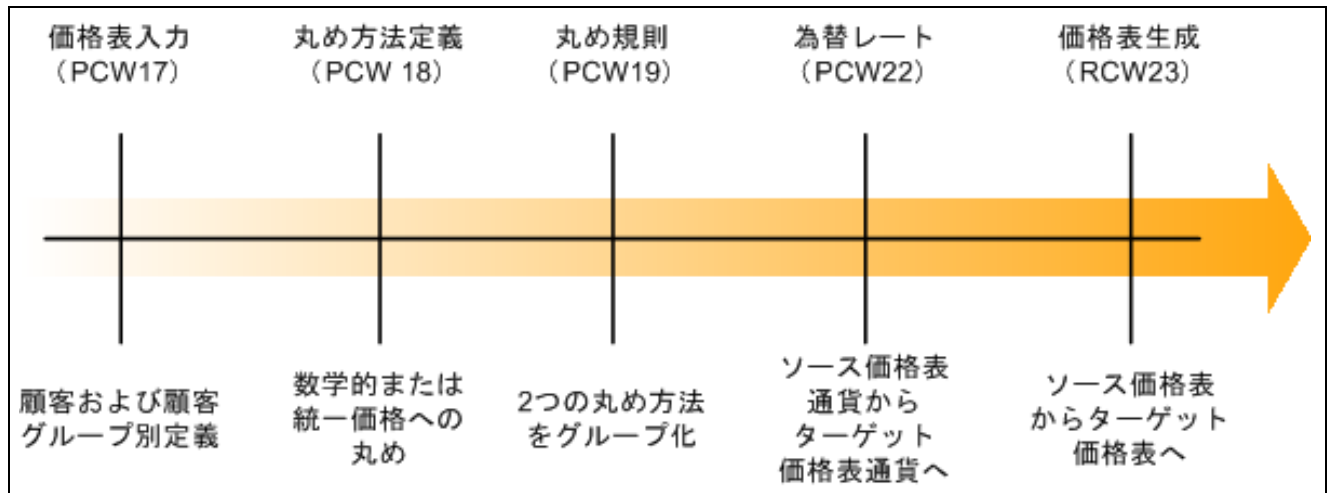
スタイル品目の価格表について

価格表はJD Edwards EnterpriseOneアパレル管理システムの価格を反映しています。このソリューションで提供する一連のアプリケーションにより、コレクションのコンセプトおよび顧客または流通チャネルの特性に基づいて、固有の条件を定義できます。価格表を使用して、スタイル品目の価格を作成します。

価格表を使用し、次の項目別にスタイル品目の価格を定義します。

- スタイル品目ルート・レベル0または子スタイル品目。
スタイル品目の価格を入力すると、子スタイル品目はその価格を継承します。この価格に対する例外を作成することもできます。価格例外は、色またはサイズなど特定のレベルに設定できます。
- 品目および事業所。
- 品目、事業所および保管場所。
- 顧客。
- 顧客グループまたは流通チャネル、あるいはその両方(小売、卸売、地域など)。
- 輸出市場向けの多通貨による価格設定。
価格表の作成時には為替レートを設定および使用できます。

次の図は、価格表プロセスを示しています。



価格表プロセス・フロー

各品目に対して、それぞれのレベルに基づいて個別に価格表を作成できます。たとえば、小さいサイズや薄い色よりも大きいサイズや濃い色に高い価格を設定できます。また、股下寸法が長いズボンに高い価格を設定できます。定義した価格は、特定の期間、定義した通貨で有効になります。たとえば、スタイル品目ジーンズは顧客4242に対して、2015年10月1日から2016年3月31日まで19.00 USDになります。価格例外を管理することもできます。

価格表を定義するには、次のステップを実行します。

1. 価格表を入力します。
価格表プログラム (PCW17) を使用して、顧客または顧客グループ別に価格を定義できます。価格は子スタイル品目によって継承されますが、価格に対する例外を定義できます。
2. 価格表を生成します。
価格表に対して価格表の作成プログラム (RCW23) を実行して、品目基本価格テーブル (F4106) に品目価格レコードを作成します。価格表の作成プログラムは、処理オプションの設定に応じて価格表プログラムから自動的にまたはオンデマンドで呼び出されます。または、処理オプションの設定によっては呼び出されません。
3. 丸め定義を作成します。
丸め方法プログラム (PCW18) を使用して、スタイル品目価格の丸めに、数学的丸めまたは統一価格への丸めのどちらを使用するかを指定します。
4. 丸め規則を作成します。
丸め規則プログラム (PCW19) を使用して、使用する丸め定義を指定します。丸め定義タイプ (数学的丸めおよび統一価格への丸め) のいずれか1つを使用して、丸め規則を作成できます。
5. 為替レートを定義します。
価格表為替レート・プログラム (PCW22) を使用して、為替レートを定義します。異なる有効日付を持つ、複数の為替レートを設定できます。これらの為替レートを使用して、品目の基本価格が作成されます。この為替レートは、JD Edwards EnterpriseOne Financials システムで使用される為替レートではありません。
6. 価格表を作成します。

価格をすべて手動で入力するのではなく、価格表生成プログラム(PCW25)を使用して価格を作成およびコピーできます。乗数、丸め規則および為替レートを使用して新しい価格表を作成することもできます。価格表生成プログラムは価格表生成レポート(RCW07)を呼び出して、価格表を生成します。

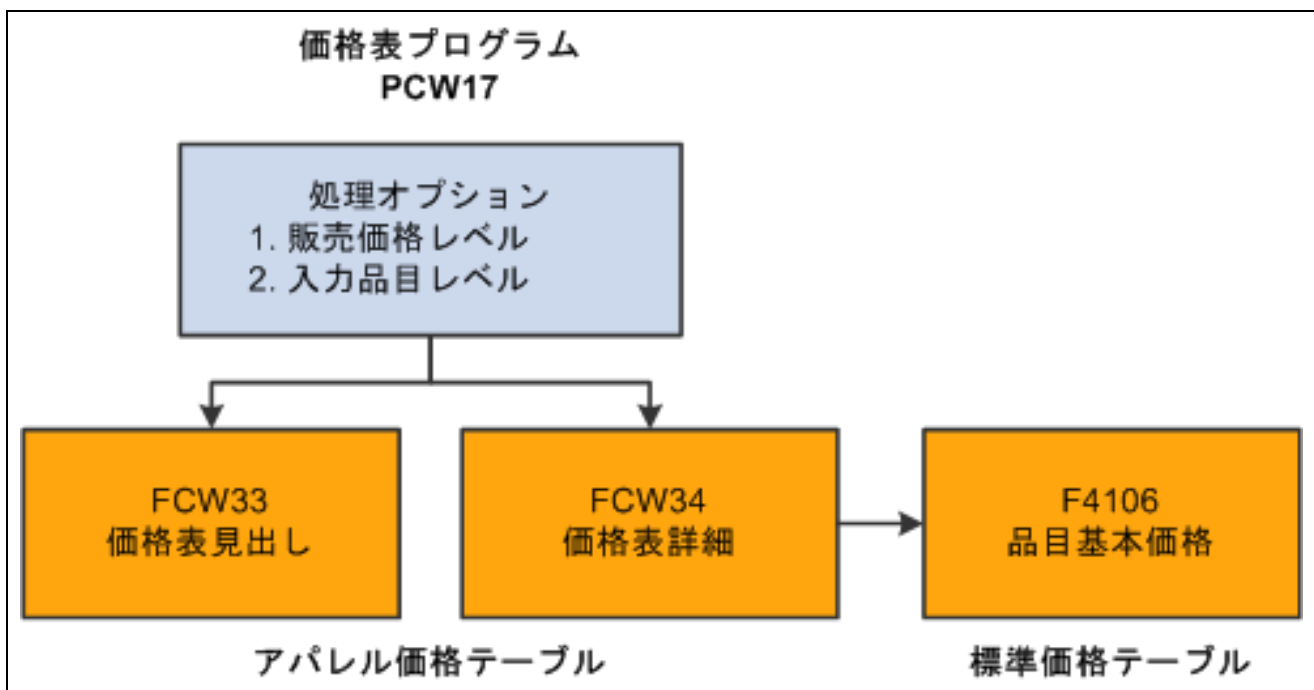
価格表プログラム(PCW17)を使用して、スタイル品目の基本価格を作成します。処理オプションの設定に応じて、次の3つの方法で価格を生成できます。

- 自動
「OK」を選択すると、価格が自動的に生成されます。
- オンデマンド
「ロー」メニューからオプションを選択して、価格を生成します。
- バッチ
価格表の作成プログラム(RCW23)を手動で実行して、価格を作成します。

処理オプションで、価格を入力する子品目レベルと、価格を作成する基準(スタイル品目、スタイル品目と事業所、またはスタイル品目と事業所と保管場所)を指定することもできます。

価格表プログラムを使用して価格を作成すると、価格表見出しテーブル(FCW33)および価格表明細テーブル(FCW34)に値が自動入力されます。これらのテーブルを使用して、標準の品目基本価格テーブル(F4106)に値が自動入力されます。F4106テーブルを更新する前に、丸め規則、乗数および為替レートを追加し、価格表プログラムを使用して入力した価格を更新できます。これらのタスクをすべて実行すると、F4106テーブルに基本価格が作成されます。

次の図は、価格表プログラムのしくみを示しています。



価格表プログラムの概要

注意: 価格表はアパレル管理専用で、JD Edwards EnterpriseOne価格管理とは関連がありません。

事前設定

価格表設定時にユーザー定義コード(UDC)を使用する場合は、価格表を設定する前に、次のUDCを定義します。

- コレクション・カテゴリ・コード1(41F/O1)
- コレクション・カテゴリ・コード2(41F/O2)
- コレクション・カテゴリ・コード3(41F/O3)
- コレクション・カテゴリ・コード4(41F/O4)
- コレクション・カテゴリ・コード5(41F/O5)

これらのUDCは価格表プログラムの「カテゴリ・コード」タブにあり、レポート用および分類用として使用できます。これらのフィールドは任意です。

UDCは、「アパレル設定」、「ユーザー定義コード」、「コレクション管理」メニュー(G41F462)から設定できます。

スタイル品目の価格表の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
価格表の処理	WCW17A	「受注管理」(G41F14)、「価格表の処理」	スタイル品目の価格表を検討します。
価格表見出し	WCW17C	「受注管理」(G41F14)、「価格表の処理」 「追加」をクリックします。	スタイル品目の価格表を設定します。
価格表明細	WCW17B	「受注管理」(G41F14)、「価格表の処理」 ローを選択して「ロー」メニューから「価格表明細」を選択します。	スタイル品目の価格表を設定します。

価格表(PCW17)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

処理

1. 販売価格レベル(必須) 標準販売価格を管理するレベル(品目レベル、事業所レベルで異なる販売価格、または事業所の各保管場所とロット・レベルで異なる販売価格)を指定します。販売価格は基本価格ファイル(F4106)で管理されます。有効なコードは次のとおりです。

- 1: 品目レベル
- 2: 品目/事業所レベル
- 3: 品目/事業所/保管場所レベル

2. 品目レベル番号 価格を定義できる品目レベルを指定します。

3. 販売価格レコードの更新 (必須)

品目基本価格の更新方法を指定します。値は次のとおりです。

- 1: 品目基本価格レコードを自動的に更新します。
- 2: 品目基本価格レコードをオンデマンドで更新します。
- 3: 品目基本価格レコードを更新しません。

この場合、価格表の作成レポート(RCW23)を実行して品目基本価格レコードを更新する必要があります。

これらの値はすべて、価格表明細の除去にも適用できます。

スタイル品目の価格表の設定

「価格表見出し」フォームにアクセスします。

1. 価格表の設定方法に応じて、「顧客番号」または「顧客価格グループ」オプションを選択します。
2. 「顧客番号」または「顧客価格グループ」フィールドに、顧客番号または顧客価格グループを入力します(前のステップに基づいて)。

顧客価格グループを入力すると、関連するカテゴリ・コードが表示され、この中から適切な値を選択できます。
3. 「通貨/日付」タブで、「通貨コード」、「有効日付」および「有効期限」フィールドに値を入力します。
4. 必要に応じて、「カテゴリ・コード」タブでカテゴリ・コードを入力します。

価格表には、最大5つの異なるカテゴリ・コードを入力できます。これらのカテゴリ・コードを、グループ化およびレポートに使用できます。

検討対象の特定の価格表を検索する際に、検索条件として使用することもできます。
5. コレクションを価格表に添付する場合は、「コレクション」タブで「コレクション」、「シーズン・コード」および「シーズン年」フィールドに値を入力します。

これらのフィールドは参考情報としてのみ使用され、コレクションの日付と価格表の日付との関係が調べられることはありません。
6. 「OK」をクリックして、価格表見出しを作成します。
7. 「価格表の処理」フォームで、「検索」をクリックして価格表を選択します。
8. 価格表を選択した状態で、「ロー」メニューから「価格表明細」を選択します。
9. 「ルート」カラムに、価格を作成するスタイル品目ルート・レベル0を入力します。

注意: このカラムの名前は、41F/CH UDCテーブルに入力されている説明によって異なります。

10. 下位の品目レベルで価格を作成する場合は、該当するカラムにレベルの値を入力します。
11. 事業所または保管場所別に価格を記録するように処理オプションを設定している場合は、適切な事業所または保管場所情報を入力します。
12. 「単価」カラムに品目の価格を入力します。

返品価格を作成する場合は、「返品価格」カラムに値を入力します。
13. 品目価格の入力が終了したら、「OK」をクリックします。

「販売価格レコードの更新」処理オプションで、品目基本価格を自動的に更新するように設定している場合、「OK」をクリックするとF4106テーブルが自動的に更新されます。

14. 「販売価格レコードの更新」処理オプションで、品目基本価格をオンデマンドで更新するように設定している場合、「価格表の処理」フォームの「ロー」メニューから「販売価格の更新」を選択して、品目基本価格を更新する必要があります。

注意: 品目基本価格をオンデマンドで更新するように処理オプションで設定していない場合、このオプションは無効になっています。

15. 「販売価格レコードの更新」処理オプションで、品目基本価格を更新しないように設定している場合、品目基本価格レコードを更新できるようになった時点で価格表の作成レポートを実行する必要があります。

注意: 品目基本価格をオンデマンドで更新するように処理オプションで設定していない場合、このオプションは無効になっています。

参照: JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理 9.0 製品ガイド、「JD Edwards EnterpriseOne受注管理のアパレル管理用操作」、「スタイル品目の価格表の設定」、「価格表の作成レポートの実行」

スタイル品目の価格表の除去

「価格表の処理」フォームにアクセスします。

1. 除去する価格表を検索して選択します。
2. 「ロー」メニューから「明細の除去」を選択します。
3. 「選択した価格表を除去しますか。」と表示されたら、「OK」を選択します。

警告: 価格表の除去を選択すると、価格表明細およびその価格表から作成したF4106テーブル内のすべての品目基本価格レコードが削除されます。

価格表の作成レポートの実行

価格表プログラムの「販売価格レコードの更新」処理オプションで、品目基本価格を更新しないように設定している場合、価格表の作成レポート(RCW23)を実行して、基本価格でF4106テーブルを更新する必要があります。

「レポート」(G41F19)、「価格表の作成」

スタイル品目の価格の丸め

この項では、価格の丸め方法および価格の丸め規則の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- スタイル品目の丸め方法の設定
- スタイル品目の丸め規則の設定

価格の丸め方法について

販売価格管理では、通貨、丸めおよび例外に基づき様々な規則を考慮して最終基本価格を作成します。規則は、次の2つのタイプの丸め方法に基づいています。

- 数学的丸め

数学的丸めでは、最も近い値に値を丸めることによって最終価格を計算します。この丸め方法では、特定範囲内の最も近い値に値を丸めます。範囲と値の両方を定義します。たとえば、通貨に応じて、価格を10の位または100の位に丸めます。

- 統一価格への丸め

統一価格への丸めでは、価格を購買担当者にとって有利な値に変換します。たとえば、購買担当者は、同じ品目の価格が10.00 USDよりも9.99 USDのほうが有利であると考えてでしょう。

丸め方法プログラム(PCW18)を使用し、数学的丸めまたは統一価格への丸めに基づいて、複数の価格範囲の丸め値リストを作成します。丸め値は価格表に自動的に適用されます。丸め方法は丸め方法テーブル(FCW35)に保存されます。

統一価格への丸めでは、指定した値が、特定の価格範囲の計算結果になります。たとえば、12.00 USDと15.00 USDの間の価格は14.99 USDに丸められます。複数の価格範囲を指定できます。

数学的丸めでは、指定した単位を使用して、特定の範囲の価格が丸められます。たとえば、0.00 USDから10.00 USDの価格の場合、最も近いドル値に価格が丸められます。

価格の丸め規則について

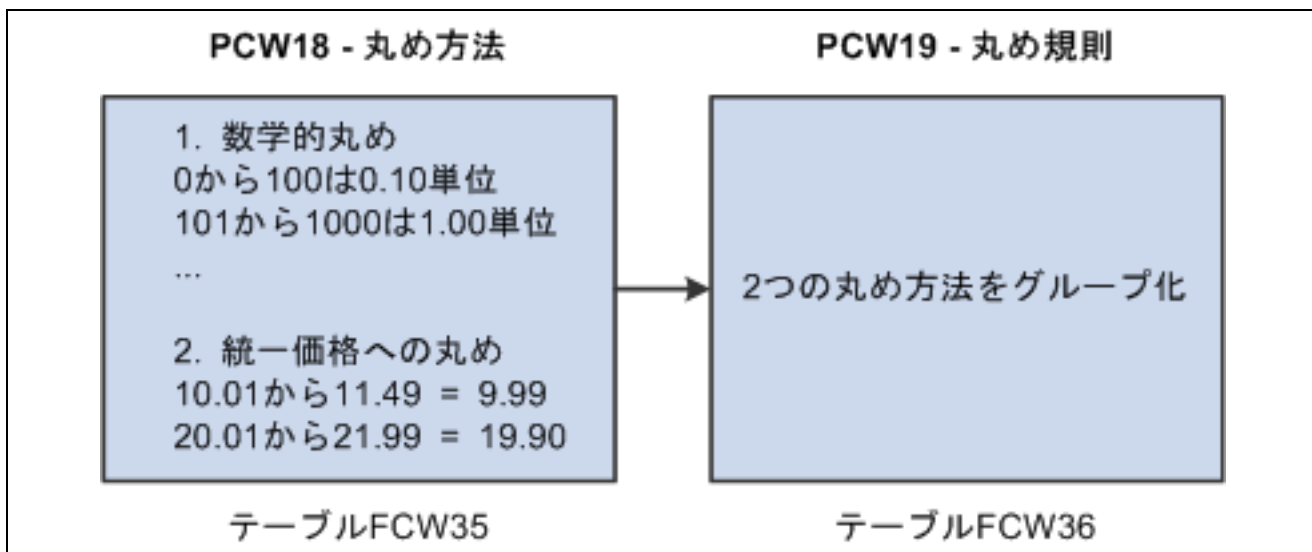
丸め方法を使用して、最終基本価格を計算するための丸め規則を作成します。販売価格では、次の3つのタイプの丸め規則が使用されます。

- 数学的丸め
- 統一価格への丸め
- 数学的丸めと統一価格への丸めの組合せ

この方法では、最初に数学的丸め、次に統一価格への丸めが使用されます。

丸め規則プログラム(PCW19)を使用し、数学的丸め、統一価格への丸めまたはこの2つの組合せに基づいて、丸め規則を作成します。丸め規則は丸め規則テーブル(FCW36)に保存されます。

次の図は、丸め方法と丸め規則の関係を示しています。



丸め方法と丸め規則の関係

事前設定

丸め方法および丸め規則を設定する前に、次のUDCが設定されていることを確認します。

- UDC 41F/RTには次の値を指定します。

コード	記述01	特殊取扱	ハードコード
M	数学的	<ブランクのまま>	Y
P	統一価格	<ブランクのまま>	Y

- UDC 41F/RMには次の値を指定します。

コード	記述01	特殊取扱	ハードコード
G	切上げ	<ブランクのまま>	Y
L	切捨て	<ブランクのまま>	Y
N	四捨五入	<ブランクのまま>	Y

- UDC 41F/STには次の値を指定します。

コード	記述01	特殊取扱	ハードコード
M	変更	<ブランクのまま>	Y
N	いいえ	<ブランクのまま>	Y
Y	はい	<ブランクのまま>	Y

スタイル品目の丸め価格に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
丸め方法の処理	WCW18A	「受注管理設定」 (G41F43)、「丸め方法」	スタイル品目の丸め方法を検討します。
丸め方法詳細	WCW18B	「受注管理設定」 (G41F43)、「丸め方法」 「追加」をクリックします。	スタイル品目の丸め方法を設定します。
丸め規則の処理	WCW19B	「受注管理設定」 (G41F43)、「丸め規則」	スタイル品目の丸め規則を検討します。
丸め規則詳細	WCW19A	「受注管理設定」 (G41F43)、「丸め規則」 「追加」をクリックします。	スタイル品目の丸め規則を設定します。

スタイル品目の丸め方法の設定

「丸め方法詳細」フォームにアクセスします。

- 作成する丸め方法のタイプについて、「数学的」または「統一価格」オプションを選択します。

2. 「丸め名」フィールドに丸め方法の名前を入力します。
このフィールドは必須です。
3. 「丸め開始」カラムに、価格範囲の始めの値を入力します。
4. 「丸め終了」カラムに、価格範囲の終わりの値を入力します。
5. 数学的丸めを使用する場合は、「丸め値」カラムに値を丸める位取りを入力します。
たとえば、次のような値を入力するとします。

開始	終了	値
0.00	100.00	1.00
101.00	1000.00	10.00
1001.00	10000.00	100.00

結果は次のようになります。

0と100の間のすべての価格は、整数に丸められます。

101と1000の間のすべての価格は、10で割り切れる数値に丸められます。

1001と10000の間のすべての価格は、100で割り切れる数値に丸められます。

6. 統一価格への丸めを使用する場合は、「丸め値」カラムに丸め後の価格を入力します。
たとえば、次のような値を入力するとします。

開始	終了	値
90.00	100.00	99.00
900.00	1000.00	999.00
1495.00	1505.00	1499.00
9000.00	10000.00	9999.00

7. 「OK」をクリックします。

スタイル品目の丸め規則の設定

「丸め規則詳細」フォームにアクセスします。

「丸め規則詳細」フォーム

スタイル品目の丸め規則を設定するには、次の手順に従います。

1. 「丸め規則」フィールドに丸め規則の名前を入力します。
2. 「丸めモード」フィールドに値を入力します。

このフィールドでは41F/RM UDCを使用します。値はハードコード化されています。値は、「G」(切上げ)、「L」(切捨て)および「N」(四捨五入)です。

丸めモードは、丸め方法で設定した数学的丸め範囲とともに使用されます。たとえば、丸め対象の値が975.366で、数学的丸め方法の値が次のとおりであるとします。

- 開始 = 950
- 終了 = 999
- 値 = 10

この例では、「丸めモード」の値が「L」(切捨て)の場合、最終的な丸め値は970になります。

「丸めモード」の値が「G」(切上げ)の場合、最終的な丸め値は980になります。

そして、「丸めモード」の値が「N」(四捨五入)の場合、最終的な丸め値は980になります。

3. 丸め規則に添付する方法として、数学的丸め、統一価格への丸めまたは両方の方法を選択します。

丸め規則には、1つの数学的丸め方法および1つの統一価格丸め方法のみを添付できます。どちらも1つずつ添付した場合、数学的丸めが最初に実行されます。

スタイル品目の価格表為替レートの設定

この項では、価格表為替レートの設定の概要、事前設定、およびスタイル品目の価格表為替レートの設定方法について説明します。

価格表為替レートの設定について

価格表を生成する際、ターゲット価格の計算に価格表為替レートを使用するかどうか指定できます。このレートは、Financialsシステムで使用されるJD Edwards EnterpriseOne標準の為替レートとは無関係です。アパレル業界では一般に、今後のシーズンに向けてスタイル品目と価格を設定する必要があります。為替レートを使用すれば、そのシーズンの為替レートを予想して、そのレートでスタイル品目の基本価格を作成できます。

有効日付を持つ複数の為替レートを設定できます。システムでは、システム日付に最も近い、システム日付より前の有効日付に定義されたレートが使用されます。たとえば、通貨がユーロの企業の場合、ユーザー定義為替レートを使用して、ユーロをU.S.ドル、日本円など様々な通貨に変換できます。価格表為替レートを設定するには、価格表為替レート・プログラム(PCW22)を使用します。価格表為替レートは価格表生成時に使用されます。この情報は価格表為替レート・テーブル(FCW38)に保存されます。

事前設定

価格表為替レートを設定する前に、価格表為替レート・プログラムの「通貨コード - 換算元」処理オプションを設定します。

スタイル品目の価格表為替レートの設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
価格表為替レートの処理	WCW22A	「受注管理設定」(G41F43)、「価格表為替レート」	スタイル品目の価格表為替レートを検討します。
価格表為替レート詳細	WCW22B	「受注管理設定」(G41F43)、「価格表為替レート」 「追加」をクリックします。	スタイル品目の価格表為替レートを設定します。

スタイル品目の価格表為替レートの設定

「価格表為替レート詳細」フォームにアクセスします。

1. 「換算元通貨」フィールドに通貨を入力します。
このフィールドに企業の通貨が自動的に表示されます。
2. 「換算先通貨」フィールドに通貨を入力します。
3. 換算レートの有効開始日付を「有効日付」カラムに入力します。
4. 通貨コードからターゲット通貨への変換に使用する換算レートを、「為替レート」カラムに入力します。
有効日付を持つ複数の異なる為替レートを入力できます。システム日付に最も近い、システム日付より前の有効日付を持つ為替レートが使用されます。
5. 「OK」をクリックします。

スタイル品目の価格表の生成

この項では、価格表の生成の概要、事前設定および次の方法について説明します。

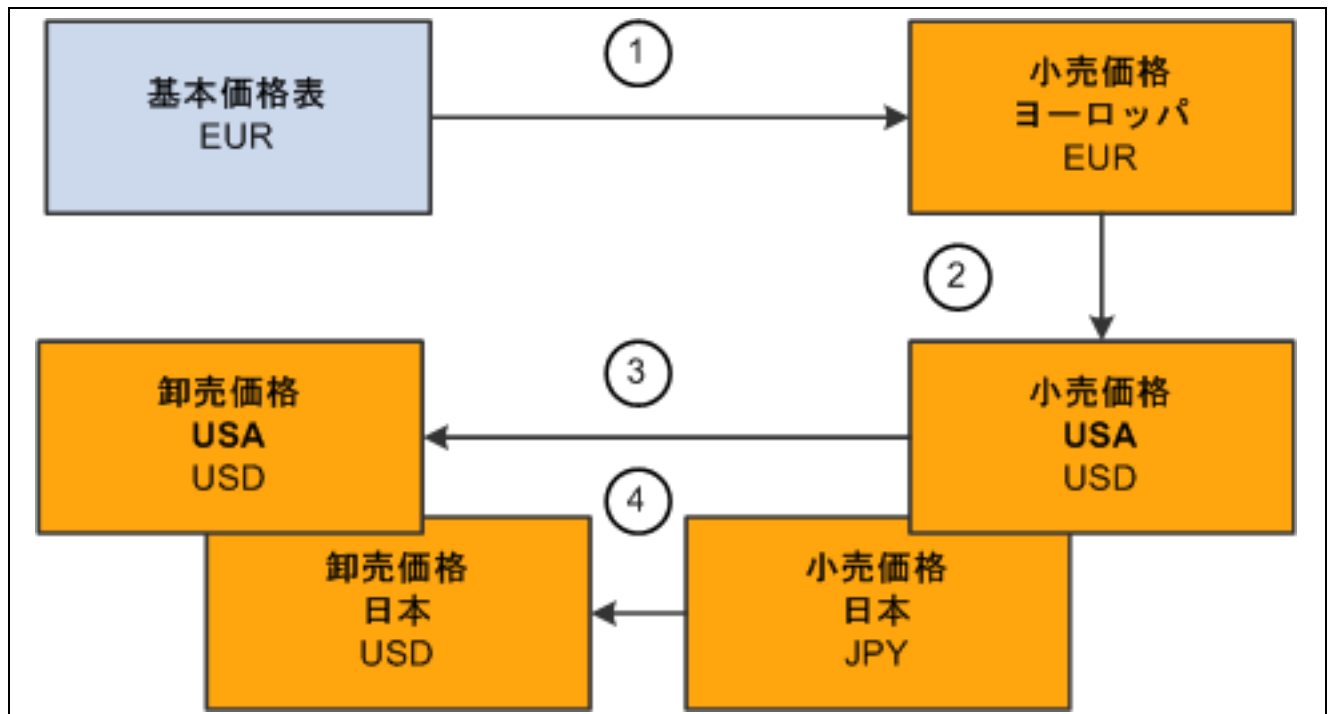
- 価格表生成(PCW25)の処理オプションの設定
- 価格表生成(RCW07)の処理オプションの設定
- スタイル品目の価格表の生成
- 1つのスタイル品目の価格の生成
- 品目例外の作成

価格表生成について

価格表生成では、ソース価格表からターゲット価格表に価格をコピーできます。この機能により、すべての価格を個別に手動で作成することなく、多数の価格を容易に設定することが可能になります。ターゲット価格の生成時に特定の為替レート、乗数、丸め規則を使用することもできます。

乗数および丸め規則に対して、品目グループ別に例外を定義できます。たとえば、特定の色またはサイズに固有の価格例外を設定できます。

たとえば、通貨がEUROの企業の場合、ユーザー定義為替レートを使用して、EUROをUSD、JPYなど様々な通貨に変換できます。次の図は、換算プロセスを示しています。



ユーロでの基本価格からの価格表生成

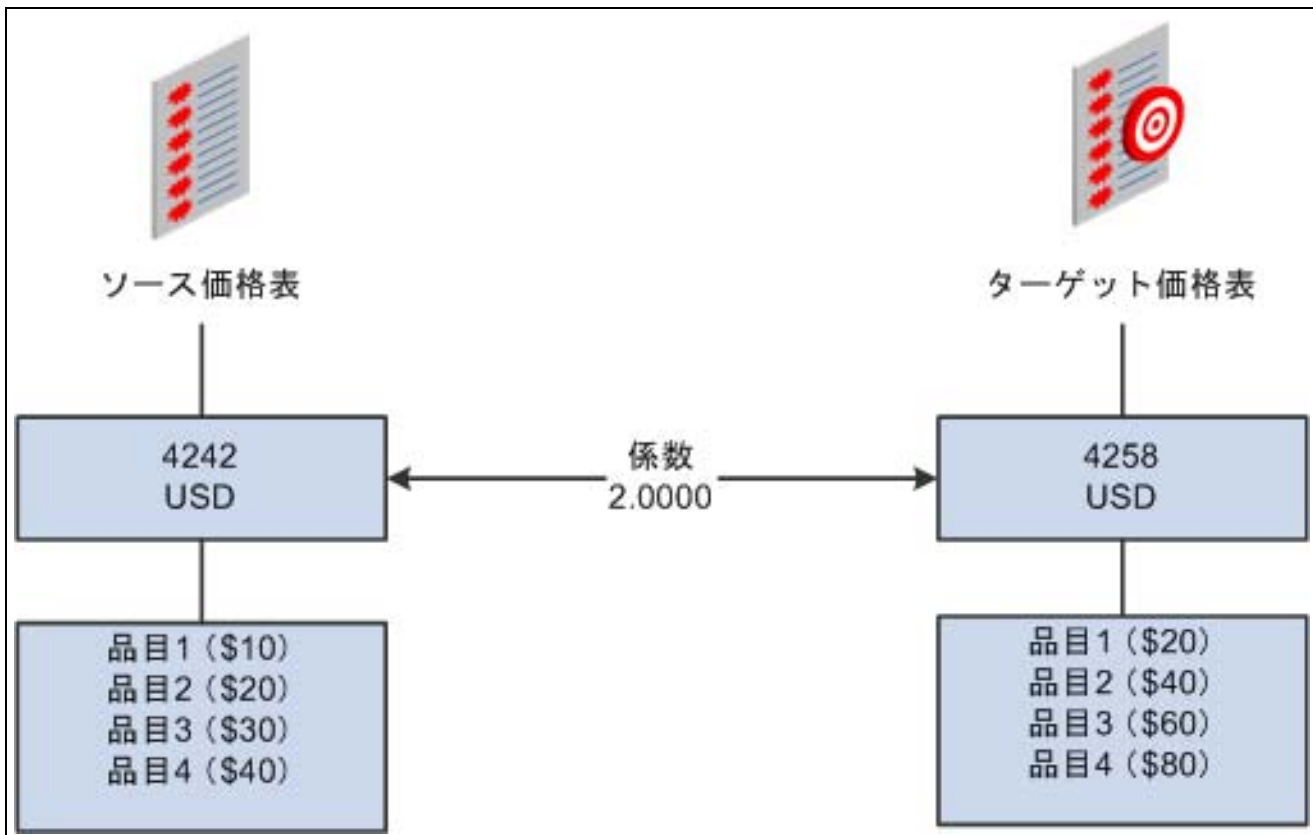
価格表生成プログラムを使用して、ソース価格表からターゲット価格表に価格をコピーします。ソースおよびターゲット情報の設定後、「ロー」メニューから価格表生成レポート(RCW07)を呼び出すオプションを選択します。このレポートを実行すると、ターゲット価格表に対して実際にコピーされます。価格表生成プログラムによって、価格表が価格表生成(FCW40)テーブルに、価格表例外情報が価格表生成 - 例外(FCW42)テーブルに書き込まれます。

価格表生成プログラムを使用してソース価格表の全品目の価格をコピーするか、価格表生成レポートの処理オプションに基づいて1つの品目のみをコピーできます。この機能を活用するには、異なるバージョンの価格表生成レポートを設定し、価格表生成プログラムから呼び出すバージョンを指定します。ソース価格表のスタイル品目に変更を加えた場合、またはソース価格表に新しいスタイル品目を追加した場合は、1つのスタイル品目のみをコピーできます。

例: 価格表の生成

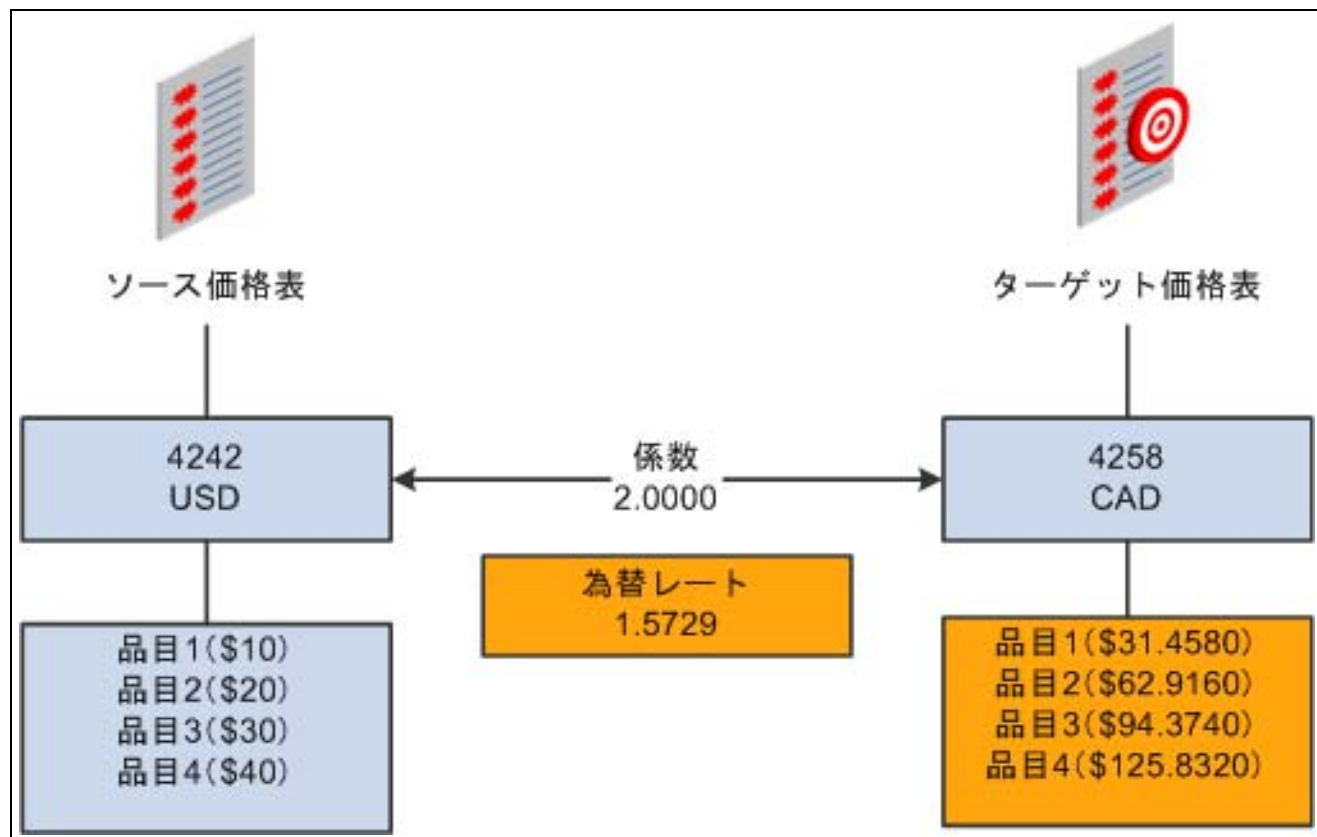
価格表生成プログラムを使用して、価格表をコピーできます。係数、為替レートおよび丸め規則を使用してターゲット価格表を作成することもできます。

次の図は、係数を使用した価格表生成を示しています。



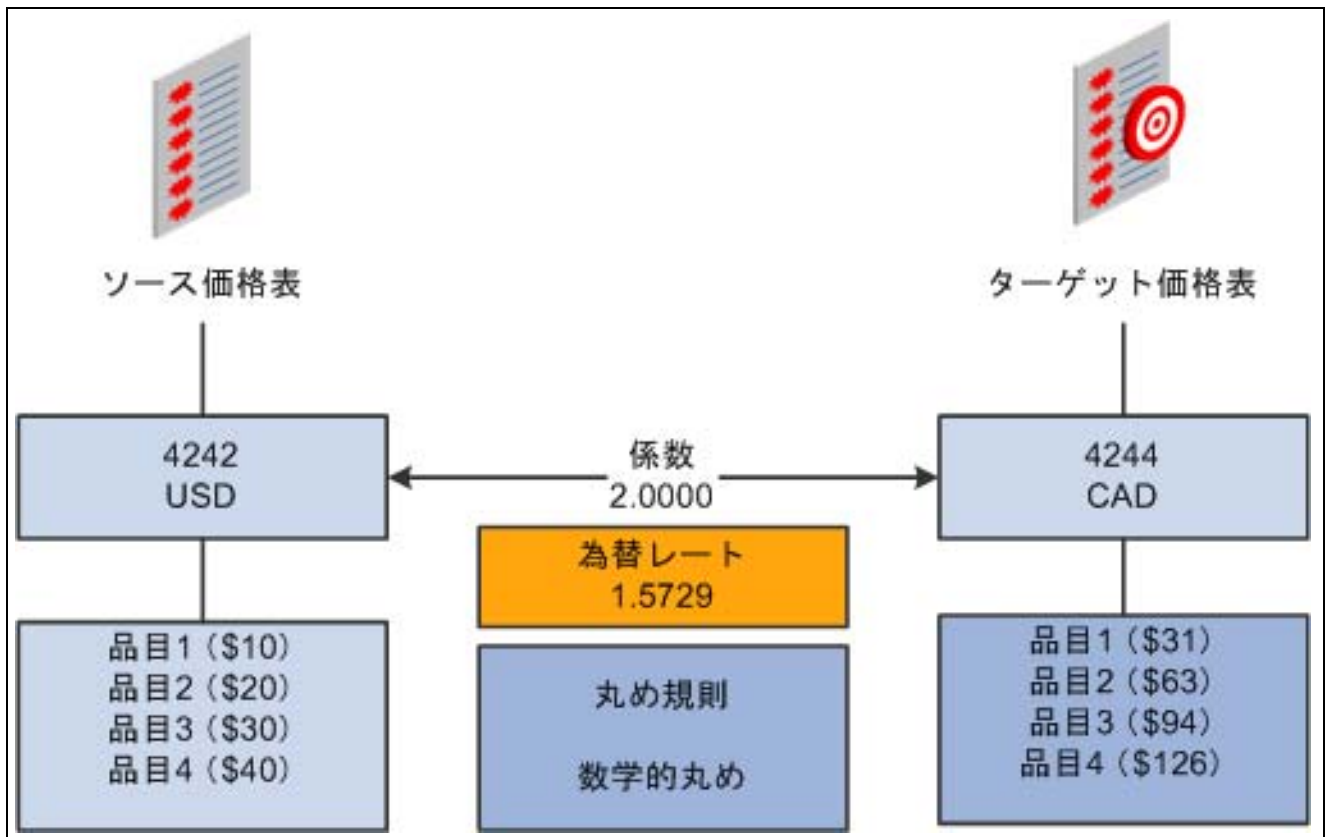
係数を使用した全品目の価格表生成

次の図は、係数と為替レートを使用した価格表生成を示しています。



係数と為替レートを使用した全品目の価格表生成

次の図は、係数、為替レートおよび丸め規則を使用した価格表生成を示しています。



係数、為替レートおよび丸め規則を使用した全品目の価格表生成

事前設定

この項で説明されているタスクを実行するには、次の点を確認してください。

- 価格生成プロセスを実行する前に、ターゲット価格表の価格表見出しレコード (FCW33) が存在することを確認します。
- すべてのターゲット価格表見出しレコードのスタイル品目価格レベルが、ソース価格表のスタイル品目価格レベルと等しいことを確認します。

スタイル品目の価格表生成に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
価格表生成の処理	WCW25A	「受注管理」(G41F14)、 「価格表生成」	スタイル品目の価格表を検討します。
価格表明細の生成	WCW25B	「受注管理」(G41F14)、 「価格表生成」 「追加」をクリックします。	スタイル品目の価格表を生成します。
価格表見出しの検索/選択	WCW26A	「受注管理」(G41F14)、 「価格表生成」 「ソース価格表」または 「ターゲット価格表」アイコン をクリックします。	ソースおよびターゲット価格表を選択します。
スタイル品目の検索/選択	WCW41011A	「受注管理」(G41F14)、 「価格表生成」 「価格表生成の処理」 フォームで、ローを選択して 「ロー」メニューから「1品 目のコピー」を選択します。	1つのスタイル品目の価格表を生成します。
品目例外の処理	WCW25C	「受注管理」(G41F14)、 「価格表生成」 「価格表生成の処理」 フォームで、ローを選択して 「ロー」メニューから「品 目例外」を選択します。	品目例外を検討します。
品目例外詳細	WCW25E	「受注管理」(G41F14)、 「価格表生成」 「品目例外の処理」フォー ムで、「追加」をクリック します。	品目例外を作成します。

価格表生成(PCW25)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

処理

- 通貨コード** ソース価格表とターゲット価格表間でトランザクションが処理される通貨コードを指定します。
- 価格表生成のバージョン (RCW07)** 価格表生成に使用される価格表生成(RCW07)のバージョンを指定します。このオプションを空白にすると、バージョンXJDE0001が使用されます。
- 価格表生成の処理** 価格表の処理方法を指定します。値は次のとおりです。
空白: 既存のすべてのターゲット品目が削除され、すべてのソース品目から価格がコピーされます。
1: 既存のターゲット品目は削除されず、ソース内の新しい品目のみが処理されます。

2: 既存のターゲット品目は削除されず、ソース内のすべての品目が処理されます。この処理オプションは、すべての品目が処理される場合にのみ適用できます。

4. 品目例外

品目例外の設定方法を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 複数の品目グループを使用して、品目例外を定義できます。

1: 1つの品目グループのみを使用して、品目例外を定義できます。

価格表生成 (RCW07) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

処理

1. 1品目の価格表を生成 (Y/N)

1品目の価格表と全品目の価格表のどちらを生成するか指定します。値は次のとおりです。

Y: 1品目の価格表を生成します。

N: 全品目の価格表を生成します。

スタイル品目の価格表の生成

「価格表明細の生成」フォームにアクセスします。

価格表生成 - 価格表明細の生成

OK(O) 取消(L) ツール(T)

ソース価格表 アイコンをクリック => 係数 * 22.36660 ターゲット価格表 アイコンをクリック =>

ソース価格表

顧客価格グループ CUSA1

通貨コード USD

有効開始日付 2010/01/01

有効期限 2040/01/01

販売価格レベル 2

ターゲット価格表

顧客番号 3118 American Customer

通貨コード USD

有効開始日付 2010/01/01

有効期限 2040/01/01

販売価格レベル 2

丸め規則 NES PP 丸めモード N 四捨五入

数学的丸め 統一価格への丸め PRICE PT 3

数学的

統一価格

100.5100 ---> 120.5000 = 1

1000.5100 ---> 1090.5000 =

「価格表明細の生成」フォーム

スタイル品目の価格表を生成するには、次の手順に従います。

1. 「ソース価格表」アイコンをクリックします。
2. 「価格表見出しの検索/選択」フォームでソース価格表として使用する価格表を選択し、「選択」をクリックします。
「ソース価格表」セクションに価格表見出し情報が入力されます。
3. 「ターゲット価格表」アイコンをクリックします。
4. 「価格表見出しの検索/選択」フォームでターゲット価格表として使用する価格表を選択し、「選択」をクリックします。
ターゲット価格表の販売価格レベルは、ソース価格表と同じである必要があります。
「ターゲット価格表」セクションに価格表見出し情報が入力されます。
5. 「係数」フィールドに係数を入力します。
この数値は、新しい価格表を計算する際に乗数として使用されます。たとえば、係数に「2.00000」を入力すると、ターゲット価格はソース価格値の2倍になります。このフィールドは必須であるため、乗数を使用しない場合は、「係数」フィールドに「1.00000」と入力します。
6. 使用する丸め規則を「丸め規則」フィールドに入力します。
検索ボタンを使用して、丸め規則を選択できます。丸め規則を選択すると、残りのフィールドに値が自動的に入力されます。
7. 「OK」をクリックし、「取消」をクリックして「価格表の処理」フォームに戻ります。
8. 前述の手順で作成した新しい価格表レコードを検索して選択します。
9. 「ロー」メニューから「全品目のコピー」を選択します。
このオプションを選択すると、価格表生成レポートが呼び出され、全品目がソース価格表からターゲット価格表にコピーされます。

注意: このオプションを使用できるかどうかは、呼び出している価格表生成レポートのバージョンに設定されている処理オプションによって決まります。この処理オプションを使用して、1品目の価格を生成するか、全品目の価格を生成するかを指定します。価格表生成のバージョンは、価格表生成プログラムの処理オプションで指定されます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理 9.0 製品ガイド、「JD Edwards EnterpriseOne 受注管理のアパレル管理用操作」、「スタイル品目の価格表の生成」、「価格表生成(RCW07)の処理オプションの設定」

10. レポートの出力を表示して、結果を確認します。

1つのスタイル品目の価格の生成

「価格表生成の処理」フォームにアクセスします。

注意: ソース価格表に新しい価格を追加したり、ソース価格表の1つの価格を変更する場合、価格表の全価格を再生成するのではなく、1スタイル品目の価格を再生成するだけで十分な場合があります。

1. 再計算する品目価格を含む価格表のローを選択します。
2. 「ロー」メニューから「1品目のコピー」を選択します。

注意: このオプションを使用できるかどうかは、呼び出している価格表生成レポートのバージョンに設定されている処理オプションによって決まります。この処理オプションを使用して、1スタイル品目の価格を生成するか、全スタイル品目の価格を生成するかを指定します。価格表生成のバージョンは、価格表生成プログラムの処理オプションで指定されます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理 9.0 製品ガイド、「JD Edwards EnterpriseOne 受注管理のアパレル管理用操作」、「スタイル品目の価格表の生成」、「価格表生成(RCW07)の処理オプションの設定」

3. 価格を再計算するスタイル品目を検索して選択し、「選択」をクリックします。
4. レポートを実行します。

価格表生成(RCW07)レポートが実行され、スタイル品目がソース価格表からターゲット価格表にコピーされます。

5. レポートの出力を表示して、結果を確認します。

品目例外の作成

「品目例外詳細」フォームにアクセスします。

注意: スタイル品目の1つのグループまたは複数のグループについて、係数を個別に使用できます。スタイル品目に個別にパラメータを定義した場合、価格表全体に定義した汎用パラメータがこれらのパラメータに一時変更されます。

1. 例外を定義する価格表に対応するローを選択します。
2. 「ロー」メニューから「品目例外」を選択します。
3. 「追加」をクリックして、価格計算の新しいパラメータを定義します。
4. 定義する品目価格グループを、「品目価格グループ」フィールドに入力します。
5. 価格生成に使用する乗数を、「係数」フィールドに入力します。
6. 使用する丸め規則を「丸め規則」フィールドに入力します。

検索ボタンを使用して、丸め規則を選択できます。丸め規則を選択すると、残りのフィールドに値が自動的に入力されます。

7. 「OK」をクリックして「価格表生成の処理」フォームに戻ります。

受注オーダー入力(P42101)を使用したスタイル品目の受注オーダーの作成

この項では、スタイル品目の受注オーダー作成の概要、事前設定、およびスタイル品目の受注オーダーの作成方法について説明します。

スタイル品目の受注オーダーの作成について

JD Edwards EnterpriseOne 受注管理システムには、スタイル品目の受注オーダーの作成をサポートするために、次のような機能があります。

- 複数属性スタイル品目のマトリックス入力
- コレクション統合
- サイズによる合計数量の自動分割

受注オーダー入力時に、マトリックス統合を使用してスタイル品目を最下位の子品目レベルではなく上位レベルで管理できます。スタイル品目を処理する際、受注オーダー入力プログラム (P4210 および P42101) は、マトリックス・ワークファイル・テーブル (FCW20) を使用するマトリックス・オーダー入力プログラム (PCW10) を呼び出します。スタイル品目に対してマトリックス・オーダー入力プログラムが開くのは、品目構造詳細テーブル (FCW01) にそのスタイル品目の構造がある場合のみです。マトリックス入力プログラムは、「オーダー明細」フォームで行からカーソルを移動すると表示されます。「マトリックス・オーダー入力」フォームを使用すると、子スタイル品目の数量をサイズや色などの属性別に簡単に入力できます。

受注オーダー入力はコレクション管理と統合されています。処理オプションを使用してデフォルトのコレクションを設定することにより、受注オーダーに値を自動入力できます。受注オーダー入力時にチェックを実行して、入力した品目が受注オーダーに添付されているコレクションに属しているか確認できます。または、コレクション・テンプレートを作成して受注オーダー入力を簡略化することもできます。

注意: マトリックス入力プログラムでは、受注オーダー入力プログラムで入力した単位に関係なく、数量の処理時に基本単位のみをサポートします。

スタイル品目ルート・レベル0の基本単位以外の取引単位を入力すると、単位が異なることを知らせる警告メッセージが表示されます。受注オーダー入力プログラムで当初入力した数量またはマトリックス入力での入力した数量は、基本単位を使用して処理されます。

サイズ加重またはサイズ分割機能が設定されている場合は、「マトリックス入力」フォームの「合計数量」フィールドに数量を手動で入力できます。その後、このサイズ加重またはサイズ分割設定を使用して、サイズ全体に数量が割り当てられます。「マトリックス入力」フォームが表示される前に「オーダー明細」フォームに数量を入力するには、まず「オーダー数量」フィールドに値を入力してから「品目番号」フィールドにスタイル品目を入力して、ローからカーソルを移動します。

参照: JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理 9.0 製品ガイド、「JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理のアパレル管理用操作」、「サイズ・マトリックス・グリッドの定義」、「サイズ分割の定義」

参照: JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理 9.0 製品ガイド、「JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理のアパレル管理用操作」、「サイズ・マトリックス・グリッドの定義」、「サイズ加重の定義」(画面上では「サイズ重量の定義」)

注意: 「アパレル管理モジュールの使用」システム固定情報 (SY41F) が JD Edwards EnterpriseOne システム制御プログラム (P99410) で無効になっている場合、スタイル品目はオーダーできますが、「マトリックス入力」フォームは表示されません。

受注オーダー入力プログラム

JD Edwards EnterpriseOne 受注管理テーブルに受注オーダー・レコードを作成する場合、受注オーダー入力プログラム (P42101) だけでなく受注オーダー入力プログラム (P4210) も使用できます。2つの受注オーダー入力プログラム (P4210 と P42101) を連携させて、受注オーダー情報を処理します。両プログラムとも、システムの同じテーブルを更新します。受注オーダーの作成や変更には P4210 入力プログラムを使用しない場合でも、処理情報を指定するこのプログラムのバージョンを作成する必要があります。その際、P4210 プログラムのこのバージョンを、P42101 プログラムの処理オプションで使用します。P42101 を使用して受注オーダーの作成や変更を行う場合、受注オーダーの処理では、P42101 の処理オプションの情報に加えて P4210 の指定したバージョンの情報が使用されます。

受注オーダー入力とコレクション

受注オーダー入力プログラムでは、コレクションおよびコレクション・テンプレートによるスタイル品目の受注オーダー入力をサポートしています。受注オーダー入力プログラムの「スタイル」タブで、受注オーダー入力時にコレクションが自動的に使用されるように処理オプションを設定できます。

「受注オーダー見出し」フォームにコレクションを入力して、オーダーの全スタイル品目とそのコレクションに含まれているかどうか検証できます。

コレクション・テンプレートを使用して、受注オーダー入力を簡略化することもできます。コレクション・テンプレートを受注オーダーに添付すると、「マトリックス入力」フォームに、そのコレクション・テンプレートの全スタイル品目の行が自動的に追加されます。このため、入力する必要があるのは各スタイル品目に必要な数量のみです。

受注オーダー入力プログラム (P4210) 内で、「フォーム」メニューから「スタイル・テンプレート」を選択してスタイル・テンプレート・プログラム (PCW43) を呼び出して、コレクション・テンプレートを使用できます。「コレクション・テンプレートの検索/選択」フォーム (WCW43A) でコレクション・テンプレートを選択すると、コレクション・テンプレートは「マトリックス入力」フォームに渡されて処理されます。

受注オーダー入力プログラム (P4210、P42101) では、受注オーダー明細行にスタイル品目番号ではなくコレクション・テンプレート名を入力することもできます。コレクション・テンプレートがシステムで認識されるためには、テンプレートに適切なプレフィックスを付ける必要があります。このプレフィックスは、受注オーダー入力プログラム (P4210) の「コレクション・テンプレートのプレフィックス」処理オプションで指定されます。たとえば、処理オプションで「%」をプレフィックスに指定した場合、受注オーダー明細行に「%<テンプレート名>」と入力すれば、コレクション・テンプレートを取得できます。品目番号フィールドにプレフィックスのみを入力し、ビジュアル・アシストを使用してコレクションを選択することもできます。受注オーダー入力プログラム (P4210) のコレクション検証に関する処理オプションによっては、テンプレート内の品目が、受注オーダー見出しに添付されているコレクションに属している必要があります。

参照: JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理 9.0 製品ガイド、「JD Edwards EnterpriseOne 受注管理のアップレル管理用操作」、「受注オーダー入力 (P4210) を使用したスタイル品目の受注オーダーの入力」、「事前設定」

受注オーダー入力の考慮事項の設定

スタイル品目に割当を使用していて、一括受注オーダーを使用する場合、その一括受注オーダー処理で「その他数量2 - SO (受注オーダー)」フィールドが使用されるように設定するには、受注オーダー入力プログラム (P4210) の「引当て」タブで「数量1または数量2への引当」処理オプションを設定します。

事前設定

スタイル品目の受注オーダーを作成する前に、次の作業を実行しておく必要があります。

- 受注オーダー入力プログラム (P42101) の ZJDE0007 (受注オーダー入力 - スタイル) バージョンを使用して、スタイル品目の受注オーダーを作成するか、独自のバージョンを設定します。
- 受注オーダー入力プログラム (P42101) の「バージョン」タブの「受注オーダー・モデルのバージョン」処理オプションで指定されている受注オーダー入力 (P4210) のバージョンに対して、処理オプションを設定します。
- マトリックス入力プログラム (PCW10) の処理オプションを設定して、数量を自動分割するかどうか、および自動分割を手動入力値で一時変更できるかどうかを指定します。

数量が自動分割されるようにこの処理オプションを設定すると、スタイル品目または顧客が使用するマトリックス・グリッドのサイズ分割設定に従って数量が分割されます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理 9.0 製品ガイド、「JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理のアップレル管理用操作」、「サイズ・マトリックス・グリッドの定義」、「サイズ分割の定義」

- マトリックス入力プログラム(PCW10)の処理オプションを設定して、標準在庫状況または割当可能数量のどちらを表示するかを指定します。

参照: JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理 9.0 製品ガイド、「JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理における割当の処理」

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne 受注管理 9.0 製品ガイド、

スタイル品目の受注オーダーの作成に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
既存オーダーの管理	W42101C	「受注管理」(G41F14)、「受注オーダーの作成」	受注オーダーを検討します。
オーダー見出しの改訂	W42101E	「受注管理」(G41F14)、「受注オーダーの作成」 「追加」をクリックします。	スタイル品目の受注オーダーを作成します。
新規オーダーの入力	W42101D	「受注管理」(G41F14)、「受注オーダーの作成」 「オーダー見出しの改訂」フォームで「保存して続行」をクリックします。	スタイル品目の受注オーダーを作成します。
マトリックス入力	WCW10B	「受注管理」(G41F14)、「受注オーダーの作成」 「新規オーダーの入力」フォームでスタイル品目を入力し、ローからカーソルを移動します。	スタイル品目の受注オーダーを作成します。

スタイル品目の受注オーダーの作成

「オーダー見出しの改訂」フォームにアクセスします。

マトリックス入力 1 ?

OK(O) 検索(D) 取消(L) ロー(R) ツール(T)

マトリックス入力 オーダー見出し 日付

スタイル品目ルート・レベル0 SKIRTB1 事業所 324131

保管場所

ロットリアル

レコード 1-4 グリッドのカスタマイズ

記述	2 Level Colors	2 Level Colors記述	合計数量	6	8	10
Skirt for BPF1	BLK					
Skirt for BPF1	BLU					
Skirt for BPF1	RD					
Skirt for BPF1	SLV					

選択数量合計

「マトリックス入力」フォーム

スタイル品目の受注オーダーを作成するには、次の手順に従います。

1. オーダー見出しの必須フィールドに値を入力し、その他の情報を追加します。
参照: JD Edwards EnterpriseOne 受注管理 9.0 製品ガイド、
2. オーダーでコレクションを使用している場合は、「スタイル」タブで次のフィールドに値を入力します。

コレクション

通常は1つのブランド(製造業者)、シーズン、年および市場に向けて同時に発表される、統一性のある品目の集まりを表すコードを入力します。コレクション見出しテーブル(FCW06)の値を入力する必要があります。

ビジュアル・アシストを使用してコレクションを選択すると、そのコレクションに基づいて残りのフィールドに値が自動的に入力されます。

シーズン・コード

コレクションが製造されるシーズンを示すコードを入力します。

シーズン年

コレクションの製造年を示すコードを入力します。

価格有効日付

コレクションに適用される価格を決定する日付を入力します。

注意: コレクション、シーズン・コードおよびシーズン年の有効な組合せを入力しないと、エラーが表示されます。また、受注オーダー入力(P4210)の「品目をコレクションに対して検証」処理オプションが「1」または「2」に設定されている場合、「コレクション」フィールドは必須フィールドになり、ブランクにするとエラーが表示されます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理 9.0 製品ガイド、「JD Edwards EnterpriseOne 受注管理のアパレル管理用操作」、「受注オーダー入力(P4210)を使用したスタイル品目の受注オーダーの入力」、「事前設定」

3. 「保存して続行」をクリックします。
4. 「新規オーダーの入力」フォームで、数量および品目番号などのスタイル品目情報を最初の行に入力して、ローからカーソルを移動します。

スタイル品目番号のみを入力して、「マトリックス入力」フォームに数量を入力することもできます。ローからカーソルを移動すると、「マトリックス入力」フォームが表示されます。

注意:「品目番号」カラムにスタイル品目ルート・レベル0を入力するか、任意の値を入力します。たとえば、「JEAN」と入力すると、マトリックス入力にジーンズのすべての色およびサイズが表示されます。また、「JEAN.BLK」と入力すると、マトリックス入力に黒いジーンズのすべてのサイズが表示されます。

注意:「品目番号」カラムに、スタイル品目番号ではなくコレクション・テンプレート名を入力することもできます。コレクション・テンプレートがシステムで認識されるためには、テンプレートの前に適切な記号を付ける必要があります。この記号は、受注オーダー入力プログラム(P4210)の「コレクション・テンプレートのプレフィックス」処理オプションで指定されます。

「品目番号」カラムにコレクション・テンプレートを入力すると、そのコレクション・テンプレートに関連するすべてのスタイル品目を取り込まれ、「マトリックス入力」フォームにそれらの品目の行が自動的に追加されます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理 9.0 製品ガイド、「JD Edwards EnterpriseOne受注管理のアパレル管理用操作」、「受注オーダー入力(P4210)を使用したスタイル品目の受注オーダーの入力」、「事前設定」

5. 子スタイル品目ごとに、該当カラムにオーダーする数量を入力します。

マトリックス入力の処理オプションが、数量を自動分割するように設定されている場合、各子スタイル品目にはすでに数量が入力されています。数量は、特定のスタイル品目または顧客が使用するマトリックス・グリッドのサイズ分割設定に従って分割されます。マトリックス入力の処理オプションが、一時変更を許可するように設定されている場合、これらの数量を手動で一時変更できます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理 9.0 製品ガイド、「JD Edwards EnterpriseOne在庫管理のアパレル管理用操作」、「スタイル品目の在庫出庫」、「マトリックス入力(PCW10)の処理オプションの設定」

参照: JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理 9.0 製品ガイド、「JD Edwards EnterpriseOne在庫管理のアパレル管理用操作」、「サイズ・マトリックス・グリッドの定義」、「サイズ分割の定義」

注意:「新規オーダーの入力」フォームで数量を入力すると、フォーム下部の「当初数量合計」フィールドに、受注オーダー行に入力した当初数量が表示されます。「選択数量合計」フィールドには、マトリックス入力に入力した数量合計が反映されます。これらのフィールドを使用して、入力した当初数量が維持されていることを確認します。「選択数量合計」と「当初数量合計」が等しくない場合は、オーダーを作成しようとするとエラーが表示されます。

6. 必要な数量をすべて入力したら、「OK」をクリックします。

受注オーダーに新しい行が追加され、各子スタイル品目のオーダー数量が反映されます。

7. 受注オーダー明細行を検討して、新たなオーダーを入力する場合は「送信して新規入力」をクリックし、それ以外の場合は「送信して閉じる」をクリックします。
8. 既存の受注オーダーを更新するには、「ロー」メニューから「オーダー」、「スタイル・マトリックス入力」を選択します。

このオプションではマトリックス入力を実行できるため、受注オーダー明細行を個別に更新する必要はありません。

オプション: 「マトリックス入力」フォームの見出しの「理由コード」フィールドに、更新理由を入力することもできます。「マトリックス入力」フォームで取り消されたすべての受注オーダー行で、この理由コードが保存されます。変更のみの場合、そのオーダー行の理由コードは保存されません。

注意: 既存の受注オーダーを更新するときは、新しいスタイル品目行は入力できません。また、監査ログを有効にしている場合、このオプションは無効になります。

受注オーダー入力 (P4210) を使用したスタイル品目の受注オーダーの入力

この項では、スタイル品目の受注オーダー入力の概要、事前設定、およびスタイル品目の受注オーダー入力に使用するフォームについて説明します。

スタイル品目の受注オーダー入力について

JD Edwards EnterpriseOne 受注管理テーブルに受注オーダー・レコードを作成する場合、受注オーダー入力プログラム (P42101) だけでなく受注オーダー入力プログラム (P4210) も使用できます。2つの受注オーダー入力プログラム (P4210とP42101) を連携させて、受注オーダー情報を処理します。両プログラムとも、システムの同じテーブルを更新します。受注オーダーの作成や変更はP4210入力プログラムを使用しない場合でも、処理情報を指定するこのプログラムのバージョンを作成する必要があります。その際、P4210プログラムのこのバージョンを、P42101プログラムの処理オプションで使用します。P42101を使用して受注オーダーの作成や変更を行う場合、受注オーダーの処理では、P42101の処理オプションの情報に加えてP4210の指定したバージョンの情報が使用されます。

受注オーダー入力プログラムで受注オーダーを入力する際、オーダーにコレクション・テンプレートを使用できます。コレクション・テンプレートを使用するよう選択すると、そのコレクション・テンプレートに関連するすべてのスタイル品目が、「マトリックス入力」フォームに行品目として自動的に表示されます。テンプレートを使用すると、品目を個別に入力する必要がないため、受注オーダー入力が効率的になります。

コレクション・テンプレートを使用するには、「受注オーダー明細の改訂」フォームの「フォーム」メニューから「スタイル・テンプレート」を選択します。

受注オーダー入力明細行で前に記号を付けてテンプレート名を入力し、コレクション・テンプレートを使用することもできます。この記号は、受注オーダー入力プログラム (P4210) の「コレクション・テンプレートのプレフィックス」処理オプションで指定したものである必要があります。

事前設定

スタイル品目の受注オーダーを入力する前に、次の作業を実行しておく必要があります。

- 処理オプションの「スタイル」タブで、受注オーダー入力 (P4210) に次の処理オプションを設定します。

1. コレクション

受注オーダー見出しで使用されるデフォルトのコレクションを指定します。コレクション・コードはコレクション詳細テーブル (FCW07) に保存されます。また、コレクション・プログラム (PCW07) を使用して、コレクション、シーズン・コードおよびシーズン年の組合せを有効なコレクションとして定義する必要があります。組合せが有効でない場合、これら3つの値はすべて、受注オーダー見出しでブランクのままになります。

2. シーズン・コード

受注オーダー見出しで使用されるデフォルトのシーズン・コードを指定します。UDCテーブル41F/SEから値を入力します。また、コレクション・プログラム (PCW07) を使用して、コレクション、シーズン・コードおよびシーズン年の組合せを有効なコレクションとして定義する必要があります。組合

せが有効でない場合、これら3つの値はすべて、受注オーダー見出しでブランクのままになります。

3. シーズン年

受注オーダー見出しで使用されるデフォルトのシーズン年を指定します。UDCテーブル41F/SYから値を入力します。また、コレクション・プログラム(PCW07)を使用して、コレクション、シーズン・コードおよびシーズン年の組合せを有効なコレクションとして定義する必要があります。組合せが有効でない場合、これら3つの値はすべて、受注オーダー見出しでブランクのままになります。

4. 品目をコレクションに対して検証

グリッドに入力された品目を、コレクションに対して検証するかどうかを指定します。また、品目の検証時に警告またはエラーを表示するかどうかも指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 品目を検証しません。グリッドに任意の品目を入力できます。

1: 入力された品目がコレクションに含まれない場合、警告を表示します。

2: 入力された品目がコレクションに含まれない場合、エラーを表示します。

注意: この処理オプションが「1」または「2」に設定されている場合、スタイル品目を検証するために、受注オーダー見出しにコレクションを入力するよう要求されます。この処理オプションをブランクにした場合、受注オーダー見出しの「コレクション」フィールドをブランクにできます。

5. コレクション・テンプレートのプレフィックス

「マトリックス入力」フォームにコレクション・テンプレート表示するために、「品目番号」フィールドに入力するコレクション・テンプレートの前に付ける記号を指定します。コレクション・テンプレートは、コレクションに属する品目のサブセットです。受注オーダーの入力時には、通常は品目番号を入力し、「マトリックス入力」フォームには品目のみが表示されます。コレクション・テンプレートを表示するには、テンプレートの前に、この処理オプションで指定した特別な記号を付ける必要があります。たとえば、記号が*(アスタリスク)でテンプレート名がM06の場合、オーダー行に「*M06」と入力すると、コレクション・テンプレートM06を使用する「マトリックス入力」フォームが表示されます。

6. 分割パーセント用に住所番号をマトリックス入力に送信(PCW10)

マトリックス入力プログラム(PCW10)で分割パーセントを識別するために、カテゴリ・コード値を取り込む顧客を指定します。この処理オプションの値により、出荷先または販売先顧客番号をマトリックス入力プログラムに送信するかどうかが決まります。値は次のとおりです。

ブランク: 出荷先顧客番号を送信します。

1: 販売先顧客番号を送信します。

41F/00 UDCテーブルのSPLITCコードを使用して、分割パーセントに使用する住所録内のカテゴリ・コードが識別されます。

サイズ分割テーブルでそのカテゴリ・コードの適切なグリッド・コードが検索されます。これは、サイズ定義による自動分割プログラム(PCW33)で設定されたものです。

7. 品目の検索/選択

標準の品目番号ビジュアル・アシストを一時変更するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 標準の品目番号ビジュアル・アシストを表示します。

1: 品目の検索/選択プログラム(PCW41011)を使用して、選択するスタイル品目を表示します。

この処理オプションが有効になるのは、「アパレル管理モジュールの使用」システム固定情報(SY41F)がJD Edwards EnterpriseOneシステム制御プログラム(P99410)で有効になっている場合のみです。

- 受注オーダー入力プログラム(P4210)の「バージョン」タブで「スタイル・マトリックス入力(PCW10)」処理オプションを設定して、使用するマトリックス入力のバージョンを指定します。
- マトリックス入力(PCW10)の処理オプションを設定して、数量を自動分割するかどうか、および自動分割を手動入力値で一時変更できるかどうかを指定します。

数量が自動分割されるようにこの処理オプションを設定すると、スタイル品目で使用されるマトリックス・グリッドのサイズ分割設定に従って数量が分割されます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理 9.0 製品ガイド、「JD Edwards EnterpriseOne在庫管理のアパレル管理用操作」、「サイズ・マトリックス・グリッドの定義」、「サイズ分割の定義」

- マトリックス入力(PCW10)の処理オプションを設定して、標準在庫状況または割当可能数量のどちらを表示するかを指定します。

参照: JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理 9.0 製品ガイド、「JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理における割当の処理」

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne 受注管理 9.0 製品ガイド、

スタイル品目の受注オーダーの入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
受注残/完了オーダー照会	W4210E	「受注管理」(G41F14)、「受注オーダーの入力」	受注オーダーを検討します。
受注オーダー見出し	W4210G	「受注管理」(G41F14)、「受注オーダーの入力」 「追加」をクリックします。	スタイル品目の受注オーダーを入力します。
受注オーダー明細の改訂	W4210A	「受注管理」(G41F14)、「受注オーダーの入力」 「受注オーダー見出し」フォームで「OK」をクリックします。	スタイル品目の受注オーダーを入力します。
コレクション・テンプレートの検索/選択	WCW43A	「受注管理」(G41F14)、「受注オーダーの入力」 「フォーム」メニューから「スタイル・テンプレート」を選択します。	受注オーダーに使用するコレクション・テンプレートを選択します。
マトリックス入力	WCW10B	「受注管理」(G41F14)、「受注オーダーの入力」 「受注オーダー明細の改訂」フォームでスタイル品目を入力し、ローからカーソルを移動します。	スタイル品目の受注オーダーを入力します。

スタイル品目の受注オーダーの印刷

スタイル品目の受注オーダーの印刷プログラム(RCW0)を使用して、スタイル品目の受注オーダーをマトリックス形式で印刷します。レポートの新しいページに各オーダーの見出しセクションが印刷されます。特定のスタイル品目レベルの単価が、同じスタイル品目レベルの他の単価と異なる場合、レポートにその単価は印刷されません。たとえば、同じジーンズでも長さによって単価は異なります。長いほうが価格が高くなります。この場合、単価は印刷されません。データ選択条件内でオーダーが見つからない場合は、レポートに「データが見つかりません」と印刷されます。このプログラムではレポートが印刷されるだけで、データは更新されません。

この項では、事前設定およびスタイル品目の受注オーダーの印刷方法について説明します。

事前設定

この項で説明されているタスクを開始する前に、スタイル品目の受注オーダーの印刷プログラムの処理オプションを設定して、処理する受注オーダーの開始次状況コードおよび終了次状況コードを指定する必要があります。これらの処理オプションは必須です。

スタイル品目の受注オーダーの印刷

「レポート」(G41F19)、スタイル品目の受注オーダーの印刷オプションを選択するか、「定期処理」(G41F20)、「受注オーダー・フォーム」を選択します。

受注オーダー・スタイル品目の一括更新の実行

この項では、受注オーダー・スタイル品目の一括更新の実行の概要、事前設定および次の方法について説明します。

- 受注オーダー - スタイル品目の一括更新 (PCW61) の処理オプションの設定
- 受注オーダー・スタイル品目の一括更新の実行

受注オーダー・スタイル品目の一括更新について

受注オーダー - スタイル品目の一括更新プログラム (PCW61) を使用して、多数の受注オーダー・スタイル品目行を一度に更新します。次の処理が可能です。

- 複数の受注オーダー・スタイル品目行の、次の日付を更新します。
 - 要求日付
 - 約束納入日付
 - 約束出荷日付
 - ピッキング予定日付
- 1つ以上の日付を更新する際に、複数の受注オーダー・スタイル品目の次状況を更新します。
- 複数の受注オーダー・スタイル品目の引当を、ハード・コミットからソフト・コミットにリセットします。
引当をリセットする際、次状況および前状況の値もリセットできます。
- 複数の受注オーダー・スタイル品目行を取り消します。

注意: 受注オーダー - スタイル品目の一括更新プログラムでは、品目構造が添付されているスタイル品目を含む受注オーダー行のみ表示し、処理します。

また、受注オーダー - スタイル品目の一括更新プログラムでは、輸送オーダー行および倉庫に入庫または倉庫から出庫される可能性のあるオーダー行は処理されません。

事前設定

受注オーダー・スタイル品目行の一括更新を実行する前に、次の作業を行う必要があります。

- 受注オーダー - スタイル品目の一括更新 (PCW61) の処理オプションを設定します。
- スタイル品目の複数の受注オーダーを入力します。
- 引当をリセットする場合は、基本保管場所以外の在庫保管場所を作成し、一部のオーダー行をピッキング・リストを使用して実行する必要があります。

受注オーダー・スタイル品目の一括更新の実行に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
受注オーダー・スタイル品目行の一括更新	WCW61D	「定期処理」(G41F20)、「受注オーダー・スタイル品目の一括更新」	受注オーダー・スタイル品目の一括更新を実行します。

受注オーダー – スタイル品目の一括更新 (PCW61) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

デフォルト

- | | |
|---------------------|---|
| 1. オーダー・タイプ | 「受注オーダー照会」タブで受注オーダー明細行のフィルタリングに使用される、オーダー・タイプのデフォルト値を指定します。 |
| 2. 事業所 | 「受注オーダー照会」タブで受注オーダー明細行のフィルタリングに使用される、事業所のデフォルト値を指定します。 |
| 3. 要求日付 | 受注オーダーの要求日付を更新できるかどうかを指定します。値は次のとおりです。
空白: 要求日付を更新できません。
1: 要求日付を更新できます。 |
| 4. 約束納入日付 | 受注オーダーの約束納入日付を更新できるかどうかを指定します。値は次のとおりです。
空白: 約束納入日付を更新できません。
1: 約束納入日付を更新できます。 |
| 5. 約束出荷日付 | 受注オーダーの約束出荷日付を更新できるかどうかを指定します。値は次のとおりです。
空白: 約束出荷日付を更新できません。
1: 約束出荷日付を更新できます。 |
| 6. ピッキング予定日付 | 受注オーダーのピッキング予定日付を更新できるかどうかを指定します。値は次のとおりです。
空白: ピッキング予定日付を更新できません。
1: ピッキング予定日付を更新できます。 |

表示

- | | |
|--------------------|--|
| 1. 開始次状況コード | 「受注オーダー照会」タブで、受注オーダー行のフィルタリングに使用される「開始次状況」フィールドのデフォルト値を指定します。
この処理オプションを空白にすると、受注オーダー行の表示のフィルタリングに、開始次状況の値は使用されません。 |
| 2. 終了次状況コード | 「受注オーダー照会」タブで、受注オーダー行のフィルタリングに使用される「終了次状況」のデフォルト値を指定します。
この処理オプションを空白にすると、次状況の値が999の受注オーダー行は表示されません。 |

処理

- | | |
|-------------------|--|
| 1. 引当のリセット | 「ロー」メニューで「引当のリセット」オプションを有効にするかどうかを指定します。「引当のリセット」オプションにより、受注オーダー行の引当をリセットできます。値は次のとおりです。 |
|-------------------|--|

- ブランク: 「ロー」メニューで「引当のリセット」オプションを無効にします。
- 1: 「ロー」メニューで「引当のリセット」オプションを有効にします。
- 2. 日付の更新**
- 「ロー」メニューで「日付の更新」オプションを有効にするかどうかを指定します。このオプションにより、受注オーダー行の日付を更新できます。値は次のとおりです。
- ブランク: 「ロー」メニューで「日付の更新」オプションを無効にします。
- 1: 「ロー」メニューで「日付の更新」オプションを有効にします。
- 3. 行の取消**
- 「ロー」メニューで「行の取消」オプションを有効にするかどうかを指定します。このオプションにより、受注オーダー行を取り消すことができます。値は次のとおりです。
- ブランク: 「ロー」メニューで「行の取消」オプションを無効にします。
- 1: 「ロー」メニューで「行の取消」オプションを有効にします。
- 4. 必須理由コード**
- 受注オーダー行の取消に、有効な理由コードが必須かどうかを指定します。値は次のとおりです。
- ブランク: 受注オーダー行の取消に、有効な理由コードは必須ではありません。
- 1: 受注オーダー行の取消に、有効な理由コードは必須です。
- 5. 理由コード**
- 受注オーダー明細行の取消に使用する、理由コードのデフォルト値を指定します。この値は、「受注オーダー - 一括更新」フォームの「処理」タブに表示されます。
- 6. 一時変更用次状況**
- 受注オーダー明細行での日付更新時に使用される、次状況の値を指定します。ここに入力した値は、「受注オーダー - 一括更新」フォームの「処理」タブに表示されます。
- 7. 次状況の更新**
- 新しい日付の入力時に、受注オーダー行の状況が更新されるかどうかを指定します。値は次のとおりです。
- ブランク: 新しい日付の入力時に、受注オーダー行の状況は更新されません。
- 1: 新しい日付の入力時に、受注オーダー行の状況は「一時変更用次状況」処理オプションの値を使用して更新されます。
- 8. 未選択日付の有効化/無効化**
- 「デフォルト」タブで更新対象として選択されていない日付フィールドが、更新されるかどうかを指定します。値は次のとおりです。
- ブランク: 更新対象として選択されていない日付フィールドは更新されません。
- 1: 更新対象として選択されていない日付フィールドが更新されます。

バージョン

- 1. 受注オーダー入力 (P4210)**
- 受注オーダー行の更新に使用される受注オーダー入力プログラム (P4210) のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、デフォルト・バージョンの ZJDE0001 が使用されます。

引当のリセット

1. 状況コード - 次

オーダー行の引当のリセット時に使用される次状況コードを指定します。ここに入力した値は、「受注オーダー - 一括更新」フォームの「処理」タブに自動的に表示されますが、この値は一時変更できます。引当のリセットには、有効な次状況の値が必須です。

2. 状況コード - 前

オーダー行の引当のリセット時に使用される前状況コードを指定します。ここに入力した値は、「受注オーダー - 一括更新」フォームの「処理」タブに自動的に表示されますが、この値は一時変更できます。引当のリセットには、有効な前状況の値が必須です。

受注オーダー・スタイル品目の一括更新の実行

「受注オーダー - スタイル品目行の一括更新」フォームにアクセスします。

受注オーダー - スタイル品目の一括更新 - 受注オーダー - スタイル品目行の一括更新

検索(🔍) 閉じる(L) ロー(R) ツール(🔧)

受注オーダー照会 処理

日付の更新

更新日付 ☒ 要求日付 ☒ 約束納入日付 ☒ 約束出荷日付 ☒ ピッキング予定日付

引当のリセット

状況コード - 前 状況コード - 次

次状況 - 日付の更新

一時変更用次状況 ☒ 次状況の更新

取消

理由コード 有効期限

レコード 1 - 10

		R	オーダー会社	オーダーNo.	オーダータイプ	略式品目No.	品目記述	出荷先住所	行番号	事業所	販売先住所	要求日付
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>		00200	2800	SO	130932	Flared Skirt	4242	1.000	30	4242	2010/03/18
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>		00001	2800	SO	141177	Outdoor Socks	4242	1.000	30	4242	2010/03/22
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>		00001	2800	SO	155884	Classic Comfort	4242	1.000	30	4242	2010/03/29
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>		00001	2800	SO	155885	Classic Comfort	4242	2.000	30	4242	2010/03/29
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>		00001	2800	SO	155886	Classic Comfort	4242	3.000	30	4242	2010/03/29
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>		00001	2800	SO	155887	Classic Comfort	4242	4.000	30	4242	2010/03/29
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>		00001	2800	SO	155888	Classic Comfort	4242	5.000	30	4242	2010/03/29
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>		00001	2800	SO	155889	Classic Comfort	4242	6.000	30	4242	2010/03/29
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>		00001	2800	SO	155890	Classic Comfort	4242	7.000	30	4242	2010/03/29

「受注オーダー - スタイル品目行の一括更新」フォーム

受注オーダー・スタイル品目の一括更新を実行するには、次の手順に従います。

- 「受注オーダー照会」タブの必須フィールドおよびQBE行に値を入力して「検索」をクリックし、更新する受注オーダー行を取得します。
- 「処理」タブを選択します。
- オーダー日付を更新する場合は、次のステップを実行します。
 - 「更新日付」フィールドに、選択した日付を更新する新しい日付を入力します。

- b. 新しい日付で更新する日付タイプを選択します。

更新対象として選択できるのは、要求日付、約束納入日付、約束出荷日付またはピッキング予定日付です。

注意: 日付は処理オプションの値の基づいて、選択/選択解除および有効化/無効化されます。

- c. 更新するローを選択します。
- d. 次状況も更新する場合は、「一時変更用次状況」フィールドに状況を入力します。
「一時変更用次状況」処理オプションに基づいて、デフォルト状況が表示されます。
- e. 「次状況の更新」オプションが選択されていることを確認します。
このオプションは、「次状況の更新」処理オプションが「1」に設定されている場合に選択されます。
- f. 「ロー」メニューから「日付の更新」を選択します。

4. 引当をリセットする場合は、次のステップを実行します。

- a. 「状況コード - 前」および「状況コード - 次」フィールドを確認します。
これらの値は、処理オプションの「引当のリセット」タブで定義されます。
- b. 更新するローを選択します。
- c. 「ロー」メニューから「引当のリセット」を選択します。

5. 受注オーダー行を取り消す場合は、次のステップを実行します。

- a. 「理由コード」フィールドに行を取り消す理由を入力します。
このフィールドが必須かどうかは、処理オプションによって決まります。
「理由コード」処理オプションに理由コードを入力した場合、このフィールドに値が表示されます。
- b. 取り消すローを選択します。
- c. 「ロー」メニューから「行の取消」を選択します。

第 7 章

JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理における割当の処理

この章では、アパレル管理における割当の概要、標準引当処理の概要、および次の方法について説明します。

- 引当規則の設定
- 手動割当の実行
- 自動割当の実行
- 割当提案の生成
- 納入提案の生成
- 割当提案と納入提案の検証

JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理での割当について

JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理システムには、スタイル品目の卸売割当と納入を効率化する機能があります。

注意: スタイル品目に JD Edwards EnterpriseOne オーダー・フルフィルメント・システムを使用することはできません。

割当規則を使用すると、引当可能なスタイル品目を効果的かつ効率的に配賦し、受注オーダーに充当できるようになります。割当規則は、ビジネス要件に基づいて定義します。

受注オーダーには、初回納入までの時間が短いスタイル品目を含む、多数の明細オーダー行が含まれている場合があります。1つの受注オーダー行は、複数の子スタイル品目を含んだ1つのグループで構成されます。

組立品目製造の作業オーダー受注には、様々なサイズの子スタイル品目が含まれていることがよくあります。割当規則は、どの顧客にどのサイズのどの品目を届けるかを決定するために使用できます。あるサイズが出荷できない場合には、割当規則内に例外や一時変更値を作成することで、どのような場合には品目を出荷せず、どのような場合には納入するかを指定できます。すべての割当規則は、スタイル品目の受注オーダーにのみ適用されます。

割当規則では次のことが可能です。

- 動的なオーダー優先順位定義
受注オーダーの優先順位を自動的に決定できます。
- 条件を満たしたオーダーのみの納入
割当規則を使用して、同時に出荷できるスタイル品目の組合せを定義できます。

- スタイル品目の調整

たとえば、ジャケットとズボンを同時に納入するなどといった調整が可能です。それ以外の組合せも個別に販売することができます。さらに、同時に納入するスタイル品目の調整には、トップス/ボトムス管理機能を使用することもできます。

- サイズの均等化

引当可能な商品をすべて1つの受注オーダーに仕向けるよりも、複数のオーダーに対して均等に配賦するほうが合理的です。

- サイズ加重

市場でよく使用されるサイズには高い比重が設定され、一部の消費者にしか使用されない、使用頻度の低いサイズには低い比重が設定されます。

たとえば、最も多く必要とされるMやLなどのサイズは、XSやXLなどのサイズよりも頻繁に納入する必要があります。

- 自動不足管理

引当可能数量が受注オーダーの合計需要よりも少ない場合は、割当を使用して需要の割合を指定することで、各受注に対する商品の納入を均衡化することができます。配分率や適正配分処理を割当に使用して、不足品の処理を自動的に管理することもできます。

- 季節オーダーの引当可能数量

季節オーダーの場合、受注オーダーを入力する時点での引当可能数量はゼロになります。非スタイル品目の場合、標準のJD Edwards EnterpriseOneビジネス・プロセスでは引当可能数量ゼロの状態で品目がバックオーダーされます。しかし、一部の業種のスタイル品目の場合、これは望ましい方法ではありません。

- 提案に対する手動または自動での検証

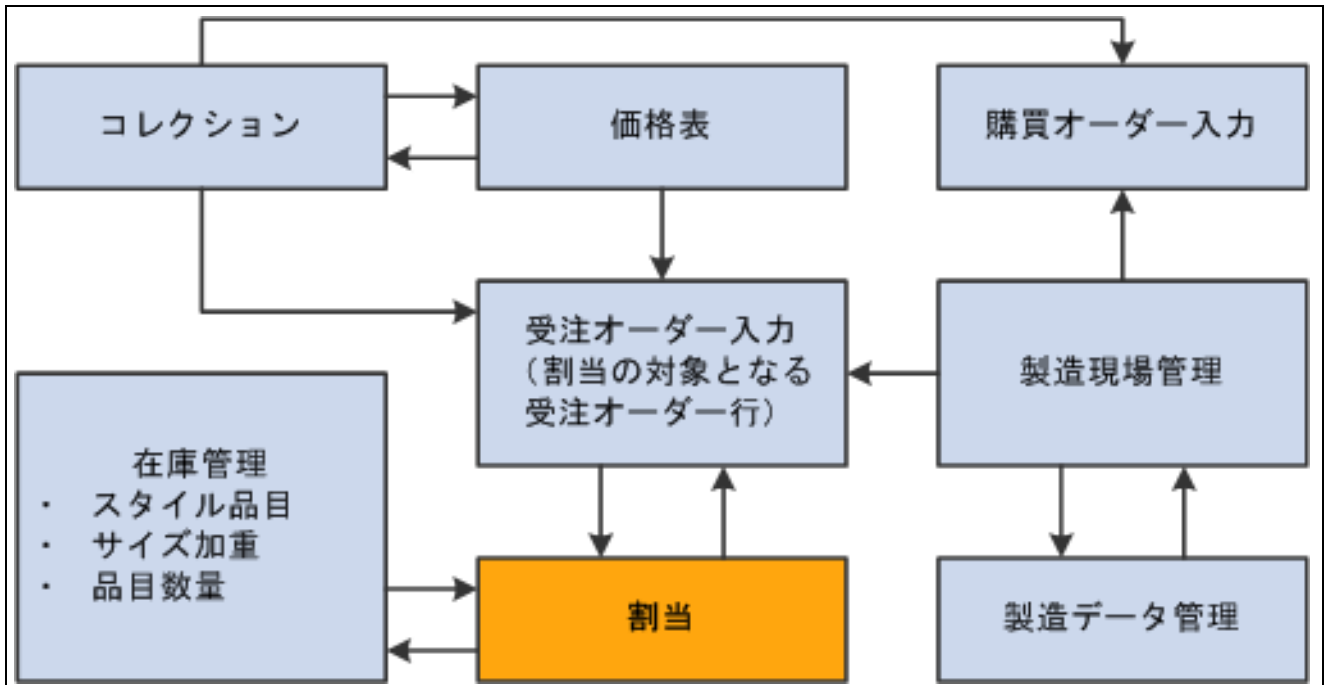
提案の検証は手動で行うことも、自動プロセスを使用することもできます。

割当は、ユーザーが定義した割当規則に基づいて自動的に実行されます。割当規則は、優先度の高い大量の受注オーダーに対応するための緩衝在庫を作成するためにも使用できます。

スタイル品目に対して、割当提案と納入提案を生成することができます。割当提案を使用すると、製品が不足している場合に、引当可能な在庫を複数の受注オーダーに分配することができます。納入提案を使用すると、必要に応じて適切な数の商品を発送することができます。

在庫の割当とともに制約を設定した場合は、割当提案と納入提案の各プロセスを同時に管理できます。これらのプロセスは、分割して個別に実行することもできます。その場合は、最初に在庫の割当(ハード・コミット)を行い、その後で納入制約を管理します。

次の図は、割当プロセスと、JD Edwards EnterpriseOneのその他のプログラムやシステムとの統合関係を表したものです。



割当の統合

スタイル品目の割当の計算には、次のいずれかのプロセスが使用されます。

- 手動割当

参照: JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理 9.0 製品ガイド、「JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理における割当の処理」、「手動割当の実行」

- 自動割当

自動割当プロセスは、割当提案と納入提案の両方の計算で構成される場合があります。

参照: JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理 9.0 製品ガイド、「JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理における割当の処理」、「自動割当の実行」

重要: 割当プロセスでは、スタイル品目しか考慮されません。非スタイル品目は対象とされないため、非スタイル品目を含んでいる受注オーダー行はデータ選択時に無視されます。

処理中受注オーダーの再転記プログラムの実行

割当を使用しており、かつ未処理の提案がある場合は、処理中受注オーダーの再転記プログラム (R42995) を実行する前に、提案を検証して引当をクリアする必要があります。提案に含まれるスタイル品目を再転記すると、そのスタイル品目に引当上の問題が発生する可能性があります。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 受注管理 9.0 製品ガイド、「日次締め処理の実行」、「オーダーの再転記」

事前設定

この章で説明されているタスクを実行するには、事前に次の設定を完了する必要があります。

- 「事業所固定情報」フォームの「指定引当 (日数)」フィールドを「999」に設定して、将来引当を行わないようにします。

- 「事業所固定情報」フォームの「バックオーダー許可」オプションを選択解除して、事業所に対してバックオーダーを許可しないことを指定します。

注意: バックオーダーを事業所レベルで無効にできない場合は、受注オーダー入力プログラム (P4210) の「引当て」タブで「引当可能数量チェックの使用」処理オプションをブランクに設定して、バックオーダー処理を省略します。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 受注管理 9.0 製品ガイド、「受注管理システムの設定」、「固定情報の設定」、「事業所固定情報の設定」

- 事業所固定情報の「在庫状況の定義」フォームで「その他数量1 - SO」オプションを選択して、受注オーダーのその他数量1が引当可能数量から差し引かれるようにします。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 受注管理 9.0 製品ガイド、「受注管理システムの設定」、「固定情報の設定」、「在庫状況の設定」

注意: 「その他数量1 - 受注オーダー」フィールドには、割当プロセス時の確保数量が格納されます。

重要: 一括受注オーダーでは「その他数量1 - 受注オーダー」フィールドが使用されます。一括受注オーダーを使用する場合、その一括受注オーダー処理で「その他数量2 - SO (受注オーダー)」フィールドが使用されるように設定するには、受注オーダー入力プログラム (P4210) の「引当て」タブで「数量1または数量2に対する引当」処理オプションを設定してください。

- オーダー処理規則に含まれる割当に特定の状況を設定します。

たとえば、オーダー状況529 (割当内) などです。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 受注管理 9.0 製品ガイド、「受注管理システムの設定」、「オーダー処理規則の設定」

- 受注オーダー入力プログラム (P4210) の「引当て」タブで「引当可能数量チェックの使用」処理オプションをブランクし、引当可能数量チェックを無効にします。

重要: 割当を実行するには、この設定を完了する必要があります。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 受注管理 9.0 製品ガイド、「受注オーダーの入力」、「受注オーダー見出しおよび明細情報の入力」、「受注オーダー入力 (P4210) の処理オプション」

- 次のユーザー定義コード (UDC) テーブルの設定を確認します。

- レベル・エイリアス (41F/LA)

レベル・エイリアス・コードは、販売カテゴリ・コードのSRPコードを定義するものです。最上位/最下位UDC (41F/RC) は、UDC 41F/LAを使用します。

- 最上位/最下位 (41F/RC)

割当/納入提案の生成プログラム (RCW06) の「履行率」タブにある「品目カテゴリ・コード・エイリアス1」および「品目カテゴリ・コード・エイリアス2」処理オプションと、「最上位/最下位処理」タブにある「品目カテゴリ・エイリアスの最上位/最下位」、「品目カテゴリ・エイリアス・グループ・コード1」および「品目カテゴリ・エイリアス・グループ・コード2」処理オプションは、41F/RC UDCを使用します。

トップス/ボトムス管理機能は、複数の品目を同時に納入するために使用します (たとえば、セットで販売するジャケットとズボンなど)。

- 抽出/オーダー・ベース (41F/SB)

割当/納入提案の生成プログラムの「処理」タブにある「履行率の基準」処理オプションは、41F/SB UDCを使用します。

- 処理タイプ (41F/TT)

割当/納入提案の生成プログラムの「状況」タブにある「処理タイプ」処理オプションは、41F/TT UDCを使用します。

- 未確保の理由コード (41F/NR)

理由コードは、特定の受注オーダー行またはスタイル品目が確保されなかった理由を識別するためのものです。

この章で使用する共通用語

未処理数量

受注オーダー見出しと受注オーダー行の両方について計算されます。この計算では、選択行と非選択行の両方が対象になります。

計算結果は、オーダー数量から取消数量を引いて算出されます。対象となる行は、次状況が、割当/納入提案の生成プログラム (RCW06) の「状況」タブにある「終了次状況コード」処理オプションの値と等しいか、またはそれより小さい行です (割当/納入提案の生成プログラムが各行を処理する前の時点で)。したがって次のことがいえます。

- 割当/納入提案の生成プログラムの「状況」タブにある「処理タイプ」処理オプションが「P」(割当提案)に設定されている場合、未処理数量は、まだ割当が実行されていない数量を示します。
- 割当/納入提案の生成プログラムの「状況」タブにある「処理タイプ」処理オプションが「D」(納入提案)に設定されている場合、未処理数量は、まだ納入の提案が行われていない数量を示します。

受注残数量

受注オーダー明細行についてのみ計算されます。

計算結果が示すのは、(割当/納入提案の生成プログラムによって処理される前の時点での) 次状況が、割当/納入提案の生成プログラムの「状況」タブにある「開始次状況コード」と「終了次状況コード」の各処理オプションで定義された範囲内にある行のオーダー数量です。したがって次のことがいえます。

- 割当/納入提案の生成プログラムの「状況」タブにある「処理タイプ」処理オプションが「P」(割当提案)に設定されている場合、受注残数量は、割当の対象にできる数量を示します。
- 割当/納入提案の生成プログラムの「状況」タブにある「処理タイプ」処理オプションが「D」(納入提案)に設定されている場合、受注残数量は、納入提案の対象にできる数量を示します。

オーダー数量

受注オーダー見出しについてのみ計算される数量で、初期オーダー数量を示します。

受注オーダー明細行は計算対象とされず、計算結果はオーダー行の状況に依存しません。取消済の行は考慮されません。

処理済数量

受注オーダー見出しについてのみ計算されます。

処理済数量は、オーダー数量から受注残数量を引くことで算出されます。

処理済数量の計算結果は、前の処理サイクル中に割当提案または納入提案のステップを通過した数量を示します。

提案数量

受注オーダー見出しと受注オーダー行の両方について計算されます。

提案数量は、受注残数量に配分率を掛けることで算出されます（配分率は次のいずれかの値になります）。

- 割当/納入提案の生成プログラムの「条件」タブにある「適正配分」処理オプションが「Y」に設定され、適正配分処理が有効化されている場合は、 $(\text{配分率}) = (\text{引当可能数量の合計}) \div (\text{受注残数量の合計})$ となります（合計は抽出されたすべての受注オーダー行を考慮に入れて算出されます）。適正配分は品目ごとに算出されます（受注オーダー行ごとではありません）。
- 割当/納入提案の生成プログラムの「条件」タブにある「適正配分」処理オプションが「N」に設定され、適正配分処理が無効化されている場合は、「条件」タブの「配分率」処理オプションに指定されている値が使用されます。「配分率」処理オプションが空白の場合、提案数量は受注残数量と同じになります。提案数量は、選択された受注オーダー明細行についてのみ計算されます。計算は、データ選択と、割当/納入提案の生成プログラムの「状況」タブにある「開始次状況コード」および「終了次状況コード」処理オプションで定義された内容に従って実行されます。

注意: 適正配分と配分率の両方の処理を有効にした場合、計算は適正配分を使用して実行され、配分率は無視されます。

注意: 適正配分と配分率の処理は、割当提案に対してのみ有効です。納入提案のアルゴリズムでは、適正配分も配分率も使用されません。

確保数量

受注オーダー見出しと受注オーダー行の両方について計算されます。システムによって次の処理が行われます。

- 受注オーダーを、「優先規則」タブの「優先引当規則」処理オプションで定義された優先規則に従ってソートする。
- 提案数量を決定する。
- 割当/納入提案の生成プログラムの「状況」タブで「処理タイプ」処理オプションが「P」に設定されている場合は、提案数量を引当可能数量と比較する。

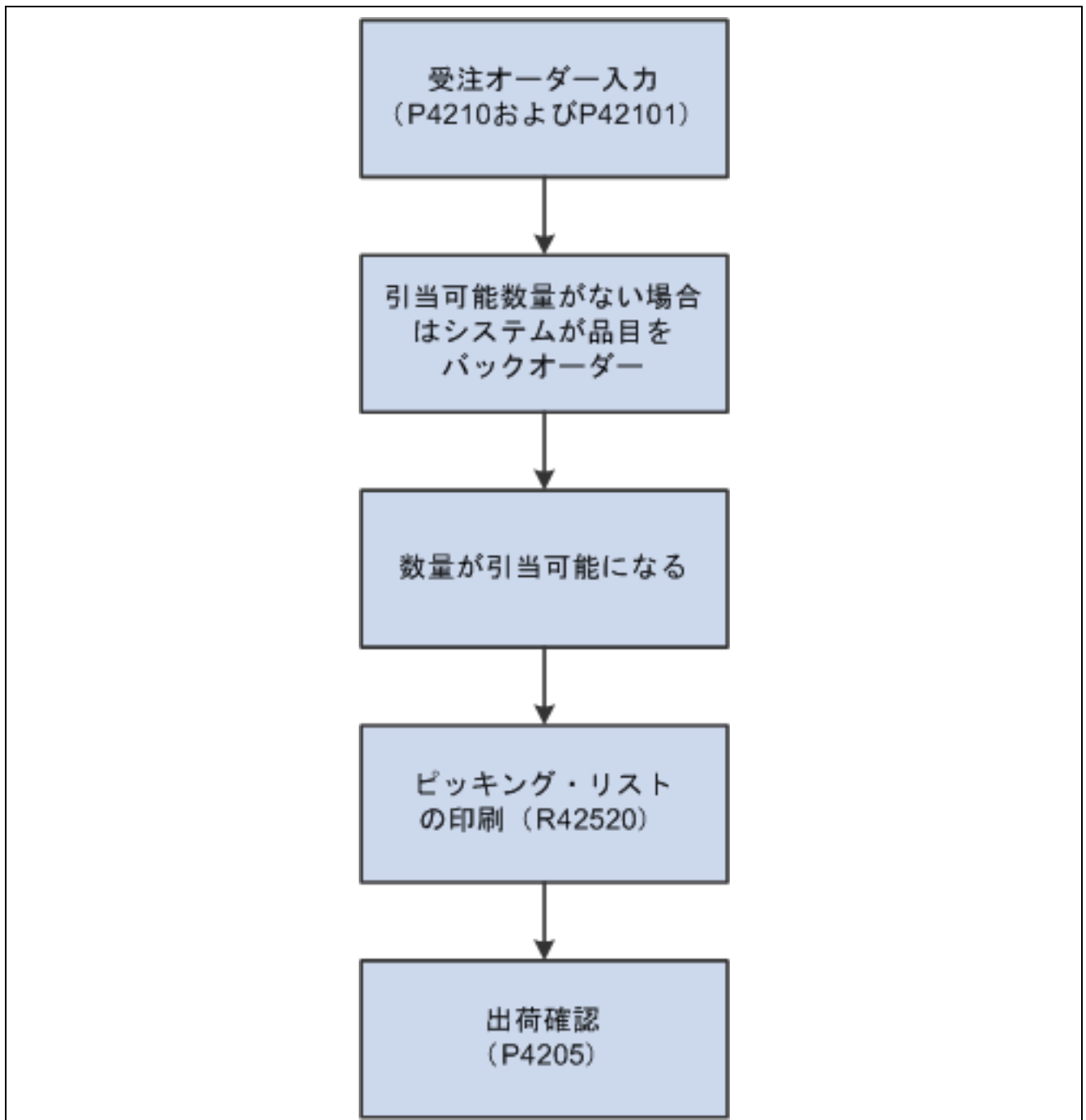
提案数量と引当可能数量を比較して得られる最小数量は、その他の制約（履行率やトップス/ボトムス管理など）に照らして処理されます。

- 割当/納入提案の生成プログラムの処理オプションで定義された内容に従って、各種の制約（履行率やトップス/ボトムス調整など）を適用する。

この結果（割当提案と納入提案に示される数量）が、確保数量になります。

標準引当処理について

標準引当処理は、JD Edwards EnterpriseOne受注管理システムで広く使用されるオーダー処理です。次の図は、受注管理における引当処理の流れを示したものです。



受注オーダー管理での標準の引当処理

「事業所固定情報」フォームの「バックオーダー許可」オプションを選択して、特定の事業所に対してバックオーダーを許可するかどうかを指定する必要があります。バックオーダーの許可は、品目マスター・プログラム (P4101) または事業所品目プログラム (P41026) を使用して品目別に設定するか、顧客請求指示プログラム (P03013) を使用して顧客別に設定するか、または事業所固定情報プログラム (P41001) を使用して事業所別に設定できます。受注オーダーの品目のバックオーダーを可能にするには、すべてのプログラムで「バックオーダー許可」オプションを選択する必要があります。

また、受注オーダー入力プログラム (P4210) の「引当て」タブで、「引当可能数量チェックの使用」処理オプションを「1」に設定する必要があります。これにより、引当可能数量チェックが実行されるようになります。数量が引当できない場合は、この品目の数量が引当可能数量を超過するという警告が表示されます。品目マスター、事業所品目、事業所固定情報および顧客請求指示の各プログラムに設定されているバックオーダー情報に基づいて、引当できない数量については自動的にバックオーダーまたは取り消されます。

受注オーダーの入力は、受注オーダー入力プログラム (P4210 および P42101) を使用して行います。バックオーダーされた数量が引当可能になったら、ピッキング・リストの印刷プログラム (R42520) を使用してピッキング・リストを印刷します。出荷の確認は、出荷確認プログラム (P4205) を使用して行います。

一部の業種では、受注オーダーの入力時点で引当可能在庫がゼロである場合があります (特に季節品目の場合)。そのため、標準の受注オーダー入力引当処理では、それらの業種の要件を完全にはサポートできません。在庫が引当可能になったときに品目が配賦されるようにするには、割当提案および納入提案のプロセスを使用してください。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 受注管理 9.0 製品ガイド、「受注管理システムの設定」、「固定情報の設定」

引当規則の設定

この項では、引当規則の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 引当規則のコードの定義
- スタイル品目の引当規則の定義
- カテゴリ・コードの優先順位値の設定

引当規則について

割当提案と納入提案に適用する引当規則は、スタイル品目の引当規則プログラム (PCW41) を使用して定義します。引当定義は引当規則テーブル (FCW41) に保存されます。

引当規則のユーザー定義コード (UDC) は、引当規則 UDC (41F/CR) プログラムで定義します。UDC に引当規則コードを設定したら、引当規則の各パラメータの詳細を定義します。

「スタイル品目の引当規則の定義」フォーム (WCW41A) にある「エイリアス顧客1」から「エイリアス顧客5」までの各フィールドの値は、優先度カテゴリ・コード・プログラム (PCW23) を使用して選択します。受注オーダーに使用されている顧客に基づいて、住所録マスター (F0101) から30のカテゴリ・コードと1つの国コード (CTR) を使用できます。たとえば、「エイリアス顧客1」フィールドを「AC01」として設定できます。

優先度カテゴリ・コード・プログラムでは、各カテゴリ・コードと国コードの優先度を、引当規則コードとは切り離して定義することもできます。各カテゴリ・コード値の優先度は、0から99まで範囲で設定できます。0が最高の優先度で、99が最低の優先度です。たとえば、カテゴリ・コードAC01のカテゴリ値は105です。カテゴリ・コードまたは国コードの優先度を優先度エイリアスUDC (41F/PA) に基づいて定義するには、優先度カテゴリ・コード・プログラムを使用します。この値は、カテゴリ・コードの優先順位値テーブル (FCW39) に保存されます。

各カテゴリ・コードには、顧客ごとに別々の値を設定できます。カテゴリ・コードの優先順位値は、割当/納入提案の生成プログラム (RCW06) が受注オーダー明細行の優先度を決定する際に使用されます。

次の引当規則パラメータの優先度は、「スタイル品目の引当規則の定義」フォームで設定します。

- エイリアス顧客1

- エイリアス顧客2
- エイリアス顧客3
- エイリアス顧客4
- エイリアス顧客5
- 優先出荷日付

使用される日付(エイリアスのRSDJまたはPDDJ)は、割当/納入提案の生成プログラム(RCW06)の「優先規則」タブにある「優先出荷日付」処理オプションによって決まります。

- 優先オーダー日付

この日付フィールドには、エイリアスとしてURDTが使用されます。

- 優先要求日付

この日付フィールドには、エイリアスとしてDRQJが使用されます。

- 優先コード

この優先コードには、エイリアスとしてPRIOが使用されます。優先コードは、特定の顧客に対応する値であり、顧客マスター・プログラム(P03013)の請求指示内に設定されます。

「スタイル品目の引当規則の定義」フォームの各パラメータには、1から99までの範囲で優先度の値を設定できます。0が最高の優先度で、99が最低の優先度です。たとえば、「優先出荷日付」フィールドを「1」と設定したり、「エイリアス顧客1」フィールドを「2」と設定したりできます。

注意: 値の重複は認められません。また、値は1、2、3のように連続する番号で指定する必要があります(1、4、5などは不可)。

割当/納入提案の生成プログラム(RCW06)を実行すると、各受注オーダー明細行の優先順位が決定され、FCW41テーブルに設定された規則に基づいて優先順位値(PRIO)が設定されます。割当/納入提案の生成プログラムは、優先順位に基づいて各値を連結し、1つの優先順位文字列を生成します。

たとえば、受注オーダー明細テーブル(F4211)内の1つの受注オーダーに、顧客4242が存在していて、出荷日が2010年10月23日だとします。また、割当/納入提案の生成プログラムが実行され、出荷日が優先度1に設定された引当規則が使用されたとします。その場合、優先コード(PRIO)は「10232010」と設定されます。

優先度2は、「エイリアス顧客1」(AC01)に設定されているとします。その場合、プログラムは顧客4242について、F0101テーブルからカテゴリ・コードAC01の値(ここでは115)を取得します。

115の優先順位値は、優先度カテゴリ・コード・プログラムで99に設定されています。その結果、優先コード(RPIO)は最終的に $10232010 + 99 = 1023201099$ と計算されます。

その後、割当/納入提案の生成プログラムはすべての受注オーダーを対象に、生成された優先順位文字列を昇順でソートします。

重要: 割当/納入提案の生成プログラムは、すべての受注オーダーを対象に、生成された優先順位文字列を昇順で(小さい値から大きい値へ)ランク付けします。たとえば、1023201050は1023201099よりも前にランク付けされます。

事前設定

この項で説明されているタスクを開始する前に、優先度エイリアスUDC(41F/PA)で適切な値が設定されていることを確認してください。優先度エイリアス・コードは、「優先度カテゴリ・コードの検索/選択」フォームに表示されます(「スタイル品目の引当規則の定義」フォームにある「エイリアス顧客1」から「エイリアス顧客5」までの各フィールド値の設定に使用されます)。

引当規則の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
引当規則 - ユーザー定義コードの処理	W0004AA	<ul style="list-style-type: none"> 「割当」(G41F464)、「引当規則」(UDC 41F/CR) 「スタイル品目の引当規則の定義」フォームの「引当規則」フィールドで検索ボタンをクリックします。「ユーザー定義コードの選択」フォームの「フォーム」メニューから「改訂」を選択します。 	UDC 41F/CRの引当規則を検討、更新および追加します。 注意: 割当/納入提案の生成プログラムは、「優先規則」タブの「優先引当規則」処理オプションでUDC 41F/CRを使用します。
引当規則 - ユーザー定義コード	W0004AI	「引当規則 - ユーザー定義コードの処理」フォームで、「追加」をクリックします。	引当規則のコードを定義します。
スタイル品目の引当規則の処理	WCW41B	「割当設定」(G41F47)、「スタイル品目の引当規則」	スタイル品目の引当規則を検討、更新および追加します。
スタイル品目の引当規則の定義	WCW41A	<ul style="list-style-type: none"> 「スタイル品目の引当規則の処理」フォームの「引当規則」フィールドに値を入力し、「追加」をクリックします。 「スタイル品目の引当規則の処理」フォームで引当規則を選択し、「選択」をクリックします。 	スタイル品目の引当規則を定義します。 既存の引当規則を更新します。
優先カテゴリ・コードの処理	WCW23A	「割当設定」(G41F47)、「優先カテゴリ・コード」	カテゴリ・コードの優先順位値を処理します。
優先度カテゴリ・コードの検索/選択	WCW23A	「スタイル品目の引当規則の定義」フォームで、「エイリアス顧客1」から「エイリアス顧客5」までの各フィールドの検索ボタンをクリックします。	引当規則の優先カテゴリ・コードを検討して選択します。
優先カテゴリ・コード詳細	WCW23B	<ul style="list-style-type: none"> 「優先カテゴリ・コードの処理」フォームでカテゴリ・コードを選択し、「ロー」メニューから「優先度」を選択します。 「優先度カテゴリ・コードの検索/選択」フォームでカテゴリ・コードを選択し、「ロー」メニューから「優先度」を選択します。 	カテゴリ・コードの優先順位値を設定します。

引当規則のコードの定義

「引当規則 - ユーザー定義コード」フォームにアクセスします。

引当規則 - ユーザー定義コード i ?

OK(O) 検索(D) 削除(D) 取消(L) ロー(R) ツール(T)

製品コード ★ アパレル管理

コード・タイプ ★ Commitment Rules

コード

レコード 1 - 4 グリッドのカスタマイズ   

	コード	記述1 *	特殊取扱 コード	ハード コード
<input type="radio"/>	01	First Priority Rule		Y
<input type="radio"/>	02	Requested Date/Country		Y
<input type="radio"/>	05	By Priority		Y
<input checked="" type="radio"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>

「引当規則 - ユーザー定義コード」フォーム

UDCテーブル41F/CRで引当規則のUDCを定義する必要があります。UDCを定義したら、対応する引当規則を定義できるようになります。

コードを定義するには、次の手順に従います。




1. 表の最後の空白行をクリックします。
2. 「コード」、「記述1」および「ハードコード」の各フィールドに値を入力します。
3. 「OK」をクリックします。

スタイル品目の引当規則の定義

「スタイル品目の引当規則の定義」フォームにアクセスします。

スタイル品目の引当規則 - スタイル品目の引当規則の定義

OK(O) 取消(L) ツール(T)

引当規則	優先度	
01		最優先規則
エイリアス顧客1	AC01	1 カテゴリ・コード ¹
エイリアス顧客2		
エイリアス顧客3		
エイリアス顧客4		
エイリアス顧客5		
優先出荷日付(RCW06 POIに基づく)		
優先オーダー日付		
優先要求日付		
優先コード		

「スタイル品目の引当規則の定義」フォーム

スタイル品目の引当規則を定義するには、次の手順に従います。

- 「エイリアス顧客1」から「エイリアス顧客5」までの各フィールドで、カテゴリ・コードの値を選択します。
 - 「エイリアス顧客1」から「エイリアス顧客5」までの各フィールドをクリックし、検索ボタンをクリックして、「優先度カテゴリ・コードの検索/選択」フォームにアクセスします。
「エイリアス顧客1」から「エイリアス顧客5」までのフィールド値の選択には、優先度カテゴリ・コード・プログラムが使用されます。
 - 「優先度カテゴリ・コードの検索/選択」フォームで、値のローを選択し、「選択」をクリックします。
優先カテゴリ・コードは、F0101テーブルに含まれている30個のカテゴリ・コードと1つの国コード(CTR)で構成されます。
- 「スタイル品目の引当規則の定義」フォームで、5つのカテゴリ・コード、3つの日付および「優先オーダー」フィールドの「優先度」フィールドに、「1」から「9」までの値を入力します。
「優先度」フィールドでは、「1」が最高の優先度で、「9」が最低の優先度となります。
- 「OK」をクリックします。

カテゴリ・コードの優先順位値の設定

「優先カテゴリ・コード詳細」フォームにアクセスします。

優先度カテゴリ・コード - 優先カテゴリ・コード詳細

OK(O) 検索(I) 取消(L) ツール(T)

引当規則 03 要求日付/国

エイリアス AC01 カテゴリ・コード

レコード 1 - 10 > < グリッドのカスタマイズ

	優先度	カテゴリ	記述
<input checked="" type="radio"/>	99		.
<input type="radio"/>	99	100	ブエノスアイレス事業所
<input type="radio"/>	99	105	ロンドン事業所
<input type="radio"/>	99	110	メキシコシティ事業所
<input type="radio"/>	99	115	ニューヨーク事業所
<input type="radio"/>	99	120	パリ事業所
<input type="radio"/>	99	125	サンフランシスコ事業所
<input type="radio"/>	99	130	シンガポール事業所
<input type="radio"/>	99	135	東京事業所
<input type="radio"/>	99	140	トロント事業所

「優先カテゴリ・コード詳細」フォーム

優先度カテゴリ・コード・プログラムでは、各カテゴリ・コードと国コードの優先度を、引当規則コードとは切り離して定義することができます。優先度カテゴリ・コード・プログラムでは、引当規則とカテゴリ・コードの組合せに固有の優先度をカテゴリごとに定義することができます。

カテゴリ・コードの優先順位値を設定するには、「優先度」フィールドに「0」から「99」までの値を入力します。

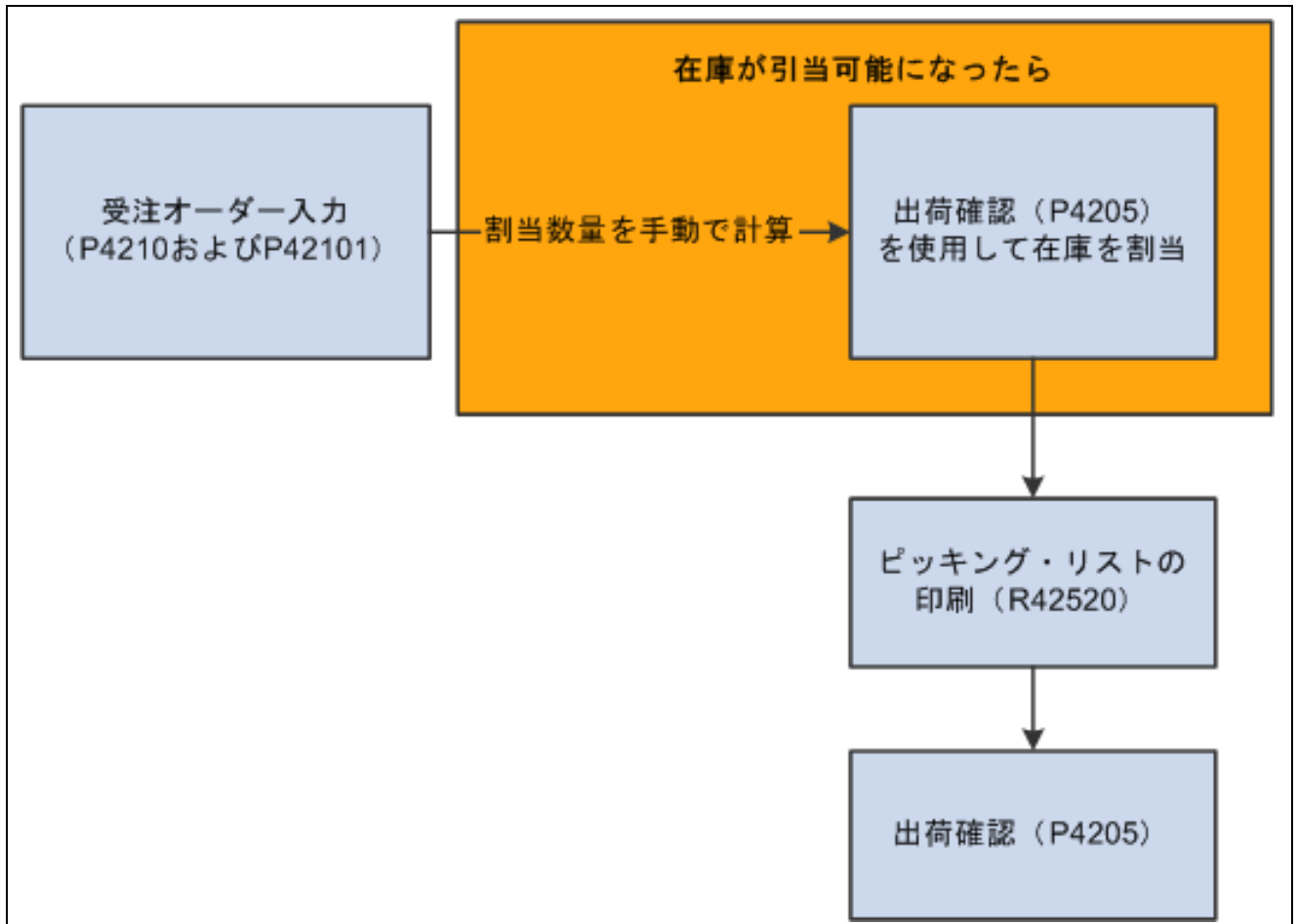
「優先度」フィールドでは、「0」が最高の優先度で、「99」が最低の優先度となります。

手動割当の実行

この項では、手動割当の概要、事前設定、および手動割当の実行方法について説明します。

手動割当について

手動割当を実行して、スタイル品目の受注オーダーに対する引当を行うことができます。手動割当を実行する場合は、ハード・コミットを使用する必要があります。次の図は、スタイル品目のオーダーに対する手動割当プロセスの流れを示したものです。



手動割当プロセス

手動割当プロセスでは、実行する必要がある基本的プロセスを処理します。手動計算を実行するかわりに、割当モジュールを使用してこのプロセスを自動的に管理することもできます。

事前設定

手動割当を実行する前に、出荷確認プログラム (P4205) の「編集」タブにある「引当可能数量チェック」処理オプションを「1」に設定して、引当可能数量チェックを有効にする必要があります。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 受注管理 9.0 製品ガイド、「受注オーダーの処理」、「出荷の確認」、「出荷確認プログラム (P4205) の処理オプションの設定」

手動割当の実行

手動割当を実行するには、次の手順に従います。

1. 受注オーダー入力 (P4210またはP42101) を使用して、受注オーダーを入力します。

注意: 受注オーダー入力プログラム (P4210) の「引当て」タブにある「引当可能数量チェックの使用」処理オプションをブランクにして、オーダーのスタイル品目に対する引当可能数量チェックが行われないようにします。

2. 在庫が引当可能になったら、各オーダーに割り当てる数量を手動で計算します。

3. 出荷確認プログラム(P4205)を実行して、各オーダーについて手動で計算した割当数量をハード・コミットします。
4. ピッキング・リスト印刷プログラム(R42520)を実行して、各受注オーダーの数量をピッキングします。
5. 出荷確認プログラムを実行して、出荷確認を行います。

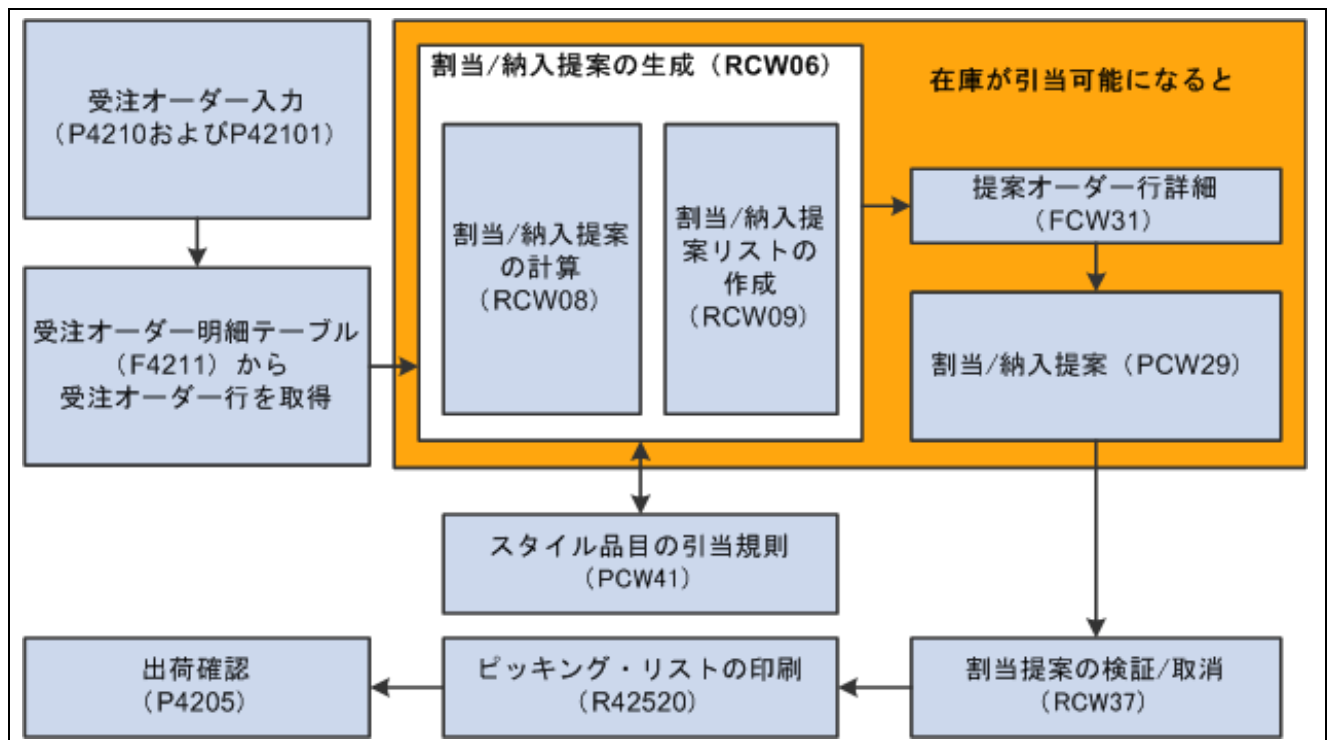
注意: 出荷確認のために使用する出荷確認プログラムのバージョンは、オーダーに対して数量をハード・コミットするために使用するプログラムとは異なるバージョンのものです。ハード・コミットと出荷確認にそれぞれ異なるバージョンの出荷確認プログラムを使用するのは、処理オプションの設定がビジネス・プロセスごとに異なる場合があるためです。

自動割当の実行

この項では、自動割当の概要と実行方法について説明します。

自動割当について

自動割当を実行して、スタイル品目の受注オーダーに対する引当を行うことができます。自動割当は、割当提案と納入提案の両方をサポートしています。次の図は、スタイル品目のオーダーに対する自動割当プロセスの流れを示したものです。



自動割当プロセス

ユーザーは、製品の割当や、充当する主要オーダーに関するパラメータを定義します。また、納入に適用する制約も定義します。パラメータを定義したら、割当/納入提案の生成プログラム(RCW06)を実行して割当提案と納入提案を生成します。割当と納入は両方同時に実行できます。なお、これらのプロセスを分けて、先に在庫の割当と引当を行い、その後で割当/納入提案の生成プログラムを再度実行し、製品を納入することもできます。

割当/納入提案の生成プログラムは、割当/納入提案の計算プログラム(RCW08)と割当/納入提案リストの作成プログラム(RCW09)を呼び出して、割当提案を計算および作成します。受注オーダーのグループが各レポートへの入力になります。ユーザーは、受注オーダーの選択に基づいてデータ選択を設定します。

注意: プログラムには約255のカラムが含まれるため、特定のデータ選択を設定することをお勧めします。

割当/納入提案の生成(RCW06)、割当/納入提案の計算(RCW08)および割当/納入提案リストの作成(RCW09)プログラムはまず、割当/納入提案の生成プログラムの処理オプションで設定された状況に基づいて受注オーダー行を抽出します。割当/納入提案の生成プログラムは、受注オーダー見出し(F4201)とF4211テーブルに保存されたオーダー情報を使用して、受注オーダー行の優先順位を決定します。割当/納入提案の生成プログラムは、スタイル品目の引当規則プログラムで定義されFCW41テーブルに保存された引当規則に基づいて、割当提案を生成します。

割当/納入提案の生成プログラムはその後、提案オーダー行詳細(FCW31)、提案処理詳細(FCW43)、提案オーダー詳細(FCW44)およびF4211テーブルを更新します。

FCW31テーブルには、F4211テーブルから取得した値やその他の提案詳細に加え、FCW41テーブルに基づいて適用される優先順位が保存されます。

FCW43テーブルには、割当/納入提案の生成プログラムの処理オプションの値(割当/納入提案の生成プログラムの実行時に設定された値)が保存されます。処理オプションの値は自動的に保存されるため、値がプログラムの実行ごとに変更されても、それらの値は後で必要に応じて別の処理に使用できます。また、提案名(割当/納入提案の生成プログラムのバージョン名と同じ)も自動的に保存されます。FCW43テーブルには、複数のレコードと複数の提案が保存されます。各提案は他のものとは切り離して扱われます。

FCW44テーブルには、F4201テーブルから取得した値とその他の提案詳細が保存されます。割当/納入提案の生成プログラムは、FCW44テーブルを更新します。

提案のサイズ加重テーブル(FCW46)には、提案プロセス中に使用される、各種のサイズのサイズ加重情報が保存されます。このテーブルには、割当提案と納入提案の両方についての情報が保存されます。

適正配分/配分率テーブル(FCW105)には、適正配分の計算に必要な値が保存されます。提案の適正配分計算プログラム(RCW60)は、品目ごとに割り当てられるすべての数量を加算し、引当可能数量が0より大きい場合にのみ、その値を適正配分/配分率テーブル(FCW105)テーブルに保存します。割当/納入提案の計算プログラムは、FCW105テーブル内の値を使用して適正配分を計算します。

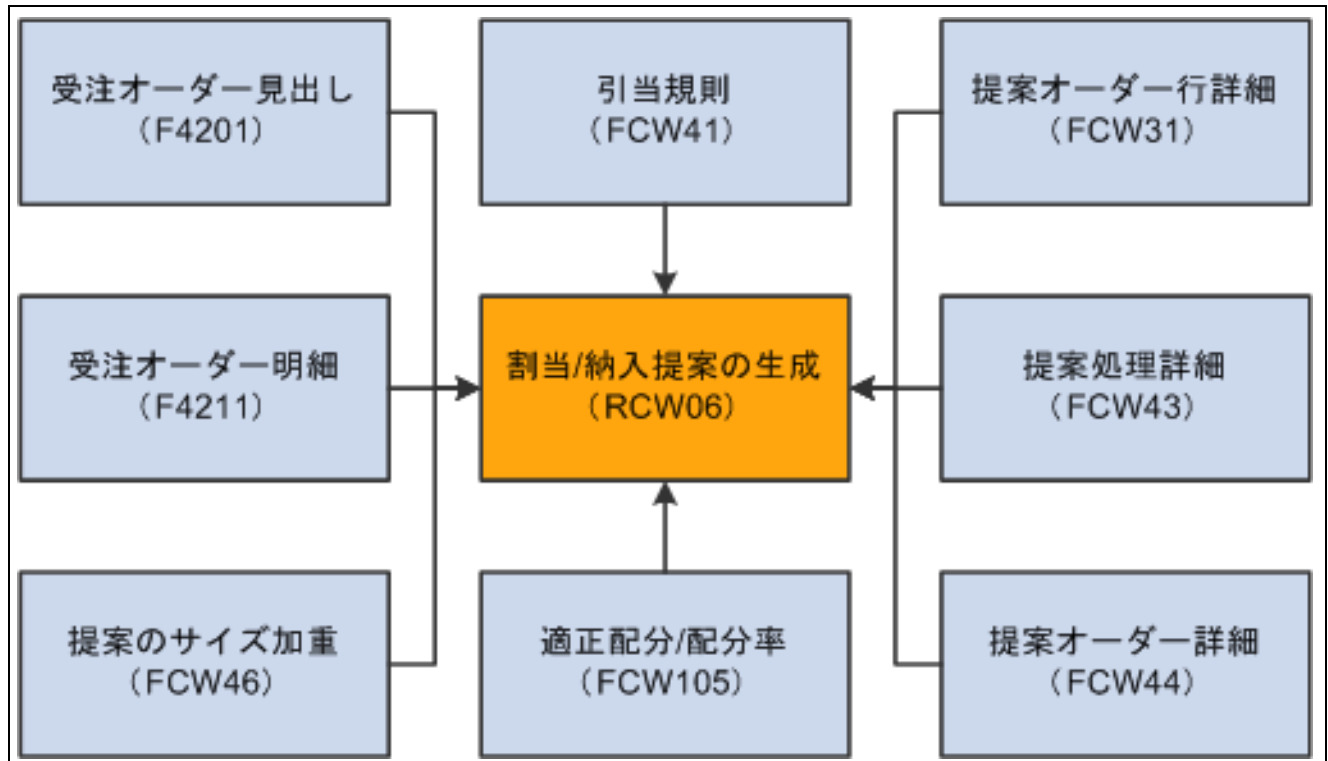
F4211テーブルは、オーダー処理規則の状況と“その他数量1 - 受注オーダー”を反映するために更新されます。

「ソフトコミット数量」フィールド内の数量は、品目保管場所テーブル(F41021)内の受注オーダーの「その他数量1 - 受注オーダー」フィールドに転送されます。

注意: 割当/納入提案の生成プログラムは提案数量で「その他数量1 - 受注オーダー」フィールドを更新するので、“その他数量1 - 受注オーダー”は引当可能数量の計算に含まれます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理 9.0 製品ガイド、「JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理における割当の処理」、「事前設定」

次の図は、割当/納入提案の生成プログラムによって使用されるテーブルを示したものです。



割当プロセスのテーブル

ユーザーは、計算結果を割当/納入提案プログラム(PCW29)で検討します。割当/納入提案プログラムを使用して、提案の変更、検証および取消しを行うことができます。

提案はFCW31テーブルに保存されます。割当/納入提案プログラムは、検証されたオーダー行に対してハード・コミット処理を行います。

ユーザーが提案を検証または取り消すと、割当/納入提案プログラムは提案の検証プログラム(RCW29V)を呼び出して、次の処理を行います。

- 割当/納入提案プログラムから取得した提案を検証する。
- F4211テーブル内の状況と引当フラグをハード・コミットへと更新する。
- 「その他数量1 - 受注オーダー」フィールドから取得した数量を、F41021テーブル内の「ハード・コミット済受注」フィールドに転送する。

割当提案の検証/取消プログラム(RCW37)を使用して、割当提案を検証または取り消すこともできます。割当提案の検証/取消プログラムは、スタンドアロン・モードでのみ実行されます。

注意: 割当提案の検証/取消プログラムは、割当提案についてのみ実行されます。このプログラムは納入提案については実行されません。

自動割当の実行

自動割当を実行するには、次の手順に従います。

1. 受注オーダー入力(P4210またはP42101)を使用して、受注オーダーを入力します。

注意: 受注オーダー入力プログラム (P4210) の「引当て」タブにある「引当可能数量チェックの使用」処理オプションをブランクにして、オーダーのスタイル品目に対する引当可能数量チェックが行われないようにします。

2. 在庫が引当可能になったら、割当/納入提案の生成プログラム (RCW06) を実行します。

割当/納入提案の生成プログラムは、2つのプログラム (割当/納入提案の計算プログラムと割当/納入提案リストの作成プログラム) で構成されます。

- a. 割当/納入提案の生成プログラム (RCW06) は、割当/納入提案の計算プログラム (RCW08) を起動し、割当提案と納入提案の計算を実行します。
- b. 割当/納入提案の生成プログラム (RCW06) は、割当/納入提案リストの作成プログラム (RCW09) を起動して、割当提案リストを作成します。

割当/納入提案リストの作成プログラムは、FCW44 テーブルを更新します。

割当/納入提案の生成プログラム (RCW06) の実行中にレコード予約エラー・メッセージが返された場合、割当/納入提案の生成プログラムは提案エラー・ログ・プログラム (RCW40) を呼び出して、エラー・メッセージをログに記録します。

JD Edwards EnterpriseOne システムのレコード予約機能により、テーブルの情報を更新できるユーザーを一度に1人のみに制限できます。複数のユーザーがデータを同時に更新すると、データが不正になる場合があるため、プログラムへのアクセスを制限し、データの整合性を維持することが必要な場合があります。

重要: 複数のユーザーが同じバージョンの割当/納入提案生成プログラムを同時に実行することはできません。複数のユーザーがこのプログラムの同じバージョンを実行すると、そのバージョンに対応する以前の提案詳細が削除されます。提案がすでに検証済みであり、割当/納入提案プログラム (PCW29) 内に対応するレコードがない場合は、同じバージョンを再利用できます。以前の提案が検証待ちである場合は、新しいバージョンを作成して使用してください。

3. 割当/納入提案の生成プログラムの「条件」タブにある「適正配分」処理オプションが「Y」に設定されている場合、割当/納入提案の生成プログラムは、FCW31 テーブルの提案行の挿入後に提案の適正配分計算プログラム (RCW60) を起動します。

提案の適正配分計算プログラムは、品目ごとに割り当てられるすべての数量を加算し、引当可能数量が0より大きい場合にのみ、その値を適正配分/配分率テーブル (FCW105) テーブルに保存します。割当/納入提案の計算プログラムは、FCW105 テーブル内の値を使用して適正配分を計算します。

4. 割当/納入提案プログラム (PCW29) を実行して、割当/納入提案の生成プログラムによって生成された提案を処理します。
5. 割当提案の検証/取消プログラムを実行して、提案数量を検証し、在庫の引当可能数量に基づいて割当数量を決定します。

割当提案の検証/取消プログラムは、提案の取消しにも使用されます。

割当提案の検証/取消プログラムの実行中にレコード予約エラー・メッセージが返された場合、割当提案の検証/取消プログラムは提案エラー・ログ・プログラムを呼び出して、エラー・メッセージをログに記録します。

注意: 割当提案の検証/取消プログラムは、割当提案についてのみ実行されます。

6. ピッキング・リスト印刷プログラム (R42520) を実行して、各受注オーダーの数量をピッキングします。
7. 出荷確認プログラム (P4205) を実行して、出荷確認を行います。

割当提案の生成

この項では、割当提案の概要とアルゴリズム、割当提案のアルゴリズムの設定と実行方法、事前設定、および次の方法について説明します。

- 割当/納入提案の生成プログラム(RCW06)の処理オプションの設定
- 割当提案の生成

割当提案について

割当/納入提案の生成プログラムを実行して、割当提案を生成します。割当提案を使用すると、製品が不足している場合に、引当可能な在庫を複数の受注オーダー間で配賦することができます。

割当提案情報は、FCW43テーブルとFCW44テーブルに保存されます。

割当/納入提案の生成プログラムでは、4桁までの小数を処理できます。

割当/納入提案の生成プログラム(RCW06)用のレポートに情報は出力されず、メッセージもワーク・センターに送信されません。無効なデータ選択があった場合は、データが選択されていないというメッセージがレポートに出力されます。

割当/納入提案リストの作成プログラム(RCW09)は、割当用のレポートを生成します。

注意: 行タイプがW(作業オーダー)である受注オーダー明細行は、割当提案プロセスから除外されます。“作業オーダー”行タイプは、関連付けられた作業オーダーが完了したときに充当されます。

割当提案のアルゴリズムについて

割当提案を生成するために割当/納入提案の生成プログラムが実行されると、アルゴリズムによって次の処理が行われます。

1. F4211テーブルから受注オーダー明細行を抽出し、それらを次の条件に従ってFCW31テーブルに保存する。
 - データ選択は、F0101、F4211、品目マスター(F4101)、スタイル品目追加情報(FCW61)および品目構造定義(FCW02)テーブルのフィールドに対して設定されます。
 - 次状況によるフィルタを適用するために、「状況」タブの処理オプションが設定されます。
 - 日付によるフィルタを適用するために、「日付」タブの処理オプションが設定されます。
 - 数量を指定するために、「処理」タブの「最小オーダー数量」処理オプションが設定されます。

注意: 受注オーダー明細行に「最小オーダー数量」処理オプションの値よりも小さいオーダー数量が含まれている場合、受注オーダー明細行は無視されます。

受注オーダーが割当処理のために抽出されると、“倉庫管理で処理中”フラグが設定され、その受注オーダーはロックされます。

2. 抽出された受注オーダー明細行を、「優先規則」タブの「優先引当規則」処理オプションで指定された優先規則に従ってソートする。

注意: 優先規則は、割当/納入提案の生成プログラムが実行される前に、スタイル品目の引当規則プログラムで定義されます。

3. 次のいずれかの計算を使用して、提案数量を決定する。

- 「条件」タブの「配分率」処理オプションの値に基づいて提案数量を計算する。

抽出されたすべての受注オーダー明細行について、オーダー数量が配分率で乗算され、提案数量が算出されます。

次の計算では、当初のオーダー数量は無視され、この乗算の結果（提案数量）だけが処理されます。

- 「条件」タブの「適正配分」処理オプションが「Y」に設定されている場合は、提案数量を適正配分処理に基づいて計算する。

配分率は、割当可能な在庫（引当可能な在庫）と、抽出されたすべての受注オーダー明細行の受注残数量合計との比率として、すべての子品目を対象に計算されます。適正配分の配分率 = (引当可能数量の合計) ÷ (受注残数量の合計)

割当/納入提案の生成プログラムの「条件」タブにある「適正配分」処理オプションが「Y」に設定されている場合、割当/納入提案の生成プログラムは、提案の適正配分計算プログラム (RCW60) を呼び出して、品目の適正配分を計算します。提案の適正配分計算プログラムは、FCW31テーブルに提案行が挿入された後、割当/納入提案の計算プログラムを起動する前に、品目ごとに割り当てられるすべての数量を加算し、その値をFCW105テーブルに保存します。その後、割当/納入提案の計算プログラムはその値を使用して適正配分を計算します。

抽出されたすべての受注オーダー明細行を対象に、受注残数量が配分率で乗算され、提案数量が算出されます。

算出された提案数量が「条件」タブの「子品目当たりの最小数量」処理オプションの値よりも小さい場合、提案数量は、「子品目当たりの最小数量」処理オプションの値と同じ（最後の値が受注残数量よりも小さい場合）か、または受注残数量と同じになります。

注意: 適正配分と配分率の両方の処理を有効にした場合、計算は適正配分を使用して実行され、配分率は無視されます。

4. 確保数量を決定する。

確保数量または割当数量は、すべての受注オーダー明細行について、引当可能数量と提案数量の間の最小値を表します。

5. 「履行率」タブの「オーダー行」処理オプションを、サイズ加重を使用して適用する。

6. 「履行率」タブの「レベル4の品目」処理オプションを、サイズ加重なしで適用する。

注意: “サイズ加重なし”は、サイズ加重が1であるのと同じです。

7. 「履行率」タブの「レベル3の品目」処理オプションを、サイズ加重なしで適用する。

8. 「履行率」タブの「レベル2の品目」処理オプションを、サイズ加重なしで適用する。

9. 「履行率」タブの「レベル1の品目」処理オプションを、サイズ加重なしで適用する。

10. 「履行率」タブの「レベル0の品目」処理オプションを、サイズ加重なしで適用する。

11. 「最上位/最下位処理」タブの「最上位/最下位管理(Y/N)」処理オプションが「Y」に設定されている場合、すべてのオーダーに次の処理を適用する。

- 抽出されたすべての受注オーダー明細行を、1つまたは2つの品目カテゴリ・コードの値に従ってファミリーにグループ化する。これらのカテゴリ・コードのエイリアスは、「最上位/最下位処理」タブの「品目カテゴリ・エイリアス・グループ・コード1」および「品目カテゴリ・エイリアス・グループ・コード2」処理オプションで設定されます。

このステップの結果として、受注オーダー明細行は1つまたは複数のファミリーにソートされます。

トップスかボトムスかは、「最上位/最下位処理」タブの「品目カテゴリ・エイリアスの最上位/最下位」処理オプションで定義された品目カテゴリ・コードの「特殊取扱コード」フィールドに指定されます。「特殊取扱コード」フィールドの値が「1」または「T」である場合、その品目はトップスであると判断されます。「特殊取扱コード」フィールドの値が「2」または「B」である場合、その品目はボトムスであると判断されます。

- b. すべてのファミリーについて、トップスとボトムスの確保数量合計 (TQRおよびBQR) を計算する。
- c. すべてのファミリーについて、トップスとボトムスの提案数量合計 (TQPおよびBQP) を計算する。

TQPまたはTQRがゼロである場合は何も行われず、それ以外の場合は、TQR/TQPおよびBQR/BQPの充当率が比較されます。

トップスの充当率 (TQR/TQP) がボトムスの充当率よりも低い場合は、すべてのトップス品目が割当用に確保されます。

BQRが $BQP \times (TQR/TQP + (\text{Allowed } \%) / 100)$ (Allowed %は、「最上位/最下位処理」タブの「許容限度率 (%)」処理オプションの値) よりも低い場合は、すべてのボトムス品目も割当用に確保されます。

その他の場合は、ボトムス品目の合計数量 $BQP \times (TQR/TQP + (\text{Allowed } \%) / 100)$ のみが確保されます。この合計値を取得するために、システムはすべてのボトムス品目行について、確保数量を $BQP \times (TQR/TQP + (\text{Allowed } \%) / 100) / \sum BQR$ という係数で調整します。

ボトムスの充当率 (BQR/BQP) がトップスの充当率よりも低い場合は、すべてのボトムス品目が割当用に確保されます。

TQRが $TQP \times (BQR/BQP + (\text{Allowed } \%) / 100)$ (Allowed %は、「最上位/最下位処理」タブの「許容限度率 (%)」処理オプションの値) よりも低い場合は、すべてのトップス品目も割当用に確保されます。

その他の場合は、トップス品目の合計数量 $TQP \times (BQR/BQP + (\text{Allowed } \%) / 100)$ のみが確保されます。この合計値を取得するために、システムはすべてのトップス品目行について、確保数量を $TQP \times (BQR / BQP + (\text{Allowed } \%) / 100) / \sum TQR$ という係数で調整します。

- d. 必要な場合は、割当/納入提案の生成プログラムの「最上位/最下位処理」タブにある「許容限度率 (%)」処理オプションを使用して、確保数量を調整する。

12. 「履行率」タブの「品目カテゴリ・コード・エイリアス1」、「品目カテゴリ・コード・エイリアス2」および「グループ履行率」処理オプションの履行率を計算する。

注意: 「履行率」タブの「品目カテゴリ・コード・エイリアス1」、「品目カテゴリ・コード・エイリアス2」および「グループ履行率」処理オプションは、品目グループ制約と呼ばれます。

抽出されたすべての受注オーダー行を、1つまたは2つの品目カテゴリ・コードの値に基づいて品目グループにグループ化する。これらのカテゴリ・コードのエイリアスは、「最上位/最下位処理」タブの「品目カテゴリ・エイリアス・グループ・コード1」および「品目カテゴリ・エイリアス・グループ・コード2」処理オプションで設定されます。

このステップの結果として、受注オーダー行は1つまたは複数の品目グループにソートされます。

すべての品目グループについて、次の処理が行われます。

- 確保数量合計と提案数量合計の比率が計算されます。

- この比率が「履行率」タブの「グループ履行率」処理オプションで設定された値よりも低い場合、確保数量はそのグループ内のすべての品目についてゼロに設定されます。

警告: 「履行率」タブの「品目グループ制約」処理オプションが有効化されており、かつ「最上位/最下位処理」タブの「最上位/最下位管理(Y/N)」処理オプションが「Y」に設定されている場合、一貫性のある結果を得るには、1つのトップス/ボトムス・ファミリ内のすべての品目が同じ品目グループに属している必要があります。JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理システムでは、この条件の検証は行われません。この整合性の確認はユーザーの責任で行う必要があります。

13. 「処理」タブの「履行率」タブに基づいて、受注オーダーの履行率を計算する。

「処理」タブの「履行率の基準」処理オプションの値に応じて、次のいずれかに基づいてすべての受注オーダーの履行率が計算されます。

- 受注オーダーのすべてのオーダー明細行
- 抽出された行のみ（データ選択と、「状況」および「日付」タブの処理オプションによってフィルタされた受注オーダー明細行）

履行率が、確保数量合計と提案数量合計の比率と比較されます。

14. 「処理」タブの「最小割当数量」および「最大割当数量」処理オプションを適用する。

このオーダーの確保数量合計を、処理オプションの範囲と比較します。確保数量合計が処理オプションの範囲内にない場合、そのオーダーは割当用に確保されません。

15. 割当/納入提案の生成プログラムの「検証」タブにある「自動検証の作成」処理オプションの設定に基づいて、自動検証を実行する。

「自動検証の作成」処理オプションが「1」に設定されている場合は、割当用に確保されたすべての行が検証されます。検証済の行は、受注オーダーへとハード・コミットされるか、または「検証」タブの処理オプション設定に基づいて、“その他の受注オーダー1”または“その他の受注オーダー2”へと引き当てられます。

注意: 割当/納入提案の生成プログラムは、割当提案の検証/取消プログラムと同じビジネス関数を検証に使用します。

「自動検証の作成」処理オプションがブランクの場合、自動検証は必要とされず、割当用に確保されたオーダー行はソフト・コミットもハード・コミットもされません。システムは、品目数量をF41021テーブルの「その他数量1」フィールドの値に加算します。

例: 割当提案のアルゴリズムの設定と実行

この例では、スタイル品目の割当提案の設定を示すとともに、アルゴリズムが受注オーダーの割当をどのように計算するかについて説明します。

設定

顧客が次の受注オーダーを入力します。

子スタイル品目	オーダー数量	引当可能数量	受注オーダー番号	次状況
JEANS4.CTN.BLU.XS	100	80	11181	540
JEANS4.CTN.BLU.S	100	40	11181	540
JEANS4.CTN.BLU.M	100	30	11181	540

子スタイル品目	オーダー数量	引当可能数量	受注オーダー番号	次状況
JACKET.BLK.S1	100	45	11181	540
TIE.BLK	100	55	11181	540
JEANS4.CTN.PURP.XS	100	30	11190	540
JEANS4.SPX.PURP.XS	100	30	11190	540
JEANS4.SPX.BLU.XS	3	30	11186	540
JEANS4.SPX.PURP.XS	100	30	11188	520

次のパラメータ値を使用して、引当規則01が設定されます。

パラメータ	値	優先度
エイリアス顧客1	AC01	1
エイリアス顧客2	なし	0
エイリアス顧客3	なし	0
エイリアス顧客4	なし	0
エイリアス顧客5	なし	0
優先出荷日付	該当なし	0
優先オーダー日付	該当なし	0
優先オーダー	該当なし	0
優先要求日付	該当なし	0

次の値を使用して、引当規則01とカテゴリ・コード1の組合せが設定されます。

優先度	カテゴリ	説明
1	110	メキシコシティ事業所
2	115	ニューヨーク事業所

割当/納入提案の生成プログラムの処理オプションは次の設定を使用します。

タブ	処理オプション	値
状況	処理タイプ	P
状況	開始次状況コード(必須)	540
状況	終了次状況コード(必須)	620
状況	一時変更用次状況コード	535
状況	配送中処理済オーダーを含める	ブランク
日付	最大トランザクション日付	2015/01/25
日付	開始約束納入日付	2006/01/02
日付	終了約束納入日付	2015/01/01
処理	履行率の基準	E
処理	履行率(%)	40
処理	最小オーダー数量	5
処理	最小割当数量	ブランク
処理	最大割当数量	ブランク
条件	配分率	60
条件	適正配分	N
条件	子品目当たりの最小数量	ブランク
優先規則	優先引当規則	01
優先規則	優先出荷日付に基づく	1
履行率	レベル0の品目	ブランク
履行率	レベル1の品目	50
履行率	レベル2の品目	ブランク
履行率	レベル3の品目	ブランク
履行率	レベル4の品目	ブランク
履行率	オーダー行	65
履行率	品目カテゴリ・コード・エイリアス1	ブランク

タブ	処理オプション	値
履行率	品目カテゴリ・コード・エイリアス2	ブランク
履行率	グループ履行率	ブランク
最上位/最下位処理	最上位/最下位管理 (Y/N)	Y
最上位/最下位処理	品目カテゴリ・エイリアスの最上位/ 最下位	SRP7
最上位/最下位処理	許容限度率 (%)	10
最上位/最下位処理	品目カテゴリ・エイリアス・グループ・ コード1	ブランク
最上位/最下位処理	品目カテゴリ・エイリアス・グループ・ コード2	ブランク

アルゴリズムの計算

割当提案を生成するために割当/納入提案の生成プログラムを実行すると、アルゴリズムによって次の処理が行われます。

1. 「開始次状況」処理オプションの値を「540」、「最小オーダー数量」処理オプションの値を「5」として、受注オーダー明細行を抽出する。次の受注オーダー行が抽出されます。

子スタイル品目	オーダー数量	引当可能数量	受注オーダー番号	次状況
JEANS4.CTN.BLU.XS	100	80	11181	540
JEANS4.CTN.BLU.S	100	40	11181	540
JEANS4.CTN.BLU.M	100	30	11181	540
JACKET.BLK. S1	100	45	11181	540
TIE.BLK	100	55	11181	540
JEANS4.CTN.PURP.XS	100	30	11190	540
JEANS4.SPX.PURP.XS	100	30	11190	540

2. 抽出された受注オーダー明細行を、「優先規則」タブの「優先引当規則」処理オプションで指定された優先規則に従ってソートする。

ソート前のオーダー抽出:

子スタイル品目	受注オーダー番号	引当可能数量	顧客番号
JEANS4.CTN.BLU.XS	11181	80	4242
JEANS.CTN. BLU.S	11181	40	4242
JEANS4.CTN.BLU.M	11181	30	4242

子スタイル品目	受注オーダー番号	引当可能数量	顧客番号
JACKET.BLK S1	11181	45	4242
TIE.BLK	11181	55	4242
JEANS4.CTN.PURP.XS	11190	30	4343
JEANS4.SPX.PURP.XS	11190	30	4343

顧客のカテゴリ・コード設定は次のようになります。

顧客番号	カテゴリ・コード - AC01 値	PCW23の優先順位値セット
4242	115	2
4343	110	1

ソート後のオーダー抽出:

子スタイル品目	受注オーダー番号	引当可能数量	優先順位値	顧客番号
JEANS4.CTN.PURP.XS	11190	30	1	4343
JEANS4.SPX.PURP.XS	11190	30	1	4343
JEANS4.CTN.BLU.XS	11181	80	2	4242
JEANS4.CTN.BLU.S	11181	40	2	4242
JEANS4.CTN.BLU.M	11181	30	2	4242
JACKET.BLK.S1	11181	45	2	4242
TIE.BLK	11181	55	2	4242

3. 配分率が「60%」、適正配分が「N」に設定された状態で提案数量を決定する。次の計算が実行されます。

子スタイル品目	オーダー数量	引当可能数量	提案数量 提案数量 = オーダー数量 × 配分率
JEANS4.CTN.PURP.XS	100	30	60
JEANS4.SPX.PURP.XS	100	30	60
JEANS4.CTN.BLU.XS	100	80	60
JEANS4.CTN.BLU.S	100	40	60
JEANS4.CTN.BLU.M	100	30	60
JACKET.BLK.S1	100	45	60
TIE.BLK	100	55	60

4. 確保数量を決定する。

確保数量または割当数量は、すべての受注オーダー明細行について、引当可能数量と提案数量の間の最小値を表します。次の確保数量が決定されます。

子スタイル品目	オーダー数量	引当可能数量	提案数量	確保数量
JEANS4.CTN.PURP.XS	100	30	60	30
JEANS4.SPX.PURP.XS	100	30	60	30
JEANS4.CTN.BLU.XS	100	80	60	60
JEANS4.CTN.BLU.S	100	40	60	40
JEANS4.CTN.BLU.M	100	30	60	30
JACKET.BLK.S1	100	45	60	45
TIE.BLK	100	55	60	55

5. 「履行率」タブの「オーダー行」処理オプションを、サイズ加重を使用して適用する。

サイズ加重の設定は、サイズ01が「1」、サイズ02が「3」、サイズ03が「2」です。「オーダー行」処理オプションの履行率の設定は「65%」です。

次のオーダー情報を使用して計算が実行されます。

子スタイル品目	オーダー数量	引当可能数量	提案数量	確保数量
JEANS4.CTN.BLU.XS	100	80	60	60
JEANS4.CTN.BLU.S	100	40	60	40
JEANS4.CTN.BLU.M	100	30	60	30
JACKET.BLK.S1	100	45	60	45
TIE.BLK	100	55	60	55

属性CTNと色BLUについて、次の計算を実行します。

(中間変数)提案数量合計 = $60 \times 1 + 60 \times 3 + 60 \times 2 = 360$

(中間変数)確保数量合計 = $60 \times 1 + 40 \times 3 + 30 \times 2 = 240$

確保数合計/提案数合計 = $240/360 = 67\%$ 。計算結果の67%は履行率の65%よりも大きいので、システムはオーダー行を確保します。

次のオーダー情報を使用して計算が実行されます。

子スタイル品目	オーダー数量	引当可能数量	提案数量	確保数量
JEANS4.CTN.PURP.XS	100	30	60	30
JEANS4.SPX.PURP.XS	100	30	60	30

属性CTNと色PURPについて、次の計算を実行します。

(中間変数)提案数量合計 = $60 \times 1 = 60$

(中間変数) 確保数量合計 = $30 \times 1 = 30$

確保数合計/提案数合計 = $30/60 = 50\%$ 。計算結果の50%は履行率の65%よりも小さいので、オーダー行は確保されません。

属性SPXと色PURPについても計算は同じなので、このオーダー行も確保されます。

割 当 計 算 の こ の ス テ ッ プ の 結 果 と し て、JEANS4.CTN.BLU.XS、JEANS4.CTN.BLU.S、JEANS4.CTN.BLU.M、JACKET.BLK.S1およびTIE.BLKオーダー行が確保されます。

6. 「履行率」タブの「レベル4の品目」処理オプションの値を、サイズ加重なしで適用する。

注意: “サイズ加重なし”は、サイズ加重が1であるのと同じです。

この処理オプションは設定されていないので、計算は実行されません。

7. 「履行率」タブの「レベル3の品目」処理オプションの値を、サイズ加重なしで適用する。

この処理オプションは設定されていないので、計算は実行されません。

8. 「履行率」タブの「レベル2の品目」処理オプションの値を、サイズ加重なしで適用する。

この処理オプションは設定されていないので、計算は実行されません。

9. 「履行率」タブの「レベル1の品目」処理オプションの値を、サイズ加重なしで適用する。

「レベル1の品目」処理オプションの履行率は「50%」に設定されています。

次のオーダー情報を使用して計算が実行されます。

子スタイル品目	オーダー数量	引当可能数量	提案数量	確保数量
JEANS4.CTN.BLU.XS	100	80	60	60
JEANS4.CTN.BLU.S	100	40	60	40
JEANS4.CTN.BLU.M	100	30	60	30

スタイル品目のルート・レベル0であるJEANS4と属性CTNについて、次の計算を実行します。

(中間変数) 提案数量合計 = $60 + 60 + 60 = 180$

(中間変数) 確保数量合計 = $60 + 40 + 30 = 130$

確保数合計/提案数合計 = $130/180 = 72\%$ 。計算結果の72%は履行率の50%よりも大きいので、オーダー行は確保されます。

子スタイル品目	オーダー数量	引当可能数量	提案数量	確保数量
JACKET.BLK.S1	100	45	60	45

スタイル品目のルート・レベル0であるJACKETと属性BLKについて、次の計算を実行します。

(中間変数) 提案数量合計 = 60

(中間変数) 確保数量合計 = 45

確保数合計/提案数合計 = $45/60 = 75\%$ 。計算結果の75%は履行率の50%よりも大きいので、オーダー行は確保されます。

子スタイル品目	オーダー数量	引当可能数量	提案数量	確保数量
TIE.BLK	100	55	60	55

スタイル品目のルート・レベル0であるTIEと属性BLKについて、次の計算を実行します。

(中間変数)提案数量合計 = 60

(中間変数)確保数量合計 = 55

確保数合計/提案数合計 = $55/60 = 91.66\%$ 。計算結果の91.66 %は履行率の50%よりも大きいので、オーダー行は確保されます。

10. 「履行率」タブの「レベル0の品目」処理オプションの値を、サイズ加重なしで適用する。

この処理オプションは設定されていないので、計算は実行されません。

11. 「最上位/最下位」タブの「最上位/最下位管理(Y/N)」処理オプションが「Y」に設定されている場合、すべてのオーダーに次の処理を適用する。

「品目カテゴリ・エイリアスの最上位/最下位」処理オプションは「SRP7」、「許容限度率(%)」は「10」パーセントに設定されています。

特殊取扱コード1はトップス、特殊取扱コード2はボトムスを示します。

次のオーダー情報を使用して計算が実行されます。

子スタイル品目	提案数量	確保数量	カテゴリ・コード(SRP7)値	特殊取扱コード	最上位/最下位
JEANS4.CTN.BLU.XS	60	60	200	2	B
JEANS4.CTN.BLU.S	60	40	200	2	B
JEANS4.CTN.BLU.M	60	30	200	2	B
JACKET.BLK.S1	60	45	100	1	T
TIE.BLK	60	55	400	ブランク	NA

ボトムス確保数量合計(BQR) = $60 + 40 + 30 = 130$

ボトムス提案数量合計(BQP) = $60 + 60 + 60 = 180$

ボトムス品目の充当率 = $130/180 = 72\%$

トップス確保数量合計(TQR) = 45

トップス提案数量合計(TQP) = 60

トップス品目の充当率 = $45/60 = 75\%$

トップス充当率 = 75%

ボトムス充当率 = 72%

処理オプションから取得された許容パーセントは10%です。

ボトムス充当率がトップス充当率よりも低い場合は、すべてのボトムス品目が確保されます。ボトムス充当率の72%はトップス充当率の75%よりも低いので、ボトムス品目が確保されます。

修正後比率 = ボトムス充当率 + [(ボトムス充当率 × 許容%) / 100]

修正後比率 = $72 + [(72 \times 10) / 100] = 79.2\%$

すべてのトップス行について、システムは確保率を計算します（確保率 = 確保数量 / オーダー数量）。

次のオーダー情報を使用して計算が実行されます。

子スタイル品目	オーダー数量	確保数量	確保率
JACKET.BLK.S1	100	45	45

確保率が修正後比率よりも高い場合は、すべてのトップス行について新しい確保数量が計算されます。

新しい確保数量 = オーダー数量 × 修正後比率

次のオーダー情報を使用して計算が実行されます。

子スタイル品目	オーダー数量	確保数量	確保率	新しい確保数量
JACKET.BLK.S1	100	45	45	45

次の表は、トップス/ボトムス処理後の結果を示したものです。

子スタイル品目	提案数量	確保数量	新しい確保数量
JEANS4.CTN.BLU.XS	60	60	60
JEANS4.CTN.BLU.S	60	40	40
JEANS4.CTN.BLU.M	60	30	30
JACKET.BLK.S1	60	45	45
TIE.BLK	60	55	55

12. 「履行率」タブの「品目カテゴリ・コード・エイリアス1」、「品目カテゴリ・コード・エイリアス2」および「グループ履行率」処理オプションの履行率を計算する。

この処理オプションは設定されていないので、計算は実行されません。

13. 「処理」タブの「履行率」タブに基づいて、受注オーダーの履行率を計算する。

履行率の計算は、履行率 = 確保数量合計 / オーダー数量合計となります。

「履行率」処理オプションは「40%」に設定されているので、システムはすべての数量を確保します。

次の表は、履行率処理後の結果を示したものです。

子スタイル品目	オーダー数量	提案数量	確保数量
JEANS4.CTN.BLU.XS	60	60	60
JEANS4.CTN.BLU.S	60	40	40
JEANS4.CTN.BLU.M	60	30	30
JACKET.BLK.S1	60	45	45
TIE.BLK	60	55	55

14. 「処理」タブの「最小割当数量」および「最大割当数量」処理オプションを適用する。

この処理オプションは設定されていないので、計算は実行されません。

15. 割当/納入提案の生成プログラムの「検証」タブにある「自動検証の作成」処理オプションの設定に基づいて、自動検証を実行する。

「自動検証の作成」処理オプションが「1」に設定されている場合は、割当用に確保されたすべての行が検証されます。検証済の行は、受注オーダーへとハード・コミットされるか、または「検証」タブの処理オプション設定に基づいて、“その他の受注オーダー1”または“その他の受注オーダー2”へと引き当てられます。

「自動検証の作成」処理オプションが空白の場合、自動検証は必要とされず、割当用に確保されたオーダー行はソフト・コミットもハード・コミットもされません。システムは、品目数量をF41021テーブルの「その他売上1」フィールドに加算します。

割当/納入提案プログラム(PCW29)を使用して確保数量を引き当てることもできます。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 割当/納入提案の生成プログラムの「状況」タブにある「処理タイプ」処理オプションを、「P」(割当提案)に設定します。
- 割当/納入提案生成プログラムの残りの処理オプションを適切に設定します。

割当/納入提案の生成プログラム(RCW06)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

状況

- | | |
|-------------------|--|
| 1. 処理タイプ | 提案の処理タイプを指定します。値は次のとおりです。
P: 割当提案
D: 納入提案 |
| 2. 開始次状況コード(必須) | 行タイプのオーダー・フローにおける次のステップを指定するユーザー定義コード(システム40/タイプAT)を指定します。 |
| 3. 終了次状況コード(必須) | 行タイプのオーダー・フローにおける次のステップを指定するユーザー定義コード(システム40/タイプAT)を指定します。 |
| 4. 一時変更用次状況コード | 行タイプのオーダー・フローにおける次のステップを指定するユーザー定義コード(システム40/タイプAT)を指定します。 |
| 5. 配送中処理済オーダーを含める | 処理済オーダーを納入に含めるかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。
空白: 処理済オーダーを納入に含めない。
1: 処理済オーダーを納入に含める。 |

日付

日付処理オプションを使用すると、F4211テーブルからの受注オーダー抽出に規定の日付選択を指定できます。

注意: 「日付」タブの処理オプションは省略可能です。これらの処理オプションをブランクにした場合、満了日に関する処理オプションを管理する必要はありません。

- | | |
|------------------------|---|
| 1. 最大トランザクション日付 | 割当/納入提案生成の対象となるオーダーを選択するためにシステムで
使用される最新のトランザクション日付を指定します。 |
| 2. 開始約束納入日付 | 割当/納入提案生成の対象となるオーダーを選択するためにシステムで
使用される約束納入日付範囲の開始日を指定します。 |
| 3. 終了約束納入日付 | 割当/納入提案生成の対象となるオーダーを選択するためにシステムで
使用される約束納入日付範囲の終了日を指定します。 |

処理

- | | |
|--------------------|--|
| 1. 履行率の基準 | 顧客と抽出のどちらを履行率の基準にするかを指定します。値は次のとおりです。

C: 顧客
E: 抽出 |
| 2. 履行率(%) | オーダーレベルの履行率をパーセントで指定します。オーダーレベルの履行率は、指定された履行率(顧客または抽出)に基づいて計算されます。 |
| 3. 最小オーダー数量 | 割当/納入提案生成の最小数量に満たないオーダーをフィルタするかどうかを指定します。 |
| 4. 最小割当数量 | 割当/納入提案の生成時に割り当てられる最小数量を指定します。 |
| 5. 最大割当数量 | 割当/納入提案の生成時に割り当てることができる最大数量を指定します。 |

条件

- | | |
|-----------------------|---|
| 1. 配分率 | 提案数量の計算に使用される配分率を指定します。 |
| 2. 適性配分 | 適正配分処理を有効にするかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

Y: 適正配分を有効化する。
N: 適正配分を有効化しない。

適正配分処理では、引当可能数量の合計とオーダー数量の合計に基づいて提案数量が計算されます。適正配分処理を有効化した場合、配分率は使用されません。 |
| 3. 子品目当たりの最小数量 | このトランザクションの影響を受ける数量を入力します。 |

履行率

- | | |
|-------------------|---------------------------------|
| 1. レベル0の品目 | スタイル品目のルートレベル0品目に適用する履行率を指定します。 |
| 2. レベル1の品目 | レベル1のスタイル品目に適用する履行率を指定します。 |
| 3. レベル2の品目 | レベル2のスタイル品目に適用する履行率を指定します。 |
| 4. レベル3の品目 | レベル3のスタイル品目に適用する履行率を指定します。 |

- | | |
|----------------------|--|
| 5. レベル4の品目 | レベル4のスタイル品目に適用する履行率を指定します。 |
| 6. オーダー行 | 子スタイル品目より前のオーダー行に適用する履行率を指定します。 |
| 7. 品目カテゴリ・コード・エイリアス1 | 履行率のグループ化に使用されるカテゴリ・コードに基づいて、品目のグループ化方法を指定します。 |
| 8. 品目カテゴリ・コード・エイリアス2 | 履行率のグループ化に使用されるカテゴリ・コードに基づいて、品目のグループ化方法を指定します。 |
| 9. グループ履行率 | 品目グループに適用するグループ履行率を指定します。 |

優先規則

- | | |
|---------------|---|
| 1. 優先引当規則 | 日付と、顧客の住所録のカテゴリ・コードに基づいて受注オーダー行の優先順位を決定する、ユーザー定義コード(41F/CR)を指定します。 |
| 2. 優先出荷日付に基づく | <p>約束納入日付とピッキング予定日付のどちらを出荷日として使用するかを指定します。有効な値は次のとおりです。</p> <p>ブランク: 約束納入日付を出荷日として使用する。</p> <p>1: ピッキング予定日付を出荷日として使用する。</p> |

最上位/最下位処理

- | | |
|---------------------------|---|
| 1. 最上位/最下位管理(Y/N) | <p>トップス/ボトムス管理処理を有効にするかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。</p> <p>Y: トップス/ボトムス管理処理を有効化する。</p> <p>N: トップス/ボトムス管理処理を有効化しない。</p> |
| 2. 品目カテゴリ・エイリアスの最上位/最下位 | <p>特殊取扱コードに基づいて、トップスかボトムスかを識別するためのカテゴリ・コードを指定します。</p> <p>特殊取扱コードが「1」または「T」の場合、その品目はトップスです。</p> <p>特殊取扱コードが「2」または「B」の場合、その品目はボトムスです。</p> |
| 3. 許容限度率(%) | トップスの数がボトムスの数を上回る場合(またはその逆)、その差の最大許容率を指定します。 |
| 4. 品目カテゴリ・エイリアス・グループ・コード1 | トップス/ボトムス管理処理の対象となるスタイル品目をグループ化するためのカテゴリ・コードを指定します。 |
| 5. 品目カテゴリ・エイリアス・グループ・コード2 | トップス/ボトムス管理処理の対象となるスタイル品目をグループ化するためのカテゴリ・コードを指定します。 |

検証

- | | |
|----------------|--|
| 1. 自動検証の作成 | <p>自動検証を実行するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。</p> <p>Y: 受注オーダーの自動検証を有効化する。</p> <p>N: 受注オーダーの自動検証を無効化する。</p> |
| 2. 一時変更用次状況コード | 行タイプのオーダー・フローにおける次のステップを指定するユーザー定義コード(システム40/タイプAT)を指定します。 |

3. 割当済オーダー行の引当

割当済オーダー行をどのように引き当てるかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク: 割当済オーダーをハード・コミットする。

1: その他数量1を使用してソフト・コミットする。

2: その他数量2を使用してソフト・コミットする。

提案

1. 割当数量のないオーダー行を提案に含める

割当数量のないオーダー行を提案に含めるかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク: 割当数量のないオーダー行を含める。

1: 割当数量のないオーダー行を含めない。

割当提案の生成

「割当」(G41F15)、「割当/納入提案の生成」(RCW06)を選択します。

割当提案を生成するには、次の手順に従います。

1. 「バージョン・プロンプト」フォームで、データ選択とデータ順序設定のプロンプトを表示するためのオプションを選択します。
2. 「送信」をクリックします。
3. 「データ選択」フォームでデータ選択条件を入力し、「OK」をクリックします。
4. 「データ順序設定」フォームでデータ順序設定条件を入力し、「OK」をクリックします。
5. 「プリンタの選択」フォームで「OK」をクリックします。

納入提案の生成

この項では、納入提案の概要とアルゴリズム、事前設定、および納入提案の生成方法について説明します。

納入提案について

納入提案のアルゴリズムは、多くの面で割当提案のアルゴリズムと似ています。

納入提案プロセスでは、割当/納入提案プログラムを実行します。納入提案を使用すると、顧客への納入を一貫性のある方法で処理できます。

納入提案情報は、FCW43テーブルとFCW44テーブルに保存されます。

割当/納入提案の生成プログラムでは、4桁までの小数を処理できます。

割当/納入提案の生成プログラム用のレポートに情報は出力されず、メッセージもワーク・センターに送信されません。無効なデータ選択があった場合は、データが選択されていないというメッセージがレポートに出力されます。

注意: 行タイプがW(作業オーダー)である受注オーダー明細行は、納入提案プロセスから除外されます。“作業オーダー”行タイプは、関連付けられた作業オーダーが完了したときに充当されます。

納入提案が検証されると、システムはF4211テーブルの「状況」フィールドおよび「引当フラグ」フィールドを更新して、ハード・コミットを反映します。

納入提案が取り消された場合、F4211テーブル内の状況は元に戻されます。

納入提案の場合、オーダー数量と提案数量は常に同じになります。

確保数量は、制約の達成状況によって決まります。たとえば、履行率を設定した場合、履行率が達成されれば、確保数量は提案数量と同じになります。達成されなかった場合、確保数量はゼロになります。

トップス/ボトムス管理を使用した場合、確保数量は他のカテゴリ数量とのバランスを図るために変更されます。

確保数量は引き当てられません。確保数量に対しては計算のみが実行されます。

納入提案のアルゴリズムについて

納入提案を生成するために割当/納入提案の生成プログラムが実行されると、アルゴリズムによって次の処理が行われます。

1. 次の条件に従って、受注オーダー明細行をF4211テーブルからFCW31テーブルに抽出する。
 - データ選択は、F0101、F4211、F4101、FCW61およびFCW02テーブルのフィールドに対して設定されます。
 - 次状況によるフィルタを適用するために、「状況」タブの処理オプションが設定されます。

次状況が「状況」タブの「開始次状況コード」および「終了次状況コード」処理オプションで選択された最小の状況よりも小さい受注オーダー明細行は、まだ納品提案に対して準備できておらず、通常は割当済行ではありません。

次状況が「状況」タブの「開始次状況コード」および「終了次状況コード」処理オプションで選択された最大の状況よりも大きい受注オーダー明細行は、すでに納品提案の手順に渡されている処理済行であり、通常は出荷済行です。これらの行は、「状況」タブの「配送中処理済オーダーを含める」処理オプションが「1」に設定されている場合にのみ抽出されます。その場合は、システムが各種の制約(履行率など)をチェックする際に、処理済数量が確保数量に加算されます。その他の場合、処理済数量は無視されます。プログラムは、処理済行がオーダーされなかった場合と同様に動作します。
 - 日付によるフィルタを適用するために、「日付」タブの処理オプションが設定されます。
 - 数量を指定するために、「処理」タブの「最小オーダー数量」処理オプションが設定されます。

注意: 受注オーダー明細行に「最小オーダー数量」処理オプションの値よりも小さいオーダー数量が含まれている場合、受注オーダー明細行は無視されます。

2. 抽出された受注オーダー明細行を、「優先規則」タブの優先引当規則処理オプションで指定された優先規則に従ってソートする。

注意: 優先規則は、割当/納入提案の生成が実行される前に、スタイル品目の引当規則プログラムで定義されます。

3. 提案数量を、適正配分や配分率の処理に基づいて計算しない。

注意: 納入提案の計算では、適正配分や配分率の処理は使用されません。

4. 確保(引当可能)数量を計算しない。

注意: 在庫は無視されます。

5. 「履行率」タブの「オーダー行」処理オプションを、サイズ加重を使用して適用する。

納入提案の計算式は、割当提案に使用される計算式と似ていますが、一部が異なります。システムは、処理対象として選択された受注オーダー明細行だけを考慮するのではなく、同じ受注オーダー内にあるすべての受注オーダー明細行を考慮に含めます。

「状況」タブの「配送中処理済オーダーを含める」処理オプションがブランクの場合、履行率の計算式は、 $(\text{履行率}) = 100 \times (\text{確保数量}) / (\text{オーダー数量} - \text{処理済数量})$ となります。

「状況」タブの「配送中処理済オーダーを含める」処理オプションの値が「1」である場合、履行率の計算式は、 $(\text{履行率}) = 100 \times (\text{確保数量} + \text{処理済数量}) / (\text{オーダー数量})$ となります。

6. 「履行率」タブの「レベル4の品目」処理オプションを、サイズ加重なしで適用する。

注意: “サイズ加重なし”は、サイズ加重が1であるのと同じです。

納入提案の計算式は、割当提案に使用される計算式と似ていますが、一部が異なります。システムは、処理対象として選択された受注オーダー明細行だけを考慮するのではなく、同じ受注オーダー内にあるすべての受注オーダー明細行を考慮に含めます。

「状況」タブの「配送中処理済オーダーを含める」処理オプションがブランクの場合、履行率の計算式は、 $(\text{履行率}) = 100 \times (\text{確保数量}) / (\text{オーダー数量} - \text{処理済数量})$ となります。

「状況」タブの「配送中処理済オーダーを含める」処理オプションの値が「1」である場合、履行率の計算式は、 $(\text{履行率}) = 100 \times (\text{確保数量} + \text{処理済数量}) / (\text{オーダー数量})$ となります。

7. 「履行率」タブの「レベル3の品目」処理オプションを、サイズ加重なしで適用する。

納入提案の計算式は、割当提案に使用される計算式と似ていますが、一部が異なります。システムは、処理対象として選択された受注オーダー明細行だけを考慮するのではなく、同じ受注オーダー内にあるすべての受注オーダー明細行を考慮に含めます。

「状況」タブの「配送中処理済オーダーを含める」処理オプションがブランクの場合、履行率の計算式は、 $(\text{履行率}) = 100 \times (\text{確保数量}) / (\text{オーダー数量} - \text{処理済数量})$ となります。

「状況」タブの「配送中処理済オーダーを含める」処理オプションの値が「1」である場合、履行率の計算式は、 $(\text{履行率}) = 100 \times (\text{確保数量} + \text{処理済数量}) / (\text{オーダー数量})$ となります。

8. 「履行率」タブの「レベル2の品目」処理オプションを、サイズ加重なしで適用する。

納入提案の計算式は、割当提案に使用される計算式と似ていますが、一部が異なります。システムは、処理対象として選択された受注オーダー明細行だけを考慮するのではなく、同じ受注オーダー内にあるすべての受注オーダー明細行を考慮に含めます。

「状況」タブの「配送中処理済オーダーを含める」処理オプションがブランクの場合、履行率の計算式は、 $(\text{履行率}) = 100 \times (\text{確保数量}) / (\text{オーダー数量} - \text{処理済数量})$ となります。

「状況」タブの「配送中処理済オーダーを含める」処理オプションの値が「1」である場合、履行率の計算式は、 $(\text{履行率}) = 100 \times (\text{確保数量} + \text{処理済数量}) / (\text{オーダー数量})$ となります。

9. 「履行率」タブの「レベル1の品目」処理オプションを、サイズ加重なしで適用する。

納入提案の計算式は、割当提案に使用される計算式と似ていますが、一部が異なります。システムは、処理対象として選択された受注オーダー明細行だけを考慮するのではなく、同じ受注オーダー内にあるすべての受注オーダー明細行を考慮に含めます。

「状況」タブの「配送中処理済オーダーを含める」処理オプションがブランクの場合、履行率の計算式は、 $(\text{履行率}) = 100 \times (\text{確保数量}) / (\text{オーダー数量} - \text{処理済数量})$ となります。

「状況」タブの「配送中処理済オーダーを含める」処理オプションの値が「1」である場合、履行率の計算式は、 $(\text{履行率}) = 100 \times (\text{確保数量} + \text{処理済数量}) / (\text{オーダー数量})$ となります。

10. 「履行率」タブの「レベル0の品目」処理オプションを、サイズ加重なしで適用する。

納入提案の計算式は、割当提案に使用される計算式と似ていますが、一部が異なります。システムは、処理対象として選択された受注オーダー明細行だけを考慮するのではなく、同じ受注オーダー内にあるすべての受注オーダー明細行を考慮に含めます。

履行率の計算式は、 $(\text{履行率}) = 100 \times (\text{確保数量}) / (\text{オーダー数量} - \text{処理済数量})$ となります。

「状況」タブの「配送中処理済オーダーを含める」処理オプションの値が「1」である場合、履行率の計算式は、 $(\text{履行率}) = 100 \times (\text{確保数量} + \text{処理済数量}) / (\text{オーダー数量})$ となります。

11. 「最上位/最下位処理」タブの「最上位/最下位管理(Y/N)」処理オプションが「Y」に設定されている場合、すべてのオーダーに次の処理を適用する。

納入提案の計算式は、割当提案に使用される計算式と似ていますが、一部が異なります。システムは、処理対象として選択された受注オーダー明細行だけを考慮するのではなく、同じ受注オーダー内にあるすべての受注オーダー明細行を考慮に含めます。

「状況」タブの「配送中処理済オーダーを含める」処理オプションがブランクの場合、履行率の計算式は、 $(\text{履行率}) = 100 \times (\text{確保数量}) / (\text{オーダー数量} - \text{処理済数量})$ となります。

「状況」タブの「配送中処理済オーダーを含める」処理オプションの値が「1」である場合、履行率の計算式は、 $(\text{履行率}) = 100 \times (\text{確保数量} + \text{処理済数量}) / (\text{オーダー数量})$ となります。

- a. 抽出されたすべての受注オーダー明細行を、1つまたは2つの品目カテゴリ・コードの値に従ってファミリにグループ化する。これらのカテゴリ・コードのエイリアスは、「最上位/最下位処理」タブの「品目カテゴリ・エイリアス・グループ・コード1」および「品目カテゴリ・エイリアス・グループ・コード2」処理オプションで設定されます。

このステップの結果として、受注オーダー明細行は1つまたは複数のファミリにソートされます。

トップスかボトムスかは、「最上位/最下位処理」タブの「品目カテゴリ・エイリアスの最上位/最下位」処理オプションで定義された品目カテゴリ・コードの「特殊取扱コード」フィールドに定義されます。「特殊取扱コード」フィールドの値が「1」または「T」である場合、その品目はトップスであると判断されます。「特殊取扱コード」フィールドの値が「2」または「B」である場合、その品目はボトムスであると判断されます。

- b. すべてのファミリについて、トップスとボトムスの確保数量合計 (TQRおよびBQR) を計算する。
- c. すべてのファミリについて、トップスとボトムスの提案数量合計 (TQPおよびBQP) を計算する。

TQPまたはTQRがゼロである場合は何も行われず、それ以外の場合は、 TQR/TQP および BQR/BQP の充当率が比較されます。

トップスの充当率 (TQR/TQP) がボトムスの充当率よりも低い場合は、すべてのトップス品目が割当用に確保されます。

BQR が $BQP \times (TQR / TQP + (\text{Allowed \%}) / 100)$ (Allowed \% は、「最上位/最下位処理」タブの「許容限度率(%)」処理オプションの値)よりも低い場合は、すべてのボトムス品目も割当用に確保されます。

その他の場合は、ボトムス品目の合計数量 $BQP \times (TQR/TQP + (\text{Allowed \%}) / 100)$ のみが確保されます。この合計値を取得するために、システムはすべてのボトムス品目行について、確保数量を $BQP \times (TQR/TQP + (\text{Allowed \%}) / 100) / \sum BQR$ という係数で調整します。

ボトムスの充当率 (BQR/BQP) がトップスの充当率よりも低い場合は、すべてのボトムス品目が割当用に確保されます。

TQR が $TQP \times (BQR/BQP + (\text{Allowed } \%) / 100)$ (Allowed % は、「最上位/最下位処理」タブの「許容限度率 (%)」処理オプションの値) よりも低い場合は、すべてのトップス品目も割当用に確保されます。

その他の場合は、トップス品目の合計数量 $TQP \times (BQR/BQP + (\text{Allowed } \%) / 100)$ のみが確保されます。この合計値を取得するために、システムはすべてのトップス品目行について、確保数量を $[TQP \times (BQR / BQP + (\text{Allowed } \%) / 100)] / \sum TQR$ という係数で調整します。

- d. 必要な場合は、割当/納入提案の生成プログラムの「最上位/最下位処理」タブにある「許容限度率 (%)」処理オプションを使用して、確保数量を調整する。

12. 「履行率」タブの「品目カテゴリ・コード・エイリアス1」、「品目カテゴリ・コード・エイリアス2」および「グループ履行率」処理オプションの履行率を計算する。

納入提案の計算式は、割当提案に使用される計算式と似ていますが、一部が異なります。システムは、処理対象として選択された受注オーダー明細行だけを考慮するのではなく、同じ受注オーダー内にあるすべての受注オーダー明細行を考慮に含めます。

「状況」タブの「配送中処理済オーダーを含める」処理オプションがブランクの場合、履行率の計算式は、 $(\text{履行率}) = 100 \times (\text{確保数量}) / (\text{オーダー数量} - \text{処理済数量})$ となります。

「状況」タブの「配送中処理済オーダーを含める」処理オプションの値が「1」である場合、履行率の計算式は、 $(\text{履行率}) = 100 \times (\text{確保数量} + \text{処理済数量}) / (\text{オーダー数量})$ となります。

注意: 「履行率」タブの「品目カテゴリ・コード・エイリアス1」、「品目カテゴリ・コード・エイリアス2」および「グループ履行率」処理オプションは、品目グループ制約と呼ばれます。

割当/納入提案の生成プログラムは、抽出されたすべての受注オーダー行を、1つまたは2つの品目カテゴリ・コードの値に基づいて品目グループにグループ化します。これらのカテゴリ・コードのエイリアスは、「最上位/最下位処理」タブの「品目カテゴリ・エイリアス・グループ・コード1」および「品目カテゴリ・エイリアス・グループ・コード2」処理オプションで設定されます。

このステップの結果として、受注オーダー行は1つまたは複数の品目グループにソートされます。すべての品目グループについて、次の処理が行われます。

- 確保数量合計と提案数量合計の比率を計算します。
- この比率が「履行率」タブの「グループ履行率」処理オプションで設定された値よりも低い場合、確保数量はそのグループ内のすべての品目についてゼロに設定されます。

警告: 「履行率」タブの「品目グループ制約」処理オプションが有効化されており、かつ「最上位/最下位処理」タブの「最上位/最下位管理 (Y/N)」処理オプションが「Y」に設定されている場合、一貫性のある結果を得るには、1つのトップス/ボトムス・ファミリー内のすべての品目が同じ品目グループに属している必要があります。JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理システムでは、この条件の検証は行われません。この整合性の確認はユーザーの責任で行う必要があります。

13. 「処理」タブの「履行率」タブに基づいて、受注オーダーの履行率を計算する。

納入提案の計算式は、割当提案に使用される計算式と似ていますが、一部が異なります。システムは、処理対象として選択された受注オーダー明細行だけを考慮するのではなく、同じ受注オーダー内にあるすべての受注オーダー明細行を考慮に含めます。

「状況」タブの「配送中処理済オーダーを含める」処理オプションがブランクの場合、履行率の計算式は、 $(\text{履行率}) = 100 \times (\text{確保数量}) / (\text{オーダー数量} - \text{処理済数量})$ となります。

「状況」タブの「配送中処理済オーダーを含める」処理オプションの値が「1」である場合、履行率の計算式は、 $(\text{履行率}) = 100 \times (\text{確保数量} + \text{処理済数量}) / (\text{オーダー数量})$ となります。

「処理」タブの「履行率の基準」処理オプションの値に応じて、次のいずれかに基づいてすべての受注オーダーの履行率が計算されます。

- 受注オーダーのすべてのオーダー明細行
- 抽出された行のみ（データ選択と、「状況」および「日付」タブの処理オプションによってフィルタされた受注オーダー明細行）

履行率が、確保数量合計と提案数量合計の比率と比較されます。

14. 「処理」タブの「最小割当数量」および「最大割当数量」処理オプションを適用する。

このオーダーの確保数量合計を、処理オプションの範囲と比較します。確保数量合計が処理オプションの範囲内でない場合、そのオーダーは割当用に確保されません。

15. 「検証」タブの「自動検証の作成」処理オプションの設定に基づいて、自動検証を実行する。

「自動検証の作成」処理オプションが「1」に設定されている場合は、割当用に確保されたすべての行が検証されます。検証済の行は、受注オーダーへとハード・コミットされるか、または「検証」タブの処理オプション設定に基づいて、“その他の受注オーダー1”または“その他の受注オーダー2”へと引き当てられます。

「自動検証の作成」処理オプションの値が空白に設定されている場合、自動検証は必要とされず、割当用に確保されたオーダー行はソフト・コミットもハード・コミットもされません。システムは、品目数量をF41021テーブルの「その他数量1」フィールドに加算します。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 割当/納入提案の生成の「状況」タブにある「処理タイプ」処理オプションの値を、「D」（納入提案）に設定します。
- 割当/納入提案生成プログラムの残りの処理オプションを適切に設定します。

納入提案の生成

「割当」（G41F15）、「割当/納入提案の生成」（RCW06）を選択します。

割当/納入提案の検証

この項では、割当/納入提案の検証の概要と次の方法について説明します。

- 割当/納入提案（PCW29）の処理オプションの設定
- 割当/納入提案のオーダーの検討
- 割当/納入提案の品目の検討
- 割当/納入提案のオーダー詳細の検討
- 割当/納入提案の改訂
- 割当/納入提案のバッチによる検証

割当/納入提案の検証について

割当/納入提案を生成したら、計算結果を割当/納入提案プログラム(PCW29)で検討します。割当/納入提案プログラムを使用して、提案の変更、検証および取消しを行うことができます。割当/納入提案プログラムは、提案の検証プログラム(RCW29V)を呼び出します。割当提案と納入提案のいずれについても、検証や取消しはこのプログラムを通じて行います。

41F/NR(未確保)UDCには、割当の理由コードが含まれます。このUDCには、行が割当を受けなかった理由が含まれています。41F/NR理由コードは、受注オーダー入力や購買オーダー入力でオーダーを追加または更新する際に、理由コードの入力をサポートする目的で使用されます。理由コードは情報提供のみを目的としたものであり、JD Edwards EnterpriseOneシステムがこれらの値を使用して追加の処理を実行することはありません。

割当提案の検証/取消プログラム(RCW37)を使用して、提案を検証または取り消すこともできます。割当提案の検証/取消プログラムは、スタンドアロン・モードでのみ実行されます。割当提案の検証/取消プログラム(RCW37)は、割当提案についてのみ実行されます。

割当/納入提案の検証に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
提案の処理	WCW29A	「割当」(G41F15)、「割当/納入提案」	割当提案を処理します。
提案オーダー・リスト	WCW29B	「提案の処理」フォームで、バージョンを選択し、「ロー」メニューから「提案オーダー・リスト」を選択します。	割当/納入提案のオーダーを検討します。
提案品目リスト	WCW29F	「提案の処理」フォームで、バージョンを選択し、「ロー」メニューから「提案品目リスト」を選択します。	割当/納入提案の品目を検討します。
提案オーダー詳細	WCW29E	<ul style="list-style-type: none"> 「提案オーダー・リスト」フォームで、ローを選択し、「ロー」メニューから「オーダー詳細」を選択します。 「提案品目リスト」フォームで、ローを選択し、「ロー」メニューから「オーダー詳細」を選択します。 	割当/納入提案のオーダー詳細を検討します。 注意: 「提案品目リスト」フォームで「詳細」オプションを選択すると、「ロー」メニューの「オーダー詳細」オプションが起動されます。
提案の改訂	WCW29D	<ul style="list-style-type: none"> 「提案品目リスト」フォームで、「詳細」オプションを選択して有効化します。ローを選択した後、「ロー」メニューから「提案の改訂」を選択します。 「提案オーダー詳細」フォームで、ローを選択し、「ロー」メニューから「提案の改訂」を選択します。 	割当/納入提案を改訂します。

割当/納入提案(PCW29)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

各プログラムについて、特定のトランザクションのデフォルト値、フォームに表示するフィールド、実行するプログラムのバージョンなどのオプションを指定できます。

処理

1. **処理タイプ** 提案の処理タイプを識別するコードを指定します。値は次のとおりです。
P: 割当提案
D: 納入提案
2. **一時変更用次状況コード** 行タイプのオーダー・フローにおける次のステップを指定するユーザー定義コード(システム40/タイプAT)を指定します。
3. **割当済オーダー行の引当** 割当済オーダー行をどのように引き当てるかを指定します。有効な値は次のとおりです。
空白: 割当済オーダーをハード・コミットする。
1: その他数量1を使用してソフト・コミットする。
2: その他数量2を使用してソフト・コミットする。

表示

1. **マトリックス・コード/記述** マトリックス・コードに関する情報の表示方法を指定します。値は次のとおりです。
空白: マトリックス・コードを表示する。
1: マトリックス・コードの説明を表示する。
2: マトリックス・コードと説明を連結し、“コード/説明”という形式で表示する(“/”は区切り文字)。
これらの値を使用するアプリケーションは、受注オーダー入力(P4210およびP42101)、購買オーダー入力(P4310)、購買オーダー入荷(P4312)、在庫出庫(P4112)、在庫移動(P4113)および在庫調整(P4114)です。

割当/納入提案のオーダーの検討

「提案オーダー・リスト」フォームにアクセスします。

割当/納入提案 - 提案オーダー・リスト

選択(S) 検索(I) 閉じる(L) ロー(R) ツール(T)

✓

🔍

✖

🔧

🗑

提案

QARCW06007

Allocation Proposal

事業所

*

オーダー番号

*

*

*

処理タイプ

Allocation Proposal

販売先

*

出荷先

*

レコード 1 - 2

グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	販売先	記述	出荷先	記述	オーダー 番号	オーダー タイプ	処理済/ オーダー(%)	処理済+確保/ オーダー(%)	確保/提案(%)
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	8996	Capital System	8996	Capital Syste...	8164317	SO		40.00	66.67
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	9960	Capital System	9960	Capital Syste...	8164325	SO		59.86	100.00

「提案オーダー・リスト」フォーム

割当/納入提案のオーダーを検討するには、次の手順に従います。

1. 割当提案のオーダーのリストを検討します。
2. レコードを選択して、「選択」をクリックします。
レコードの隣に緑のチェック・マークが表示されます。
3. 「ロー」メニューのオプションを選択して、提案を検証するか、提案を取り消すか、または詳しいオーダー情報にアクセスします。

提案数量 割当/納入提案プロセスによって提案された数量を表示します。

確保数量 割当/納入提案プロセスによって確保された数量を表示します。

割当/納入提案の品目の検討

「提案品目リスト」フォームにアクセスします。

割当/納入提案 - 提案品目リスト

検索(I) 閉じる(L) ロー(R) ツール(T)

🔍

✖

🔧

🗑

提案

QARCW06007

Allocation Proposal

☐ 詳細

☒ 受注残/未処理/合計

レコード 1 - 6

グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	ルート	記述	色	R/O	受注残数量	確保数量	S1	S2	S3
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	GLV007	Gloves	BLK	R	300.0000	120.0000	50.0000	40.0000	30.0000
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				O			100.0000	100.0000	100.0000
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	GLV007	Gloves	WHT	R	147.0000	88.0000	42.0000	4.0000	42.0000
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				O			70.0000	7.0000	70.0000

「提案品目リスト」フォーム

割当提案の品目のリストを検討します。

品目を選択して「ロー」メニューのオプションを選択すると、提案の改訂またはオーダー詳細にアクセスできます。

- 詳細

選択すると、提案品目リストにオーダー詳細が表示されます。
- 受注残/未処理/合計

選択すると、割当/納入提案の発注残数量、未処理数量および合計数量が表示されます。
- R/O（確保済/発注残）

行が確保数量と発注残数量のどちらのものであるかを示す値が表示されます。値は次のとおりです。
R: 確保数量
O: 発注残数量

割当/納入提案のオーダー詳細の検討

「提案オーダー詳細」フォームにアクセスします。

割当/納入提案 - 提案オーダー詳細

選択(S) 検索(O) 閉じる(L) ロー(R) ツール(T)

提案

QARCW06007

Allocation Proposal

オーダー

8164317

SO

00200

出荷先

8996

Capital System

オーダー数量

300.0000

提案数量

180

未処理数量

300

確保数量

120.0000

☐ 受注残(O)/未処理(N)/合計(T)

☐ 未確保数量を無視

レコード 1 - 2

グリッドのカスタマイズ

	ルート	記述	色	O/R	受注残数量	確保数量	
<input checked="" type="radio"/>	GLV007	Gloves	Black	R	300.0000	120.0000	50.0000

「提案オーダー詳細」フォーム

割当提案のオーダーの詳細を検討します。

- 受注残(O)/未処理(N)/合計(T)

選択すると、割当/納入提案の発注残数量、未処理数量および合計数量が表示されます。
- 未確保数量を無視

提案の未確保数量の表示を無視します。

割当/納入提案の改訂

「提案の改訂」フォームにアクセスします。

割当/納入提案 - 提案の改訂

OK(O) 検索(D) 取消(L) ツール(T)

提案

オーダー番号

出荷先

品目番号

レコード 1 - 3 グリッドのカスタマイズ   

	Sock n Glove Sizes	受注残数量	確保数量	引当可能数量	理由コード	記述
<input checked="" type="radio"/>	S1	100.0000	<input type="text" value="50.0000"/>	50.0000		Quantity Retained
<input type="radio"/>	S2	100.0000	40.0000	40.0000		Quantity Retained
<input type="radio"/>	S3	100.0000	30.0000	30.0000		Quantity Retained

「提案の改訂」フォーム

割当提案を改訂するには、次の手順に従います。

1. 「提案の改訂」フォームで、各属性について次のフィールドを検討します。
 - 受注残数量
 - 確保数量
 - 引当可能数量
 - 理由コード
 - 記述
2. 「確保数量」フィールドの値を改訂します。
3. 「OK」をクリックします。

割当/納入提案のバッチによる検証

「レポート」(G41F19)、「割当提案の検証/取消」(RCW37)を選択します。

第 8 章

JD Edwards EnterpriseOne 製造データ管理 のアパレル管理用操作

この章では、アパレル管理用 JD Edwards EnterpriseOne 製造データ管理の概要と、次の方法について説明します。

- スタイル品目の部品表の設定
- スタイル品目の作業工程指示の作成
- スタイル品目の外注作業の設定

アパレル管理用 JD Edwards EnterpriseOne 製造データ管理について

JD Edwards EnterpriseOne 製造データ管理システムでは、製品データのあらゆる面を統合できます。このシステムでは、その他の製造システムに必要な基本データが提供されます。部品表 (BOM)、作業工程、および作業場情報は社内全体を通して利用します。

部品表は、製品構造を定義して伝達する基本的な手段です。部品表を使って完成品 (最終品目)、半組立品、構成品の製造を識別します。部品表を作成する際には、構成品や数量、参照情報と、必要に応じて他の情報を定義します。作業オーダーの部品リスト、原価の積上げ、リードタイムの積上げ、生産日程計画を生成するときに、部品表はマスター・リストとして使用されます。

部品表を使用してスタイル品目の構成品を定義した後は、各作業を行う場所と品目の製造に必要な作業順序を指定する必要があります。作業場は、工程作業が実施される場所の作業員と機械で構成されます。作業工程指示は、スタイル品目の製造に必要な作業と、作業工程指示の各ステップにおけるスタイル品目のリードタイムを定義します。

外部仕入先がスタイル品目に対して実行する作業には、外注工程作業を定義できます。外部仕入先は、裁断や染色、縫製などの外注作業を実行することがあります。外注作業には購買オーダーが必要となります。JD Edwards EnterpriseOne 調達管理システムでは、作業工程指示に基づいて、外注作業に対する購買オーダーを自動生成できます。購買オーダーは、スタイル品目の作業オーダー処理プログラム (R31F410) を実行するときに生成できます。作業オーダーに作業工程を追加した後に、対話形式で購買オーダーを入力することもできます。

JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理システムでスタイル品目ルート・レベル 0 と子スタイル品目を設定した後、JD Edwards EnterpriseOne 製造データ管理システムを使用して、スタイル品目を生産するための部品表の設定や作業工程の作成、外注作業の設定を行うことができます。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 次のユーザー定義コード (UDC) の設定を確認します。
 - 部品表タイプ (40/TB)

- 時間基準コード (30/TB)
- 在庫タイプ・コード (41/I)
- 作業工程タイプ (40/TR)

参照: JD Edwards EnterpriseOne 製造データ管理 9.0 製品ガイド、「製造データ管理の設定」、「ユーザー定義コードの設定」

- レコードの送信 (48/SN) (汎用レートおよびメッセージ・コード)
- スタイル品目の品目事業所情報設定を確認します。

参照: JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理 9.0 製品ガイド、「JD Edwards EnterpriseOne在庫管理のアパレル管理用操作」

スタイル品目の部品表の設定

この項では、スタイル品目の部品表の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- スタイル品目ルート・レベル0の部品表の入力
- 部品表の関連の入力
- 部品表の用途の入力
- 部品表の例外の定義
- オンデマンドによる子スタイル品目の部品表の生成
- 子スタイル品目の部品表のバッチ生成
- スタイル品目の部品表のコピー

スタイル品目の部品表について

部品表は、スタイル品目の生産に含まれるすべての構成部品を定義します。スタイル品目の場合、スタイル品目ルート・レベル0に対して部品表を定義します。スタイル品目ルート・レベル0の部品表は、最下位の子スタイル品目まで展開されます。

注意: スタイル品目は組立製造のみを使用します。

スタイル品目は、複雑な部品表を持った複数レベルの品目です。たとえば、5つの色と5つのサイズ、3つのフィットを持つスタイルが100ある場合、7500の子スタイル品目が作成されます。構成部品はサイズや色などの属性に基づくため、子スタイル品目はそれぞれ部品表が異なります。このため、1つのスタイルには75の異なる部品表が設定されます。

スタイル品目ルート・レベル0に初めて部品表を定義する際は、スタイル品目マスター・プログラム(PCW51)またはコレクション品目マスター・プログラム(PCW54)のどちらかを使用する必要があります。スタイル品目マスター・プログラムまたはコレクション品目マスター・プログラムからスタイル品目の部品表プログラム(PCW12B)にアクセスすると、部品表の改訂プログラム(P3002)が呼び出され、部品表を入力および更新できます。

スタイル品目の部品表プログラムでは、次のことができます。

- スタイル品目ルート・レベル0の部品表の作成
- 複数レベルの継承および例外の生成

- 属性に基づく構成品の関連付け
- サイズに基づいた構成品数量の用途の定義
- 部品表のコピー

子スタイル品目の部品表は、スタイル品目の部品表プログラム(PCW12B)を使用してオンデマンドで作成するか、子スタイル品目の部品表の作成プログラム(RCW53)を使用してバッチで作成します。

「スタイル品目の部品表の処理」フォーム(WCW12BA)では、視覚的にわかりやすくなるようにカラム見出しが色分けされます。カラム見出しの色は、次の状況に応じて変わります。

- 青は状況0です。

スタイル品目ルート・レベル0またはスタイル品目の任意のレベルに部品表を作成して、子スタイル品目についてまだ部品表を作成していない場合、色が青になります。

- 赤は状況2です。

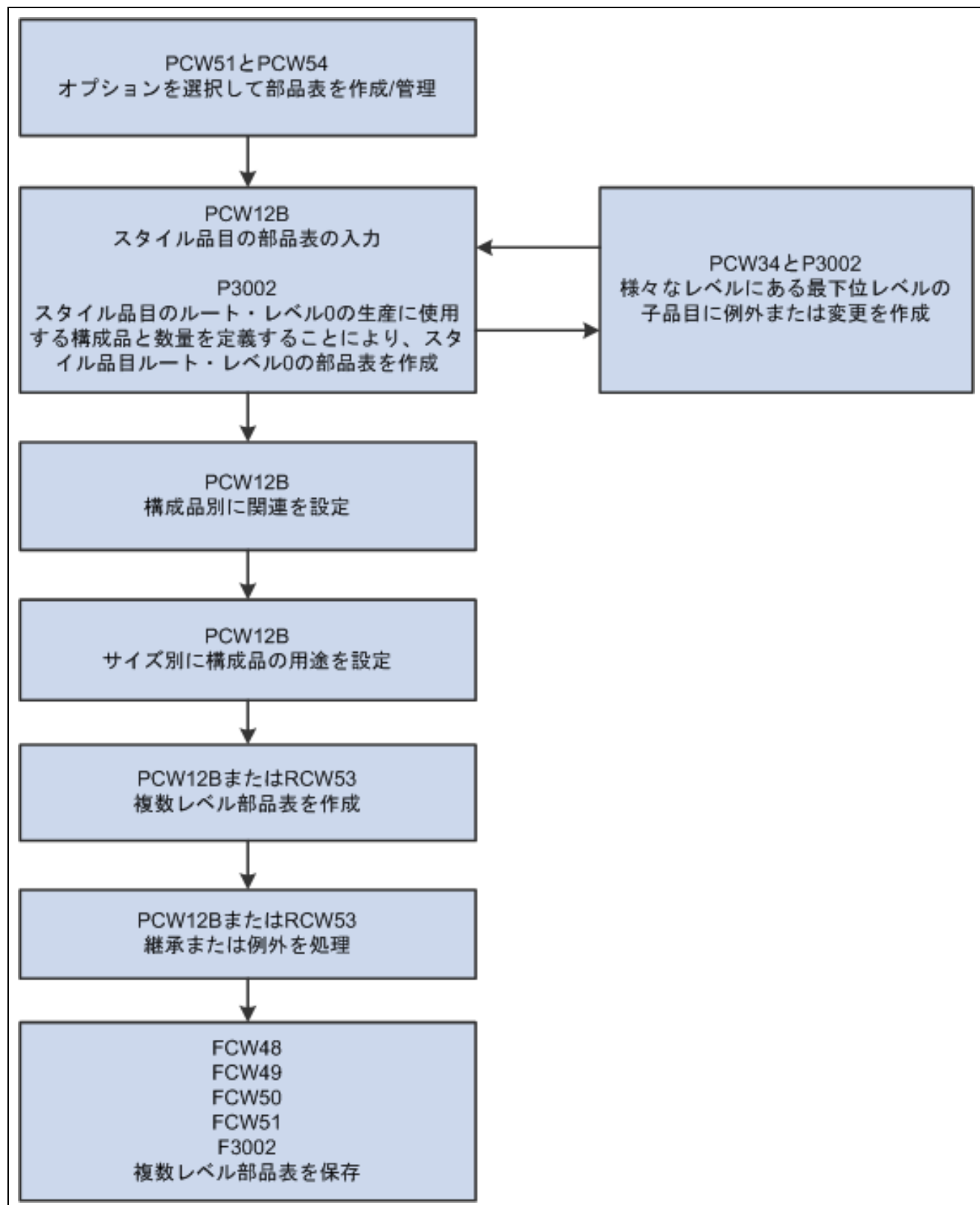
スタイル品目ルート・レベル0またはスタイル品目の任意のレベルの部品表を変更して、子スタイル品目について部品表を再作成していない場合、色が赤になります。

- 黒は状況9です。

スタイル品目ルート・レベル0またはスタイル品目の任意のレベルの部品表に対する更新がすべて子スタイル品目に伝播されると、色が黒になります。

スタイル品目の部品表情報は、部品表の関連見出し(FCW48)テーブルと部品表の関連詳細(FCW49)テーブルに保存されます。また、部品表マスター(F3002)にも複数レベル部品表が読み込まれます。

次の図は、オンデマンドによるスタイル品目の部品表作成プロセスを示しています。



オン・デマンドによるスタイル品目の部品表作成プロセス

部品表の作成時には、色などの属性を考慮せずに必要な構成部品を入力します。生地とファスナー、裏地からなるジャケットがその例です。

次に、構成品の関連を作成することで部品表を詳細に定義します。構成品の関連によって、次の処理が実行されます。

- 構成品の色をスタイル品目に関連付ける。
- 構成品のサイズをスタイル品目に関連付ける。

関連のレベルは9つ、値は30までサポートされています。スタイル品目の部品表プログラムを使用して、関連を定義します。部品表の関連は、部品表の関連マトリックス・テーブル(FCW50)に保存されます。

黒の生地、黒の裏地、黒のファスナーというように部品表に色を関連付けます。次の図は、部品表の色の関連付けの例を示します。

製品: ジャケット	色			
部品表構成	黒	赤	青	白
生地	黒	赤	青	白
裏地	白	ピンク	ネイビー	なし
ボタン	茶	茶	茶	茶
ファスナー	黒	赤	青	白

色による部品表の関連付け

構成品のサイズをスタイル品目に関連付けることもできます。次の図は、部品表のサイズの関連付けの例を示します。

製品: ジャケット	サイズ					
部品表構成	XS	S	M	L	XL	XXL
生地						
裏地						
ボタン						
ファスナー	65	65	70	70	75	75

サイズによる部品表の関連付け

部品表の関連付けは、レベル番号に基づいて行うことはできません。次の図は、レベル番号によって関連を作成しようとしたときに発生するエラーを示しています。

レベル番号	ジャケット	生地	ファスナー	サイズ・タグ	ブランド・ラベル
0	品目	品目	品目	品目	品目
1	丈	色	色	サイズ	←無効→
2	色		サイズ	←無効→	
3	サイズ				

レベル番号による誤った関連付け

部品表の関連付けは、カラムの位置に基づいている必要があります。次の図は、カラムの位置による関連付けを示しています。

レベル番号	ジャケット	生地	ファスナー	サイズ・タグ	ブランド・ラベル
0	品目	品目	品目	品目	品目
1	丈				
2	色	色	色		
3	サイズ		サイズ	サイズ	

カラムの位置による関連付け

参照: JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理 9.0 製品ガイド、「JD Edwards EnterpriseOne在庫管理のアパレル管理用操作」

部品表で構成品の数量を入力するときは、その部品表の大半で使用される数量を入力します。下位レベルの子スタイル品目の部品表は、スタイル品目ルート・レベル0から関連を継承します。下位レベルの子スタイル品目に部品表を生成した後、部品表例外プログラム(PCW34)を使用して、スタイル品目の部品表の任意のレベルに例外を定義できます。たとえば、サイズに基づく生地量の増減、青いスカートには黒いボタン、XSサイズのスカートには1/2cmサイズのボタン付ける、というように例外を定義します。

関連を作成し終えたら、用途を定義します。用途では、スタイル品目構造のレベルではなく、スタイル品目のサイズに基づいて構成数量を定義します。たとえば、構成数量はXSやSといったサイズに関連付けられます。スタイル品目ルート・レベル0に入力された数量は用途のデフォルト値ですが、この値は一時変更できます。部品表の用途は、部品表用途テーブル(FCW51)に保存されます。

注意: 非スタイル品目をスタイル品目の部品表に含める場合、その非スタイル品目のレコードが品目構造定義(FCW02)テーブルおよびスタイル品目追加情報(FCW61)テーブルに存在する必要があります。非スタイル品目を部品表に含めようとして、FCW02テーブルとFCW61テーブルにレコードがなければ、構成数量は部品表には表示されません。

スタイル品目ルート・レベル0は、呼出し元のレベルに関係なく、常にスタイル品目マスター(PCW51)とコレクション品目マスター(PCW54)プログラムのエントリ・ポイントからスタイル品目の部品表プログラムへと渡されます。部品表例外プログラムを使用して、変更するスタイル品目のレベルを選択します。代替品目の使用もサポートされています。

最下位の子スタイル品目に部品表を作成するには、子スタイル品目の部品表の作成プログラム(RCW53)をバッチで実行します。

子スタイル品目の部品表の作成は、スタイル品目の品目作成プロセスとは異なります。スタイル品目の部品表を作成する場合、最下位の子スタイル品目のみに部品表レコードが作成されます。部品表は中間レベルのスタイル品目には必要ないため、中間レベルの品目の部品表は作成されません。中間レベルのスタイル品目に部品表を作成するには、部品表例外プログラムを使用します。システムでは、中間レベルのスタイル品目の部品表を使用して、下位レベルのスタイル品目に適用される例外がトラッキングされます。

一部のスタイル品目の生産では、部品表にすべての構成部品がない場合があります。たとえば、アップレル産業では、糸は部品表の一部ではありません。糸は基本品目とみなされ、大量に購入されます。

部品表を使用して、スタイル品目の原価が算出されます。JD Edwards EnterpriseOneアップレル管理システムは、オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne製造管理およびSupply Chain Managementスイートに含まれるJD Edwards EnterpriseOne製造原価計算および製造会計システムの基本製造原価機能を使用します。

スタイル品目の部品表を管理するには、スタイル品目マスター・プログラムとコレクション品目マスター・プログラムを実行し、継承を有効にして、親スタイル品目と子スタイル品目間のリンクを管理することをお勧めします。

複数レベルの部品表定義をすでに持つ部品表をコピーする際は、レベル0以外のレベルの定義がコピーされます。異なる品目構造を持つスタイル品目をコピーする場合は、「関連/用途のコピー」オプションが自動的に無効になり、FCW48とF3002のレコードのみがコピーされます。

親レベルで部品表を削除すると、スタイル品目の部品表プログラムによってスタイル品目ルート・レベル0にあるすべてのレコードと、FCW48、FCW49、FCW51、F3002の各テーブルの全レコードが削除されます。部品表の削除と作成には、子スタイル品目の部品表の作成プログラムを使用します。部品表を削除する際は、スタイル品目マスター・プログラムの処理オプションで、子スタイル品目の部品表の作成プログラムのバージョンを定義します。スタイル品目マスター・プログラムで定義された子スタイル品目の部品表の作成プログラムのバージョンには、特定のデータ選択が設定されている必要があります。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 製造データ管理 9.0 製品ガイド、「製造データ管理について」、「製造データ管理システムの概要」

参照: JD Edwards EnterpriseOne 製造原価計算および製造会計 9.0 製品ガイド、「JD Edwards EnterpriseOne製造原価計算および製造会計 - はじめに」

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- スタイル品目マスター・プログラム(PCW51)の「バージョン」タブで、「部品表の改訂(P3002)」処理オプションを設定し、使用するスタイル品目の部品表(PCW12B)プログラムに対して、部品表の改訂プログラムのバージョンを指定します。
- コレクション品目マスター・プログラム(PCW54)の「バージョン」タブで、「部品表の改訂(P3002)」処理オプションを設定し、使用するスタイル品目の部品表(PCW12B)プログラムに対して、部品表の改訂プログラムのバージョンを指定します。
- スタイル品目マスター・プログラム(PCW51)の「部品表」タブで「部品表の作成」処理オプションを設定し、部品表をオンデマンドまたはバッチのどちらで作成するかを指定します。
- スタイル品目マスター・プログラムの「部品表」タブで「部品表の作成」処理オプションが「1」に設定されている場合、スタイル品目マスター・プログラムの「バージョン」タブで「子スタイル品目の部品表の作成(RCW53)」処理オプションを設定します。

スタイル品目の部品表の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
スタイル品目の部品表の処理	WCW12BA	<ul style="list-style-type: none"> 「スタイル品目管理」(G41F11)、「スタイル品目の処理」 「スタイル品目マスター表示の処理」フォーム(WCW51E)でスタイル品目を検索してローを選択し、「ロー」メニューから「部品表」を選択します。 「スタイル品目管理」(G41F11)、「コレクション別スタイル品目の処理」 「コレクション・スタイル品目マスター表示の処理」フォーム(WCW54A)でコレクションを検索してローを選択し、「ロー」メニューから「部品表」を選択します。 「スタイル品目管理」(G41F11)、「スタイル品目の処理」 「スタイル作業工程の処理」フォームで、ローを選択して「フォーム」メニューから「部品表」を選択します。 	<p>スタイル品目の部品表を処理します。</p> <p>子スタイル品目の部品表をオンデマンドで生成します。</p> <p>注意: スタイル品目の部品表プログラム(PCW12B)は、別のアプリケーションからのみアクセスできます。</p>
部品表情報の入力	W3002A	<ul style="list-style-type: none"> 「スタイル品目の部品表の処理」フォームで、「追加」をクリックします。 「スタイル品目の部品表の処理」フォームで、レコードを選択して「選択」をクリックします。 	<p>スタイル品目の部品表を入力します。</p> <p>スタイル品目の部品表を検討および更新します。</p> <p>注意: 「追加」をクリックすると、スタイル品目ルート・レベル0がフォームの「親品目」フィールドに事前にロードされます。</p>
部品表の関連を定義する基準<変数名>	WCW12BC	<ul style="list-style-type: none"> 「スタイル品目の部品表の処理」フォームで、レコードを選択して「ロー」メニューから「関連」をクリックします。 「スタイル品目の部品表の処理」フォームで、レコードを選択して「ロー」メニューから「用途」をクリックします。 	<p>部品表の関連を入力します。</p> <p>部品表の用途を入力します。</p>

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
部品表例外の処理	WCW34A	「スタイル品目の部品表の処理」フォームで、レコードを選択して「ロー」メニューから「例外」をクリックします。	部品表の例外を定義します。 注意: 部品表の例外プログラム(PCW34)は、別のアプリケーションからのみアクセスできます。
部品表情報の参照	W3002A	「部品表例外の処理」フォームで、レコードを選択して「ロー」メニューから「部品表の表示」をクリックします。	部品表を検討します。 注意: 最下位レベルの子スタイル品目の部品表を、変更を一切保存せずに検討できます。
スタイル品目の部品表のコピー	WCW12BD	「スタイル品目の部品表の処理」フォームで、レコードを選択して「コピー」をクリックします。	部品表をコピーします。

スタイル品目ルート・レベル0の部品表の入力

「部品表情報の入力」フォームにアクセスします。

スタイル品目ルート・レベル0の部品表を入力するには、次の手順に従います。

- 必要に応じて、見出しの次の各フィールドに値を入力します。
 - 事業所
 - 親品目
 - バッチ数量
 - 部品表タイプ
- スタイル品目の生産に必要な構成部品、数量、追加情報を定義します。
参照: JD Edwards EnterpriseOne 製造データ管理 9.0 製品ガイド、「部品表の設定」、「部品表の入力」
- 「OK」をクリックして、スタイル品目ルート・レベル0の部品表を作成します。

重要: スタイル品目ルート・レベル0についてのみ部品表が生成されます。最下位レベルの子スタイル品目の部品表をオンデマンドまたはバッチで作成します。

部品表の関連の入力

「部品表の関連を定義する基準〈変数名〉」フォームにアクセスします。

スタイル品目の処理 - 部品表の関連を定義する基準 Colors in General Level

取消(ⓧ) 次へ(➡) フォーム(F) ツール(T)

事業所 M30

品目 No. PJ56 PDM Children Pajama-2

バッチ数量 11.0000 部品表タイプ M

レコード 1-2 グリッドのカスタマイズ

行 No.	構成レベル0	記述	単位	B /	G /
2.00	LINPJ	Lining for pajamas	FT		G
1.00	ZIPPJ	Zipper for Pajamas	EA	B	

「部品表の関連を定義する基準 Colors in General Level」フォーム

注意:「部品表の関連を定義する基準 <変数名>」フォームを使用して、各スタイル品目ルート・レベル0の値を類似したレベルを持つ構成部品に関連付けることができます。入力した値がシステムのデフォルト値に一致しない場合、対応するレベルに別の値を入力できます。値が一致する場合でも任意の値を入力できます。

スタイル品目の定義に応じて、1つのスタイル品目に複数の関連を定義しなければならないことがあります。「次へ」をクリックするか、「フォーム」メニューで「次へ」を選択すると関連用のフォームが後に続きます。現在のフォームに加えられたすべての変更は、次の「部品表の関連を定義する基準 <変数名>」フォームに進む前に保存されます。「部品表の関連を定義する基準 <変数名>」フォームでは、9つの属性がサポートされています。

「部品表の関連を定義する基準 <変数名>」フォームで、最初のレベルでの関連が推奨されます。「部品表の関連を定義する基準 <変数名>」フォームには、スタイル品目ルート・レベル0の部品表のカラムおよび各構成品の特定の値を持つグリッドとして変数が表示されます。

部品表の関連を入力するには、次の手順に従います。

1. 変数の値を入力します。
2. 「次へ」ボタンをクリックするか、「フォーム」メニューで「次へ」を選択して次のフォームに進みます。
「部品表の関連を定義する基準 <変数名>」フォームで、第2レベルでの関連が推奨されます。
3. 「次へ」ボタンをクリックするか、「フォーム」メニューで「次へ」を選択して次のフォームに進みます。
「部品表の関連を定義する基準 <変数名>」フォームでは、9つの属性がサポートされています。

スタイル品目ルート・レベル0で関連を最初に作成する場合、「部品表の関連を用途別に定義」フォームが表示されます。部品表の用途を入力し終わると、「スタイル品目の部品表の処理」フォームに自動的に戻ります。

「ロー」メニューから「関連」オプションを使用して最下位レベルの子スタイル品目にすべての関連を作成し終わると、「スタイル品目の部品表の処理」フォームに自動的に戻ります。

いずれかの仕様が省略された場合、考慮中の変数についてその構成部品は使用されません。たとえば、白い生地に対する裏地の変数がブランクの場合、裏地の構成部品を持たない白いスカートの部品表が作成されます。

部品表の用途の入力

「部品表の関連を用途別に定義」フォームにアクセスします。

スタイル品目の処理 - 部品表の関連を用途別に定義

取消し 次へ フォーム(F) ツール(T)

事業所 M30

品目 No. PJ56 PDM Children PJama-2

パッチ数量 .0000 部品表タイプ M

レコード 1-2 グリッドのカスタマイズ

行 No.	構成レベル0	記述	単位	PR	NB	0-3
1.00	FBPJ	Fabric for Pajamas	FT	2.000000	2.000000	2.000000
2.00	LINPJ	Lining for pajamas	FT	1.000000	1.000000	1.000000

「部品表の関連を用途別に定義」フォーム

重要: スタイル品目の部品表の各構成成品に必要な数量は、スタイル品目の部品表プログラム(PCW12B)の「部品表の関連を用途別に定義」フォームのみを使用して管理します。

部品表の用途を入力するには、次の手順に従います。

1. サイズに基づいて各構成成品に必要な数量を入力します。
2. 「次へ」ボタンをクリックするか、「フォーム」メニューで「次へ」を選択して次のフォームに進みます。

部品表の例外の定義

「部品表の例外の処理」フォームにアクセスします。

例外はスタイル品目の任意のレベルに定義します。関連、用途、部品表の3つすべてに例外を適用できます。

部品表の例外を定義するには、次の手順に従います。

1. 例外を適用するツリーのスタイル品目レベルを選択します。
2. 「選択」をクリックします。
3. 「スタイル品目の部品表の処理」フォームで、例外ツリーで選択したものと同一レコードを選択して「選択」をクリックします。
4. 「部品表情報の入力」フォームで部品表の例外を入力します。
5. 「OK」をクリックして、変更を保存します。
部品表レコードの色が赤になります。
6. 「スタイル品目の部品表の処理」フォームでレコードを選択し、「ロー」メニューから「作成」を選択します。
部品表レコードの色が黒になります。
7. 「閉じる」をクリックして、「スタイル品目マスター表示の処理」フォームに戻ります。

オンデマンドによる子スタイル品目の部品表の生成

「スタイル品目の部品表の処理」フォームにアクセスします。

スタイル品目マスター・プログラム(PCW51)の「部品表」タブで「部品表の作成」処理オプションを空白に設定し、部品表がオンデマンドで作成されるよう指定します。

子スタイル品目の部品表をオンデマンドで生成するには、次の手順に従います。

1. スタイル品目ルート・レベル0を選択します。
2. 「ロー」メニューから「作成」を選択します。

すべての最下位レベルの子スタイル品目について部品表が検証され、生成されます。部品表が作成された後は、最下位レベルの子スタイル品目の部品表を参照できます。また、子スタイル品目の部品表が作成されると、親スタイル品目のローの色が青から黒に変わります。

このプログラムには、データ選択とデータ順序を設定できます。

子スタイル品目の部品表のバッチ生成

「製品データ管理」(G41F24)、「子スタイル品目の部品表の作成」を選択します。

子スタイル品目の部品表の作成プログラムには、データ選択とデータ順序を設定できます。

スタイル品目の部品表のコピー

「スタイル品目の部品表のコピー」フォームにアクセスします。

スタイル品目の処理 - スタイル品目の部品表のコピー

OK(O) 取消(L) ツール(T)

コピー元

品目 No.

PJ56.PA

事業所

M30

部品表タイプ

M

バッチ数量

.0000

コピー先

品目 No.

事業所

M30

部品表タイプ

M

バッチ数量

.0000

☒ 関連/用途のコピー

「スタイル品目の部品表のコピー」フォーム

スタイル品目の部品表をコピーするには、次のフィールドに値を入力するか、チェックボックスの場合は選択します。

- 品目 No.
- 事業所
- 部品表タイプ
- バッチ数量
- 関連/用途のコピー

スタイル品目の作業工程指示の作成

この項では、スタイル品目の作業工程指示の作成の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- スタイル品目ルート・レベル0の作業工程指示の入力
- 子スタイル品目の作業工程の生成
- 作業工程指示の例外の定義

スタイル品目の作業工程指示の作成について

作業工程指示は、スタイル品目の生産工程で実行される作業の順序です。スタイル作業工程マスターの処理プログラム(PCW35)および作業工程の入力/変更(P3003)を使用して、スタイル品目ルート・レベル0に作業工程を定義します。スタイル品目ルート・レベル0は、スタイル品目マスター(PCW51)やコレクション別スタイル品目(PCW54)プログラムの呼出し元のレベルに関係なく、常にスタイル作業工程マスターの処理プログラムに渡されます。

最下位レベルの子スタイル品目の作業工程は、スタイル品目ルート・レベル0からコピーされます。JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理システムでは通常、スタイル品目ルート・レベル0と子スタイル品目の作業工程は同じです。

作業工程指示は、色やサイズなどの属性に依存しません。たとえば、青いジャケットの生産工程は緑のジャケットのものと同じです。サイズによっても工程に違いはありません。SサイズとMサイズのジャケットで工程は同じです。このため、子スタイル品目はスタイル品目ルート・レベル0の作業工程を継承します。

子スタイル品目の作業工程は、検討および変更することができます。作業工程の例外プログラム(PCW36)を使用して、例外処理を介してスタイル品目ルート・レベル0の作業工程を子レベルで一時変更します。次の場合を除いて、子スタイル品目の作業工程はスタイル品目ルート・レベル0と同じです。

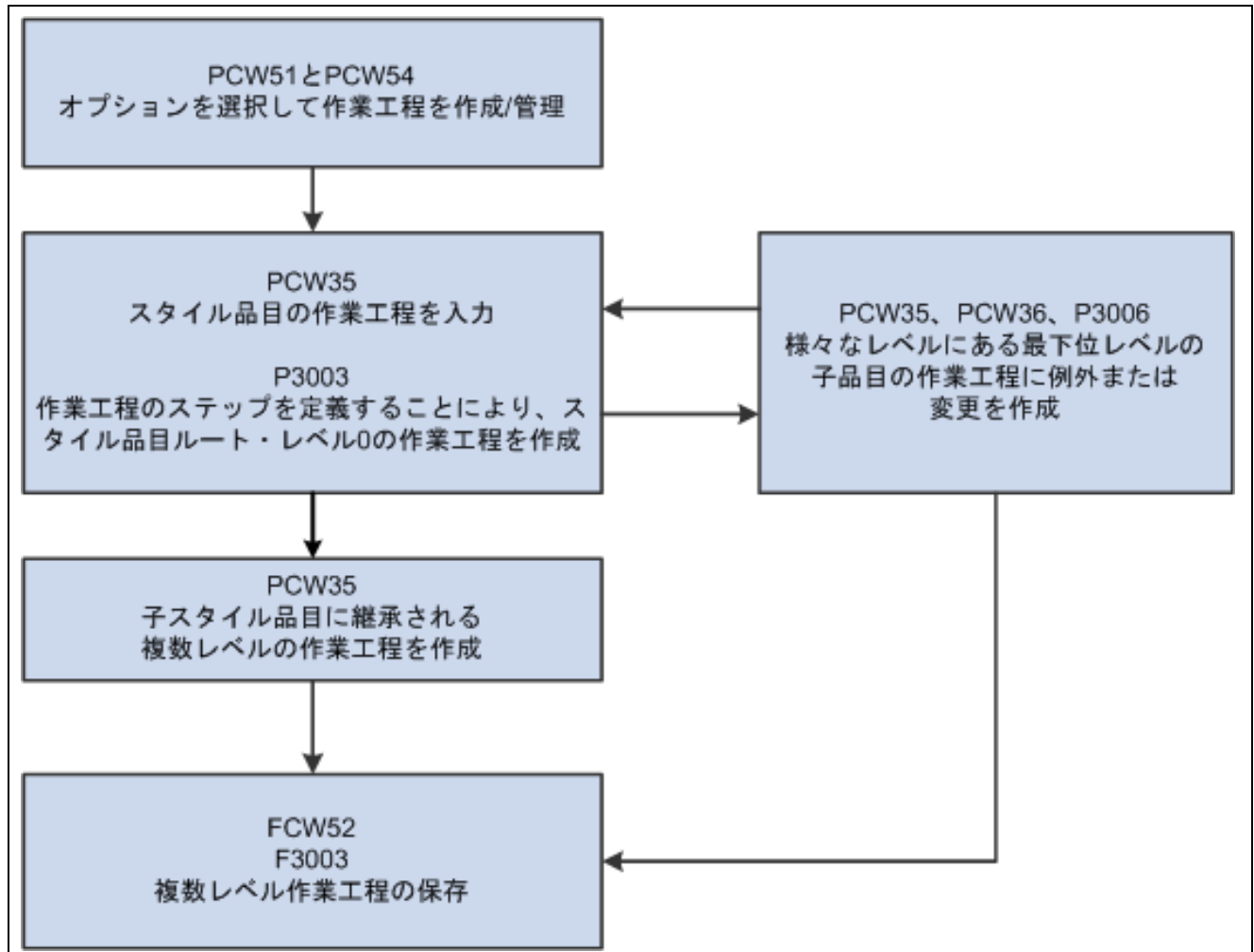
- ある原材料が、特定の色またはサイズに対して使用されない。
たとえば、黒いスカートには裏地が使用されない場合などです。
- サイズによって生産にかかる時間が異なる。
たとえば、縫製作業に必要な時間数です。

「スタイル作業工程の処理」フォームでは、視覚的にわかりやすくなるようにカラム見出しが色分けされます。カラム見出しの色は、次の状況に応じて変わります。

- 青は状況0です。
スタイル品目ルート・レベル0またはスタイル品目の任意のレベルに作業工程を作成して、子スタイル品目についてまだ作業工程を作成していない場合、色が青になります。
- 赤は状況2です。
スタイル品目ルート・レベル0またはスタイル品目の任意のレベルの作業工程を変更して、子スタイル品目について作業工程を再作成していない場合、色が赤になります。
- 黒は状況9です。
スタイル品目ルート・レベル0またはスタイル品目の任意のレベルの作業工程に対する更新がすべて子スタイル品目に伝播されると、色が黒になります。

作業工程情報は、スタイル作業工程マスター(FCW52)と作業工程マスター(F3003)に保存されます。

次の図は、スタイル品目の作業工程の作成プロセスを示しています。



スタイル品目の作業工程の作成プロセス

作業工程の作成が終わると、JD Edwards EnterpriseOneの標準機能が使用されます。

スタイル作業工程マスターの処理プログラムを使用して作業工程を削除する場合、スタイル品目ルート・レベル0またはスタイル品目の任意のレベルの作業工程が削除されます。作業工程のレコードは、FCW52およびF3003テーブルから削除されます。

このシステムでは、特定の作業を仕入先に委託する外注作業を使用することができます。たとえば、アパレル産業の製造業者は、染色や裁断、縫製といった製造タスクを外部に委託することがあります。作業工程指示の特定の作業順序を外注作業として指定します。作業工程のステップを定義した後は、購買オーダーなど外注作業に必要な伝票が作成されます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 製造データ管理 9.0 製品ガイド、「作業場および作業工程指示の入力」、「作業工程指示の作成」

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- スタイル品目マスター・プログラム(PCW51)の「バージョン」タブで「作業工程マスターの処理(P3003)」処理オプションを設定し、スタイル作業工程マスターの処理プログラムによって呼び出される作業工程の入力/変更プログラムのバージョンを指定します。

- コレクション品目マスター・プログラム(PCW54)の「バージョン」タブで「作業工程マスターの処理(P3003)」処理オプションを設定し、スタイル作業工程マスターの処理プログラムによって呼び出される作業工程の入力/変更プログラムのバージョンを指定します。

スタイル品目の作業工程指示の作成に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
スタイル作業工程の処理	WCW35B	<ul style="list-style-type: none"> • 「スタイル品目管理」(G41F11)、「スタイル品目の処理」 「スタイル品目マスター表示の処理」フォーム(WCW51E)でローを選択して、「ロー」メニューから「作業工程」を選択します。 • 「スタイル品目管理」(G41F11)、「コレクション別スタイル品目の処理」 「コレクション・スタイル品目マスター表示の処理」フォーム(WCW54A)でローを選択して、「ロー」メニューから「作業工程」を選択します。 • 「スタイル品目の部品表の処理」フォームで、「フォーム」メニューから「作業工程」を選択します。 	<p>スタイル品目の作業工程を処理します。</p> <p>注意: スタイル作業工程マスターの処理プログラム(PCW35)は、別のアプリケーションからのみアクセスできます。</p>
作業工程情報の入力	W3003B	<ul style="list-style-type: none"> • 「スタイル作業工程の処理」フォームで、「追加」をクリックします。 • 「スタイル作業工程の処理」フォームからレコードを選択して、「コピー」をクリックします。 • 「スタイル作業工程の処理」フォームからレコードを選択して、「選択」をクリックします。 • 「工程作業の処理」フォームからレコードを選択して、「選択」をクリックします。 	<p>スタイル品目の作業工程指示を入力します。</p> <p>スタイル品目の作業工程をコピーします。</p> <p>スタイル品目の作業工程を検討、更新します。</p> <p>注意: スタイル品目の場合、作業工程の入力/変更プログラム(P3003)にアクセスするには、スタイル作業工程マスターの処理プログラム(PCW35)を使用する必要があります。</p>
作業工程例外の処理	WCW36A	「スタイル作業工程の処理」フォームで、ローを選択して「ロー」メニューから「例外」を選択します。	<p>作業工程指示の例外を定義します。</p> <p>注意: 作業工程の例外プログラム(PCW36)は、別のアプリケーションからのみアクセスできます。</p>

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
工程作業の処理	W3003C	「作業工程例外の処理」フォームで、レコードを選択して「ロー」メニューから「作業工程の表示」を選択します。	スタイル品目の作業工程を検討します。 注意: 「工程作業の処理」フォームでは変更を適用しません。

スタイル品目ルート・レベル0の作業工程指示の入力

「作業工程情報の入力」フォームにアクセスします。

スタイル品目ルート・レベル0の作業工程指示を入力するには、次の手順に従います。

1. スタイル品目ルート・レベル0を製造するために必要な、作業、作業場、時間数などの情報を定義します。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 製造データ管理 9.0 製品ガイド、「作業場および作業工程指示の入力」、「作業工程指示の作成」

2. 「OK」をクリックします。

重要: 作業工程を初めて作成するときのみに、スタイル品目ルート・レベル0に作業工程が生成されます。

子スタイル品目の作業工程の生成

「スタイル作業工程の処理」フォームにアクセスします。

子スタイル品目の作業工程を生成するには、次の手順に従います。

1. 青で描かれた作業工程行のローを選択します。
2. 「ロー」メニューから「作成」を選択して、すべての子スタイル品目に作業工程を生成します。

注意: 行の色が黒に変わります。

作業工程の例外の定義

「作業工程例外の処理」フォームにアクセスします。

作業工程指示の例外を定義するには、次の手順に従います。

1. 例外を適用するツリーのスタイル品目レベルを選択します。
2. 「選択」をクリックします。
3. 「スタイル作業工程の処理」フォームでレコードを選択して、「選択」をクリックします。
4. 「作業工程情報の入力」フォームで、作業工程の例外を入力します。
5. 「OK」をクリックして、変更を保存します。

作業工程指示のレコードが赤になります。

6. 「スタイル作業工程の処理」フォームでレコードを選択して、「ロー」メニューから「作成」を選択します。

作業工程指示のレコードが黒になります。

7. 「閉じる」をクリックして、「スタイル品目マスター表示の処理」フォームに戻ります。

スタイル品目の外注作業の設定

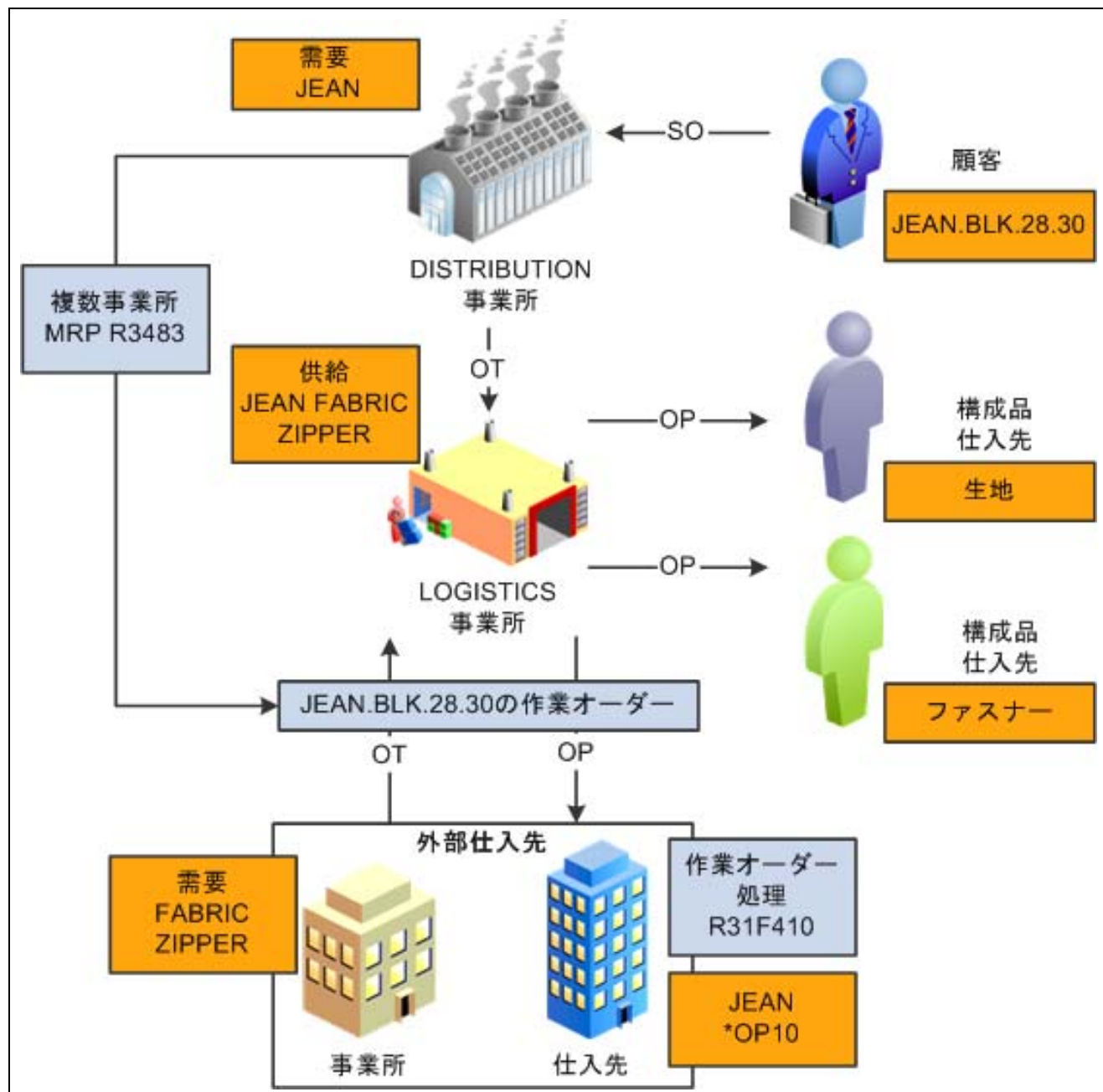
この項では、スタイル品目の外注作業の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- スタイル品目外注作業の為替レート(PCW62)の処理オプションの設定
- スタイル品目外注作業の為替レートの設定
- スタイル品目の外注作業詳細の作成
- スタイル品目の外注作業詳細のコピー

スタイル品目の外注作業について

JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理システムでは、特定の作業を仕入先に委託する外注作業を使用することができます。外注作業はサービスを提供するために行われます。たとえば、アパレル産業の製造業者は、染色や裁断、縫製といった製造タスクを外部に委託することがあります。

次の図は、スタイル品目の外注作業のプロセスを示しています。



スタイル品目の外注作業のプロセス

作業工程指示の特定の作業順序を外注作業として指定します。たとえば、スタイル品目JEA301の作業工程順序10が外注作業として定義されている場合、スタイル品目JEA301*OP10が作成されます。スタイル品目JEA301の在庫タイプと行タイプは、どちらもX(外注により処理)に設定されます。

作業工程のステップを定義した後は、購買オーダーなど外注作業に必要な伝票が作成されます。

新しい仕入先またはスタイル品目が設定されるたびに、すべてのスタイル品目や部品表、作業工程、価格、原価レコード、事業所間関係といった設定作業を完了する必要があります。スタイル品目の外注を有効にするため、システムでは次の処理が行われます。

- *OP品目の作成と管理
- 部品表と作業工程のコピー

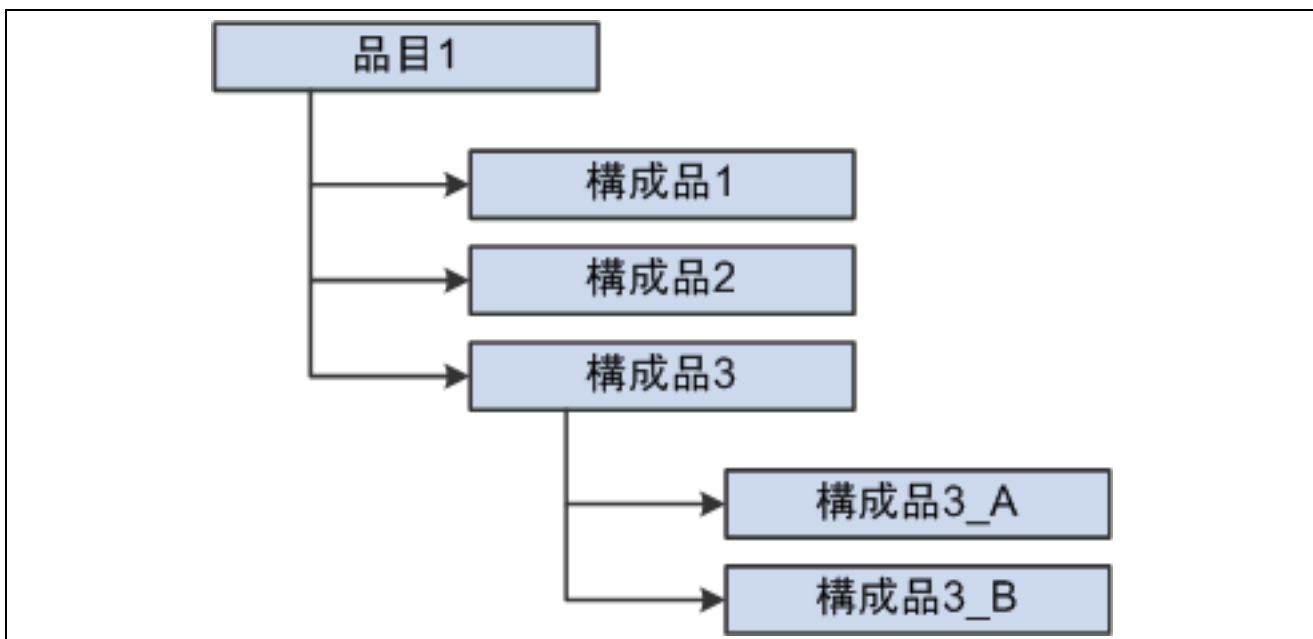
- スタイル品目ルート・レベル0、すべての子スタイル品目、すべての構成成品に対する品目事業所レコードの作成
- 品目の仕入先、原産国の更新

スタイル品目の通貨間の為替レートを定義するには、スタイル品目外注作業の為替レート・プログラム(PCW62)を使用します。「スタイル品目外注作業の為替レート詳細」フォームの「換算元通貨コード」フィールドの値は、「換算元通貨コード」処理オプションのデフォルト値です。

スタイル品目の外注作業詳細の作成プログラム(PCW93)を使用して、ソース事業所からターゲット事業所へコピーすることにより、外注作業を作成します。「ソース事業所」フィールドは、ロジスティクスの事業所を示します。「ターゲット事業所」フィールドは、外注作業を実行する外部の業者を表します。

スタイル品目の外注作業詳細の作成プログラムは、外注作業がソース事業所にある場合のみターゲット事業所に*OP外注作業をコピー、作成します。外注作業の作業工程指示の「作業タイプ」フィールドがblankの場合、作業工程は作成されません。また、「スタイル品目の外注作業詳細」フォームの「外注作業コード」フィールドのコードは、作業工程指示の「作業タイプ」フィールドのコードと一致する必要があります。コードが一致しない場合、*OP品目は作成されません。エラー・メッセージは表示されません。

スタイル品目の外注作業詳細の作成プログラムの「処理」タブで「複数レベル部品表」処理オプションをblankにすると、スタイル品目の複数レベル部品表がコピーされます。ただし、以前にコピーされたスタイル品目の構成成品の部品表はコピーされません。たとえば、スタイル品目に次の部品表があるとします。



スタイル品目の部品表の例

品目1には、構成成品1、構成成品2、構成成品3からなる部品表があります。構成成品3には、構成成品3_Aと構成成品3_Bから構成される部品表があります。品目1と構成成品3は、下位レベルの子スタイル品目を持つスタイル品目です。

スタイル品目の外注作業詳細の作成プログラムの処理オプションの「処理」タブで、部品表を処理するには「部品表」処理オプションをblankに、複数レベル部品表を処理するには「複数レベル部品表」処理オプションをblankにします。

スタイル品目の外注作業詳細の作成プログラムで品目1が処理される際に、品目1の部品表がソース事業所からターゲット事業所にコピーされます。また、品目1の子スタイル品目レコードがソース事業所からターゲット事業所にコピーされます。部品表の構成成品1、構成成品2、構成成品3のみがコピーされます。

構成成品3の子品目の部品表レコードは、ターゲット事業所にはコピーされません。構成成品3の部品表レコードが必要な場合、スタイル品目の外注作業詳細の作成プログラムを実行して、構成成品3のレコードをターゲット事業所にコピーする必要があります。

スタイル品目の外注作業詳細へのコピー・プログラム(RCW93)によって、スタイル品目の外注作業品目(*OP品目)が品目原価、品目価格、品目保管場所とともに作成されます。データ選択に対応するレコードがFCW93テーブルにない場合、スタイル品目の外注作業詳細へのコピー・レポートに、データが選択されていないというメッセージが出力されます。

自動的に購買オーダーを作成するよう設定されている場合、スタイル品目の作業オーダー処理プログラム(R31F410)によって外注作業(*OP)購買オーダーが作成されます。

製造業者は外注業者に作業を送り、業者が作業を完了してそれを製造業者に送り返します。外注作業は、内部作業オーダーに割り当てられます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 製造現場管理 9.0 製品ガイド、「作業オーダーとレート・スケジュールの使い方」

参照: JD Edwards EnterpriseOne 所要量計画 9.0 製品ガイド、「複数事業所計画の利用」

重要: 外注作業プログラムは、外注作業がある場合にのみ使用してください。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 次のユーザー定義コードを設定します。
 - 作業タイプ(06/G)
 - 原価計算方法(40/CM)
- 品目マスター・プログラム(P4101)の「在庫原価レベル」フィールドの値を、スタイル品目に対応するように「1」または「2」に設定します。
- 事業所品目プログラム(P41026)の品目原価テーブル(F4105)でスタイル品目ルート・レベル0に値を入力します。
- スタイル品目の外注作業詳細の作成プログラム(PCW93)の処理オプションを設定します。
- スタイル品目の外注作業詳細のコピー・プログラム(RCW93)の処理オプションを設定します。

スタイル品目の外注作業の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
スタイル品目外注作業の 為替レート処理	WCW62A	「製品データ管理設定」 (G41F48)、「スタイル品目 外注作業の為替レート」 「スタイル品目の外注作 業の処理」フォームで、 「ロー」メニューから「取引 レート」を選択します。	スタイル品目外注作業の 為替レートを処理します。
スタイル品目外注作業の 為替レート詳細	WCW62B	「スタイル品目外注作業の 為替レートの処理」フォー ムで、「追加」をクリック します。	スタイル品目外注作業の 為替レートを設定します。
スタイル品目の外注作 業の処理	WCW93A	「製品データ管理」 (G41F24)、「外注作業 詳細の作成」	スタイル品目の外注作業 を処理します。
スタイル品目の外注 作業詳細	WCW93B	「スタイル品目の外注作業 の処理」フォームで、「追 加」をクリックします。	スタイル品目の外注作業 詳細を作成します。

スタイル品目外注作業の為替レート(PCW62)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

デフォルト

換算元通貨コード 取引の通貨コードを指定します。

スタイル品目外注作業の為替レートの設定

「スタイル品目外注作業の為替レート詳細」フォームにアクセスします。

「スタイル品目外注作業の為替レート詳細」フォーム

「スタイル品目外注作業の為替レート詳細」フォームの「換算元通貨コード」フィールドの値は、「換算元通貨コード」処理オプションのデフォルト値です。

スタイル品目外注作業の為替レートを設定するには、次の手順に従います。

1. 「換算先通貨コード」フィールドに通貨コードを入力します。
2. 「有効日付」フィールドに日付を入力します。
3. 「為替レート」フィールドに為替レートを入力します。
4. その他の有効日付と為替レートを必要に応じて入力します。
5. 「OK」をクリックします。

スタイル品目の外注作業詳細の作成

「スタイル品目の外注作業詳細」フォームにアクセスします。

外注作業詳細の作成 - スタイル品目の外注作業詳細

OK(O) 取消(C) ツール(T)

ソース事業所 * M30

ターゲット事業所 * M30

外注作業コード * 999

スタイル品目ルート・レベル0

部品表

構成品事業所 * M30

出庫タイプ・コード | Manual Issue

作業工程

仕入先番号 4343 Parts Emporium changed

作業場 200-201

待ち時間

作業価格/原価

作業価格

通貨コード EUR Euro

有効日付 08/25/2010

有効期限 12/31/2040

「スタイル品目の外注作業詳細」フォーム

スタイル品目の外注作業詳細を作成するには、次の手順に従います。

1. 「ターゲット事業所」フィールドに事業所を入力します。
2. 「外注作業コード」フィールドにコードを入力します。
3. 「スタイル品目ルート・レベル0」フィールドに値を入力します。
4. 外注作業の部品表を作成するには、次のフィールドに値を入力します。
 - 構成品事業所
 - 出庫タイプ・コード
5. 外注作業の作業工程を作成するには、次のフィールドに値を入力します。
 - 仕入先番号
 - 作業場
 - 待ち時間
6. 外注作業の価格と原価を作成するには、次のフィールドに値を入力します。
 - 作業価格
 - 通貨コード
 - 有効日付

- 有効期限

7. 「OK」をクリックします。

ターゲット事業所

原価のトラッキング対象となる業務の単位を表す英数字のコードです。たとえば、倉庫保管場所、作業、プロジェクト、作業場、事業所、工場などをビジネスユニットとして設定できます。ビジネスユニットを伝票、事業体、または個人に割り当てて、管轄別のレポートを作成できます。たとえば、ビジネスユニット別の未決済買掛金/売掛金レポートを作成して、管轄部門ごとの設備をトラッキングできます。ビジネスユニットにセキュリティが設定されていると、権限のないユーザーにはビジネスユニットに関する情報が表示されない場合があります。

外注作業コード

組織内で作業を識別するユーザー定義コード(06/G)。職務タイプに給与および福利厚生情報を関連付けて、その情報をその職務タイプにリンクされている従業員に適用できます。

JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理の場合、「外注作業コード」フィールドのコードが、ソース事業所における外注作業作業工程ステップの「作業タイプ」フィールドのコードと比較されます。外注作業の処理中に、「外注作業コード」と「作業タイプ」のフィールドの作業タイプ・コードが一致するかどうかを検証されます。

構成成品事業所

2次または下位レベルのビジネスユニット。この入力値によって、事業所の下に複数の従属部門または作業があることが示されます。たとえば、構成成品事業所の名称をMMCUと仮定します。MMCUの構造は次のようになる可能性があります。

事業所 - (MMCU)

部署A - (MCU)

部署B - (MCU)

作業123 - (MCU)

出庫タイプ・コード

部品表の各構成成品を在庫から出庫する方法を示すコード。JD Edwards EnterpriseOne製造現場管理では、この値は、システムによって部品が作業オーダーにどのように出庫されるかを示します。値は次のとおりです。

I: 手作業による出庫

F: 床積在庫(部品の出庫なし)

B: バックフラッシュ(部品の完了報告時)

P: プレフラッシュ(部品リスト生成時)

U: スーパー・バックフラッシュ(引落点作業時)

S: 外注品目(仕入先へ送信)

ブランク: 出荷可能最終品目

部品表および作業オーダー部品リストで異なるコードを使用すると、1つの事業所内で1つの構成成品を複数の方法で出庫できます。部品表コードによって、事業所の値が一時変更されます。

仕入先番号

この品目の優先仕入先の住所録番号。

作業場	<p>上位レベルのビジネスユニットを表すコード。このコードでは、下位レベルのビジネスユニットである部門または作業を持つ事業所を表します。次に例を示します。</p> <p>事業所 (MMCU)</p> <p>部署 A (MCU)</p> <p>部署 B (MCU)</p> <p>作業 123 (MCU)</p> <p>ビジネスユニット・セキュリティは、上位レベルのビジネスユニットに基づいています。</p>
待ち時間	<p>あるオーダーが作業場で待ち状態になると予想される時間と作業場間の予想移動時間の合計。この値は事業所品目テーブル (F4102) に保存されます。この値は、リードタイム積上げプログラムを使用して計算するか、手作業で入力できます。リードタイム積上げプログラムを実行すると、手作業の入力が一時変更され、計算された値がテーブルに挿入されます。</p>
作業価格	<p>仕入先から購入した品目の単位原価。この単位原価は、品目の入荷時に記録する実際の単位原価に影響を与える運賃、税、値引きなどの要素を含みません。</p>

スタイル品目の外注作業詳細のコピー

「製造データ管理」(G41F24)、「外注作業詳細のコピー」を選択します。

第 9 章

アパレル管理の資材計画作業の処理

この章では、アパレル管理の資材計画作業の概要と、スタイル品目の計画メッセージの処理方法について説明します。

アパレル管理の資材計画作業について

JD Edwards EnterpriseOne 所要量計画は、オラクル社の JD Edwards EnterpriseOne Supply Chain Management 製品ラインの1つです。JD Edwards EnterpriseOne 所要量計画は次の機能で構成されています。

- 資源/能力所要量計画

資源/能力所要量計画を使用すると、需要予測および生産能力に準じた効率のよい製造スケジュールを立てられます。資源/能力所要量計画の内容は次のとおりです。

- 資源所要量計画 (RRP)
- ラフカット能力計画 (RCCP)
- 能力所要量計画 (CRP)

- 資材計画作業

資材計画作業システムを使用すると、製品の製造に必要な資材所要量を満たすように短期計画を立てることができます。資材計画作業では、全作業分野の需要を分析します。資材計画作業は次の機能で構成されています。

- 流通所要量計画 (DRP)
- 基準生産日程計画 (MPS)
- 資材所要量計画 (MRP)
- 複数事業所計画
- プロジェクト所要量計画 (PRP)

参照: JD Edwards EnterpriseOne 所要量計画 9.0 製品ガイド、「所要量計画について」

JD Edwards EnterpriseOne 所要量計画システムと JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理システムは、統合してスタイル品目の資材計画をサポートします。これらのシステムは、最下位レベルの子スタイル品目のマトリックス表示を可能にすることで、メッセージの検討を容易にし、データの一貫性を維持します。

一部の会社では、Microsoft Excel のスプレッドシートを使用して予測を作成し、その予測を最下位レベルの子品目に対して外挿し、スプレッドシートを JD Edwards EnterpriseOne システムにインポートします。

注意: 手動によるスプレッドシートの処理では、電子データ交換を使用しません。

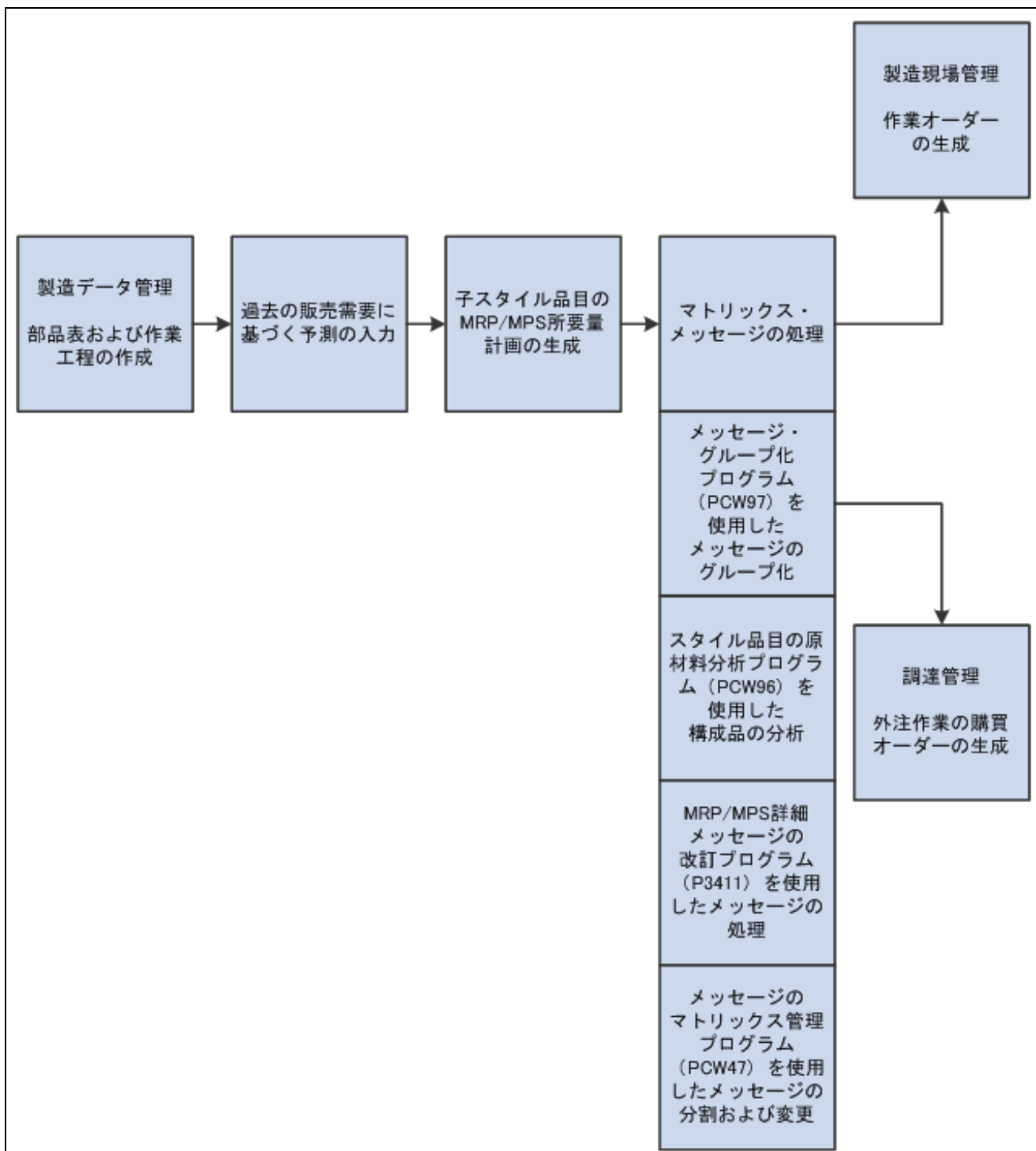
MRP/MPS所要量計画プログラム(R3482)および基準計画スケジュール - 複数事業所プログラム(R3483)を実行して、最下位レベルの子スタイル品目のMRPメッセージを作成します。MRP/MPS詳細メッセージの改訂プログラム(P3411)を使用して、新規メッセージを追加します。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 所要量計画 9.0 製品ガイド、「資材所要量の計画」

参照: JD Edwards EnterpriseOne 所要量計画 9.0 製品ガイド、「複数事業所計画の利用」

メッセージのマトリックス管理プログラム(PCW47)、原材料分析プログラム(PCW96)およびメッセージ・グループ化プログラム(PCW97)を使用して、子スタイル品目のメッセージを管理します。

次の図は、子スタイル品目の資材計画プロセスを示しています。



スタイル品目の資材計画プロセス

例: アパレル産業

アパレル産業では、コレクションの開発が完了する前に、次の所要量の初期予測を作成します。

- 一括オーダー用の灰色の生地ブックイング
- 製造人員のブックイング

- ・ コレクションおよびスタイル品目レベル

スタイル品目と色の予測を作成し、色レベルで生地¹の3分の1を確定(購入)します。なお、アパレル産業には業界の慣例があり、仕入先の要求がある場合は予測の作成時に供給の30%を購入します。

販売開始から3から5週間後に、予測を検討し、次のタスクを実行します。

- ・ 最下位レベルの子品目に対するコレクションの外挿
- ・ 通常のオーダーの分離
- ・ 補充オーダーの追加予測の算出
- ・ 生地¹の購入

スタイル品目の計画メッセージの処理

この項では、スタイル品目の計画メッセージ、引当可能数量計算と調整計算の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- ・ メッセージのマトリックス管理(PCW47)の処理オプションの設定
- ・ スタイル品目のメッセージの処理
- ・ スタイル品目のメッセージのサイズ別数量の追加
- ・ スタイル品目のメッセージの分割
- ・ スタイル品目のメッセージのグループ化
- ・ スタイル品目の調整値の計算
- ・ スタイル品目の転送オーダーの生成

スタイル品目の計画メッセージについて

メッセージのマトリックス管理プログラム(PCW47)では、マトリックス表示内のすべてのメッセージを一括して表示することができます。メッセージのマトリックス管理プログラムによって、最下位レベルの子スタイル品目のマトリックス・メッセージを変更できます。管理できるのは既存のメッセージのみです。メッセージをグループ化および分割して、オーダーを作成できます。新規メッセージは追加できません。

メッセージのマトリックス管理プログラムで表示されるサイズ・グリッド・カラムは、マトリックス・グリッド・プログラム(PCW03)で定義されたサイズ・グリッドに基づいています。メッセージのマトリックス管理プログラムによって表示されるサイズ・グリッド・カラムは、スタイル品目のオーダーで選択されたサイズに基づいていません。たとえば、オーダーでスタイル品目に7つのサイズしか選択されていない場合でも、マトリックス・グリッド・プログラムのサイズ・グリッドには、23カラムすべてが表示されます。

メッセージのマトリックス管理プログラムでは、様々なサイズが設定されているすべてのスタイル品目をサポートするために、すべてのサイズ・グリッド・カラムが表示されます。「メッセージのマトリックス管理の処理」フォームに2つのスタイル品目が表示されていて、1つ目のスタイル品目には7種類のサイズ、2つ目のスタイル品目には9種類のサイズがある場合、両方の品目に設定されたサイズがすべて表示されます。このように、サイズ・グリッドにのみ基づいたスタイル品目のサイズが常に表示されます。「メッセージのマトリックス管理の処理」フォームのサイズ・カラムにある数量フィールドには、データを入力できません。

ローを選択し、「ロー」メニューの「半製品生成」を選択することで、「メッセージのマトリックス管理の処理」フォームから半製品を生成します。

複数の子スタイル品目は、作業オーダーと購買オーダーの両方によって管理されます。購買オーダーおよび作業オーダーを生成するために、メッセージ・グループ化プログラム(PCW97)を使用してスタイル品目をグループ化することができます。たとえば、マスター作業オーダーを作成するために、同じ生地で製造されるスタイル品目の作業オーダーをグループ化します。

提示数量が1つのオーダーに対して大きすぎる場合、1つのメッセージをいくつかに分割できます。1つのオーダーを日付が異なる2つのオーダーに分割します。

MRP/MPS詳細メッセージの改訂プログラム(P3411)を使用して、スタイル品目の新規メッセージを追加します。

重要: メッセージのマトリックス管理プログラム(PCW47)からMRP/MPS詳細メッセージの改訂プログラムを呼び出し、アパレル管理モジュールのシステム固定情報(SY41F)が有効になっている場合、「詳細メッセージの処理」フォームの見出しにある「品目 No.」、「計画担当者」、「計画ファミリ」、「プロジェクト番号」、「購買担当者」、「計画コード」、「需要事業所」および「品目フラッシュ・メッセージ表示」の各フィールドは非表示になります。「詳細メッセージの処理」フォームの見出しにある「マスター作業オーダー」および「前のマスター作業オーダー」の各フィールドは表示されます。

メニューまたは「略式コマンド」からMRP/MPS詳細メッセージの改訂プログラムを呼び出し、アパレル管理モジュールのシステム固定情報(SY41F)が有効になっている場合、「詳細メッセージの処理」フォームには、基本機能によってフォームが表示されます。

引当可能数量計算について

原材料分析プログラム(PCW96)を使用して、構成品の引当可能数量を決定します。構成品不足を監視し、不足分計算に基づいて数量変更を計画メッセージに適用することができます。

追加事業所を使用する場合、「スタイル品目の原材料分析の処理」フォームの「フォーム」メニューで「不足分計算」オプションを使用して、資材不足分を計算します。追加事業所を使用しない場合、不足分計算は自動的に実行されます。1つの事業所を使用する場合、「フォーム」メニューの「不足分計算」オプションを選択する必要はありません。

原材料分析プログラムの処理オプションを設定します。「処理」タブの「追加事業所」処理オプションで、構成品不足分計算用のメッセージ事業所とともに使用される事業所を指定します。

「処理」タブの「オーダー乗数」処理オプションで、作業オーダー数量を変更するための調整計算中に使用される乗数数量を指定します。

「処理」タブの「最小数量」処理オプションで、作業オーダー数量を変更するための調整計算中に使用される最小数量を指定します。

「スタイル品目の原材料分析の処理」フォームの見出しにある「追加事業所」フィールドには、計画メッセージに指定された事業所とともに不足分計算に使用される事業所が示されます。

各メッセージのグリッドにある「トランザクション数量」フィールドの値は、変更することができます。

不足分計算を実行する際、必要な構成品と数量を決定するために、メッセージにある子スタイル品目の部品表に基づいて需要量が検証されます。次に、構成品の引当可能数量と部品表における需要量が比較され、資材不足分が決定されます。次の計算式を使用して資材不足分が計算されます。

(資材不足分) = (構成品需要) - (メッセージ事業所に基づく引当可能数量)

資材の供給元となる追加事業所を使用する場合、不足分は次のように計算されます。

(資材不足分) = (構成品需要) - (メッセージ事業所に基づく引当可能数量) - (追加事業所に基づく引当可能数量)

例：引当可能数量計算

たとえば、計画メッセージで、スタイル品目XPJ01.B.0-3の所要量が数量200個となっているとします。次の表は、部品表が示す構成部品および数量を示しています。

構成品	数量および単位
XFBPJ.B	25000 CM
XLINPJ.B	2400 CM
XZPJ.B.XS	200 UN

次の表は、資材不足分の計算に使用される需要および引当可能数量を示しています。

構成品	需要	引当可能数量(メッセージ事業所に基づく)	不足分
XFBPJ.B	25000 CM	18800 CM	6200 CM
XLINPJ.B	2400 CM	1800 CM	600 CM
XZPJ.B.XS	200 UN	160 UN	40 UN

この例では、スタイル品目XFPJ.Bの不足分は、(資材不足分) = (25000) - (18800) = 6200と計算されます。

次の表は、資材の供給元となる追加事業所を使用する場合に資材不足分の計算に使用される需要および引当可能数量を示しています。

構成品	需要	引当可能数量(メッセージ事業所に基づく)	引当可能数量(追加事業所に基づく)	不足分
XFBPJ.B	25000 CM	18800 CM	1000 CM	5200 CM
XLINPJ.B	2400 CM	1800 CM	200 CM	400 CM
XZPJ.B.XS	200 UN	160 UN	30 UN	10 UN

この例では、スタイル品目XFPJ.Bの不足分は、(資材不足分) = (25000) - (18800) - (1000) = 5200と計算されます。

調整計算について

作業オーダーのスタイル品目数量を調整するには、原材料分析プログラムを使用します。「調整計算」フォームには、各子スタイル品目のトランザクション数量およびすべてのスタイル品目の合計数量が表示されます。

「合計トランザクション数量」、「新規数量」、「乗算数量」および「最小数量」の各フィールドの値を使用して調整計算が実行され、各子スタイル品目の数量が更新されます。

調整計算は、次の手順で実行されます。

1. 合計トランザクション数量に基づく各スタイル品目の割合が計算されます。

$$\text{スタイル品目の割合} = (\text{品目のトランザクション数量}) \div (\text{合計トランザクション数量}) \times 100$$
2. スタイル品目間で新規数量が配賦されます。

$$\text{スタイル品目の計算済数量} = (\text{スタイル品目の割合}) \times (\text{合計新規トランザクション数量}) \div 100$$
3. 計算値が「最小数量」フィールドの値と比較され、計算値のほうが大きいかが検証されます。

$$\text{計算値} > \text{最小数量}$$
4. 「乗算数量」フィールドの値の倍数になるよう、計算済数量の値が丸められます。
 たとえば、185は5の倍数です。
$$(\text{丸められた計算済数量}) = 37 \times 5 = 185$$

 丸められた計算値が最終値です。これがスタイル品目の新規数量です。

「調整計算」フォームの「フォーム」メニューから「自動分割」を選択して、品目間で新規数量を比例配賦することもできます。自動分割が行われた後に、最小数量および乗数数量の制約が適用されます。

例1: 調整計算

たとえば、次の条件を使用して調整計算を実行するとします。

要素	値
合計トランザクション数量	1505
合計新規数量	1800
品目トランザクション数量	155
新規数量	2
乗数数量	5
最小数量	1

調整計算は、次の手順で実行されます。

1. $\text{スタイル品目の割合} = (155) \div (1505) \times 100 = 10.29\%$
2. $\text{スタイル品目の計算済数量} = (10.29) \times (1800) \div 100 = 185.22$
3. $\text{計算値} > \text{最小数量} = 185.22 > 1$
4. $(\text{丸められた計算済数量}) = 37 \times 5 = 185$

例2: 調整計算

次の条件を使用して、調整計算を実行します。

要素	値
合計トランザクション数量	1505
合計新規数量	2000

要素	値
品目トランザクション数量	155
新規数量	2
乗数数量	9
最小数量	170

調整計算は、次の手順で実行されます。

1. スタイル品目の割合 = $(155) \div (1505) \times 100 = 10.29\%$
2. スタイル品目の計算済数量 = $(10.29) \times (2000) \div 100 = 205.8$
3. 計算値 > 最小数量 = $205.8 > 170$
4. (丸められた計算済数量) = $22 \times 9 = 198$
(丸められた計算済数量) = $23 \times 9 = 207$

207は計算済数量の205.8より大きいため、198がスタイル品目の新規数量になります。

事前設定

この項で説明されているタスクを開始するには、事前に次の作業を行う必要があります。

- MRP/MPS詳細メッセージの改訂プログラム (P3411)、MRP/MPS所要量計画プログラム (R3482) および基準計画スケジュール - 複数事業所プログラム (R3483) のバージョンの処理オプションを設定します。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 所要量計画 9.0 製品ガイド、「資材所要量の計画」、「計画出力の分析」、「MRP/MPS詳細メッセージの改訂 (P3411) の処理オプションの設定」

参照: JD Edwards EnterpriseOne 所要量計画 9.0 製品ガイド、「資材所要量の計画」、「資材所要量計画の生成」、「MRP/MPS所要量計画 (R3482) の処理オプションの設定」

参照: JD Edwards EnterpriseOne 所要量計画 9.0 製品ガイド、「複数事業所計画の利用」、「複数事業所需要計画の生成」、「基準計画スケジュール - 複数事業所 (R3483) の処理オプションの設定」

- MRP/MPS所要量計画プログラム (R3482) および基準計画スケジュール - 複数事業所プログラム (R3483) を実行します。
- 原材料分析 (PCW96) のバージョンを処理オプションで設定します。
- メッセージ・グループ化 (PCW97) のバージョンを処理オプションで設定します。

スタイル品目の計画メッセージの処理に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
メッセージのマトリックス管理の処理	WCW47A	「資材計画」(G41F16)、「メッセージのマトリックス管理」	スタイル品目のメッセージを処理します。
マトリックス管理 - 詳細メッセージの改訂	WCW47C	「メッセージのマトリックス管理の処理」フォームで、ローを選択して「選択」をクリックします。	詳細メッセージの改訂を処理します。

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
マトリックス管理－分割メッセージ	WCW47D	「マトリックス管理－詳細メッセージの改訂」フォームでローを選択して、「ロー」メニューの「分割メッセージ」を選択します。	スタイル品目のメッセージを分割します。
マトリックス管理－サイズ別数量の追加	WCW47E	「マトリックス管理－詳細メッセージの改訂」フォームでローを選択して、「ロー」メニューの「サイズ別数量の追加」を選択します。	スタイル品目のメッセージのサイズ別数量を追加します。
メッセージ・グループ化詳細	WCW97A	「メッセージのマトリックス管理の処理」フォームでレコードを選択して、「ロー」メニューの「メッセージのグループ化」を選択します。	スタイル品目のメッセージをグループ化します。
スタイル品目の原材料分析の処理	WCW96A	「メッセージのマトリックス管理の処理」フォームで、「フォーム」メニューの「原材料分析」を選択します。 「メッセージのマトリックス管理の処理」フォームでローを選択して、「ロー」メニューの「原材料分析」を選択します。	スタイル品目の構成品の引当可能数量を検討します。
「調整計算」フォーム	WCW96D	「スタイル品目の原材料分析の処理」フォームで、「フォーム」メニューの「調整計算」を選択します。 「スタイル品目の原材料分析の処理」フォームでローを選択して、「ロー」メニューの「調整計算」を選択します。	スタイル品目の調整値を計算します。
詳細部品リスト	WCW96B	「スタイル品目の原材料分析の処理」フォームでローを選択して、「ロー」メニューの「詳細部品リスト」を選択します。	子スタイル品目の詳細部品リストを検討します。 「詳細部品リスト」フォームには、スタイル品目のすべての構成部品目に関連する数量とともに表示されます。
集計部品リスト	WCW96C	「スタイル品目の原材料分析の処理」フォームで、「フォーム」メニューの「集計リスト」を選択します。	子スタイル品目の集計部品リストを検討します。 オーダー数量と引当可能数量を比較することで、構成品の不足分を確定できます。

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
詳細メッセージの処理	W3411D	<ul style="list-style-type: none"> 「メッセージのマトリックス管理の処理」フォームで、緑のチェック・マークで選択されたローに対して、「フォーム」メニューの「検証」を選択します。 「DRP 日次処理」(G3411)、「DRP 詳細メッセージの検討」 「MPS 日次処理」(G3412)、「MPS 詳細メッセージの検討」 「MRP 日次処理」(G3413)、「MRP 詳細メッセージの検討」 	<p>スタイル品目のメッセージを処理します。</p> <p>子スタイル品目にメッセージを追加します。</p> <p>注意: メッセージのマトリックス管理プログラムから MRP/MPS 詳細メッセージの改訂プログラムを呼び出した場合は、スタイル品目にメッセージを追加できません。メッセージの処理または検証のみ可能です。スタイル品目に新規メッセージを追加するには、MRP/MPS 詳細メッセージの改訂プログラムを別途呼び出す必要があります。</p> <p>参照: JD Edwards EnterpriseOne 所要量計画 9.0 製品ガイド、「資材所要量の計画」</p>

メッセージのマトリックス管理 (PCW47) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

処理

- メッセージ処理状況**

メッセージ処理状況のタイプを指定します。ユーザー定義コード (UDC) テーブル H01/MR で設定されている値を入力します。
- 作業オーダー伝票タイプ**

システムが作業オーダーを作成するときに使用される伝票タイプを指定します。UDC 00/DT (伝票タイプ - 全伝票) の値を入力します。

この処理オプションをブランクにすると、伝票タイプ WO が使用されます。

区切り文字を文字列の中で使用せずに、複数の作業オーダー・タイプを指定できます。文字列の 2 桁ごとに解析されます。
- 配賦事業所**

配賦事業所を指定します。このフィールドに入力する値は、事業所品目プログラム (P41026) のデフォルト値として表示されます。
- 転送オーダーの伝票タイプ**

新規転送オーダーに使用するオーダー・タイプを指定します。UDC 00/DT (伝票タイプ - 全伝票) の値を入力します。

このフィールドをブランクにすると、デフォルトのオーダー・タイプとして OT が使用されます。
- 転送リードタイム**

転送オーダー生成のリードタイムを日数で指定します。
- 半製品の在庫タイプ**

半製品の処理に使用される在庫タイプを指定します。在庫タイプに関する情報が事業所品目テーブル (F4102) から取得されます。在庫タイプは、品目の保管方法を示す UDC (41/1) です。たとえば、完成品または原材料として品目を保管するとします。この処理オプションに指定できる在庫タイプはハードコード化されているため、変更しないでください。各在庫タイプでは、

「記述2」の最初の文字は、品目が購買品(P)または製造品(M)のどちらかを示します。値は次のとおりです。

- O: 擬似品目
- B: バルク在庫品
- C: コンフィギュレーション品目
- E: 緊急/改良保全
- F: フィーチャ
- K: キット/親品目
- N: 非在庫品目

区切り文字を文字列の中で使用せずに、複数の在庫タイプを指定できます。文字列の1桁ごとに解析されます。

- | | |
|--------------------------|--|
| 7. 転送オーダー生成のメッセージ状況 | 転送オーダー生成のメッセージ状況のタイプを指定します。UDCテーブルH01/MRで設定されている値を入力します。 |
| 8. 半製品生成のメッセージ状況 | 半製品生成のメッセージ状況のタイプを指定します。UDCテーブルH01/MRで設定されている値を入力します。 |
| 9. グループ化(PCW97)のメッセージ状況 | グループ化するメッセージのメッセージ状況のタイプを指定します。UDCテーブルH01/MRで設定されている値を入力します。 |
| 10. 原材料分析(PCW96)のメッセージ状況 | 原材料分析のメッセージ状況のタイプを指定します。UDCテーブルH01/MRで設定されている値を入力します。 |

バージョン

- | | |
|-----------------------------|--|
| 1. MRP/MPS詳細メッセージの改訂(P3411) | <p>メッセージの処理に使用されるMRP/MPS詳細メッセージの改訂プログラム(P3411)のバージョンを指定します。</p> <p>このオプションを空白にすると、デフォルト・バージョンとしてZJDE0001が使用されます。</p> |
| 2. 原材料分析(PCW96) | <p>作業オーダーのシミュレーションに使用される原材料分析プログラム(PCW96)のバージョンを指定します。</p> <p>このオプションを空白にすると、デフォルト・バージョンとしてZJDE0001が使用されます。</p> |
| 3. メッセージ・グループ化(PCW97) | <p>メッセージのグループ化に使用されるメッセージ・グループ化プログラム(PCW97)のバージョンを指定します。</p> <p>このオプションを空白にすると、デフォルト・バージョンとしてZJDE0001が使用されます。</p> |

スタイル品目のメッセージの処理

「メッセージのマトリックス管理の処理」フォームにアクセスします。

スタイル品目のメッセージを処理するには、次の手順に従います。

1. 「スタイル品目ルート・レベル0」フィールドにスタイル品目ルート・レベル0を入力し、「検索」をクリックします。

2. メッセージ・タイプおよび需要数量に基づいて、処理するローを選択し、「ロー」メニューの「選択」をクリックします。

ローに緑のチェック・マークが表示されます。

注意: メッセージ処理からローを削除するには、「ロー」メニューの「選択解除」オプションを使用します。ローに赤のXが表示されます。

3. ローが選択された状態で、「フォーム」メニューの「検証」を選択します。
4. 「詳細メッセージの処理」フォームの「検索」をクリックします。
5. すべてのローを選択し、「ロー」メニューの「メッセージ処理」を選択します。
「ロー」メニューの「自動処理」を選択することもできます。
6. 「前のマスター作業オーダー番号」フィールドのマスター作業オーダー番号を検討します。
マスター作業オーダー番号は、自動採番を使用して生成されます。マスター作業オーダーを使用して、選択されたすべての製造のスタイル品目が処理されます。
7. すべてのレコードの「オーダー番号」フィールドの作業オーダー番号を検討します。
選択したメッセージが処理され、子スタイル品目メッセージごとに作業オーダー番号が生成されます。スタイル品目の作業オーダー見出しテーブル(FCW65)およびスタイル品目の作業オーダー詳細テーブル(FCW66)に、マスター作業オーダー番号を持つレコードが保存されます。これで、すべてのレコードが確定オーダーになります。
8. 「閉じる」をクリックします。

スタイル品目のメッセージのサイズ別数量の追加

「マトリックス管理 - サイズ別数量の追加」フォームにアクセスします。

メッセージのマトリックス管理 - マトリックス管理 - サイズ別数量の追加

OK(O) 取消(L) ツール(T)

開始日付 2010/08/01 需要事業所 M30 オーダー・タイプ WO 実現(確定)作業オーダー
 要求日付 2010/07/30 供給事業所 クリア済(Y) ☐
 必要開始日 2010/07/30 仕入先
 必要な完了日 2010/07/30 メッセージ・タイプ A 警告メッセージ

レコード 1-1 グリッドのカスタマイズ

ルート	色	PR	NB	0-3	3-6	6-9	12-18
XPJ01	B	10.0000	10.0000	20.0000	30		

「マトリックス管理 - サイズ別数量の追加」フォーム

スタイル品目にサイズ別数量を追加するには、次の手順に従います。

1. 必要に応じて、サイズのフィールドに数量を入力します。
2. 「OK」をクリックします。

スタイル品目のメッセージの分割

「メッセージのマトリックス管理の処理」フォームにアクセスします。

スタイル品目のメッセージを分割するには、次の手順に従います。

1. 「スタイル品目ルート・レベル0」フィールドにスタイル品目ルート・レベル0を入力し、「検索」をクリックします。
2. メッセージ・タイプおよび合計需要に基づいて、処理するローを選択し、「選択」をクリックします。
3. 「マトリクス管理 - 詳細メッセージの改訂」フォームでローを選択します。
4. 「ロー」メニューの「分割メッセージ」を選択します。
5. 「マトリクス管理 - 分割メッセージ」フォームで、開始日付および数量の情報を含む新規ローを追加します。

たとえば、最初のオーダーを2つのオーダーに分割する場合、新しい行に2つ目のオーダーの日付および数量を入力します。

1つ目のオーダー行には、最初のオーダーの日付が保持されています。また、1つ目のオーダー行には、最初のオーダーの数量と2つ目のオーダーに選択した数量との差が数量として保持されています。

6. 「OK」をクリックします。
「マトリクス管理 - 詳細メッセージの改訂」フォームに、新規の分割数量が表示されます。
7. 「OK」をクリックします。
「メッセージのマトリクス管理の処理」フォームに、新規の分割数量とその他の変更データが表示されます。
8. 必要に応じて、スタイル品目を処理します。

スタイル品目のメッセージのグループ化

「メッセージ・グループ化詳細」フォームにアクセスします。

メッセージのマトリクス管理 - メッセージ・グループ化詳細

OK(O) 検索(D) 削除(D) 取消(L) ツール(T)

開始日付 * 2010/06/15 事業所 * M30 Eastern Manufacturing Center
 要求日付 * 2010/06/15 供給事業所
 メッセージ・タイプ * 0 オーダー

レコード 1 - 10 グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	オーダー タイプ	メッセージ タイプ	第2品目 No.	事業所	トランザクション 数量	開始 日付	要求 日付	記述	生産 単位
<input type="checkbox"/>	WO	O	XPJ01.B.PR	M30	100.0000	2010/06/15	2010/06/15	Pajama Style Xtreme	EA
<input type="checkbox"/>	WO	O	XPJ01.B.NB	M30	100.0000	2010/06/15	2010/06/15	Pajama Style Xtreme	EA
<input type="checkbox"/>	WO	O	XPJ01.B.0-3	M30	100.0000	2010/06/15	2010/06/15	Pajama Style Xtreme	EA
<input type="checkbox"/>	WO	O	XPJ01.B.3-6	M30	100.0000	2010/06/15	2010/06/15	Pajama Style Xtreme	EA
<input type="checkbox"/>	WO	O	XPJ01.B.4T	M30	100.0000	2010/06/15	2010/06/15	Pajama Style Xtreme	EA
<input type="checkbox"/>	WO	O	XPJ01.B.5T	M30	100.0000	2010/06/15	2010/06/15	Pajama Style Xtreme	EA
<input type="checkbox"/>	WO	O	XPJ01.B.6T	M30	100.0000	2010/06/15	2010/06/15	Pajama Style Xtreme	EA
<input type="checkbox"/>	WO	O	XPJ01.B.14Y	M30	100.0000	2010/06/15	2010/06/15	Pajama Style Xtreme	EA
<input type="checkbox"/>	WO	O	XPJ01.B.15Y	M30	100.0000	2010/06/15	2010/06/15	Pajama Style Xtreme	EA
<input type="checkbox"/>	WO	O	XPJ01.B.16Y	M30	100.0000	2010/06/15	2010/06/15	Pajama Style Xtreme	EA

「メッセージ・グループ化詳細」フォーム

スタイル品目のメッセージをグループ化するには、次の手順に従います。

1. 見出しにある「開始日付」、「要求日付」および「メッセージ・タイプ」の各フィールドに値を入力します。

開始日付や他のデータを更新する場合、入力された開始日付や他のデータに基づいてメッセージがグループ化されます。

「メッセージのマトリックス管理の処理」フォームでメッセージを選択することで、サイズ別にメッセージをグループ化することもできます。

2. ローを選択して、スタイル品目のメッセージをグループ化します。
3. 「OK」をクリックします。

スタイル品目の調整値の計算

「調整計算」フォームにアクセスします。

メッセージのマトリックス 管理 - 調整計算

取消(L) フォーム(E) ツール(T)

新規数量 ★

乗算数量 ★

最小数量 ★

レコード 1-1

グリッドのカスタマイズ

品目番号	トランザクション数量	新規数量
XPJ01.B.PR		<input type="text"/>

合計

「調整計算」フォーム

スタイル品目の調整値を計算するには、次の手順に従います。

1. 「新規数量」、「乗算数量」および「最小数量」の各フィールドに値を入力します。
2. 「フォーム」メニューの「自動分割」を選択すると、調整値が自動的に分割されます。
「調整計算」フォームに表示された子スタイル品目間で新規数量が分割されます。
3. 「フォーム」メニューの「結果の保存」を選択して、調整計算の結果を保存します。

注意: 「乗算数量」フィールドの値を使用して、計算が実行されます。新規数量を定義すると、乗数数量の倍数として、子スタイル品目ごとに1つの数量が計算されます。計算後の数量が「乗算数量」フィールドの値より小さい場合、最小数量が適用されます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理 9.0 製品ガイド、「アパレル管理の資材計画作業の処理」、「スタイル品目の計画メッセージの処理」、「調整計算について」

スタイル品目の転送オーダーの生成

「メッセージのマトリックス管理の処理」フォームにアクセスします。

スタイル品目の転送オーダーを生成するには、次の手順に従います。

1. 「スタイル品目ルート・レベル0」フィールドにスタイル品目ルート・レベル0を入力し、「検索」をクリックします。
2. メッセージ・タイプおよび合計需要に基づいて、処理するローを選択します。
3. 「ロー」メニューの「転送オーダー生成」を選択します。
4. メッセージ・フォームで「OK」をクリックします。
オーダー・タイプSの新規転送メッセージが作成されます。

第 10 章

JD Edwards EnterpriseOne 製造現場管理の アパレル管理用操作

この章では、アパレル管理用 JD Edwards EnterpriseOne 製造現場管理の概要と、スタイル品目のマスター作業オーダーの処理方法について説明します。

アパレル管理用 JD Edwards EnterpriseOne 製造現場管理について

スタイル品目とコレクション、部品表および作業工程を入力してから、JD Edwards EnterpriseOne 製造現場管理システムのプログラムを使用して、スタイル品目の製造を実行できます。JD Edwards EnterpriseOne 製造現場管理システムでは、製造作業オーダーの管理とトラッキングが可能です。

重要: JD Edwards EnterpriseOne 製造現場管理システムは、スタイル品目の組立製造のみをサポートします。

スタイル品目ごと1つの作業オーダーを作成することは、多くの業種で望ましくありません。マスター作業オーダーは、1つまたは複数のスタイル品目ルート・レベル0の品目に対応する包括的な作業オーダーです。マスター作業オーダーは、子スタイル品目に対応する個々の標準製造作業オーダーの集まりです。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne 製造現場管理 9.0 製品ガイド、「JD Edwards EnterpriseOne 製造現場管理 – まえがき」

JD Edwards EnterpriseOne Work Orders 9.0 Implementation Guide、「JD Edwards EnterpriseOne Work Orders Preface」

スタイル品目のマスター作業オーダーの処理

この項では、スタイル品目のマスター作業オーダーの概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- スタイル品目のマスター作業オーダー処理 (PCW49) の処理オプションの設定
- スタイル品目の作業オーダー処理 (R31F410) の処理オプションの設定
- スタイル品目のマスター作業オーダー見出しの入力
- スタイル品目のマスター作業オーダー詳細の入力
- スタイル品目のマスター作業オーダーの検討

- スタイル品目のマスター作業オーダー部品リストの作成
- スタイル品目のマスター作業オーダー部品リストの改訂
- スタイル品目のマスター作業オーダー作業工程指示の作成
- スタイル品目のマスター作業オーダーの処理
- スタイル品目のマスター作業オーダーの完了

スタイル品目のマスター作業オーダーについて

マスター作業オーダーは、1つまたは複数のスタイル品目ルート・レベル0の品目に対応する包括的な作業オーダーです。マスター作業オーダーは、子スタイル品目に対応する標準の関連製造作業オーダーのグループです。マスター作業オーダーは、親作業オーダーではありません。

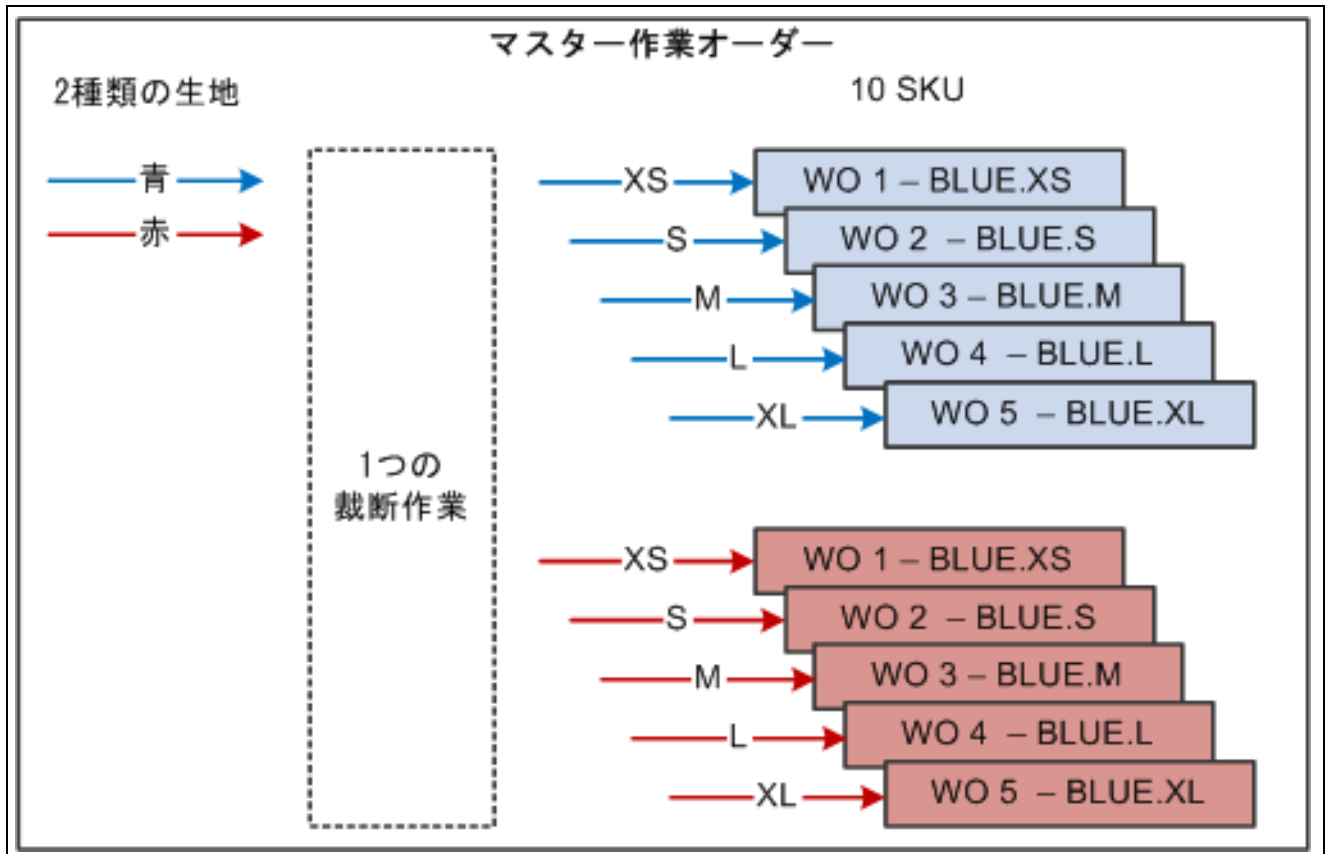
マスター作業オーダーにスタイル品目ルート・レベル0を入力する際、マトリックス入力プログラム(PCW10)が呼び出されるよう設定できます。

マスター作業オーダー・レベルで、作業オーダー出庫を除くすべてを管理します。部品リストをグループ化し、使用する正確な数量を入力します。マスター作業オーダーの各行の間で数量が比例配分され、各子作業オーダーに必要な実際の資材量が指定されます。

マスター作業オーダーには、1、2、3などの番号が付いた、子スタイル品目に対応する子作業オーダーがあります。

スタイル品目の作業オーダー詳細テーブル(FCW66)では、スタイル品目ルート・レベル0のマスター作業オーダーを、子スタイル品目の標準作業オーダーと関連付けています。

次の図は、マスター作業オーダーと、それに関連付けられた子スタイル品目の標準作業オーダーを示しています。



マスター作業オーダーの例

コレクション

スタイル品目のコレクションも、マスター作業オーダーと統合されています。作業オーダーでコレクションを使用できますが、コレクション・テンプレートは作業オーダーで機能しません。

スタイル品目のマスター作業オーダー処理プログラムの「コレクション」タブで、コレクションの処理オプションを設定します。マスター作業オーダーの入力時に、「スタイル品目のマスター作業オーダー」フォームの「状況タイプ」タブで、コレクション情報を入力します。

参照: JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理 9.0 製品ガイド、「コレクション管理の処理」

参照: JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理 9.0 製品ガイド、「JD Edwards EnterpriseOne受注管理のアパレル管理用操作」

例: アパレル産業

マスター作業オーダーの例として、アパレル産業特有の、あるスタイルの生地を裁断する処理を示します。アパレル製造では、生地の裁断を重ね裁断ということがあります。重ね裁断では、一度に20から50枚の同一サイズの生地を裁断します。生地の幅は常に標準サイズであるとみなされます。生地の裁断では、廃棄部分を最小限に抑えるため、サイズとスタイルを組み合わせで最大限に使用します。

生地の重ね裁断では、1つの裁断作業を指定できます。生地またはスタイル品目ルート・レベル0の品目が2種類存在する場合、2つのマスター作業オーダーが必要です。子スタイル品目ごとに1つの作業オーダーが作成されるため、2つのマスター作業オーダーから10個の標準作業オーダーが作成されます。

スタイル品目のマスター作業オーダー見出し

スタイル品目のマスター作業オーダー処理プログラム(PCW49)を使用して、マスター作業オーダーの作業オーダー見出しを入力します。

マスター作業オーダー見出しでは、マスター作業オーダーの記述、オーダー・タイプ、事業所および要求日付を入力します。部品表の改訂レベルやカテゴリ・コードなどの任意情報も入力できます。

注意: マスター作業オーダーの見出しにスタイル品目番号を入力する必要はありません。

スタイル品目の作業オーダー見出しテーブル(FCW65)にマスター作業オーダー見出しの情報が保存されます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 製造現場管理 9.0 製品ガイド、「作業オーダーとレート・スケジュールの使い方」、「作業オーダー見出し情報の入力」

スタイル品目のマスター作業オーダー詳細

マスター作業オーダー見出しの入力後、スタイル品目ルート・レベル0の品目をマスター作業オーダー詳細に入力します。マスター作業オーダー詳細は、各子作業オーダーの生成をサポートします。マスター作業オーダーに入力する各スタイル品目ルート・レベル0は、「マトリックス入力」フォームを呼び出し、マスター作業オーダーに含める子スタイル品目を構成します。マスター作業オーダーを保存すると、子レベルの作業オーダーが生成されます。各子スタイル品目の作業オーダー番号がグリッドに入力されます。

マスター作業オーダー詳細はFCW66テーブルに保存されます。FCW66テーブルは、スタイル品目の作業オーダー見出しテーブル(FCW65)および作業オーダー・マスター(F4801)にリンクしています。

スタイル品目のマスター作業オーダー部品リスト

スタイル品目のマスター作業オーダー部品リスト・プログラム(PCW50)を使用して、マスター作業オーダー・レベルで部品リストを作成および管理します。スタイル品目ルート・レベル0の部品表をコピーして、マスター作業オーダー部品リストを作成します。スタイル品目の作業オーダー処理プログラム(R31F410)を実行して、部品リストを作成することもできます。

「スタイル品目のマスター作業オーダー部品リスト詳細」フォームの「オーダー数量」フィールドに入る数量の計算式は、(属性別のスタイル品目ルート・レベル0のオーダー数量) × (構成品の部品表使用量) = (スタイル品目のオーダー数量の製造に必要な構成品の数量)です。

次の図は、オーダー数量の計算の例を示しています。

構成品 - 青色の生地	サイズ	特定サイズのスタイル 品目ルート0 (PJ55) のオーダー数量	部品表 使用量	スタイル品目の オーダー数量の製造に必要な構成品の数量	=
FBPJ.B	PR	25	1	25 × 1	25
FBPJ.B	NB	25	1.5	25 × 1.5	37.5
FBPJ.B	2T	25	4.5	25 × 4.5	112.5
FBPJ.B	3T	25	5	25 × 5	125

オーダー数量の計算の例

構成品FBPJ.Bの合計数量 = 25 + 37.5 + 112.5 + 125 = 300

スタイル品目のマスター作業オーダー部品リスト・プログラムを使用して、マスター作業オーダーの部品リストを表示、変更および削除することもできます。スタイル作業オーダー部品リスト・テーブル(FCW67)にマスター作業オーダーの部品リストが保存されます。FCW67テーブルはワークファイルで、部品リストの添付時のみ、テーブルにデータが存在します。

バッチ・プログラムを使用して、部品リストを作成することもできます。スタイル品目の作業オーダー処理プログラムを実行して、スタイル品目の作業オーダー詳細テーブル(FCW66)でデータ選択を設定することで、部品リストを作成します。

スタイル品目のマスター作業オーダー部品リスト・プログラムで、すべての子スタイル品目作業オーダーの標準部品リストが生成されます。子スタイル品目作業オーダーが作成されると、マスター作業オーダーに対するトランザクションおよび変更は、個々の子スタイル品目作業オーダーの部品リストに反映されます。

部品リストをグループ化し、使用する正確な量を入力します。各行の間で数量が比例配分され、実際の資材量が指定されます。構成品の変更および追加は、複数の作業オーダーで分割されます。

子スタイル品目作業オーダーの作業オーダー部品リストに一括変更をかけることができます。次の処理が可能です。

- 構成品の削除
- 構成品数量の変更
- 新規構成品の追加

「スタイル品目のマスター作業オーダーの改訂」フォームの「ロー」メニューで「部品リスト」オプションを使用するたびに、部品リストが再計算されます。子スタイル品目作業オーダー・レベルでの変更は、マスター作業オーダーにも反映されます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 製造現場管理 9.0 製品ガイド、「作業オーダーとレート・スケジュールの使い方」、「部品リストの添付」

スタイル品目のマスター作業オーダー作業工程指示

スタイル品目の作業オーダー作業工程プログラム(PCW52)を使用して、マスター作業オーダーの作業工程指示を作成します。スタイル品目の作業オーダー作業工程プログラムでは、マスター作業オーダー・レベルで作業工程をコピーおよび削除できます。スタイル品目の作業オーダー処理プログラム(R31F410)を実行して、作業工程指示を作成することもできます。

オーダー数量の作業工程またはゼロかゼロ以外のバッチ数量の作業工程が、品目/事業所/作業工程タイプの組合せに対して存在する場合、作業工程はマスター作業オーダーに自動的にコピーされます。

マスター作業オーダー作業工程には、マスター部品リストに類似した管理機能はありません。たとえば、子スタイル品目作業オーダーの作成後、マスター作業オーダーの作業工程に対するトランザクションおよび変更は、個々の子スタイル品目作業オーダーに反映されません。作業工程指示は、子作業オーダー・レベルで管理する必要があります。

子作業オーダー・レベルでの変更は、マスター作業オーダーにも反映されます。

スタイル作業オーダー作業工程テーブル(FCW68)にマスター作業オーダーの作業工程指示が保存されます。FCW68テーブルはワークファイルで、作業工程の添付時のみ、テーブルにデータが存在します。

注意: スタイル品目のマスター作業オーダー処理プログラムを使用しても、マスター作業オーダー・レベルでのバックフラッシュまたはスーパー・バックフラッシュは実行できません。バックフラッシュまたはスーパー・バックフラッシュは、子作業オーダー・レベルでのみ、作業オーダー完了の処理プログラム(P31114)とスーパー・バックフラッシュ・プログラム(P31123)をそれぞれ使用して実行できます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 製造現場管理 9.0 製品ガイド、「作業オーダーとレート・スケジュールの使い方」、「作業工程指示の添付」

参照: JD Edwards EnterpriseOne 製造現場管理 9.0 製品ガイド、「完了の処理」

スタイル品目のマスター作業オーダー処理

スタイル品目のマスター作業オーダー処理プログラム(PCW49)を使用して、スタイル品目のマスター作業オーダーの作成、処理および管理を行います。マスター作業オーダーを作成してから、スタイル品目の作業オーダー処理プログラム(R31F410)を実行して、各子作業オーダーに部品リストおよび作業工程指示を添付します。

スタイル品目の作業オーダー処理プログラムによって、作業オーダー部品リスト・テーブル(F3111)および作業オーダーの作業工程テーブル(F3112)が更新されます。

スタイル品目の作業オーダー処理プログラムのソース・データは、スタイル品目の作業オーダー詳細テーブル(FCW66)、作業オーダー・マスター(F4801)および作業オーダー・マスター・タグ・テーブル(F4801T)の3つのテーブルから取得されます。FCW66テーブルには、マスター作業オーダーとその子作業オーダーとの相互参照が保存されます。相互参照情報によって、マスター作業オーダー番号に基づくすべての子スタイル品目作業オーダーを処理できます。

スタイル品目の作業オーダー処理プログラムでのデータ選択に基づいて、マスター作業オーダーの各子作業オーダーに対して、スタイル品目の作業オーダー処理プログラム(R31F410)が実行されます。スタイル品目の作業オーダー処理プログラムによってオーダー処理プログラム(R31410)が呼び出され、部品リストおよび作業工程指示の作業オーダーへの添付処理が行われます。

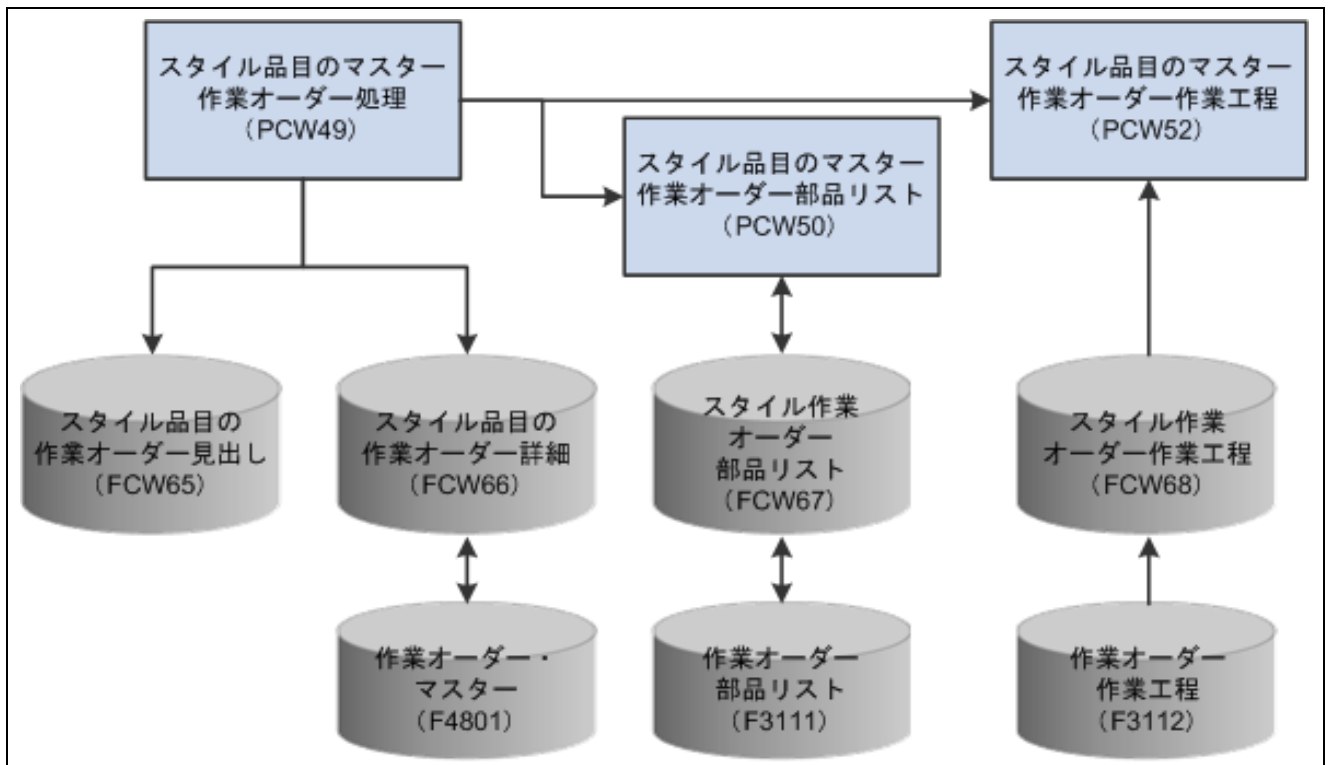
部品リストおよび作業工程指示を対話形式で添付した場合は、スタイル品目の作業オーダー処理プログラムを使用して現場書類を作成および印刷できます。オーダー処理プログラムの処理オプションの設定に基づいて、部品リストや作業工程指示、作業指示集計および不足分レポートが印刷されます。一度の出力ですべての子作業オーダーがまとめて印刷されます。

すべての子作業オーダーが処理されてから、マスター作業オーダー状況が更新されます。製造作業オーダー処理プログラム(P48013)を使用して、子作業オーダーを検討します。「スタイル品目のマスター作業オーダーの改訂」フォームで子作業オーダーを選択し、「ロー」メニューの「子作業オーダーの更新」を選択して、製造作業オーダー処理プログラムを起動することもできます。

スタイル品目追加情報ワークファイル・テーブル(FCW63)には、次のバケット番号から取得されたマスター作業オーダー番号が保存されます。

マスター作業オーダー処理中、スタイル品目の作業オーダー見出しテーブル(FCW65)を使用して、外注作業のデータ選択が行われます。外注作業はグループ化されます。

次の図は、マスター作業オーダー処理を示しています。



マスター作業オーダー処理

スタイル品目の作業オーダー在庫出庫

在庫出庫は、子スタイル品目作業オーダー・レベルで行われます。個々の子作業オーダーに対して、在庫の合計消費量を入力します。

注意: 在庫出庫はマスター作業オーダー・レベルでは管理されません。

作業オーダー在庫出庫プログラム (P31113) を使用して、出庫トランザクションによって製造現場に出庫された数量を在庫から差し引きます。このトランザクションが発生すると、製造工程で使用された資材の実際の数量と原価が、JD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムとJD Edwards EnterpriseOne製造会計システムに報告されます。完了した作業オーダー数量に基づく出庫数量の候補が表示されるように、作業オーダー在庫出庫プログラムを設定する必要があります。

製造作業オーダー処理プログラムで「ロー」メニューの「出庫」を選択して、子スタイル品目作業オーダーに資材を出庫することもできます。

スタイル品目の作業オーダー処理プログラム (R31F410) を使用して、プレフラッシュの使用時にマスター作業オーダー・レベルで在庫出庫を実行できます。プレフラッシュを実行する場合、子作業オーダー・レベルでは在庫出庫を実行しません。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 製造現場管理 9.0 製品ガイド、「出庫、資材移動、かんばんの使い方」

スタイル品目のマスター作業オーダーの完了

作業オーダー完了マトリックス入力プログラム (PCW46) によって、マトリックス・フォームを使用してマスター作業オーダーを完了します。マスター作業オーダーを完了した結果、子作業オーダーも完了します。

「スタイル品目のマスター作業オーダーの処理」フォーム (WCW49A) の「ロー」メニューで「詳細マトリックス」オプションを使用して、マトリックス・フォーム内のマスター作業オーダーの子スタイル品目の数量を検討することもできます。

マスター作業オーダー・レベルでのみ、手動による完了を実行します。バックフラッシュまたはスーパー・バックフラッシュを実行する場合は、子作業オーダー・レベルで完了を実行する必要があります。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 製造現場管理 9.0 製品ガイド、「完了の処理」、「組立作業オーダーの完了」

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- スタイル品目の作業オーダー処理プログラムの「オーダー処理 (R31410)」処理オプションで指定するオーダー処理プログラムのバージョンの処理オプションを設定します。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 製造現場管理 9.0 製品ガイド、「作業オーダーとレート・スケジュールの使い方」、「オーダー処理プログラム (R31410) の処理オプションの設定」

- オーダー処理プログラム (R31410) の「バージョン」タブの「購買オーダー入力 (P4310)」処理オプションを、外注作業をサポートするように設定します。
- 指定した購買オーダー入力バージョンの次の処理オプションを、外注作業の購買オーダーが生成されるように設定します。
 - 「デフォルト」タブの「オーダー・タイプ」処理オプションを外注作業の00に設定します。
 - 「デフォルト」タブの「行タイプ」処理オプションを外注処理のXに設定します。
 - 「インターフェイス」タブの「ビジネスユニット検証」処理オプションを1に設定します。

スタイル品目のマスター作業オーダーの処理に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
スタイル品目のマスター作業オーダーの処理	WCW49A	「製造現場管理」 (G41F17)、「マスター作業オーダー処理」	スタイル品目のマスター作業オーダーを処理します。
スタイル品目のマスター作業オーダー	WCW49B	<ul style="list-style-type: none"> • 「スタイル品目のマスター作業オーダーの処理」フォームで「追加」をクリックします。 • 「スタイル品目のマスター作業オーダーの処理」フォームでローを選択して、「ロー」メニューの「更新状況」を選択します。 	<p>スタイル品目のマスター作業オーダー見出しを入力します。</p> <p>スタイル品目のマスター作業オーダーを改訂します。</p>

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
スタイル品目のマスター作業オーダー部品リスト詳細	WCW50E	<ul style="list-style-type: none"> 「スタイル品目のマスター作業オーダーの処理」フォームでローを選択して、「ロー」メニューの「部品リスト」を選択します。 「スタイル品目のマスター作業オーダーの改訂」フォームでローを選択して、「フォーム」メニューの「部品リスト」を選択します。 	<p>スタイル品目のマスター作業オーダー部品リストを作成します。</p> <p>スタイル品目のマスター作業オーダー部品リストを改訂します。</p> <p>スタイル品目のマスター作業オーダー部品リストを削除します。</p> <p>参照: JD Edwards EnterpriseOne 製造現場管理 9.0 製品ガイド、「作業オーダーとレート・スケジュールの使い方」、「部品リストの添付」</p>
スタイル品目の作業オーダー工程	WCW52A	「スタイル品目のマスター作業オーダーの処理」フォームでローを選択して、「ロー」メニューの「作業工程」を選択します。	<p>スタイル品目のマスター作業オーダー作業工程指示を作成します。</p> <p>スタイル品目のマスター作業オーダー作業工程指示を削除します。</p> <p>参照: JD Edwards EnterpriseOne 製造現場管理 9.0 製品ガイド、「作業オーダーとレート・スケジュールの使い方」、「作業工程指示の添付」</p>
作業オーダー完了マトリックス<変数>	WCW46A	<ul style="list-style-type: none"> 「スタイル品目のマスター作業オーダーの処理」フォームでローを選択して、「ロー」メニューの「詳細マトリックス」を選択します。 <p>「作業オーダー完了マトリックス照会」フォームが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「スタイル品目のマスター作業オーダーの処理」フォームでローを選択して、「ロー」メニューの「完了」を選択します。 <p>「作業オーダー完了マトリックス入力」フォームが表示されます。</p>	<p>マトリックス表示のマスター作業オーダー詳細を検討します。</p> <p>スタイル品目のマスター作業オーダーを完了します。</p>

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
スタイル品目のマスター作業オーダーの改訂	WCW49D	「スタイル品目のマスター作業オーダーの処理」フォームでマスター作業オーダーを検索し、ローを選択して「ロー」メニューの「詳細」を選択します。	スタイル品目のマスター作業オーダー詳細を入力します。 スタイル品目のマスター作業オーダー詳細を検討します。 スタイル品目のマスター作業オーダー詳細を改訂します。
スタイル品目の原材料分析の処理	WCW96A	「スタイル品目のマスター作業オーダーの処理」でローを選択して、「ロー」メニューの「原材料分析」を選択します。	スタイル品目の構成品の引当可能数量を検討します。 参照: JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理 9.0 製品ガイド、「アパレル管理の資材計画作業の処理」

スタイル品目のマスター作業オーダー処理 (PCW49) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

デフォルト

- 伝票タイプ**
 作業オーダーに関連するデフォルトの伝票タイプを指定します。ユーザー定義コード(UDC)テーブル00/DT(伝票タイプ - すべての伝票)から、伝票の発生元と目的を識別するコードを入力します。
- 逆算スケジュール単位**
 作業オーダーの逆算スケジュールに使用するデフォルトの単位を指定します。この伝票に使用する単位を示す値をUDC 00/UM(単位)から入力します。
- 逆算スケジュールの待ち/移動時間**
 作業オーダー作業工程における待ち時間を逆算スケジュールする際に適用する方法を指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 1日当たりの資源単位のパーセント値として待ち時間を逆算スケジュールする。
 1: 1日当たり作業時間のパーセント値として待ち時間を逆算スケジュールする。
- 状況縮小表示**
 UDC 00/SSから、作業オーダー、レート・スケジュールまたは設計変更オーダーの状況を示すコードを指定します。状況が90から99までの値に変更されると、完了日付が自動更新されます。
- 作業オーダー・タイプ**
 作業オーダーに関連するデフォルトの作業オーダー・タイプを指定します。ユーザー定義コード00/TY(作業オーダー/ECOタイプ)から、作業オーダーのタイプを示すコードを入力します。
- 作業オーダー優先度**
 作業オーダーに関連するデフォルトの優先度を指定します。ユーザー定義コード00/PR(作業オーダー優先順位)から、伝票の優先順位を示すコードを入力します。

- 7. 開始状況** 作業オーダー見出しのデフォルトの開始状況コードを指定します。ユーザー定義コード00/SS(作業オーダー状況)から、作業オーダー作成時に使用する作業オーダーの状況を示すコードを入力します。
- 8. 請求先ビジネスユニット** 請求先ビジネスユニット・フィールドに、ビジネスユニット・マスター(F0006)のプロジェクト番号を使用するか、または作業オーダーの事業所を使用するかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 事業所
 1: プロジェクト番号
- 9. 相互参照コード** デフォルトの相互参照コードを指定します。ユーザー定義コード41/DT(相互参照タイプ・コード)から、旧品目に対する置換え品目を読み込む際の方法を指定するコードを入力します。
 作業オーダーの完了前に旧形式になる予定の品目を含むオーダーを入力する際は、この処理オプションに「R」を入力すると、置換え品目を指定しておくことができます。

カテゴリ・コード

- 1. カテゴリ・コード1、2. カテゴリ・コード2、3. カテゴリ・コード3** 作業オーダーのデフォルトのカテゴリ・コードを指定します。作業オーダー・カテゴリ・コードは、作業オーダーのカテゴリを識別するユーザー定義コード(00/W1、00/W2および00/W3)です。デフォルト値として使用するカテゴリ・コードを入力するか、「ユーザー定義コードの選択」フォームから選択します。

作業オーダー見出しのカテゴリ・コード1、作業オーダー見出しのカテゴリ・コード2、作業オーダー見出しのカテゴリ・コード3 作業オーダー見出し用の事業所品目カテゴリ・コードのデフォルト値を指定します。事業所品目のカテゴリ・コードは、作業オーダー見出しで事業所品目分類コードを識別するユーザー定義コード(32/CC)です。

編集

- 1. 数量/日付** 作業オーダーの数量または日付を変更する際、部品リストと作業工程指示を自動的に再計算するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 再計算しない。
 1: 再計算する。
- 2. 事業所品目の検証** 作業オーダーを追加または更新する際、既存の事業所品目レコードを自動的に検証するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 検証しない。
 1: 検証する。
- 3. 完了** 作業オーダー完了のマスター作業オーダー状況を、最初に入力した作業オーダーの状況に更新するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: マスター作業オーダー状況を更新しない。
 1: マスター作業オーダー状況を更新する。
- 4. マスター作業オーダーの終了** マスター作業オーダー状況を、最初に入力した作業オーダーの状況に更新するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: マスター作業オーダー状況を更新しない。

1: マスター作業オーダー状況を更新する。

5. 部品リスト

部品リストのマスター作業オーダー状況を、最初に入力した作業オーダーの状況に更新するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: マスター作業オーダー状況を更新しない。

1: マスター作業オーダー状況を更新する。

6. マスター作業オーダー詳細

マスター作業オーダー詳細のマスター作業オーダー状況を、最初に入力した作業オーダーの状況に更新するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: マスター作業オーダー状況を更新しない。

1: マスター作業オーダー状況を更新する。

表示オプション

1. 部品表タイプ・フィールド

「作業オーダー詳細」フォームで部品表タイプ・フィールドを表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 表示しない。

1: 表示する。

2. 作業工程タイプ・フィールド

「作業オーダー詳細」フォームで作業工程タイプ・フィールドを表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 表示しない。

1: 表示する。

バージョン

1. 部品表照会 (P30200)

「製造作業オーダーの処理」フォームまたは「作業オーダー詳細」フォームの「ロー」メニューから部品表照会プログラム (P30200) へのアクセスを選択するときに使用されるバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、部品表照会プログラムのバージョン ZJDE0001 が使用されます。

選択するバージョンにより、部品表照会プログラムでの情報の表示形式が制御されます。このため、業務のニーズに応じて処理オプションを特定のバージョンに設定する場合があります。

2. ECO作業オーダー入力 (P48020)

「製造作業オーダーの処理」フォームまたは「作業オーダー詳細」フォームの「ロー」メニューからECO作業オーダー入力プログラム (P48020) へのアクセスを選択するときに使用されるバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、ECO作業オーダー入力プログラムのバージョン ZJDE0001 が使用されます。

選択するバージョンにより、ECO作業オーダー入力プログラムでの情報の表示形式が制御されます。このため、業務のニーズに応じて処理オプションを特定のバージョンに設定する場合があります。

3. シリアル番号の割当 (P3105)

「製造作業オーダーの処理」フォームまたは「作業オーダー詳細」フォームの「ロー」メニューからシリアル番号の割当プログラム (P3105) へのアクセスを選択するときに使用されるバージョンを指定します。この処理オプション

をブランクにすると、シリアル番号の割当プログラムのバージョンZJDE0001が使用されます。

選択するバージョンにより、シリアル番号の割当プログラムでの情報の表示形式が制御されます。このため、業務のニーズに応じて処理オプションを特定のバージョンに設定する場合があります。

4. 作業工程(P3112)

「製造作業オーダーの処理」フォームまたは「作業オーダー詳細」フォームの「ロー」メニューから作業オーダー作業工程プログラム(P3112)へのアクセスを選択するときに使用されるバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、作業工程プログラムのバージョンZJDE0001が使用されます。

選択するバージョンにより、作業工程プログラムでの情報の表示形式が制御されます。このため、業務のニーズに応じて処理オプションを特定のバージョンに設定する場合があります。

5. 部品リスト(P3111)

「製造作業オーダーの処理」フォームまたは「作業オーダー詳細」フォームの「ロー」メニューから作業オーダー部品リスト・プログラム(P3111)へのアクセスを選択するときに使用されるバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、部品リスト・プログラムのバージョンZJDE0001が使用されます。

選択するバージョンにより、部品リスト・プログラムでの情報の表示形式が制御されます。このため、業務のニーズに応じて特定のバージョンに対応する処理オプションを入力する場合があります。

6. オーダーの入力/変更(P48013)

製造作業オーダー処理プログラム(P48013)にアクセスするときに使用されるバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、デフォルト・バージョンとしてZJDE0001が使用されます。

7. 完了(P31114)

「作業オーダー詳細」フォーム(W48013A)からプログラムにアクセスするときに使用される作業オーダー完了プログラム(P31114)のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、デフォルト・バージョンとしてZJDE0001が使用されます。

8. 原材料分析(PCW96)

「原材料分析の処理」フォーム(WCW96A)にアクセスするときに使用される原材料分析プログラム(PCW96)のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、デフォルト・バージョンとしてZJDE0001が使用されます。

9. マトリックス入力(PCW10)

スタイル品目のマトリックス・データの取得に使用されるマトリックス入力プログラム(PCW10)のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、デフォルト・バージョンとしてZJDE0001が使用されます。

この処理オプションが有効になるのは、「アパレル管理モジュールの使用」システム固定情報(SY41F)がEnterpriseOneシステム制御プログラム(P99410)で有効になっている場合のみです。

インタオペラビリティ

1. トランザクション・タイプ

エクスポート処理に使用されるトランザクション・タイプを指定します。ユーザー定義コード00/TT(トランザクション・タイプ)から、作業オーダーのトランザクション・タイプを識別するコードを入力します。この処理オプションをブランクにすると、エクスポート処理は使用されません。

スタイル

1. コレクション 通常は1つのブランド(製造業者)、シーズン、年および市場に向けて同時に発表される、統一性のある品目の集まりを表すコードを指定します。コレクション見出しテーブル(FCW06)の値を入力する必要があります。
2. シーズン・コード スタイル品目が製造されるシーズンを指定します。UDC 41F/SEから値を入力します。
3. シーズン年 スタイル品目の製造年を指定します。UDC 41F/SYから値を入力します。
4. 品目をコレクションに対して検証 コレクションでのスタイル品目の有無を検証するかどうかを指定します。また、スタイル品目の有無を検証する場合、スタイル品目がないときに警告メッセージやエラー・メッセージを表示するかどうかを指定することもできます。値は次のとおりです。
 ブランク: コレクションでの品目の有無を検証しない。
 1: コレクションでのスタイル品目の有無を検証し、コレクションにスタイル品目がない場合は警告メッセージを表示する。
 2: コレクションでのスタイル品目の有無を検証し、コレクションにスタイル品目がない場合はエラー・メッセージを表示する。
5. 見出しのコレクションをチェック 見出しのコレクションを検証するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 見出しのコレクションを検証しない。
 1: 見出しのコレクションを検証する。

仕損

1. 部品リストの仕損を考慮 部品リストの仕損を考慮するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 部品リストの仕損を考慮する。
 1: 部品リストの仕損を考慮しない。

原材料分析

1. 作業オーダー状況コード UDC 00/SSから、作業オーダー、レート・スケジュールまたは設計変更オーダーの状況を表すコードを指定します。状況が90から99までの値に変更されると、完了日付が自動更新されます。

スタイル品目の作業オーダー処理(R31F410)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

バージョン

1. オーダー処理(R31410) スタイル品目の作業オーダーを生成するときに使用されるオーダー処理プログラム(R31410)のバージョンを指定します。

スタイル品目のマスター作業オーダー見出しの入力

「スタイル品目のマスター作業オーダー」フォームにアクセスします。

スタイル品目のマスター作業オーダー見出しを入力するには、次の手順に従います。

1. 必要に応じて、「伝票タイプ」フィールドに値を入力します。
2. 「事業所」フィールドに値を入力します。
3. 「記述」フィールドにマスター作業オーダーの記述を入力します。
4. 「日付」タブの「開始日付」フィールドに値を入力します。
5. 「日付」タブの「要求日付」フィールドに値を入力します。
要求日付は、作業オーダーを完了する必要がある日付です。
6. 必要に応じて、タブのフィールドに作業オーダー詳細の追加情報を入力します。
7. 「OK」をクリックします。
「スタイル品目のマスター作業オーダーの改訂」フォームが表示されます。

スタイル品目のマスター作業オーダー詳細の入力

「スタイル品目のマスター作業オーダーの改訂」フォームにアクセスします。

マスター作業オーダー処理 - スタイル品目のマスター作業オーダーの改訂

OK(O) 検索(I) 削除(D) 取消(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

マスター作業オーダー: 1722 WO: WO issuetest 事業所: M30

情報 補足

オーダー日付: 2010/07/15 顧客:

要求日付: 2010/11/06 管理者:

開始日付: 2010/11/02 監督者:

コレクション: シーズン: 年:

レコード 1-4 グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	品目 番号	WO 状況	オーダー 数量	出荷 数量	取消 数量	バックオーダー 数量
<input type="checkbox"/>		BVITMP1.BLU.S1	10	1.0000			
<input type="checkbox"/>		BVITMP1.BLU.S2	10	2.0000			
<input type="checkbox"/>		XPJ01					

「スタイル品目のマスター作業オーダーの改訂」フォーム

スタイル品目のマスター作業オーダー詳細を入力するには、次の手順に従います。

1. 詳細フォームの最初のローの「品目番号」フィールドにスタイル品目ルート・レベル0を入力します。
2. [Tab]を押すかそのローから移動します。
「マトリックス入力」フォームが表示されます。
3. 「マトリックス入力」フォームに、各子スタイル品目の数量を入力します。
4. 「OK」をクリックします。

「スタイル品目のマスター作業オーダーの改訂」フォームが表示されます。

5. マスター作業オーダーに行として表示された子スタイル品目を検討します。

注意: 必要に応じて、別のスタイル品目ルート・レベル0の品目について前述の手順を続行します。

6. すべてのスタイル品目をマスター作業オーダーに追加してから、「OK」をクリックします。
マスター作業オーダーが生成されます。

スタイル品目のマスター作業オーダーの検討

「スタイル品目のマスター作業オーダーの改訂」フォームにアクセスします。

マスター作業オーダーの見出しと詳細を入力すると、マスター作業オーダーに対して生成された子スタイル品目の情報を表示できます。

スタイル品目のマスター作業オーダーを検討するには、次の手順に従います。

1. マスター作業オーダーの詳細情報の次のフィールドを検討します。
 - 品目番号
子スタイル品目の品目番号が表示されます。
 - オーダー数量
 - オーダー番号
子スタイル品目に関連する子作業オーダーが表示されます。
 - 開始日付
作業オーダーの開始日付が表示されます。
 - 要求日付
2. 「取消」をクリックします。

スタイル品目のマスター作業オーダー部品リストの作成

「スタイル品目のマスター作業オーダー部品リスト詳細」フォームにアクセスします。

マスター作業オーダー処理 - スタイル品目のマスター作業オーダー 部品リスト詳細

OK(O) 検索(D) 削除(D) 取消(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

マスター作業オーダー 1722 オーダー・タイプ WO オーダー日付 2010/12/06 事業所 M30

部品リスト 部品在庫状況 リードタイム照会

レコード 1 - 5

品目 No.	記述	行番号	構成事業所	オーダー数量	保管場所	ロシ
BVITMC4.BLU.S1	qatest	1.000	M30	40.0000	.	
BVITMC4.BLU.S2	qatest	2.000	M30	40.0000	.	
BVITMC4.BLU.S3	qatest	3.000	M30	20.0000	.	
BVITMC4.BLU.S4	qatest	4.000	M30	20.0000	.	

「スタイル品目のマスター作業オーダー部品リスト詳細」フォーム

スタイル品目のマスター作業オーダー部品リストを作成するには、次の手順に従います。

1. 「フォーム」メニューの「部品表のコピー」を選択して、スタイル品目ルート・レベル0の部品表をコピーします。

注意: 部品表をコピーせずに部品リストを作成することはできません。スタイル品目ルート・レベル0の部品表をコピーしてから、部品リストの構成部品を追加、変更または削除します。

2. 「スタイル品目の部品表を作業オーダーにコピー」フォームの「事業所」フィールドに値を入力します。
3. 必要に応じて、「部品表改訂レベル」フィールドに値を入力します。
4. 「OK」をクリックします。
5. 「スタイル品目のマスター作業オーダー部品リスト詳細」フォームの部品リストを検討します。
6. 「OK」をクリックして、部品リストを検証します。

スタイル品目のマスター作業オーダー部品リストの改訂

「スタイル品目のマスター作業オーダー部品リスト詳細」フォームにアクセスします。

スタイル品目のマスター作業オーダー部品リストを改訂するには、次の手順に従います。

1. 部品リストのすべての構成部品を削除するには、「フォーム」メニューの「部品リストの削除」を選択します。
2. 部品リストの1つの構成部品を削除するには、行を選択して、「削除」、「OK」の順にクリックします。構成部品は、すべての子作業オーダーの部品リストから削除されます。

- 1つの構成品の数量を変更するには、「オーダー数量」フィールドに値を入力します。

この構成品が使用されている特定の作業オーダーの構成品数量のみが変更されます。この構成品が存在する子作業オーダーのすべての部品リストで構成品数量が変更されるわけではありません。数量は、変更の前後で同じ比率を保っています。

- 新規構成品を追加するには、次の手順に従います。

- 品目番号および数量を入力します。
- 情報の継承および分割を行う構成品の行番号を「行番号」フィールドに入力します。

新規構成品のオーダー数量は、指定している元の構成品と同じ比率に基づいて、個々の子作業オーダー間で分割されます。

- 「OK」をクリックします。

スタイル品目のマスター作業オーダー作業工程指示の作成

「スタイル品目の作業オーダー工程」フォームにアクセスします。

マスター作業オーダー処理 - スタイル品目の作業オーダー工程

OK(O) 検索(I) 取消(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

マスター作業オーダー: 1722 オーダータイプ: WO 事業所: M30

レコード 1-1 グリッドのカスタマイズ

作業場	作業順序	作業状況	作業記述	機械移動時間数	実労働時間数	実労働
200-202	10.00		Blend		12.00	

「スタイル品目の作業オーダー工程」フォーム

スタイル品目のマスター作業オーダー作業工程指示を作成するには、次の手順に従います。

- 作業工程指示を入力するか、マスター作業オーダーの既存の作業工程を検討します。

注意: オーダー数量の作業工程またはゼロかゼロ以外のバッチ数量の作業工程が、品目/事業所/作業工程タイプの組合せに対して存在する場合、作業工程はマスター作業オーダーに自動的にコピーされます。

- 「OK」をクリックします。

スタイル品目のマスター作業オーダーの処理

「製造現場管理」(G41F17)、「スタイル品目の作業オーダー処理」(R31F410)を選択します。

スタイル品目の作業オーダー処理プログラムは、マスター作業オーダーおよび子作業オーダーの部品リストと作業工程指示を作成するのに使用されます。

スタイル品目のマスター作業オーダーの完了

「作業オーダー完了マトリックス入力」フォームにアクセスします。

マスター作業オーダー処理 - 作業オーダー完了マトリックス入力

OK(O) 検索(D) 取消(L) ツール(T)

マスター作業オーダー1722WO

理由コード

単位

ロットリアル

有効期限

ロット等級

オーダー日付

状況

保管場所

ロット状況コード

メモ・ロット1

メモ・ロット2

事業所M30

受注残数量3.0000

出荷数量

取消数量

レコード 1 - 4

グリッドのカスタマイズ

	スタイル品目 ルート・レベル0	色	行 タイプ	属性1	属性2
				S1	S2
	BVITMP1	BLU	オーダー数量	1.0000	2.0000
			完了数量		

「作業オーダー完了マトリックス入力」フォーム

スタイル品目のマスター作業オーダーを完了するには、次の手順に従います。

- 1. 必要に応じて、マスター作業オーダー完了見出しのフィールドに入力します。
マトリックスが表示され、そこに完了数量を入力できます。
- 2. 各子スタイル品目の「完了数量」フィールドおよび「仕損数量」フィールドに値を入力します。
- 3. 「OK」をクリックして、マスター作業オーダーの完了を検証します。

第 11 章

JD Edwards EnterpriseOne 調達管理の アパレル管理用操作

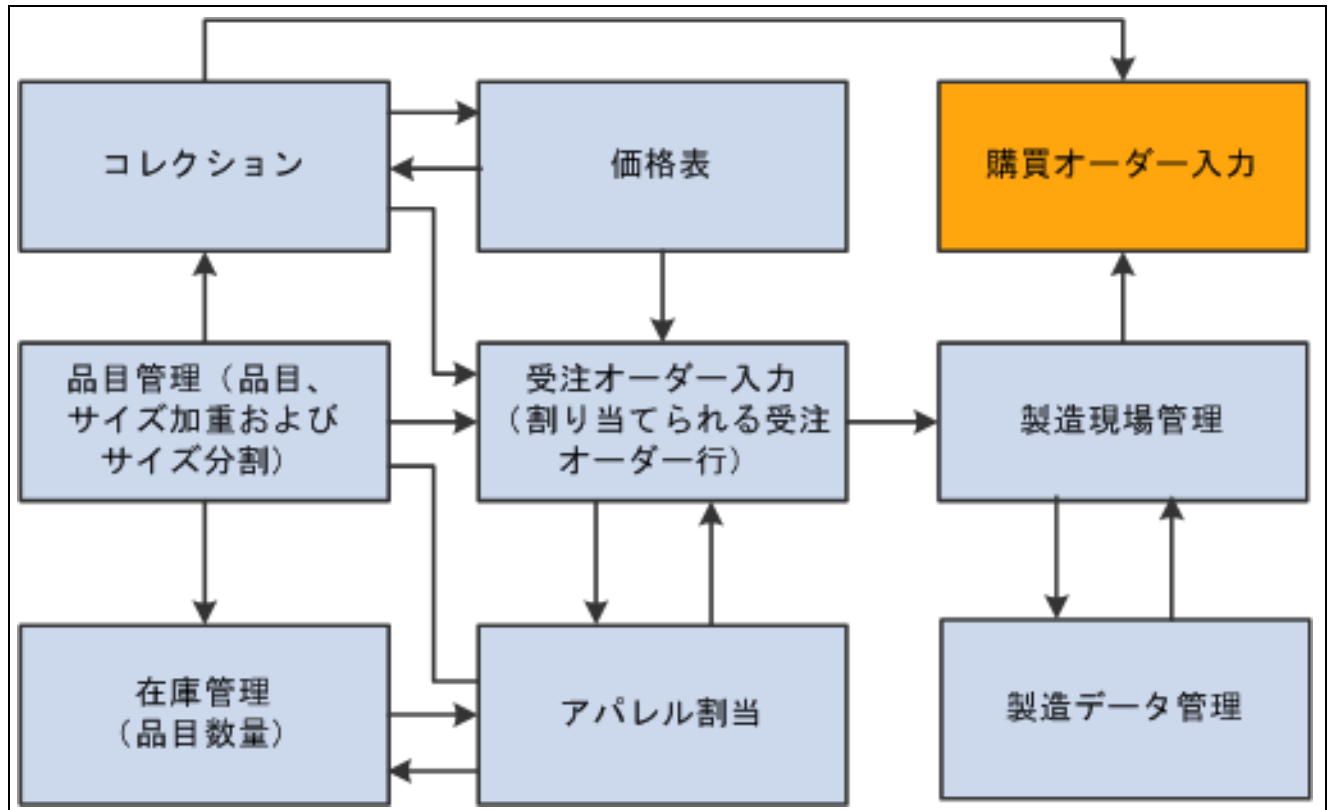
この章では、アパレル管理用 JD Edwards EnterpriseOne 調達管理の概要、事前設定および次の方法について説明します。

- スタイル品目の購買価格の作成
- スタイル品目の一括オーダーの入力
- スタイル品目の購買オーダーの入力
- スタイル品目の一括オーダーのリリース
- スタイル品目の購買オーダーの印刷

アパレル管理用 JD Edwards EnterpriseOne 調達管理について

調達とは、製品やサービスを仕入先から受け取るプロセスを指します。これには商品およびサービスに関する購買量やタイミングの決定、実際の購買や受領などの業務が伴います。

JD Edwards EnterpriseOne 調達管理システムは、JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理システムと統合して、スタイル品目をサポートします。次の図は、アパレル管理用調達管理の統合を説明しています。



アパレル管理用調達管理の統合

JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムは、JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理システムと統合すると次の処理が可能になります。

- スタイル品目の購買価格の作成
- 原材料の一括オーダーおよび購買オーダーの作成
- 在庫スタイル品目および非在庫スタイル品目の購買管理
- マトリックス入力を使用した購買オーダーの入力
- コレクション用の購買オーダーの入力
- 一括オーダーのリリース
- スタイル品目の購買オーダーの印刷
- スタイル品目の入荷の入力
- データの除去

アパレル管理用調達管理では、次の方法でスタイル品目のオーダーを作成できます。

- スタイル品目ルート・レベル0(親レベル)を使用する方法
親スタイル品目(JEANなど)を入力すると、対応するすべてのレベル(JEAN.BLK.36.41、JEAN.BLUE.32.32など)がマトリックス入力に表示されます。
- 中間品目レベル(JEAN.BLKなど)を使用する方法
中間スタイル品目を入力すると、対応するすべてのレベル(JEAN.BLK.36.41、JEAN.BLK.32.34)がマトリックス入力に表示されます。
- コレクション・テンプレートを使用する方法

コレクション・テンプレートを使用すると、コレクション・テンプレートのすべての品目がマトリックス入力に表示されます。

コレクションの購買オーダーを入力する際は、次の点に注意してください。

- 1つの購買オーダーでサポートされるのは1つのコレクションのみです。
- 購買オーダーの品目はコレクションに属する必要があります。

この要件は処理オプションの設定に基づきます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 調達管理 9.0 製品ガイド、「調達固定情報について」

オーダーは購入する品目および仕入先に基づいて自動処理されます。仕入先から購入する品目を指定して、仕入先と品目の相互関係を作成できます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 調達管理 9.0 製品ガイド、「仕入先情報の設定」

アパレル管理用調達管理のプロセス・フローは、標準のJD Edwards EnterpriseOne調達管理と非常に似ており、同じプログラムを数多く使用します。このプロセス・フローは、次のステップで構成されます。

- 購買オーダーの入力 (P4310)。

オーダーを入力する際は、スタイル品目を入力するかコレクション・テンプレートを使用します。

スタイル品目を入力すると、マトリックス入力 (PCW10) が開き、様々な子スタイル品目に特定の数量を入力できます。

- 購買オーダーの印刷 (RCW03)。

スタイル品目の購買オーダーの印刷プログラム (RCW03) は単なるレポートであり、購買オーダー印刷プログラム (R43500) のような購買オーダーを印刷するプログラムではありません。

- 購買オーダーの印刷 (R43500)。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 調達管理 9.0 製品ガイド、「購買オーダーの処理」、「バッチによるオーダーの印刷」、「購買オーダー印刷 (R43500) の処理オプションの設定」

- 入荷確認書の印刷 (R43510)。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 調達管理 9.0 製品ガイド、「入荷処理の利用」、「入荷確認書の印刷」

- 入荷確認の実行 (P4312)。

入荷確認プログラム (P4312) を使用して、入荷確認または品目ごとにスタイル品目の入荷を入力します。入荷確認を入力する際は、マトリックス入力プログラム (PCW10) を使用しないでください。

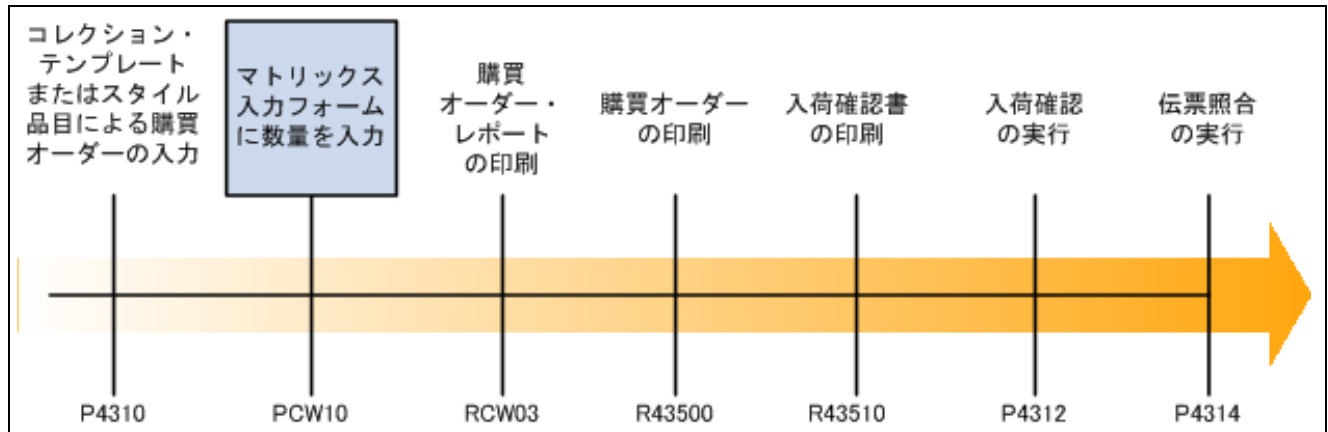
参照: JD Edwards EnterpriseOne 調達管理 9.0 製品ガイド、「入荷処理の利用」、「入荷の入力」

- 伝票照合の実行 (P4314)。

伝票照合プログラム (P4314) を使用して伝票照合を実行します。伝票の照合時にはマトリックス入力プログラムを使用しないでください。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 調達管理 9.0 製品ガイド、「伝票の作成」

次の図は、スタイル品目の調達管理プロセスを示しています。



スタイル品目の調達管理プロセス

データの除去

F4301購買見出し除去プログラム(R4301P)を実行すると、購買オーダー見出し(F4301)および購買オーダー見出しスタイル品目タグ・ファイル(F41F301T)テーブルからレコードが削除され、削除されたレコードがアーカイブされます。F4301購買見出し除去プログラムは、通常購買オーダー処理の最後に実行され、購買オーダー・テーブルをクリーンアップします。

F4301購買見出し除去プログラムを実行する前に購買明細(F4311)の除去プログラム(R4311P)を実行してください。購買オーダー明細ファイル・テーブル(F4311)が除去されないと、レコードは削除されません。入荷確認ファイル・テーブル(F43121)で削除されなかったレコードを確認できます。レコードが全額支払われたら削除できます。

レコードを削除するには、購買オーダーが次の条件を満たしている必要があります。

- ・ 次状況が999である。
- ・ 未処理の数量や金額がない。
- ・ 入荷工程に購買オーダー行がない。

詳細レコードが存在しない場合は見出しレコードを除去できます。

削除されたレコードがアーカイブされるように、F4301購買見出し除去プログラムの「処理」タブにある「アーカイブF41F301Tテーブル名」処理オプションを設定します。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 調達管理 9.0 製品ガイド、「データの除去」

事前設定

この章で説明されているタスクを開始するには、事前に次の作業を行う必要があります。

- ・ JD Edwards EnterpriseOne住所録システムに仕入先の住所情報が設定されていることを確認します。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 住所録 9.0 製品ガイド、「住所録レコードの入力」

- ・ JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムがスタイル品目がサポートするように適切に設定されていることを確認します。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 調達管理 9.0 製品ガイド、「JD Edwards EnterpriseOne調達管理 - はじめに」、「JD Edwards EnterpriseOne調達管理の導入」、「調達管理の導入手順」

- 仕入先と品目情報を含む仕入先情報、および仕入先購買指示を定義します。
参照: JD Edwards EnterpriseOne 調達管理 9.0 製品ガイド、「仕入先情報の設定」
- データを除去する際に削除されたレコードがアーカイブされるように、F4301 購買見出し除去プログラム (R4301P) の「処理」タブにある「アーカイブ F41F301T テーブル名」処理オプションを設定します。

スタイル品目の購買価格の作成

この項では、スタイル品目の購買価格の概要と、次の方法について説明します。

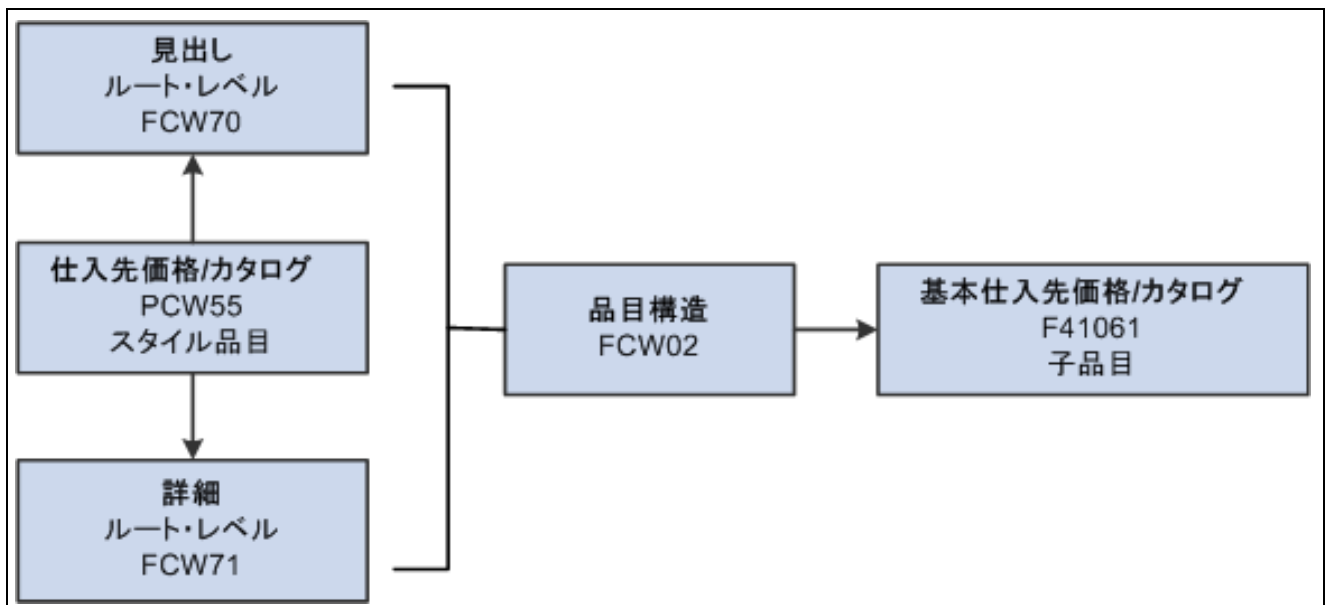
- スタイル品目仕入先価格/カタログ (PCW55) の処理オプションの設定
- スタイル品目仕入先価格/カタログ見出しの作成
- スタイル品目の購買価格の作成

スタイル品目の購買価格について

スタイル品目仕入先価格/カタログ・プログラム (PCW55) は、仕入先カタログ管理プログラム (P41061) に似ています。スタイル品目仕入先価格/カタログ・プログラムを使用すると、仕入先カタログに基づいてスタイル品目の価格を入力できます。スタイル品目ルート・レベル 0 から子スタイル品目まで、任意のスタイル品目レベルの価格を入力します。継承と例外を使用して価格を設定および管理できます。

スタイル品目仕入先価格/カタログ・プログラムは、スタイル品目に適用されるスタイル品目構造に基づいて仕入先価格/カタログ・ファイル・テーブル (F41061) を更新します。

次の図は、スタイル品目の購買価格処理を示しています。



スタイル品目の購買価格処理

参照: JD Edwards EnterpriseOne 調達管理 9.0 製品ガイド、「仕入先情報の設定」、「仕入先価格および割引規則の定義」

スタイル品目の購買価格の作成に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
スタイル品目仕入先価格/ カタログの処理	WCW55D	「購買オーダー設定」 (G41F45)、「スタイル品目 仕入先価格/カタログ」	スタイル品目の購買価格 を処理します。
スタイル品目仕入先価格/ カタログ - 見出しの改訂	WCW55C	「スタイル品目仕入先価格/ カタログの処理」フォー ムで、「追加」をクリック します。	スタイル品目仕入先価格/ カタログ見出しを作成 します。
スタイル品目仕入先価格/ カタログ - 詳細の改訂	WCW55A	「スタイル品目仕入先価格/ カタログの処理」フォー ムでローを選択し、「ロー」メ ニューから「詳細」を選択 します。	スタイル品目の購買価格 を作成します。

スタイル品目仕入先価格/カタログ(PCW55)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

処理

- 1. 購買価格レベル** 購買オーダー入力時に品目の購買価格を取得する場所を指定します。値は次のとおりです。
 - 1: 購買価格テーブル(F41061)の仕入先/品目価格を使用します。
 - 2: 購買価格テーブル(F41061)の仕入先/品目/事業所価格を使用します。
- 2. 表示する品目構造レベル数** 「スタイル品目仕入先価格/カタログ - 詳細の改訂」フォーム(WCW55A)のグリッドに表示する品目構造レベルの数を指定します。

スタイル品目仕入先価格/カタログ見出しの作成

「スタイル品目仕入先価格/カタログ - 見出しの改訂」フォームにアクセスします。

スタイル品目仕入先価格/カタログ見出しを作成するには、次の手順に従います。

1. 次のフィールドに入力します。
 - 仕入先(必須)
 - カタログ
「カタログ」フィールドのデータは参照用です。「カタログ」フィールドはブランクにできます。
 - 通貨コード(必須)
 - 事業所
入力する価格は、「事業所」フィールドに指定された事業所に固有です。スタイル品目仕入先価格/カタログ・プログラムの「処理」タブにある「購買価格レベル」処理オプションで「2」を選択した場合は、事業所を入力する必要があります。購買価格レベル2では、仕入先/品目/事業所レベルの購買価格が作成されます。
 - 有効開始日付(必須)
 - 有効終了日付(必須)

2. 「OK」をクリックします。

スタイル品目の購買価格の作成

「スタイル品目仕入先価格/カタログ - 詳細の改訂」フォームにアクセスします。

スタイル品目仕入先価格/カタログ - スタイル品目仕入先価格/カタログ - 詳細の改訂

OK(O) 検索(I) 削除(D) 取消(C) ツール(T)

カタログ		事業所	30
仕入先	4343 Parts Emporium changed	有効開始日付	2010/06/15
通貨コード	USD U.S. Dollar	有効終了日付	2010/06/15

レコード 1-5 グリッドのカスタマイズ

	ルート	スタイル	生地	単価	オーダー 数量	通貨 コード	単位	有効 開始日付	有効 終了日付
<input checked="" type="radio"/>	ABS100		CTN	15.0000	100.0000	USD	EA	2010/06/15	2010/06/15
<input type="radio"/>	ABS100		POL	25.0000	100.0000	USD	EA	2010/06/15	2010/06/15

「スタイル品目仕入先価格/カタログ - 詳細の改訂」フォーム

スタイル品目の購買価格を作成するには、次の手順に従います。

1. 「ルート」、「スタイル」および「生地」などのスタイル品目関連のフィールドを入力します。
スタイル品目構造と、スタイル品目仕入先価格/カタログ・プログラムの「処理」タブにある「表示する品目構造レベルの数」処理オプションに設定されている値に基づいて、スタイル品目が表示されます。
2. 次に示す、スタイル品目ルート・レベル0または子スタイル品目の価格関連情報を入力します。
 - 単価
 - オーダー数量
 - 単位
3. 「OK」をクリックして価格を記録します。

注意: 「OK」をクリックすると、仕入先価格/カタログ・ファイル・テーブル (F41061) の購買価格が更新されます。オンデマンドまたはバッチ機能を使用してスタイル品目の購買価格を更新することはできません。

スタイル品目の一括オーダーの入力

この項では、スタイル品目の一括オーダーの概要、事前設定、およびスタイル品目の一括オーダーの入力方法について説明します。

スタイル品目の一括オーダーについて

一括オーダーは通常、予測のみが出され受注オーダーがまだ存在しないというプロセスの早い段階で、製造業者がリソースや工程能力の計画を立てるときに使用されます。予測はスタイル品目ルート・レベル0で行われ、資材のタイプが決定されますが、色などの特定の特性は決まりません。一括オーダーは原材料専用です。スタイル品目ルート・レベル0から子スタイル品目まで、任意のレベルで一括オーダーを作成できます。任意のレベルでスタイル品目の一括オーダーを作成するには、マトリックス入力プログラム(PCW10)が有効化されていない購買オーダー・プログラム(P4310)のバージョンを使用します。

最初の受注オーダーを作成したら、最下位の子スタイル品目まで詳細な最終予測を生成します。

一括オーダーのすべてまたは一部をリリースするには、購買要求からの購買オーダー生成/一括オーダー・リリース・プログラム(P43060)を使用します。一括オーダーのリリースにより、特定の特性を示す原材料に対する購買オーダーが生成されます。たとえばアパレル業界では、購買オーダーで特定の生地や色を指定します。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 調達管理 9.0 製品ガイド、「特殊オーダー処理」、「一括オーダーの処理」

事前設定

この項で説明されているタスクを開始するには、事前に次の作業を行う必要があります。

- スタイル品目の一括オーダー入力には、購買オーダー・プログラム(P4310)のZJDE0006(オーダー入力 - 一括)バージョンを使用します。
- 購買オーダー・プログラム(P4310)のZJDE0006(オーダー入力 - 一括)バージョンの処理オプションを設定します。
- スタイル品目の一括オーダーの入力中に「マトリックス入力」フォームが表示されないようにするため、購買オーダー・プログラムの「スタイル」タブにある「マトリックス入力フォームの表示(PCW10)」処理オプションがブランクであることを確認します。
- 購買オーダー・プログラムの「スタイル」タブにある「品目の検索/選択」処理オプションを設定します。

スタイル品目の一括オーダーの入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
オーダー見出しの処理	W4310I	「購買オーダー管理」(G41F18)、「購買オーダーの入力」 メニュー・オプションの右側にある矢印を選択して「バージョン」を選択します。 「バージョンの処理」フォームで、バージョンZJDE0006(オーダー入力 - 一括)を検索して選択します。 「選択」をクリックします。	スタイル品目の一括オーダーを処理します。
オーダー明細	W4310A	「オーダー見出しの処理」フォームで「追加」をクリックします。	スタイル品目の一括オーダーを入力します。

スタイル品目の一括オーダーの入力

「オーダー明細」フォームにアクセスします。

スタイル品目の購買オーダーの入力

この項では、スタイル品目の購買オーダー入力の概要、事前設定、およびスタイル品目の購買オーダーの入力方法について説明します。

スタイル品目の購買オーダー入力について

JD Edwards EnterpriseOne 調達管理システムは、次の機能を使用してスタイル品目の購買オーダーの作成をサポートします。

- 複数属性スタイル品目のマトリックス入力
- コレクションの統合
- サイズによる合計数量の自動分割

購買オーダー入力時にマトリックス統合が使用され、最下位の子品目レベルではなく、それよりも上位レベルでスタイル品目が管理されます。スタイル品目を処理する際は、購買オーダー・プログラム (P4310) によりマトリックス入力プログラム (PCW10) が呼び出され、複数レベルの子スタイル品目の購買オーダーが作成されます。マトリックス入力プログラムは、スタイル品目に品目構造が添付されている場合にのみ起動します。

構造の ROOT レベル (スタイル品目ルート・レベル 0) のマトリックス行が選択されておらず、アパレル管理システムが有効化されていない場合、「マトリックス入力」フォームは表示されません。

「マトリックス入力」フォーム (WCW10B) は、「オーダー明細」フォーム (W4310A) の「品目 No.」カラムからカーソルを移動するか行の選択を解除すると表示されます。「マトリックス入力」フォームを使用すると、子スタイル品目数量をサイズや色などの属性別に簡単に入力できます。

注意: マトリックス入力プログラムでは、購買オーダー・プログラムに入力された単位に関係なく、数量の処理時に基本単位のみをサポートします。

スタイル品目ルート・レベル 0 の基本単位以外の取引単位を入力すると、単位が異なることを知らせる警告メッセージが表示されます。また、購買オーダー・プログラムまたはマトリックス入力グリッドに最初に入力した数量は、入力された単位に関係なく基本単位を使用して処理されます。

「マトリックス入力」フォームの「合計数量」フィールドに手動で数量を入力すると、サイズ加重設定を使用してサイズ全体に数量が割り当てられます。「マトリックス入力」フォームが表示される前に「オーダー明細」フォームに数量を入力するには、まず「オーダー数量」フィールドに値を入力してから「品目 No.」フィールドにスタイル品目を入力して、ローからカーソルを移動します。

注意: 「アパレル管理モジュールの使用」システム固定情報 (SY41F) が EnterpriseOne システム制御プログラム (P99410) で無効になっている場合は、最下位レベルのスタイル品目のみを入力できます。中間レベルのスタイル品目は入力できません。

顧客カテゴリ・コード、品目カテゴリ・コード、または両方のカテゴリ・コードの組合せに基づいて自動分割を実行できます。ユーザー定義コード (UDC) 41F/00 にカテゴリ・コードを定義します。

サイズ定義による自動分割プログラム(PCW33)でサイズによる分割パーセントを定義します。サイズ分割は次の順序で行われます。

1. 品目カテゴリと住所録カテゴリ・コードの両方の値が完全に一致する。
2. 品目カテゴリと住所録カテゴリ・コードのいずれかの値が完全に一致していて、その他のカテゴリ・コードがブランクである。
3. 品目カテゴリと住所録カテゴリ・コードの両方の値がブランクである。
4. これ以外の場合、自動サイズ分割は実行されません。

購買オーダー入力およびコレクション

購買オーダー・プログラムでは、コレクションおよびコレクション・テンプレートを使用することで、スタイル品目の購買オーダーの入力がサポートされます。購買オーダー・プログラムの「スタイル」タブの処理オプションを、購買オーダー入力時にコレクションが自動的に使用されるように設定できます。

購買オーダー見出しにコレクションを入力して、オーダーの全スタイル品目とそのコレクションの一部であるかどうか検証できます。検証は処理オプションの設定に基づいて行われます。

コレクション・テンプレートを使用して、購買オーダー入力を簡略化することもできます。コレクション・テンプレートを購買オーダーに添付すると、「マトリックス入力」フォームに、そのコレクション・テンプレートの全スタイル品目の行が自動的に追加されます。このため、入力する必要があるのは各スタイル品目に必要な数量のみです。

購買オーダー入力プログラム(P4210)内で、「フォーム」メニューから「スタイル・テンプレート」を選択してスタイル・テンプレート・プログラム(PCW43)を呼び出して、コレクション・テンプレートを使用できます。「コレクション・テンプレートの検索/選択」フォーム(WCW43A)でコレクション・テンプレートを選択すると、コレクション・テンプレートは「マトリックス入力」フォームに渡されて処理されます。

購買オーダー・プログラムでは、購買オーダー明細行にスタイル品目番号ではなくコレクション・テンプレート名を入力することもできます。コレクション・テンプレートがシステムで認識されるためには、テンプレートの前に適切な記号を付ける必要があります。この記号は、購買オーダー入力プログラム(P4310)の「コレクション・テンプレートのプレフィックス」処理オプションで指定されます。たとえば、プレフィックス記号が%でコレクション名がFallの場合は、%Fallと入力します。

事前設定

この項で説明されているタスクを実行するには、事前に次の作業を行う必要があります。

1. スタイル品目の購買オーダーの作成には、購買オーダー・プログラム(P4310)のZJDE0034(オーダー入力 - スタイル)バージョンを使用します。
2. 購買オーダー・プログラムの「スタイル」タブにある処理オプションを設定します。
3. 購買オーダー・プログラムの「バージョン」タブの「スタイル・マトリックス入力(PCW10)」処理オプションで指定されたバージョンのマトリックス入力の処理オプションを設定します。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 調達管理 9.0 製品ガイド、「購買オーダーの入力」、「購買オーダー(P4310)の処理オプションの設定」

スタイル品目の購買オーダーの入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
オーダー見出しの処理	W4310I	「購買オーダー管理」(G41F18)、「購買オーダーの入力」	スタイル品目の購買オーダーを処理します。
オーダー明細	W4310A	「オーダー見出しの処理」フォームで「追加」をクリックします。	スタイル品目の購買オーダーを入力します。
マトリックス入力	WCW10B	「オーダー見出しの処理」フォームでレコードを選択し、「ロー」メニューから「スタイル・マトリックス入力」を選択します。	スタイル品目の購買オーダーでマトリックス行を改訂します。

スタイル品目の購買オーダーの入力

「オーダー明細」フォームにアクセスします。

購買オーダーの入力 - オーダー明細

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

オーダー明細 行デフォルト 追加プロパティ カテゴリ・コード スタイル

オーダー番号 234313 OP 00200 ビジネスユニット M30

仕入先 4343 Parts Emporium changed

出荷先 6074 Eastern Manufacturing Plant

保留コード 保留コード 42/HC

保留率

通貨 USD 為替レート 基本通貨 USD 外貨

レコード 1 - 10 グリッドのカスタマイズ

変更 オーダー	品目 No.	オーダー 数量	レコ ード 単位	2次単位 オーダー 数量	2次 単位	サービス 数量	サービス 単位	単価
<input type="checkbox"/>	000 JE501.LD01.30	2.0000	EA	2.0000	EA	.0000	EA	100.0000
<input type="checkbox"/>	000 JE501.LD02.30	2.0000	EA	2.0000	EA	.0000	EA	100.0000
<input type="checkbox"/>	000 JE501.LD03.30	2.0000	EA	2.0000	EA	.0000	EA	100.0000
<input type="checkbox"/>	000 JE501.LD04.30	2.0000	EA	2.0000	EA	.0000	EA	100.0000
<input type="checkbox"/>	000 JE501.LD05.30	2.0000	EA	2.0000	EA	.0000	EA	100.0000
<input type="checkbox"/>	000 JE501.LRG01.30	2.0000	EA	2.0000	EA	.0000	EA	100.0000

「オーダー明細」フォーム

スタイル品目の購買オーダーを入力するには、次の手順に従います。

1. オーダーに必要なオーダー見出し情報を入力します。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 調達管理 9.0 製品ガイド、「購買オーダーの入力」、「オーダー見出し情報の入力」

2. オーダーでコレクションを使用している場合は、「スタイル」タブで次のフィールドに値を入力します。

コレクション

通常は1つのブランド(製造業者)、シーズン、年および市場に向けて同時に発表される、統一性のある品目の集まりを表すコードを入力します。コレクション見出しテーブル(FCW06)の値を入力する必要があります。

コレクションを入力すると、そのコレクションに基づいて、残りのフィールド値が自動的に入力されます。

シーズン・コード

コレクションが製造されるシーズンを示すコードを入力します。

シーズン年

コレクションの製造年を示すコードを入力します。

価格有効日付

コレクションに適用される価格を決定する日付を入力します。

オプションで、処理オプションの設定によって、コレクション・フィールドに値が自動入力されるように指定できます。

注意: コレクション、シーズン・コードおよびシーズン年の有効な組合せを入力しないと、エラーが表示されます。また、購買オーダー・プログラムの「コレクションに対する品目の検証」処理オプションが「1」または「2」に設定されている場合は、「コレクション」フィールドが必須フィールドになり、空白にするとエラーが表示されます。

3. 最初の行に数量や品目番号などのスタイル品目情報を入力し、ローからカーソルを移動します。ローからカーソルを移動すると、「マトリックス入力」フォーム(WCW10B)が表示されます。

注意: 「品目No.」カラムにスタイル品目ルート・レベル0を入力するか、任意の値を入力します。たとえば、「JEA」と入力すると、マトリックス入力にジーンズのすべての色およびサイズが表示されます。また、「JEA.BLK」と入力すると、マトリックス入力に黒いジーンズのすべてのサイズが表示されます。

注意: 「品目No.」カラムに、スタイル品目番号ではなくコレクション・テンプレート名を入力することもできます。コレクション・テンプレートがシステムで認識されるためには、テンプレートの前に適切な記号を付ける必要があります。この記号は、購買オーダー・プログラムの「コレクション・テンプレートのプレフィックス」処理オプションで指定されます。

「品目No.」カラムにコレクション・テンプレートを入力すると、そのコレクション・テンプレートに関連するすべてのスタイル品目を取り込まれ、「マトリックス入力」フォームにそれらの品目の行が自動的に追加されます。

4. 各スタイル品目の属性ごとのオーダー数量をマトリックスに入力します。

マトリックス入力の処理オプションで数量が自動的に分割されるように設定されている場合、それぞれの子スタイル品目の数量は、「合計数量」フィールドに入力された数量に基づいて入力されています。数量は、特定のスタイル品目によって使用されるマトリックス・グリッドのサイズ分割設定に基づいて分割されます。マトリックス入力の処理オプションが、一時変更を許可するように設定されている場合、これらの数量を手動で一時変更できます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne アパレル管理 9.0 製品ガイド、「JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理のアパレル管理用操作」、「スタイル品目の在庫出庫」、「マトリックス入力(PCW10)の処理オプションの設定」

注意: フォーム最下部にある「当初数量合計」フィールドに、購買オーダー行に入力した当初数量が表示されます。「選択数量合計」フィールドには、マトリックス入力に入力した数量合計が反映されます。これらのフィールドを使用して、入力した当初数量が維持されていることを確認します。「選択数量合計」と「当初数量合計」が等しくない場合は、オーダーを作成しようとするとエラーが表示されます。

また、購買オーダー行に数量を入力しない場合、「当初数量合計」フィールドは「マトリックス入力」フォームに表示されません。このため、数量調整は行われません。

5. 必要な数量をすべて入力したら、「OK」をクリックします。
購買オーダーに新しい行が追加され、各子スタイル品目のオーダー数量が反映されます。
6. 他のスタイル品目に対応する行を追加するには、最初の空の行にスタイル品目情報かコレクション・テンプレート名を入力して、ローからカーソルを移動します。
7. 「OK」をクリックします。
購買オーダーに新しい行が追加され、各子スタイル品目のオーダー数量が反映されます。
8. 「オーダー明細」フォームで「OK」をクリックし、「取消」をクリックします。

スタイル品目の一括オーダーのリリース

この項では、スタイル品目の一括オーダー・リリースの概要、事前設定、およびスタイル品目の一括オーダーのリリース方法について説明します。

スタイル品目の一括オーダー・リリースについて

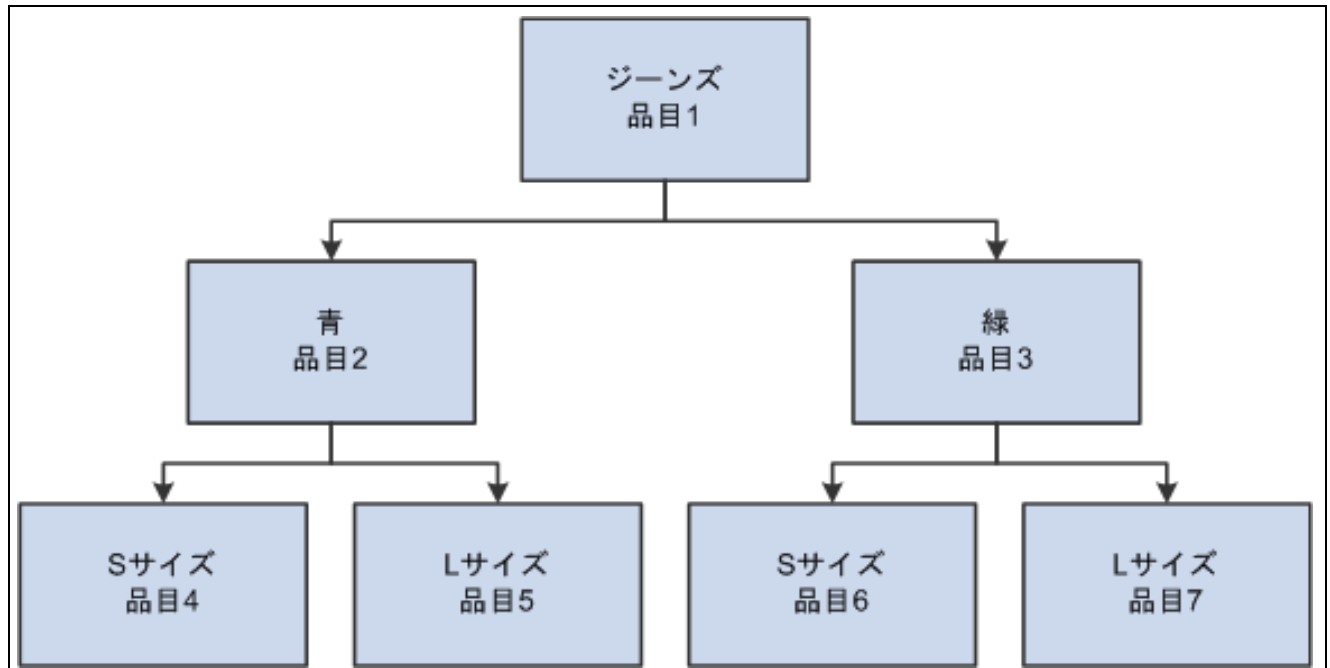
一括オーダーは、予測のみが出され受注オーダーがまだ存在しないときに製造業者からリソースを予約するために、親スタイル品目に対して生成します。最初の受注オーダーを作成したら、最下位の子スタイル品目まで詳細な最終予測を生成します。

一括オーダーが購買オーダー・プログラム (P4310) を使用してスタイル品目の任意のレベルに対して作成されている場合は、一括オーダーから購買オーダーを生成できます。一括オーダーのすべてまたは一部をリリースし、子スタイル品目に対する購買オーダーを生成するには、購買要求からの購買オーダー生成/一括オーダー・リリース・プログラム (P43060) を使用します。一括オーダーのリリースにより、特定の特性を示す原材料に対する購買オーダーが生成されます。

購買要求からの購買オーダー生成/一括オーダー・リリース・プログラムによりスタイル代替品目 (PCW48) が呼び出され、親スタイル品目の最下位の子スタイル品目が選択され、一括オーダーから確定購買オーダーが作成されます。一括オーダーの品目が子スタイル品目の場合には、スタイル品目を置き換えることはできません。

スタイル代替品目プログラムは、品目マスター (F4101) および品目構造定義 (FCW02) テーブルから作成されるスタイル最終品目ワークファイル・テーブル (F41F02WF) を検索して選択します。F41F02WF テーブルには、一括オーダーに存在する親スタイル品目の最下位レベルの子スタイル品目のみが含まれます。

次の図は、ジーンズのスタイル品目ルート・レベル0の一括オーダーのリリースを示しています。



一括オーダーのリリースの例

たとえば、ジーンズ(品目1)のスタイル品目ルート・レベル0の一括オーダーを作成するとします。一括オーダー・リリース処理時にオーダーを選択し、「代替スタイル品目の検索/選択」フォーム(WCW48A)にアクセスします。子スタイル品目である品目4から7がすべて表示されます。1つの子スタイル品目を選択して一括オーダー・リリース処理に戻し、一括オーダーに対して購買オーダーをリリースします。

品目2に対して一括オーダーを作成すると、品目4と5のみが「代替スタイル品目の検索/選択」フォームに表示されます。

一括オーダーのスタイル品目が子スタイル品目の場合は、「代替スタイル品目の検索/選択」フォームにアクセスできません。

注意:「アパレル管理モジュールの使用」システム固定情報(SY41F)がEnterpriseOneシステム制御プログラム(P99410)で無効になっている場合、「フォーム」メニューの「代替スタイル品目」オプションは一括オーダー・リリースで無効化されます。

例: アパレル業界

アパレル業界で、スタイル品目FABRICの2000ヤードの一括オーダーを入力するとします。必要な生地の色がわかったら、一括オーダーの一部数量をリリースして特定の生地に対する購買オーダーを作成します。通常、購買オーダーで一度にリリースするのは1つの色のみです。たとえば、一括オーダーの一部数量をリリースしてスタイル品目FABRIC.BLUの500ヤードの購買オーダーを作成したり、品目FABRIC.REDの500ヤードの購買オーダーを作成することができます。購買オーダーは一括オーダーの一部を消費します。

事前設定

この項のタスクを開始する前に、購買要求からの購買オーダー生成/一括オーダー・リリース・プログラム(P43060)の処理オプションを設定してください。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 調達管理 9.0 製品ガイド、「特殊オーダー処理」、「購買要求の処理」

スタイル品目の一括オーダーのリリースに使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
オーダー・リリースの処理	W43060B	「購買オーダー管理」(G41F18)、「オーダー・リリース」	スタイル品目の一括オーダー・リリースを処理します。
オーダーのリリース	W43060A	「オーダー・リリースの処理」フォームで、明細行を選択して、「選択」をクリックします。	スタイル品目の一括オーダーをリリースします。
代替スタイル品目の検索/選択	WCW48A	「オーダーのリリース」フォームで「フォーム」メニューから「代替スタイル品目」を選択します。	購買オーダーでリリースする子スタイル品目を選択します。

スタイル品目の一括オーダーのリリース

「オーダーのリリース」フォームにアクセスします。

「オーダーのリリース」フォーム: 「明細情報」タブ

スタイル品目の一括オーダーをリリースするには、次の手順に従います。

1. 「リリース情報」タブの「リリース数量」フィールドに、購買オーダーにリリースする数量を一括オーダーから指定します。
2. 「日付」タブの「要求日付」フィールドに要求納入日付を入力します。
3. 「フォーム」メニューから「代替スタイル品目」オプションを選択します。

スタイル品目ルート・レベル0に対応するすべての子スタイル品目が表示されます。

4. 「代替スタイル品目の検索/選択」フォームで子スタイル品目のローを選択して「選択」をクリックします。
「代替スタイル品目の検索/選択」フォームで選択された子スタイル品目の品目番号が、「オーダーのリリース」フォームの「明細情報」タブにある「品目 No.」フィールドに表示されます。
5. 「OK」をクリックします。
6. 「オーダー・リリースの処理」フォームで、一括オーダー内で購買用に残っている一括オーダー数量を確認します。
7. 「閉じる」をクリックします。
8. 「オーダー生成確認の取消し」メッセージで「OK」をクリックし、購買オーダーを生成します。
「取消」をクリックすると、購買オーダーは生成されません。
9. 「生成済み購買オーダー」フォームで生成された購買オーダーのリストを確認します。
10. 「閉じる」をクリックします。

スタイル品目の購買オーダーの印刷

スタイル品目の購買オーダーの印刷プログラム(RCW03)を使用して、スタイル品目の購買オーダーをマトリックス形式で印刷します。レポートの新しいページに各オーダーの見出しセクションが印刷されます。特定のスタイル品目レベルの単位原価が、同じスタイル品目レベルの他の単位原価と異なる場合、レポートにその単位原価は印刷されません。データ選択条件内でオーダーが見つからない場合は、「データが見つかりません」と印刷されます。このプログラムではレポートが印刷されるだけで、データの更新は行われません。

この項では、スタイル品目の購買オーダーの印刷方法について説明します。

スタイル品目の購買オーダーの印刷

「レポート」(G41F19)、「スタイル品目の購買オーダーの印刷」を選択します。

付録 A

JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理システムで使用するテーブル

この付録では、JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理システムで使用するテーブルの一覧を示します。

JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理システムで使用するテーブル

次の表は、JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理で使用するテーブルをアルファベット順に示しています。

テーブル	説明
品目構造詳細 (FCW01)	スタイル品目構造の詳細が格納されます。各スタイル品目構造は、スタイル品目に適用されるレベルのバリエーションで構成されています。
品目構造定義 (FCW02)	スタイル品目とそれに関連する詳細が格納されます。スタイル品目ルート・レベル0に関連付けられている構造定義もこのテーブルに含まれます。
マトリックス・グリッド (FCW03)	特定の品目タイプに使用できるサイズ・グリッドが格納されます。サイズ・グリッド詳細は、受注オーダーに在庫を割り当てる際に使用されます。
コレクション構造定義 (FCW05)	コレクション構造の詳細と使用可能な様々なレベルが格納されます。
コレクション見出し (FCW06)	コレクション見出しの詳細、有効期間およびシーズン・コードが格納されます。
コレクション詳細 (FCW07)	コレクションに存在する様々なコレクション・レベルとスタイル品目が格納されます。
カテゴリ・コード・ワークファイル (FCW08)	スタイル品目に関連付けられているカテゴリ・コードに関する情報が、このテーブルの一時ワークファイルに格納されます。テーブルに格納されるデータは、品目マスター (F4101) からフェッチされます。

テーブル	説明
品目の改訂ワークファイル (FCW09)	スタイル品目の品目マスター情報が一時的に格納されます。FCW09テーブルには、品目マスター (F4101) のスタイル品目マスター・レコードの変更前と変更後のトランザクションが格納されます。変更された情報は、子レベルのすべてのスタイル品目に継承されます。
事業所品目ワークファイル (FCW10)	スタイル品目の事業所品目情報が一時的に格納されます。FCW10テーブルには、事業所品目ファイル・テーブル (F4102) のスタイル品目事業所レコードの変更前と変更後のトランザクションが格納されます。変更された情報は、子レベルのすべてのスタイル品目に継承されます。
品目基本価格テーブル・ワークファイル (FCW11)	品目基本価格テーブル (F4106) のスタイル品目の品目価格情報が一時的に格納されます。FCW11テーブルには、スタイル品目価格レコードの変更前と変更後のトランザクションが格納されます。変更された情報は、すべての子スタイル品目に継承されます。
品目原価テーブル・ワークファイル (FCW12)	品目原価テーブル (F4105) のスタイル品目の品目原価情報が一時的に格納されます。FCW12テーブルには、スタイル品目原価レコードの変更前と変更後のトランザクションが格納されます。変更された情報は、すべての子スタイル品目に継承されます。
品目保管場所ワークファイル (FCW13)	品目保管場所テーブル (F41021) のスタイル品目の品目保管場所情報が一時的に格納されます。FCW13テーブルには、スタイル品目の保管場所レコードの変更前と変更後のトランザクションが格納されます。変更された情報は、子レベルのすべてのスタイル品目に継承されます。
品目マスター・タグ・ワークファイル (FCW14)	スタイル品目マスター・プログラムの情報が、このテーブルの一時ワークファイルに格納されます。このテーブルは、スタイル品目マスター・ワークファイルのクリア・プログラム (RCW15) を実行した後にクリアされます。このテーブルのレコードは、F4101テーブルおよび品目構造定義 (FCW02) テーブルに格納されている品目マスター・レコードに関連しています。
ワークファイル F41171 (FCW15)	事業所品目マスター・サービス/保証テーブル (F4117) のスタイル品目の事業所品目マスター・サービス/保証情報が一時ファイルに格納されます。FCW15テーブルには、事業所品目マスター・サービス/保証レコードの変更前と変更後のトランザクションが格納されます。変更された情報は、すべての子スタイル品目に継承されます。
ワークファイル F4016 (FCW16)	スタイル品目に関連付けられている印刷メッセージに関する情報が、このテーブルの一時ワークファイルに格納されます。テーブルに格納されるデータは、印刷メッセージ・テーブル (F4016) からフェッチされます。

テーブル	説明
ワークファイルF41002 (FCW17)	スタイル品目に関連付けられている単位の換算係数に関する情報が、このテーブルの一時ワークファイルに格納されます。テーブルに格納されるデータは、単位の換算係数テーブル (F41002) からフェッチされます。
ワークファイルF49075 (FCW18)	スタイル品目に関連付けられている製品混合の情報が、このテーブルの一時ワークファイルに格納されます。テーブルに格納されるデータは、製品混合テーブル (F49075) からフェッチされます。
ワークファイルF46010 (FCW19)	スタイル品目に関連付けられている品目プロファイルの情報が、このテーブルの一時ワークファイルに格納されます。テーブルに格納されるデータは、品目プロファイル・テーブル (F46010) からフェッチされます。
マトリックス・ワークファイル (FCW20)	マトリックス入力時に表示される詳細が格納されます。コレクション・テンプレートも格納されます。コレクション・テンプレートは、1つ以上のコレクションのサブセットです。複数のコレクションからコレクション・テンプレートに品目を追加できます。
ロット・マスター・ワークファイル (FCW22)	ビジネスユニット、場所、ロット番号および略式品目番号など、スタイル品目のロット情報が格納されます。
作業オーダーの入力ワークファイル (FCW25)	このテーブルの一時ワークファイルに作業オーダー情報が格納されます。このテーブルには、マトリックス入力プログラム (PCW10) の起動中に子作業オーダー情報が入力され、プログラムの終了時にクリアされます。このテーブルにより、FCW65テーブルのマスター作業オーダー・レコードが、作業オーダー・マスター (F4801) およびFCW66テーブルの子品目の作業オーダー・レコードに関連付けられます。
提案オーダー行詳細 (FCW31)	受注オーダー明細テーブル (F4211) に基づいてオーダー行の提案詳細が格納されます。このテーブルには、割当提案と納入提案の両方の情報が格納されます。
品目出荷情報 (F4908) ワークファイル (FCW32)	スタイル品目の出荷情報が、このテーブルの一時ワークファイルに格納されます。このテーブルは、スタイル品目マスター・ワークファイルのクリア・プログラム (RCW15) を実行した後にクリアされます。このテーブルのレコードは、F4101テーブルおよびFCW02テーブルに格納されている品目マスター・レコードに関連しています。
表見出しの印刷 (FCW33)	顧客または顧客グループ、コレクションの有効期間、システムによって割り当てられた価格表番号、監査フィールドおよび通貨コードに対応する価格表見出しの詳細が格納されます。
表明細の印刷 (FCW34)	価格表が適用される品目の詳細が格納されます。システムにより割り当てられる価格表番号、スタイル品目のレベルおよび監査フィールドなどの詳細が格納されます。

テーブル	説明
丸め方法 (FCW35)	数学的丸めおよび統一価格への丸めの両方に対応する丸め方法および丸めの範囲が格納されます。
丸め規則 (FCW36)	丸め方法テーブル (FCW35) に格納されている丸め方法に基づいた丸め規則が格納されます。
価格表為替レート (FCW38)	スタイル品目に固有の価格表為替レートが格納されます。FCW38テーブルは、価格表為替レート・プログラム (PCW22) により入力されます。
カテゴリ・コードの優先順位値 (FCW39)	スタイル品目の引当規則プログラム (PCW41) に使用されるカテゴリ・コード値 (AC1からAC30) と国コードの優先順位値が格納されます。
価格表生成 (FCW40)	ある価格表を別の価格表にコピーする際の価格表作成詳細が格納されます。コピーに使用される丸め規則と係数も格納されます。
引当規則 (FCW41)	割当の計算中に使用される引当規則が格納されます。
価格表生成 - 品目例外 (FCW42)	ある価格表を別の価格表にコピーするとき、例外が定義されている場合の価格表作成詳細が格納されます。コピーに使用される丸め規則と係数も格納されます。
提案処理詳細 (FCW43)	割当/納入提案の生成プログラムの実行時に設定したバージョンごとに、割当/納入提案の生成プログラム (RCW06) の処理オプションの値が格納されます。割当/納入提案の生成プログラムの処理オプションの設定は、割当/納入提案 (PCW29) および割当提案の検証/取消 (RCW37) プログラムにより使用されます。
提案オーダー詳細 (FCW44)	受注オーダー見出しテーブル (F4201) に基づいて受注オーダーの提案詳細が格納されます。FCW44テーブルには、割当提案と納入提案の両方の情報も格納されます。
提案のサイズ加重 (FCW46)	提案処理中に使用される様々なサイズのサイズ加重情報が格納されます。このテーブルには、割当提案と納入提案の両方の情報が格納されます。
部品表の関連見出し (FCW48)	略式品目番号、ビジネスユニット、部品表タイプ、単位バッチ数量、状況および数量など、親スタイル品目の部品表の関連に関わる情報が格納されます。FCW48テーブルは、スタイル品目の部品表 (PCW12B)、子スタイル品目の部品表の作成 (RCW53)、スタイル品目の外注作業詳細の作成 (PCW93)、外注作業詳細のコピー (RCW93) プログラムによって入力されます。

テーブル	説明
部品表の関連詳細 (FCW49)	略式品目番号、ビジネスユニット、部品表タイプ、単位バッチ数量、レベル番号、レベル・コード、状況および構成品番号など、構成品を含むすべての子スタイル品目の部品表の関連に関わる情報が格納されます。FCW49テーブルはPCW12B、RCW93およびPCW93プログラムによって入力されます。
部品表の関連マトリックス (FCW50)	マトリックス・スタイル品目の部品表の関連に関わる情報が一時的に格納されます。このテーブルはPCW12Bプログラムによって入力されます。
部品表用途 (FCW51)	部品表の用途が格納されます。用途には、各構成品がそれぞれの品目レベルで必要とする原材料の数量を定義します。このテーブルはPCW12BおよびPCW93プログラムによって入力されます。
スタイル作業工程マスター (FCW52)	スタイル品目の工程情報が格納されます。作業工程指示は、品目の製造処理で実行される作業の順序です。このテーブルはPCW93および作業工程マスターの処理 (P3003) プログラムによって入力されます。
部品表ワークファイル (FCW54)	ジョブ番号、ユーザーID、略式品目番号および最終数量が、このテーブルの一時ワークファイルに格納されます。このテーブルはPCW10およびPCW64プログラムによって入力されます。
コレクション・テンプレート見出し (FCW55)	名前、説明、監査情報などコレクション・テンプレートに使用される基本的なコレクション情報が格納されます。
コレクション・テンプレート詳細 (FCW56)	コレクションの妥当性や含まれる品目など、コレクション・テンプレートに含まれるコレクションの詳細情報が格納されます。
ワークファイル追加システム情報 (F4101) (FCW57)	スタイル品目に関連付けられている追加システム情報が、このテーブルの一時ワークファイルに格納されます。このテーブルにはF4101テーブルの情報が格納されます。
品目マスター - サービス/保証 (F4117) ワークファイル (FCW58)	スタイル品目に関連付けられている顧客サービス拡張の情報が、このテーブルの一時ワークファイルに格納されます。このテーブルには、品目マスター - サービス/保証テーブル (F4117) の情報が格納されます。
バルク品目マスター (F41011) ワークファイル (FCW59)	バルク品目の基本的な品目情報が、このテーブルの一時ワークファイルに格納されます。このテーブルは、スタイル品目マスター・ワークファイルのクリア・プログラム (RCW15) を実行した後にクリアされます。このテーブルのレコードは、バルク品目マスター (F41011) テーブルおよびFCW02テーブルに格納されているバルク品目マスター・レコードに関連しています。

テーブル	説明
組成 (FCW60)	スタイル品目の組成情報が格納されます。組成詳細は、スタイル品目の製造に使用される原材料とそれぞれの割合で構成されます。このテーブルは組成入力プログラム (PCW44) によって入力されます。
スタイル品目追加情報 (FCW61)	クリーニング・コードや洗濯方法など、スタイル品目の追加情報を提供するカテゴリ・コードが格納されます。追加情報はラベルの印刷に使用されます。このテーブルは、スタイル品目作成処理中に入力されます。スタイル品目追加情報は、スタイル品目追加情報プログラム (PCW45) を使用して更新できます。このプログラムには、複数レベル品目の改訂プログラム (PCW02A) の「ロー」メニューからアクセスできます。
組成 (FCW60) ワークファイル (FCW62)	スタイル品目に関連付けられている組成情報が、このテーブルの一時ワークファイルに格納されます。このテーブルには組成テーブル (FCW60) の情報が格納されます。
スタイル品目追加情報ワークファイル (FCW63)	スタイル品目に関連付けられているスタイル品目追加情報が、このテーブルの一時ワークファイルに格納されます。このテーブルにはスタイル品目追加情報テーブル (FCW61) の情報が格納されます。
作業オーダー入荷マトリックス入力ワークファイル (FCW64)	マトリックス入力の情報が、このテーブルの一時ワークファイルに格納されます。FCW64テーブルは、作業オーダー完了マトリックス入力 (PCW46) およびスタイル品目のマスター作業オーダー処理 (PCW49) プログラムによって入力されます。このテーブルは、スタイル品目マスター・ワークファイルのクリア (RCW15) プログラムを実行した後にクリアされます。
スタイル品目の作業オーダー見出し (FCW65)	マスター作業オーダーの見出し情報が格納されます。このテーブルはデータ入力時に PCW49 プログラムによって入力されます。
スタイル品目の作業オーダー詳細 (FCW66)	マスター作業オーダーおよび関連する子作業オーダー番号の詳細情報が格納されます。このテーブルはデータ入力時に PCW49 プログラムによって入力されます。
スタイル作業オーダー部品リスト (FCW67)	マスター作業オーダーの部品リストの詳細が格納されます。このテーブルは、データ入力時にスタイル品目のマスター作業オーダー部品リスト・プログラム (PCW50) によって入力されます。
スタイル作業オーダー作業工程 (FCW68)	マスター作業オーダーの作業工程情報が格納されます。このテーブルは、データ入力時にスタイル品目の作業オーダー作業工程プログラム (PCW52) によって入力されます。

テーブル	説明
作業オーダー部品リスト出庫 (FCW69)	作業オーダー部品リスト出庫に関する情報が格納されます。このテーブルは、データ入力時にスタイル品目のマスター作業オーダー部品リスト・プログラム (PCW50) によって入力されます。また、スタイル品目の作業オーダー処理プログラム (PCW49) の「ロー」メニュー・オプションにある「完了」からアクセスできる作業オーダー完了マトリックス入力プログラム (PCW46) によっても入力されます。
仕入先価格/カタログ・ファイル - 見出し (FCW70)	事業所、カタログ名、仕入先番号、通貨コード、有効日付など、価格詳細に関する一般的な情報が格納されます。
仕入先価格/カタログ・ファイル - 詳細 (FCW71)	事業所、スタイル品目レベル (0 から 9)、品目番号、仕入先番号、通貨コード、単位原価、数量、有効日付など、価格詳細に関する一般的な情報が格納されます。
ワークファイル F43090 (FCW83)	スタイル品目の仕入先/品目関係の情報が一時的に格納されます。FCW83 テーブルには、仕入先/品目関係テーブル (F43090) に格納されているスタイル品目の仕入先/品目関係情報の変更前と変更後のトランザクションが格納されます。変更された仕入先/品目関係情報は、PCW02A アプリケーションによりスタイル品目のすべての子スタイル品目に継承されます。FCW83 テーブルは、子スタイル品目に変更が適用された後にクリアされます。このテーブルは、スタイル品目マスター・ワークファイルのクリア・プログラム (RCW15) を実行するとクリアされます。
外注作業の為替レート (FCW84)	スタイル品目の為替レート情報が格納されます。このテーブルは、スタイル品目外注作業の為替レート・プログラム (PCW62) によって入力されます。このテーブルの情報は、スタイル品目の外注作業詳細の作成 (PCW93) および外注作業詳細のコピー (RCW93) プログラムを使用してスタイル品目の外注作業を作成する際に使用されます。
品目原価要素追加ワークファイル (FCW85)	スタイル品目の品目原価要素の追加情報が、このテーブルの一時ワークファイルに格納されます。このテーブルは、複数レベル品目の改訂プログラム (PCW02A) を終了した後にクリアされます。このテーブルのレコードは、品目原価要素追加テーブル (F30026) に格納されている品目原価要素追加レコードに関連しています。
部品表数量ワークファイル (FCW86)	このテーブルは、PCW12B プログラムによって部品表数量情報のワークファイルとして使用されます。

テーブル	説明
スタイル品目残の除去ログ (FCW87)	ジョブ番号、スタイル品目ルート・レベル0、ビジネスユニット、略式品目番号、第2品目番号、給与計算状況フラグなど、スタイル品目残の除去に関する情報が格納されます。このテーブルは、スタイル品目マスター (PCW51) プログラムおよびコレクション品目マスター (PCW54) プログラムによって入力されます。テーブルの情報を削除するには、スタイル品目残の除去ログ (RCW34) プログラムを実行します。
スタイル品目マスターの除去ログ (FCW88)	除去できなかった品目マスター・レコードが格納されます。このテーブルは、ユーザーがスタイル品目マスター・プログラム (PCW51) やスタイル品目マスター除去プログラム (RCW32) を使用してスタイル品目マスター・レコードを除去するときに入力されます。ユーザーが品目マスター・レコードを取り込もうとすると、RCW32プログラムにより、レコードが除去対象であるかどうか検証が行われます。また、FCW88テーブルにより、除去対象でない品目マスター・レコードが管理されます。
スタイル品目の作業オーダー在庫出庫 (FCW89)	作業オーダーの在庫出庫情報が格納されます。このテーブルは、データ入力時にスタイル品目のマスター作業オーダー部品リスト・プログラム (PCW50) によって入力されます。また、スタイル品目のマスター作業オーダー処理プログラム (PCW49) の「ロー」メニュー・オプションの「出庫在庫」によっても入力されます。
スタイル品目の外注作業へのコピー (FCW93)	スタイル品目の外注作業情報が格納されます。このテーブルは、データ入力時にスタイル品目の外注作業詳細の作成 (PCW93) プログラムによって入力されます。
組成の復元ワークファイル (FCW94)	スタイル品目の組成情報が、このテーブルの一時ワークファイルに格納されます。このテーブルは、複数レベル品目の改訂プログラム (PCW02A) を終了するとクリアされます。このテーブルのレコードは、FCW60テーブルに格納されている品目マスター組成レコードに関連しています。
原材料分析 (FCW96)	作業オーダーに入力された、スタイル品目で使用される原材料構成品について、その引当可能数量の決定に使用される情報が格納されます。
メッセージ・グループ化 (FCW97)	メッセージのマトリックス管理プログラム (PCW47) でグループ化されたメッセージが格納されます。
品目レベル・タイプ (FCW011)	品目構造に関連するレベルが格納されます。各レベルに対応する詳細は、レベル内のバリエーションで構成されます。たとえば、色の定義に使用されるレベルは、スタイル品目に設定可能な様々な色で構成されます。UDCを使用すると、バリエーションの定義にコードを使用するレベルを定義できます。SRPを入力すると、バリエーションの定義にグリッドを使用するレベルを定義できます。ユーザー定義コード値にレベル・タイプを関連付けると、品目構造の定義やFCW01テーブルへの詳細の格納が可能になります。

テーブル	説明
サイズ定義による自動分割 (FCW031)	スタイル品目のグリッド・コードのサイズ定義で使用する分割パーセントが格納されます。このテーブルは、データ入力時にサイズ定義による自動分割 (PCW33) プログラムによって入力されます。
スタイル作業オーダー構成部品仕損情報 (FCW103)	作業オーダー構成部品仕損情報が一時的に格納されます。このテーブルは、データ入力時にスタイル品目のマスター作業オーダー部品リスト (PCW50) プログラム、およびスタイル品目のマスター作業オーダー処理 (PCW49) プログラムによって入力されます。
適正配分/配分率 (FCW105)	スタイル品目の動的な配分率 (適正配分) が格納されます。割当/納入提案の生成プログラム (RCW06) の「条件」タブにある「適正配分」処理オプションの値が「Y」に設定されている場合、このテーブルは提案への適正配分の計算プログラム (RCW60) によって入力されます。
シミュレーション詳細部品リスト (FCW961)	作業オーダーに入力された、スタイル品目の構成部品品目について、その引当可能数量の決定に使用される情報が格納されます。
シミュレーション集計部品リスト (FCW962)	作業オーダーに入力された、すべてのスタイル品目に対する集計ベースの構成部品品目について、その引当可能数量の決定に使用される情報が格納されます。
調整計算 (FCW963)	最小数量と乗数数量に基づく数量の変更中に、各部品リストの数量の調整に使用される情報が格納されます。
FCW02品目構造定義未編集トランザクション・テーブル (FCW02Z1)	受信スタイル品目の詳細が格納されます。スタイル品目受信処理レポート (RCW02Z1) を実行すると、FCW02Z1テーブルに格納されているすべての詳細がFCW02テーブルにコピーされます。
スタイル最終品目ワークファイル (F41F02WF)	親スタイル品目の最終品目が格納され、代替スタイル品目プログラム (PCW48) によって使用されます。
受注オーダー見出しスタイル品目タグ・ファイル (F41F201T)	受注オーダー見出しおよびコレクション情報が、このテーブルのタグ・ファイルに格納されます。コレクション、コレクション・シーズン・コード、コレクション・シーズン、価格有効日付、スタイル受注オーダーのオーダー日付などの情報が格納されます。このテーブルには、将来使用するためのフィールドも含まれています。
受注オーダー見出しスタイル品目タグ履歴ファイル (F41F2019)	受注オーダー見出しスタイル品目タグ履歴データが格納されます。このテーブルは、受注オーダー見出しスタイル品目タグ・ファイル (F41F201T) のレプリカです。
購買オーダー見出しスタイル品目タグ・ファイル (F41F301T)	購買オーダー見出しテーブル (F4301) に、購買オーダー見出しおよびコレクション情報がタグ・テーブルとして格納されます。

JD Edwards EnterpriseOne用語集

アクセサ・メソッド/アクセサ	値オブジェクトまたはその他のソース・ファイルの要素を参照 (get) および設定 (set) するためのJavaメソッドです。
アクティビティ・ルール、処理規則	フロー内で、あるポイントから次のポイントにオブジェクトが進むための条件です。
追加モード	ユーザーによるデータの入力可能なフォームの状態です。
拡張プランニング・エージェント (APAg)	業務データの抽出、加工、読込みに使用するJD Edwards EnterpriseOneのツールです。APAgは、リレーショナル・データベース、フラット・ファイル・フォーマット、およびXMLのような他のデータまたはメッセージ・エンコーディング形式によるデータ・ソースへのアクセスをサポートしています。
代替通貨	<p>取引通貨 (国内のみの取引の場合は国内通貨) として指定した通貨と異なる通貨です。</p> <p>JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでは、代替通貨を使用することにより、入金や支払を請求時とは異なる通貨で入力できます。</p>
アプリケーション・サーバー	分散環境内のアプリケーション・プログラムにビジネス・ロジックを提供するソフトウェアです。アプリケーション・サーバーの例として、Oracle Application Server (OAS) またはWebSphere Application Server (WAS) があげられます。
仮定通貨処理	取引に実際に使用されている通貨とは異なる通貨で、取引の金額を表示できる処理です。
基準日処理	ある時点を指定して、その日付までの取引を集計する処理です。たとえば、基準日を指定してJD Edwards EnterpriseOneの各種のレポートを実行し、その時点での勘定科目やビジネスユニットなどの残高や処理金額を確認できます。
自動コミット・トランザクション	すべてのデータベース操作をすぐにデータベースに書き込むデータベース接続です。
バック・ツーバック・プロセス	JD Edwards EnterpriseOne供給管理で使用されるプロセスで、別のプロセスで使用されるキーと同じキーが含まれます。
バッチ処理	<p>サード・パーティ・システムからJD Edwards EnterpriseOneにレコードを転送する処理です。</p> <p>JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでは、バッチ処理を使用して、JD Edwards EnterpriseOne以外のシステムで入力された請求書や伝票のデータをJD Edwards EnterpriseOne売掛管理やJD Edwards EnterpriseOne買掛管理のシステムに転送できます。また、顧客レコードや仕入先レコードなどの住所録情報も転送できます。</p>
バッチ・サーバー	バッチ処理リクエストの実行用に指定されたサーバーです。通常、バッチ・サーバーにはデータベースは格納されず、対話型アプリケーションが実行されることもありません。
一括バッチ処理	<p>クライアント・ワークステーション上でアプリケーション処理を実行してから、後続の処理を一度にサーバー・アプリケーションに投入するトランザクションの方式です。バッチ処理はサーバー上で実行されるため、クライアント・アプリケーションは引き続き他のタスクを実行できます。</p> <p>“ダイレクト接続”と“オフライン処理”の説明も参照してください。</p>
ベスト・プラクティス	開発者による設計についての意思決定が最適になるように、任意で従うガイドラインです。

BPEL	Business Process Execution Languageの略語です。個別のサービスを組み合わせてエンドツーエンドのプロセス・フローを作成できる、標準Webサービスのオーケストレーション言語です。
BPEL PM	Business Process Execution Language Process Managerの略語です。BPELビジネス・プロセスを作成、デプロイ、管理する包括的インフラストラクチャです。
ビルド構成ファイル	ANTスクリプトを生成するプログラムで使用する、構成の設定が記述されたテキスト・ファイルです。ANTは、ビルド・プロセスを自動化するソフトウェア・ツールです。ANTスクリプトによって、公開ビジネス・サービスが生成されます。
ビルド・エンジニア	アーティファクトの生成、マスタリング、パッケージングの担当者です。ビルド・エンジニアには、アプリケーション・アーティファクトの生成担当者と、基盤のアーティファクトの生成担当者がいます。
ビルド・プログラム	ビルド構成ファイルを読み込み、公開ビジネス・サービスの生成を行うANTスクリプトを生成するWIN32実行ファイルです。
ビジネス・アナリスト	EnterpriseOneのビジネス・サービスの開発を必要とする条件と理由を特定する担当者です。
ビジネス関数	ユーザーによって作成された再利用可能なビジネス・ルールとログのセットで、イベント・ルールを通じて呼び出すことができます。ビジネス関数によって、トランザクションまたはそのサブセットが実行されます（在庫照会、作業オーダー発注など）。また、ビジネス関数にはAPIも含まれているため、フォーム、データベース・トリガー、またはJD Edwards EnterpriseOne以外のアプリケーションから呼び出すこともできます。ビジネス関数は、他のビジネス関数、フォーム、イベント・ルール、その他の構成要素と組み合わせてアプリケーションを構成します。ビジネス関数の作成には、イベント・ルール、またはCなどの第3世代言語を使用します。ビジネス関数の例としては、与信チェック（Credit Check）や在庫照会（Item Availability）などがあげられます。
ビジネス関数イベント・ルール	“ネームド・イベント・ルール（NER）”の説明を参照してください。
ビジネス・サービス	Javaで記述されたEnterpriseOneのビジネス・ロジックです。ビジネス・サービスは、1つ以上のアーティファクトのコレクションです。他に指定されていなければ、ビジネス・サービスは公開ビジネス・サービスとビジネス・サービスの両方を意味します。
ビジネス・サービス・アーティファクト	ビジネス・サービスを開発するために管理され、ビジネス・サービスのビルド・プロセスに必要な、ソース・ファイル、ディスクリプタなどです。
ビジネス・サービス・クラス・メソッド	ビジネス・サービスのフレームワークから提供されるリソースにアクセスするメソッドです。
ビジネス・サービス構成ファイル	interop.ini、JDBj.iniおよびjdelog.propertiesなど（他にもある）の構成ファイルです。
ビジネス・サービス相互参照	オーケストレーション中に使用されるキーと値のデータの組合せです。WSG/XPIベースのシステムにおけるコードとキーの相互参照を表します。
ビジネス・サービス相互参照ユーティリティ	JD Edwards EnterpriseOneのオーケストレーション相互参照データへのアクセスに使用される、BPEL/ESB環境にインストールされたユーティリティ・サービスです。
ビジネス・サービス開発環境	統合開発者がビジネス・サービスを開発および管理する際に必要なフレームワークです。
ビジネス・サービス開発ツール	JDeveloperという名前でも知られています。
ビジネス・サービス EnterpriseOneオブジェクト	EnterpriseOne LCMツールによって管理されるアーティファクトのコレクションです。テーブル、ビュー、フォームなどの他のEnterpriseOneオブジェクトと同様に、EnterpriseOne LCM内に名前付きで表示されます。

ビジネス・サービス・フレームワーク	特にビジネス・サービスの開発を支援する、ビジネス・サービスの基盤の一部です。
ビジネス・サービス・ペイロード	エンタープライズ・サーバーとビジネス・サービス・サーバーとの間で受け渡されるオブジェクトです。ビジネス・サービス・ペイロードには、ビジネス・サービス・サーバーに渡されたときにビジネス・サービスに入力される情報が含まれます。ビジネス・サービス・ペイロードには、エンタープライズ・サービス・サーバーに渡されたときにビジネス・サービスから返される結果が含まれます。通知の際、返されたビジネス・サービス・ペイロードには確認応答が含まれます。
ビジネス・サービス・プロパティ	ビジネス・サービスの動作または機能の制御に使用されるキー値データの組合せです。
ビジネス・サービス・プロパティ管理ツール	開発者および管理者がビジネス・サービス・プロパティのレコードの管理に使用するEnterpriseOneアプリケーションです。
ビジネス・サービス・プロパティのビジネス・サービス・グループ	ビジネス・サービス・プロパティをビジネス・サービス・レベルで分類したものです。通常、ビジネス・サービス名として表されます。1つのビジネス・サービス・レベルには、1つ以上のビジネス・サービス・プロパティ・グループが含まれます。各ビジネス・サービス・プロパティ・グループは、0個以上のビジネス・サービス・プロパティ・レコードを含むことができます。
ビジネス・サービス・プロパティのカテゴリ化	ビジネス・サービス・プロパティをカテゴリ化する方法です。これらのプロパティは、ビジネス・サービス別にカテゴリ化されます。
ビジネス・サービス・プロパティ・キー	ビジネス・サービス・プロパティをシステム全体でグローバルに識別する一意の名前です。
ビジネス・サービス・プロパティ・ユーティリティ	EnterpriseOneのビジネス・サービス・プロパティ・データにアクセスするためにビジネス・サービスの開発で使用するユーティリティAPIです。
ビジネス・サービス・プロパティ値	ビジネス・サービス・プロパティの値です。
ビジネス・サービス・リポジトリ	ビジネス・サービス・アーティファクトおよびビルド・ファイルを格納するClearCaseなどのソース管理システムです。または、ネットワーク内の物理ディレクトリのことをいいます。
ビジネス・サービス・サーバー	ビジネス・サービスが置かれる物理マシンです。ビジネス・サービスは、アプリケーション・サーバー・インスタンス上で実行されます。
ビジネス・サービス・ソース・ファイル/ビジネス・サービス・クラス	ビジネス・サービス・アーティファクトの種類の1つです。Javaコンパイラでコンパイルされるように記述された、javaファイル・タイプのテキスト・ファイルです。
ビジネス・サービス値オブジェクト・テンプレート	Cビジネス関数で使用する、ビジネス・サービス値オブジェクトの構造表現です。
ビジネス・サービス値オブジェクト・テンプレート・ユーティリティ	ビジネス・サービス値オブジェクトからビジネス・サービス値オブジェクト・テンプレートを作成する際に使用されるユーティリティです。
ビジネス・サービス・サーバー・アーティファクト	ビジネス・サービス・サーバーにデプロイされるオブジェクトです。
ビジネス・ビュー	アプリケーションやレポートでデータが使用されているJD Edwards EnterpriseOne テーブル(複数可)から、特定のカラムを選択するために使用されます。ビジネス・ビュー自体には特定のローを選択する機能はありません。また、ビジネス・ビューに実際のデータは含まれていません。ビジネス・ビューは、情報の表示専用の機能であり、このビューを介してデータを操作できます。
セントラル・オブジェクトのマージ	現行のリリースで顧客がオブジェクトに加えた変更を、新規のリリースのオブジェクトに統合する処理です。
セントラル・サーバー	最初にインストールされ、クライアント・マシンに配布されるソフトウェア・バージョン(セントラル・オブジェクト)を格納するために指定されたサーバーです。JD

	Edwards EnterpriseOneの典型的なインストールでは、ソフトウェアは1つのマシン、すなわちセントラル・サーバーにロードされます。次に、セントラル・サーバーにつながっている各種のワークステーションに対して、ソフトウェアのコピーがプッシュ・アウトまたはダウンロードされます。このような構成にすることで、ワークステーション上での使用によってソフトウェアが変更されたり、破損したりした場合でも、常にセントラル・サーバーから変更前のオブジェクトのセット(セントラル・オブジェクト)を入手できます。
チャート	JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアのフォームに表示される表形式の情報です。
チェックイン・リポジトリ	開発者がビジネス・サービス・アーティファクトをチェックインおよびチェックアウトするリポジトリです。チェックイン・リポジトリは複数あります。各リポジトリは、それぞれ別の目的に使用されます(開発、本稼働、テストなど)。
コネクタ	JD Edwards EnterpriseOneとサード・パーティ・アプリケーションの間にロジックとデータの共有を可能にする、コンポーネント・ベースのインタオペラビリティ(相互運用)モデルです。JD Edwards EnterpriseOneコネクタ・アーキテクチャにはJavaコネクタとCOMコネクタが含まれています。
相殺/相手勘定	JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementの一般会計勘定科目であり、仕訳入力の相殺(貸借一致)処理に使用されます。たとえば、相殺/相手勘定を使用して、JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでの配賦によって作成された会計入力の貸借一致を行います。
コントロール・テーブル・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行中に、必要なマージを行うためのバッチ・アプリケーションを実行するアプリケーションです。このマージにより、データ辞書、ユーザー定義コード、メニュー、ユーザー一時変更テーブルが更新されます。
コントロール・テーブルのマージ	顧客がコントロール・テーブルに加えた変更を、新規リリースのデータに統合する処理です。
関連データ	ビジネス・サービス名およびメソッドで構成されるリクエストとHTTPレスポンスとの関連付けに使用されるデータです。
コスト割当	JD Edwards EnterpriseOne収益性分析のプロセスであり、アクティビティまたはコスト・オブジェクトへのリソースの配賦またはトレースに使用されます。
原価要素	JD Edwards EnterpriseOne製造管理において、特定の品目の原価を構成する要素(資材費、人件費、間接費など)を表します。
資格証明	JD Edwards EnterpriseOneのユーザー名/パスワード/環境/ロール、EnterpriseOneセッションまたはEnterpriseOneトークンの有効なセットです。
相互参照ユーティリティ・サービス	EnterpriseOneの相互参照データへのアクセスに使用される、BPEL/ESB環境にインストールされたユーティリティ・サービスです。
セグメント間編集	コンフィギュレーション可能な品目セグメント間の関係を設定する論理ステートメントです。セグメント間編集を使用して、製造不可能なコンフィギュレーションに基づくオーダーを防ぐことができます。
通貨再換算	通貨を別の通貨に換算するプロセスであり、一般的にレポートで使用されます。たとえば、通貨再換算のプロセスを使用して、様々な通貨を単一の通貨に換算する必要がある連結レポートの作成に対応できます。
cXML	伝票と調達アプリケーションとの通信や、電子商取引ハブと仕入先との通信の簡素化に使用されるプロトコルです。
データベース資格証明	有効なデータベース・ユーザー名/パスワードです。
データベース・サーバー	データベースの管理やクライアント・マシンの検索を実行するローカル・エリア・ネットワーク内のサーバーです。

データ・ソース・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行中に、インストール・プランに定義されたすべてのデータ・ソースを、プランナのデータ・ソースに含まれるテーブル/データ・ソース・サイジング・テーブルおよびデータ・ソース・マスターから、システムのリリース番号のデータ・ソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、データ・ソース・プラン詳細レコードも更新されます。
期間パターン	標準会計と52期間会計で、会計年度の開始日とその会計年度内の各期間の終了日を表すカレンダーです。
指定通貨	会社の財務レポートで基準として使用される通貨です。
デプロイメント・アーティファクト	サーバー、ポートなど、デプロイメント・プロセスに必要なアーティファクトです。
デプロイメント・サーバー	エンタープライズ・サーバーとクライアント・マシンへのソフトウェアのインストールや、それらのソフトウェアの管理、配布に使用されるサーバーです。
明細情報	JD Edwards EnterpriseOneの取引における個別の行に関する情報です。伝票支払品目や受注オーダー明細行などがあります。
ダイレクト接続	クライアント・アプリケーションとサーバー・アプリケーションが対話形式で直接通信するトランザクション方式です。 “一括バッチ処理”、“オフライン処理”の説明も参照してください。
DNT (Do Not Translate)	BLOBデータの制約のため、iSeriesサーバーに必要なデータ・ソースのタイプです。
2重価格設定	商品やサービスに対し、2種類の通貨で価格を設定するプロセスです。
重複した公開ビジネス・サービス承認レコード	同じユーザー識別情報と公開ビジネス・サービス識別情報を持つ、2つの公開ビジネス・サービス承認レコードです。
埋込みアプリケーション・サーバー・インスタンス	JDeveloperから起動され、完全にJDeveloper内で実行されるOC4Jインスタンスです。
編集コード	レポートやフォーム上の特定の値が、どのように表示またはフォーマットされるべきかを示すコードです。レポートに属するデフォルトの編集コードは大量の情報に関連しているため、使用時には注意が必要です。
編集モード	ユーザーによるデータの変更が可能なフォームの状態です。
編集ルール	ユーザーが入力したデータを、事前に定義されたルールやルールのセットに照合して、フォーマットや検証を行うための方法です。
電子データ交換 (EDI)	JD Edwards EnterpriseOneシステムとサード・パーティ・システムの間で、コンピュータ間の業務取引データの交換をペーパーレスに行うことを可能にするインタオペラビリティ・モデルです。EDIを使用する場合、EDI標準フォーマットから自社システムで使用されているフォーマットにデータを変換するためのソフトウェアを備えている必要があります。
埋込みイベント・ルール	特定のテーブルやアプリケーション専用のイベント・ルールです。たとえば、フォーム間の呼び出し、処理オプションの値に基づくフィールドの非表示化、ビジネス関数の呼び出しなどが含まれます。汎用的な“ビジネス関数イベント・ルール”とは対照的に使用されます。
従業員ワーク・センター	発信側のアプリケーションやユーザーに関係なく、システム生成メッセージとユーザー作成メッセージを含むすべてのJD Edwards EnterpriseOneメッセージの送受信を行うための中心となるロケーションです。各ユーザーには、アクティブ・メッセージなどのメッセージやワークフローを含むメールボックスが割り当てられます。
エンタープライズ・サーバー	JD Edwards EnterpriseOneのデータベースとロジックを格納するサーバーです。

ESB (Enterprise Service Bus)	イベント駆動型のXMLベースのメッセージング・フレームワーク(バス)を使用してサービス指向アーキテクチャを有効にする、Webサービス標準に準拠したミドルウェア・インフラストラクチャ製品またはテクノロジーです。
EnterpriseOne管理者	EnterpriseOne管理システムの担当者です。
EnterpriseOne資格証明	EnterpriseOneユーザーの検証に使用される、ユーザーID、パスワード、環境およびロールです。
EnterpriseOneオブジェクト	アプリケーションのビルドに使用される再利用可能なコードです。オブジェクトのタイプには、テーブル、フォーム、ビジネス関数、データ辞書項目、バッチ処理、ビジネス・ビュー、イベント・ルール、バージョン、データ構造体、メディア・オブジェクトなどがあります。
EnterpriseOne開発クライアント	以前は“ファット・クライアント”と呼ばれていた、Microsoft Windowsのクライアントおよび設計ツールを含む、EnterpriseOneアーティファクトの開発に必要なインストール済EnterpriseOneコンポーネントのコレクションです。
EnterpriseOne拡張機能	EnterpriseOne固有の、JDeveloperのコンポーネント(プラグイン)です。JDeveloperウィザードは、拡張機能の具体例の1つです。
EnterpriseOneプロセス	JD Edwards EnterpriseOneクライアントおよびサーバーで、プロセス・リクエストの処理とトランザクションの実行を可能にするソフトウェア・プロセスです。クライアントでは1つのプロセスが実行され、サーバーでは1つのプロセスの複数のインスタンスを処理できます。JD Edwards EnterpriseOneプロセスを、ワークフロー・メッセージやデータ・レプリケーションなど特定のタスク専用のプロセスに指定することで、サーバーが大量のタスクを処理している場合でも重要なプロセスの実行を確保できます。
EnterpriseOneリソース	権限を持つユーザーに限定された、EnterpriseOneのテーブル、メタデータ、ビジネス関数、辞書情報またはその他の情報です。
環境ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、環境情報および各環境のオブジェクト構成マネージャ・テーブルを、プランナ・データ・ソースからシステム・リリース番号のデータ・ソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、環境プラン詳細レコードも更新されます。
エスカレーション・モニター	処理待ちのリクエストやアクティビティを監視し、それらが非アクティブの状態のまま指定した時間が経過した場合に、再実行するか、または次のステップやユーザーに処理を進めるバッチ・プロセスです。
イベント・ルール	フォームの入力や、フィールド間の移動など、特定のアプリケーションで実行された操作に基づいて処理(複数可)の実行をシステムに指示する論理ステートメントです。
明示的トランザクション	ビジネス・サービス開発者がビジネス・サービス内のトランザクション境界のタイプ(自動または手動)および範囲を明示的に制御する際に使用されるトランザクションです。
公開されたメソッド/値オブジェクト	公開インターフェイスの一部である、公開ビジネス・サービスのソース・ファイルまたはその一部です。顧客との契約の一部でもあります。
施設、事業所	原価のトラッキングの対象となる業務単位の1つです。たとえば、倉庫所在地、ジョブ、プロジェクト、ワーク・センター、事業所などがあります。“ビジネスユニット”と呼ばれる場合もあります。
略式コマンド	特定のコマンドを使用することで、メニューやアプリケーション間を迅速に移動できるコマンド・プロンプト機能です。
ファイル・サーバー	ネットワーク上で他のコンピュータからアクセスされるファイルを保存するサーバーです。リモート・ディスク・ドライブとしてユーザーに表示されるディスク・サーバーとは異なり、ファイル・サーバーには、単にファイルを保存するだけでなく、ネッ

	トワーク・ユーザーがファイルをリクエストしたりファイルを更新した場合に、それらの要求を整理してファイルを管理するための高度な機能が備えられています。
最終モード	データ・レコードの更新や作成を行うプログラムの処理モードの1つです。
基盤	実行時にビジネス・サービスを実行するためにアクセス可能にする必要のあるフレームワークです。例として、Java ConnectorおよびJDBjがあげられます(この他にもあります)。
FTPサーバー	FTP(ファイル転送プロトコル)を通じてファイルへのリクエストに応答するサーバーです。
見出し情報	テーブルやフォームの先頭に表示される情報です。見出し情報を使用して、付随するレコード・グループの制御情報が識別または提供されます。
HTTPアダプタ	特定のURLを指定したGET、POST、PUT、DELETE、TRACE、HEADおよびOPTIONSなどの基本HTTP操作に使用される、サービスの汎用セットです。
インスタンス化	“作成する”という意味のJava用語です。クラスがインスタンス化されると、新しいインスタンスが作成されます。
統合開発者	EnterpriseOneビジネス・サービスを開発、実行およびデバッグする、システムのユーザーです。統合開発者は、EnterpriseOneビジネス・サービスを使用してそのようなコンポーネントを開発します。
インテグレーション・ポイント(IP)	ドキュメント・レベルのインターフェイスを公開する、EnterpriseOneの以前の実装におけるビジネス・ロジックです。このタイプのロジックは、XBPと呼ばれていました。EnterpriseOne 8.11では、webMethodsのサポートにより、IPがWebサービスゲートウェイに実装されました。
インテグレーション・サーバー	コンピュータが内部および外部のネットワークで接続されたシステム環境で、異なるオペレーティング・システムやアプリケーション間でのデータの交換を行うための機能を提供するサーバーです。
整合性テスト	データの整合性を維持するための社内プロセスを補強するプロセスで、貸借が一致していないデータや矛盾のあるデータの検出と報告を行います。
インターフェイス・テーブル	“Zテーブル”の説明を参照してください。
内部メソッド/値オブジェクト	公開インターフェイスの一部ではない、ビジネス・サービスのソース・ファイルまたはその一部です。privateメソッドまたはprotectedメソッドがこれに相当するといえます。publishedメソッドで使用されない値オブジェクトもこれに相当するといえます。
インタオペラビリティ・モデル	サード・パーティ・システムからJD Edwards EnterpriseOneへの接続やアクセスを行うための機能です。
エラー表示の有効化	JD Edwards EnterpriseOneにおけるフォーム・レベルのプロパティで、有効にすると、アプリケーション・エラーが発生した場合にエラー・メッセージがフォーム上に表示されます。
IServerサービス	Webサーバーに常駐するインターネット・サーバーサービスで、データベースからクライアントへのJavaクラスのファイル配信を高速化するために使用されます。
代替ラベル	代替的なデータ辞書項目のラベルで、使用されているオブジェクトの製品コードに基づいてJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションに表示されます。
Javaアプリケーション・サーバー	サーバー中心のアーキテクチャの中間層に置かれるコンポーネント・ベースのサーバーです。このサーバーは、データのアクセスや永続性ととともに、セキュリティとステータスの管理を行うためのミドルウェア・サービスを提供します。
JDBNET	異種サーバー間でのデータ・アクセスを実現するためのデータベース・ドライバです。

JDEBASEデータベース・ミドルウェア	JD Edwards EnterpriseOne独自のデータベース・ミドルウェア・パッケージで、プラットフォームに依存しないAPIとクライアント/サーバー間のアクセスを提供します。
JDECallObject	ビジネス関数から他のビジネス関数を呼び出すためのAPIです。
jde.ini	JD Edwards EnterpriseOneの初期設定に必要なランタイム設定を提供するJD Edwards EnterpriseOneファイル(またはiSeries用のメンバー)です。JD Edwards EnterpriseOneを実行する各マシンごとに、ファイルまたはメンバーの特定バージョンを常駐させる必要があります。これには、ワークステーションとサーバーも含まれます。
JDEIPC	サーバーコードによって使用される通信プログラミング・ツールであり、マルチプロセス環境における同一データへのアクセス制御、プロセス間の通信と調整、新規プロセスの作成を行います。
jde.log	JD Edwards EnterpriseOneの主要な診断ログ・ファイルです。このファイルは常に主ドライブのルート・ディレクトリに置かれ、JD Edwards EnterpriseOneの起動以降の状況とエラー・メッセージが書き込まれます。
JDENET	JD Edwards EnterpriseOne独自の通信ミドルウェア・パッケージで、ピア・ツーピア、メッセージ・ベース、ソケット・ベースのマルチプロセス通信用のミドルウェア・ソリューションです。JD Edwards EnterpriseOneのすべてのサポート対象プラットフォームでクライアント/サーバー間、サーバー/サーバー間の通信を処理します。
JDeveloperプロジェクト	JDeveloperでソース・ファイルのカテゴリ化およびコンパイルに使用されるアーティファクトです。
JDeveloperワークスペース	JDeveloperでプロジェクト・ファイルの編成に使用されるアーティファクトです。1つ以上のプロジェクト・ファイルがここに配置されます。
JMSキュー	ポイントツーポイントのメッセージングに使用されるJavaメッセージング・サービス・キューです。
リスナー・サービス	HTTP経由でXMLメッセージをリスニングするリスナーです。
ローカル・リポジトリ	ビジネス・サービス・アーティファクトの格納に使用される、開発者のローカル開発環境です。
ローカルのスタンドアロンBPEL/ESBサーバー	アプリケーション・サーバーにインストールされていない、スタンドアロンBPEL/ESBサーバーです。
ロケーション・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、インストール・プランに定義されたすべてのロケーションを、プランナ・データ・ソースの保管場所マスターからシステム・データ・ソースにコピーするアプリケーションです。
ロジック・サーバー	アプリケーション・プログラムにビジネス・ロジックを提供する、分散ネットワーク内のサーバーです。典型的なコンフィギュレーションでは、プリスティン・オブジェクトがセントラル・サーバーからロジック・サーバーに複製されます。JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアの実行時に、ロジック・サーバーでは、ワークステーションと連動して、必要な処理が実際に実行されます。
差し込み印刷ワークベンチ	業務文書を自動的に印刷するため、Microsoft Word 6.0またはそれ以上のバージョンの文書とJD Edwards EnterpriseOneのレコードをマージするアプリケーションです。たとえば、雇用の証明に関する文書を印刷する際に、差し込み印刷ワークベンチを使用できます。
手動コミット・トランザクション	コミットがコールされるまで、すべてのデータベース操作によるデータベースへの書き込みが遅延されるデータベース接続です。
マスター・ビジネス関数(MBF)	データベース内の情報の追加、変更、更新を担う中心のロケーションとして機能する対話型のマスター・ファイルです。マスター・ビジネス関数によって、データ入力フォームと該当するテーブル間でのデータの交換が行われます。マスター関数によって、すべての必要なデフォルト値と編集ルールを含む関数の共通セット

	が、関連するプログラムに提供されます。MBFには、データベースの情報を追加、更新、削除する際の整合性を確保するロジックが含まれています。
マスター・テーブル	“パブリッシュ済テーブル”の説明を参照してください。
照合伝票	取引を完了または変更するために、当初伝票と関連付けられる伝票です。たとえば、JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでは、入金請求書の照合伝票に、支払が支払伝票の照合伝票になります。
メディア・ストレージ・オブジェクト	Gxxx、xxxGT、またはGTxxxのいずれかの命名規則を使用するファイルで、テーブルの形で分類されていないオブジェクトです。
メッセージ・センター	発信側のアプリケーションやユーザーに関係なく、システム生成メッセージとユーザー作成メッセージを含むすべてのJD Edwards EnterpriseOneメッセージの送受信を行うための中心となるロケーションです。
メッセージング・アダプタ	サード・パーティ・システムからJD Edwards EnterpriseOneに接続し、メッセージ・キューを使用してデータの交換を行うためのインタオペラビリティ・モデルです。
メッセージング・サーバー	メッセージングAPIを使用して、他のプログラムで使用するために送信されたメッセージを処理するサーバーです。メッセージング・サーバーには、通常、関数を実行するためのミドルウェア・プログラムが配備されます。
中間層BPEL/ESBサーバー	アプリケーション・サーバーにインストールされたBPEL/ESBサーバーです。
監視アプリケーション	管理者が各種EnterpriseOneサーバーの統計情報を取得し、統計をリセットしたり通知を設定したりできる、EnterpriseOneのツールです。
ネームド・イベント・ルール (NER)	カプセル化された再利用可能なビジネス・ロジックです。C言語ではなく、イベント・ルールを使用して作成されます。NERは、ビジネス関数イベント・ルールとも呼ばれます。NERは、複数のプログラムによって、複数の場所で繰り返し使用できます。このようなモジュール方式での提供によって、コードの合理性や再利用性が高まり、必要な作業がより少なくなります。
Nota Fiscal	ブラジルでは、税務処理のためにすべての商取引についてこの書式を作成し、税法で指定された情報を含めることが義務付けられています。
Nota Fiscal Factura	ブラジルで使用する書式です。伝票情報を伴う“Nota Fiscal”です。 “Nota Fiscal”の説明も参照してください。
オブジェクト構成マネージャ (OCM)	JD Edwards EnterpriseOneでは、ランタイム環境で使用されるオブジェクトのリクエスト・ブローカーおよび制御センターとして機能します。OCMによって、ビジネス関数、データ、バッチ・アプリケーションのランタイム・ロケーションが追跡されます。これらのオブジェクトのいずれかが呼び出されると、OCMでは、指定された環境/ユーザーのデフォルト値と一時変更情報に基づいて、そのオブジェクトにアクセスするためのロケーションが特定されます。
オブジェクト・ライブラリアン	アプリケーションのビルドに繰り返し使用できるすべてのバージョン、アプリケーション、ビジネス関数のリポジトリです。オブジェクト・ライブラリアンによって、開発者にチェックアウト機能とチェックイン機能が提供されます。また、JD Edwards EnterpriseOneオブジェクトの作成、変更、使用も管理されます。オブジェクト・ライブラリアンは、稼働環境や開発環境など複数の環境に対応しているため、異なる環境間でオブジェクトを簡単に移動できます。
オブジェクト・ライブラリアンのマージ	これまでのリリースでオブジェクト・ライブラリアンに加えられたすべての変更を、新規リリースのオブジェクト・ライブラリアンに統合する処理です。
オープン・データ・アクセス (ODA)	データの集計とレポート作成のために、SQLステートメントを使用してJD Edwards EnterpriseOneのデータを抽出できるインタオペラビリティ・モデルです。

出力ストリーム・アクセス(OSA)	JD Edwards EnterpriseOneのインターフェイスを設定し、別のソフトウェア・パッケージ (Microsoft Excelなど) にデータを渡して処理を実行するためのインタオペラビリティ・モデルです。
パッケージ	JD Edwards EnterpriseOneオブジェクトは、デプロイメント・サーバーからパッケージとしてワークステーションにインストールされます。パッケージには、部品表やキットなどのように、各ワークステーションに必要なオブジェクトが含まれます。さらに、デプロイメント・サーバー上でのオブジェクトの位置が示されるため、インストール・プログラムがそれらのオブジェクトを検出できるようになっています。パッケージは、ある時点におけるデプロイメント・サーバー上のセントラル・オブジェクトを示すスナップ・ショットでもあります。
パッケージ・ビルド	既存ユーザーに対し、ソフトウェアの変更や新規アプリケーションの反映を容易に行うためのソフトウェア・アプリケーションです。また、JD Edwards EnterpriseOneでは、パッケージ・ビルドとは、ソフトウェアのコンパイル済バージョンを指す場合もあります。たとえば、使用しているERPソフトウェアのバージョンをアップグレードする際に、“パッケージ・ビルド”を使用するという場合があります。 “パッケージ・ビルド”という用語は、たとえば次のようにも使用されます「また、パッケージ・ビルドの間に行われるビジネス関数のグローバル・ビルドには新しい関数が自動的に含まれるため、デプロイの準備ができるまでビジネス関数を本稼働パス・コードに含めないでください」。このように、パッケージ・ビルドを作成するプロセスが“パッケージ・ビルド”と呼ばれる場合もあります。
パッケージ・ロケーション	パッケージとその複製オブジェクトのセットが格納されるディレクトリ構造上の位置です。通常は、“¥¥デプロイメント・サーバー¥リリース¥パス・コード¥パッケージ¥パッケージ名”になります。このパスの下の子ディレクトリに、パッケージの複製オブジェクトが格納されます。パッケージがビルドまたは格納される場所を指す場合もあります。
パッケージ・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、パッケージ情報テーブルを、プランナ・データ・ソースからシステム・リリース番号データ・ソースに転送するアプリケーションです。処理の結果を反映するため、パッケージ・プラン詳細レコードも更新されます。
パスコード・ディレクトリ	EnterpriseOne開発アーティファクトを格納する、EnterpriseOne開発クライアント上にあるファイル・システムの特定の部分です。
パターン	ソフトウェアの設計でよく発生する問題に対し、繰り返して使用される一般的な解決策です。ビジネス・サービスの開発では、オブジェクトのリレーションシップとやり取りに重点が置かれます。オーケストレーションでは、統合パターン (同期/非同期のリクエスト/レスポンス、パブリッシュ、通知、受信/応答など) に重点が置かれます。
計画ファミリ	設計と製造に類似点があるため、まとめて計画する方が合理的である複数の最終品目をグループ化する手段です。
優先プロファイル	品目、品目グループ、顧客、および顧客グループについて、ユーザー定義の階層 (順序) に基づいて指定したフィールドのデフォルト値を定義する機能です。
プリント・サーバー	ネットワークとプリンタ間のインターフェイスであり、ネットワーク・クライアントはこのインターフェイスを介してプリンタに接続し、印刷ジョブを送信します。コンピュータ、独立したハードウェア・デバイス、またはプリンタ内部のハードウェアのどれでも、プリンタ・サーバーとして使用できます。
プリステイン環境	JD Edwards EnterpriseOneのデモ・データを使用した未変更オブジェクトのテストに使用するJD Edwards EnterpriseOne環境です。研修環境としても使用されます。変更したオブジェクトと変更前のオブジェクトを比較するには、この環境が必要になります。
処理オプション	バッチ・プログラムやレポートの実行を制御するパラメータをユーザーが指定するためのデータ構造です。たとえば、処理オプションを使用して、特定のフィールド

	<p>ドのデフォルト値の指定、情報の表示および印刷の方法、日付範囲の指定、プログラムの実行を制御するランタイム値の入力などを行います。</p>
本稼働用環境	<p>ユーザーがJD Edwards EnterpriseOneソフトウェアを実際に使用するJD Edwards EnterpriseOne環境です。</p>
本稼働レベルのファイル・サーバー	<p>品質が保証され商品化されたファイル・サーバーで、通常はユーザーサポート・サービスとともに提供されます。</p>
本稼働公開ビジネス・サービスのWebサービス	<p>本稼働アプリケーション・サーバーにデプロイされた、公開ビジネス・サービスのWebサービスです。</p>
プログラム一時修正 (PTF)	<p>JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアに加えられた変更で、磁気テープやディスクの形式でユーザー企業に提供されます。</p>
プロジェクト	<p>JD Edwards EnterpriseOneでは、オブジェクト管理ワークベンチで開発されたオブジェクトのための仮想コンテナを指します。</p>
プロモーション・パス	<p>ワークフロー内におけるオブジェクトやプロジェクトの進捗状況を示すパスです。標準的なプロモーション・サイクル(パス)は次のとおりです。</p> <p>11>21>26>28>38>01</p> <p>このパスでは、11は検討待ちの新規プロジェクト、21はプログラミング、26は品質管理テスト/検討、28は品質管理テスト/検討の完了、38は本稼働、01はサイクルの完了をそれぞれ表します。たとえば標準的なプロジェクト・プロモーション・サイクルで、開発者は、開発(プログラミング)のパス・コードからチェックアウトしたオブジェクトをチェックインして戻したら、それらのオブジェクトをプロトタイプ(テスト)のパス・コードに進めます。すべての作業が終了したオブジェクトは、完了の前に本稼働のパス・コードに移されます。</p>
プロキシ・サーバー	<p>企業がセキュリティ管理、管理統制、サービスのキャッシュ化を確実に行うことができるように、ワークステーションとインターネットの間で防壁として機能するサーバーです。</p>
公開ビジネス・サービス	<p>EnterpriseOneのサービス・レベルのロジックおよびインターフェイスです。公開ビジネス・サービスに分類されている場合、外部(EnterpriseOne以外)のシステムに公開する意図があることを示しています。</p>
公開ビジネス・サービス識別情報	<p>関係のある承認レコードの特定に使用される、公開ビジネス・サービスに関する情報です。公開ビジネス・サービスとメソッド名、公開ビジネス・サービスのみ、または*ALLが使用されます。</p>
公開ビジネス・サービスのWebサービス	<p>J2EE Webサービスとしてパッケージされた、公開ビジネス・サービスのコンポーネント(つまり、ビジネス・サービス・クラス、ビジネス・サービス基盤、構成ファイルおよびWebサービス・アーティファクトを格納したJ2EE EARファイル)です。</p>
パブリッシュ済テーブル	<p>マスター・テーブルとも呼ばれ、他のマシンにレプリケートされる元のテーブルです。パブリッシュ・マシンに格納されるF98DRPUBテーブルにより、企業内のすべてのパブリッシュ済テーブルと関連するパブリッシュが識別されます。</p>
パブリッシュ	<p>パブリッシュされたテーブルを扱うサーバーです。F98DRPUBテーブルでは、企業内のすべてのパブリッシュ済テーブルと関連するパブリッシュの識別が行われます。</p>
プル・レプリケーション	<p>JD Edwards EnterpriseOneでデータを個別のワークステーションにレプリケートする方法の1つです。レプリケート先のマシンは、JD Edwards EnterpriseOneのデータ・レプリケーション・ツールを使用して、プル・サブスクライバとしてセットアップされます。プル・サブスクライバが情報を要求した場合にのみ、変更、更新、削除が通知されます。通常は起動時に、プル・サブスクライバからF98DRPCNテーブルが置かれているサーバーに対し、要求がメッセージ形式で送信されます。</p>

QBE	Query by Example (例示照会) の略語です。JD Edwards EnterpriseOne では、QBE 行は、詳細グリッドの最上段にあり、データのフィルタリングに使用されます。
リアルタイム・イベント	外部システムで使用するために EnterpriseOne のアプリケーション・ロジックからトリガーされるメッセージです。
リフレッシュ	新規リリースや PTF/累積アップデート・リリース (B73.2 や B73.2.1 など) に問題なく対応できるように、JD Edwards EnterpriseOne ソフトウェアまたはそのサブセット (テーブルや業務データなど) を修正する機能です。
レプリケーション・サーバー	クライアント・マシンへのセントラル・オブジェクトのレプリケーションを扱うサーバーです。
Rt-Addressing	ビジネス・サービス呼出しリクエストのホスト/ポート・ユーザー・セッションを開始するブラウザ・セッションを特定する一意のデータです。
規則	ツールによって強制されるのではなく、目的の結果を得るため、および指定された標準に準拠するために従う必須のガイドラインです。
見積オーダー	JD Edwards EnterpriseOne 調達管理および外注管理では、仕入先からの品目情報と価格情報のリクエストを指します。見積オーダーから購買オーダーを作成できます。 JD Edwards EnterpriseOne 受注管理では、まだ発注を行っていない顧客に対する品目情報と価格情報を指します。
Secure by Default	特定のレコードによってユーザーがオブジェクトの実行権限を持つことが示されないかぎり、ユーザーがオブジェクトの実行権限を持たないとみなすセキュリティ・モデルです。
SSL (Secure Socket Layer)	通信の機密性を提供するセキュリティ・プロトコルです。SSL を使用することで、クライアントとサーバー・アプリケーションは、盗聴、改ざん、なりすましを防ぐように設計された方法で通信できます。
SEI 実装	サービス・エンドポイント・インターフェイス (SEI) を宣言するメソッドを実装する Java クラスです。
選択項目	JD Edwards EnterpriseOne メニューに表示される選択項目は、メニューからアクセスできる各機能を表します。選択するには、関連する番号を選択フィールドに入力して [Enter] キーを押します。
シリアルライズ	オブジェクトやデータを、格納用の形式またはネットワーク接続リンク上で送受信できる形式に変換し、必要なときに元のデータやオブジェクトを再作成できるプロセスです。
サーバーワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、サーバー設定ファイルを、プランナ・データ・ソースからシステム・リリース番号データ・ソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、サーバープラン詳細レコードも更新されます。
サービス・エンドポイント・インターフェイス (SEI)	クライアントからのサービスの呼出しを可能にするメソッドを宣言する Java インターフェイスです。
SOA	Service Oriented Architecture の略語です。
ソフトコーディング	指定されたプロセスの実行に影響するサイト固有の変数を管理者が操作できるコーディング技術です。
ソース・リポジトリ	HTTP アダプタおよびリスナー・サービス開発環境アーティファクト用のリポジトリです。
スポット・レート	取引レベルで入力される為替レートです。このレートは、2つの通貨の間に設定されている為替レートより優先して使用されます。

スペックのマージ	オブジェクト・ライブラリアン、バージョン・リスト、およびセントラル・オブジェクトの3つのマージで構成されるマージ処理です。この機能を使用して、顧客が変更したデータを新規リリースのデータに統合できます。
スペック	JD Edwards EnterpriseOneオブジェクトを完全に記述したものです。各オブジェクトには、アプリケーションのビルドに使用される固有のスペックまたは名前があります。
スペック・テーブル・マージ・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、スペック・テーブルを更新するためのバッチ・アプリケーションを実行するアプリケーションです。
SSL証明書	ユーザー名およびそのユーザーの公開鍵が記載された、認証局が署名した特別なメッセージです。メッセージが認証局によって正規に署名されたことを誰もが確認でき、そのためユーザーの公開鍵に対する信用が強化されます。
オフライン処理	サーバーに接続していないユーザーがトランザクションを入力し、後でサーバーに接続して、入力したトランザクションをアップロードできる処理モードです。
サブスクリバ・テーブル	F98DRSUBテーブルを指します。このテーブルは、F98DRPUBテーブルとともにパブリッシャ・サーバーに置かれ、各パブリッシュ済テーブルに対するすべてのサブスクリバ・マシンの識別に使用されます。
スーパークラス	クラスは何かのインスタンスであり、それをさらに詳細にしたものであるという、Java言語の継承についての概念です。たとえば、木は樅や榎のスーパークラスであるといえます。
補足データ	<p>マスター・テーブルで管理されないすべての情報を指します。通常、補足データとして、従業員、応募者、購買要求、職務(従業員の技能、取得学位、語学力など)に関する情報があります。補足データを使用することにより、実質的に組織で必要となるすべての情報を追跡管理できます。</p> <p>たとえば、標準のマスター・テーブル(住所録マスター、顧客マスター、仕入先マスター)とは別に、それらのテーブルでは管理されない情報を汎用データベースで管理します。汎用データベースを使用することで、JD Edwards EnterpriseOneシステム全体にわたって、標準的な方法で補足データの入力と管理を行うことができます。</p>
テーブル・アクセス管理(TAM)	ユーザー定義データの保存と取得を行うJD Edwards EnterpriseOneコンポーネントです。TAMには、データ辞書定義、アプリケーション/レポートのスペック、イベント・ルール、テーブル定義、ビジネス関数入力パラメータ、ライブラリ情報などの情報と、アプリケーション、レポート、ビジネス関数を実行するためのデータ構造体の定義が保存されます。
テーブル変換ディレクタ	JD Edwards EnterpriseOneと、JD Edwards EnterpriseOne以外のテーブルを使用するサード・パーティ・システムとの間で、データ交換を行うためのインタオペラビリティ・モデルです。
テーブル変換	JD Edwards EnterpriseOneと、JD Edwards EnterpriseOne以外のテーブルを使用するサード・パーティ・システムとの間で、データ交換を行うためのインタオペラビリティ・モデルです。
テーブル・イベント・ルール	データベース・トリガーに添付されるロジックで、トリガーに指定されたアクションがテーブルに対して発生した場合に起動します。JD Edwards EnterpriseOneでは、イベント・ルールをアプリケーションのイベントに添付できますが、この機能はアプリケーション固有になります。テーブル・イベント・ルールでは、テーブル・レベルで埋込みロジックを提供します。
ターミナル・サーバー	このサーバーを使用して、端末、マイクロコンピュータ、その他の機器を、ネットワーク/ホスト・コンピュータ、または特定のコンピュータに取り付けられたデバイスに接続できます。
3ステップ処理	JD Edwards EnterpriseOneでのバッチ・トランザクションの入力、検討と承認、転記、という3種類のタスクを指します。

3方向伝票照合	JD Edwards EnterpriseOne調達管理および外注管理で、仕入先からの請求書と入荷情報を比較して伝票を作成するプロセスです。3方向照合では、入荷レコードに基づいて伝票を作成します。
トランザクション処理 (TP) モニター	ローカル端末およびリモート端末と、それらを設定したアプリケーションの間でのデータ交換を制御するモニター機能です。また、分散環境でのデータの整合性も確認します。TPモニターには、通常、データの検証と端末画面のフォーマットを行うプログラムが含まれます。
トランザクション処理方法	手動コミットのトランザクション境界の管理に関する方法です (開始、コミット、ロールバック、取消など)。
トランザクション・セット	複数のセグメントで構成されている電子的業務トランザクション (電子データ交換の標準ドキュメント) です。
トリガー	データ辞書項目ごとに定義される複数のイベントの1つです。イベントの発生時にシステム内で自動的に処理されるロジックをデータ辞書項目に添付できます。
トリガーイベント	特殊なアクションが必須であるか、または結果アクションが定義済の特定のワークフロー・イベントです。
2方向認証	クライアントとサーバーがSSL証明書を互いに提供することで相互に認証しあう認証メカニズムです。
2方向伝票照合	JD Edwards EnterpriseOne調達管理および外注管理で、購買オーダーの明細行と仕入先の請求書を比較して伝票を作成するプロセスです。入荷情報は記録されません。
ユーザー識別情報	ユーザーID、ロールまたは*publicです。
ユーザー一時変更のマージ	新規のユーザー一時変更レコードを、顧客が使用しているユーザー一時変更テーブルに追加する処理です。
値オブジェクト	データ構造がデータを渡すのとよく似たように入力/出力データを保持するソース・ファイルの特定のタイプです。値オブジェクトは、公開 (公開ビジネス・サービスで使用) か内部か、および入力か出力かを指定できます。値オブジェクトは、単純な要素および複雑な要素と、要素に対する付属情報から構成されます。
差異	JD Edwards EnterpriseOneキャピタル・アセット・マネジメントでは、1つの設備で発生した収益と、その設備に関連して発生した費用の差を意味します。 JD Edwards EnterpriseOneプロジェクト原価管理とJD Edwards EnterpriseOne製造管理では、同じ品目に対する2つの原価計算方式の間に生じる差異を意味します。たとえば、凍結標準原価と現行原価の差として設計差異が生じます。凍結標準原価は原価要素テーブルから取得され、現行原価は資材、工程、間接費の各レートを使用して計算されます。
公開ビジネス・サービスのバージョン	既存の機能/インターフェイスを変更せずに、他の機能/インターフェイスを公開ビジネス・サービスに追加することです。
バージョン・リストのマージ	バージョン・リストのマージを実行すると、新規リリースで有効なオブジェクトについて、非XJDEおよび非ZJDEバージョンのスペックとその処理オプション・データが維持されます。
ビジュアル・アシスト	ユーザーが各コントロールに属する有効なデータを判別できるように、コントロールからトリガーを介して起動できるフォームです。
用語一時変更	特定のJD Edwards EnterpriseOneフォームやレポートに表示される、データ辞書項目の代替的なラベルです。
wchar_t	ワイド文字の内部タイプです。国際市場向けの移植可能プログラムの記述に使用します。

Webアプリケーション・サーバー	Webアプリケーションと、電子商取引に使用されているバックエンド・システムおよびデータベースとの間で、データ交換を可能にするWebサーバーです。
Webサーバー	ブラウザから送信されたリクエストに応じて、TCP/IPプロトコルを使用して情報を送信するサーバーです。Webサーバーでは、ブラウザからのリクエストに応じるだけでなく、アプリケーションやデータの格納など、通常のサーバーが行うあらゆるタスクを処理できます。どのコンピュータでも、サーバーソフトウェアをインストールし、インターネットに接続すれば、Webサーバーとして使用できます。
WSDL (Web Service Description Language)	ネットワーク・サービスを記述するXML形式です。
WSIL (Web Service Inspection Language)	使用可能なサービスのサイトの検出を支援するXML形式、および検出に関連する情報の作成方法を示す一連の規則です。
Webサービス・プロキシ基盤	WAS上でWebサービスを使用するためにビジネス・サービス・サーバー・アーティファクトに含める必要のある、Webサービス・プロキシの基盤となるクラスです。
Webサービス・ソフトコーディング・レコード	Webサービス・プロキシの構成に使用する値が記述されたXMLドキュメントです。このドキュメントは、エンドポイントを特定し、条件付きでセキュリティ情報を含みます。
Webサービス・ソフトコーディング・テンプレート	ソフトコーディングされたレコードの構造を提供するXMLドキュメントです。
WHERE句	データベース操作の対象となるレコードを指定する、データベース操作の一部分です。
Windowsターミナル・サーバー	マルチ・ユーザー機能を持つサーバーで、単体ではWindowsソフトウェアを実行できない端末や最小限構成のコンピュータでも、このサーバーに接続することにより、Windowsアプリケーションを使用できます。すべてのクライアント処理は、Windowsターミナル・サーバーで集中的に実行されます。画面表示、キー入力、およびマウス操作のコマンドのみが、ネットワーク経由でクライアントの端末機器とターミナル・サーバー間で転送されます。
ウィザード	JDeveloperの拡張機能の1つで、一連のステップを順を追って説明します。
ワークベンチ	関連のあるプログラムのグループに対して、1つのエントリ・ポイントからアクセスすることを可能にするプログラムです。通常、ワークベンチからアクセスするプログラムは、大規模な業務プロセスに使用されています。たとえば、JD Edwards EnterpriseOne給与計算サイクル・ワークベンチ (P07210) を使用して、給与の計算、支給レポートの印刷、給与レポートの作成、仕訳入力の作成、給与履歴の更新に使用されるすべてのプログラムにアクセスできます。JD Edwards EnterpriseOneには、サービス管理ワークベンチ (P90CD020)、ライン・スケジューリング・ワークベンチ (P3153)、計画ワークベンチ (P13700)、監査人ワークベンチ (P09E115)、給与計算サイクル・ワークベンチなどが用意されています。
作業日カレンダー	JD Edwards EnterpriseOne製造管理で、計画の作成に使用されるカレンダーです。このカレンダーには作業日のみが列挙されるので、実際に稼働可能な日数に基づいて構成と作業オーダーのスケジュールを設定できます。作業日カレンダーは、計画カレンダー、製造カレンダー、または製造現場カレンダーと呼ばれる場合もあります。
ワークフロー	ビジネス・プロセスの一部または全体の自動化を意味します。自動化されたプロセス (ワークフロー) では、ドキュメント、情報、タスクが、指定された手順に従ってユーザーからユーザーへ渡されます。
ワークグループ・サーバー	マスター・ネットワーク・サーバーからレプリケートされたデータのサブセットが通常置かれるサーバーです。ワークグループ・サーバーでは、アプリケーションやバッチ処理は実行されません。
XAPIイベント	システム・コールを使用してJD Edwards EnterpriseOneのトランザクションを発生時に取得し、特定のトランザクションが発生した場合に、通知を要求した

	サード・パーティ・ソフトウェア、エンドユーザー、およびその他のJD Edwards EnterpriseOneシステムを呼び出すサービスです。
XML CallObject	ビジネス関数の呼び出しを行うためのインタオペラビリティ機能です。
XMLディスパッチ	JD Edwards EnterpriseOneで応答として受信するすべてのXMLドキュメントに対して、単一のエントリ・ポイントを提供するインタオペラビリティ機能です。
XMLリスト	JD Edwards EnterpriseOneデータベース情報を、チャンク単位でリクエストおよび受信することを可能にするインタオペラビリティ機能です。
XMLサービス	JD Edwards EnterpriseOneシステムからイベントをリクエストし、別のJD Edwards EnterpriseOneシステムから応答を受信するためのインタオペラビリティ機能です。
XMLトランザクション	事前に定義されたトランザクション・タイプを使用して、JD Edwards EnterpriseOneにデータをリクエストしたり、JD Edwards EnterpriseOneからデータを受信するためのインタオペラビリティ機能です。XMLトランザクションでは、インターフェイス・テーブル機能が使用されます。
XMLトランザクション・サービス (XTS)	JD Edwards EnterpriseOneのフォーマットではないXMLドキュメントを、JD Edwards EnterpriseOneで処理可能なフォーマットに変換するサービスです。変換されたドキュメントに対する応答は、発信元(変換前)のXMLフォーマットに変換されます。
Zイベント	インターフェイス・テーブル機能を使用してJD Edwards EnterpriseOneトランザクションを取得し、特定のトランザクションが発生した場合に、通知を要求したサード・パーティ・ソフトウェア、エンドユーザー、およびその他のJD Edwards EnterpriseOneシステムに通知するサービスです。
Zテーブル	JD Edwards EnterpriseOne以外のデータを保存し、JD Edwards EnterpriseOne用に変換できるワークテーブルです。JD Edwards EnterpriseOneデータの取得にもZテーブルを使用できます。Zテーブルはインターフェイス・テーブルとも呼ばれます。
Zトランザクション	JD Edwards EnterpriseOneデータベースで更新できるよう、インターフェイス・テーブルで正しくフォーマットされたサード・パーティのデータです。

索引

Customer Connection Webサイト xvi
EAN13 50
EAN13の生成レポート
 概要 50
EAN13の生成レポート(RCW28)
 実行 53
EnterpriseOneシステム制御プログラム
 (P99410) 245
F0101テーブル 138
F3003テーブル 189
F3111テーブル 222
F3112テーブル 222
F4101テーブル 249
F41021テーブル 147
F4105テーブル 196
F41061テーブル 241
F41F02WFテーブル 249, 261
F41F2019テーブル 96, 261
F41F201Tテーブル 96, 261
F41F301Tテーブル 261
F4201テーブル 147
F4211テーブル 139, 147
F4801Tテーブル 222
F4801テーブル 220, 222
FCW011テーブル 260
FCW01テーブル 116, 253
FCW02Z1テーブル 261
FCW02テーブル 20, 182, 249, 253
FCW02品目構造定義未編集トランザク
 ション・テーブル(FCW02Z1) 261
FCW031テーブル 261
FCW03テーブル 253
FCW05テーブル 253
FCW06テーブル 253
FCW07テーブル 79, 253
FCW08テーブル 253
FCW09テーブル 254
FCW103テーブル 261
FCW105テーブル 147, 261
FCW10テーブル 254
FCW11テーブル 254
FCW12テーブル 254
FCW13テーブル 254
FCW14テーブル 254
FCW15テーブル 254

FCW16テーブル 254
FCW17テーブル 255
FCW18テーブル 255
FCW19テーブル 255
FCW20テーブル 116, 255
FCW22テーブル 255
FCW25テーブル 255
FCW31テーブル 147, 255
FCW32テーブル 255
FCW33テーブル 255
FCW34テーブル 255
FCW35テーブル 103, 256
FCW36テーブル 103, 256
FCW38テーブル 256
FCW39テーブル 138, 256
FCW40テーブル 256
FCW41テーブル 138, 147, 256
FCW42テーブル 256
FCW43テーブル 147, 256
FCW44テーブル 147, 256
FCW46テーブル 147, 256
FCW48テーブル 179, 256
FCW49テーブル 179, 257
FCW50テーブル 181, 257
FCW51テーブル 182, 257
FCW52テーブル 189, 257
FCW54テーブル 257
FCW55テーブル 257
FCW56テーブル 257
FCW57テーブル 257
FCW58テーブル 257
FCW59テーブル 257
FCW60テーブル 46, 258
FCW61テーブル 47, 182, 258
FCW62テーブル 258
FCW63テーブル 222, 258
FCW64テーブル 258
FCW65テーブル 220, 222, 258
FCW66テーブル 218, 221, 222, 258
FCW67テーブル 221, 258
FCW68テーブル 221, 258
FCW69テーブル 259
FCW70テーブル 259
FCW71テーブル 259
FCW83テーブル 259

- FCW84テーブル 259
 FCW85テーブル 259
 FCW86テーブル 259
 FCW87テーブル 260
 FCW88テーブル 260
 FCW89テーブル 260
 FCW93テーブル 260
 FCW94テーブル 260
 FCW961テーブル 261
 FCW962テーブル 261
 FCW963テーブル 261
 FCW96テーブル 260
 FCW97テーブル 260
 Financials
 統合 3
 JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理
 システムの統合の図 2
 JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理
 の産業内取引の図 13
 JD Edwards EnterpriseOneアパレル管理
 のビジネス・プロセスのフロー図 1
 MRP/MPS詳細メッセージの改訂プログラ
 ム(P3411) 202, 205
 MRP/MPS所要量計画プログラム
 (R3482) 202
 P03013プログラム 137, 139
 P3002プログラム 178
 P3003プログラム 189
 P31113プログラム 223
 P31123プログラム 221
 P3411プログラム 202, 205
 P4101プログラム 137, 196
 P41026プログラム 137, 196
 P41061プログラム 241
 P4112プログラム 57
 P4113プログラム 62
 P4114プログラム 60
 P4205プログラム 138
 P42101プログラム 138
 「オーダー見出しの改訂」フォー
 ム 118
 事前設定 117
 用途 118
 P4210プログラム 138
 概要 121
 事前設定 121
 処理オプション 121
 P43060プログラム 244, 249
 P4310プログラム 239, 244, 245
 P4312プログラム 239
 P4314プログラム 239
 P48013プログラム 222
 P9941010プログラム 245
 PCW011プログラム
 「品目レベル・タイプの改訂」フォー
 ム 33
 用途 33
 PCW02Aプログラム
 概要 55
 PCW03プログラム 204
 PCW05プログラム 64
 PCW06プログラム
 「コレクション構造定義」フォーム 78
 PCW07プログラム
 「コレクションの改訂」フォーム 81
 処理オプション 80
 PCW081プログラム
 概要 79
 PCW082プログラム
 概要 79
 PCW08プログラム
 概要 79
 「コレクション詳細」フォーム 83
 PCW10プログラム 218
 概要 116
 用途 244, 245
 PCW12Bプログラム 178
 PCW16プログラム
 概要 79
 「コレクションの作成」フォーム 82
 PCW17プログラム
 概要 99
 処理オプション 100
 PCW18プログラム
 概要 103
 PCW19プログラム
 概要 103
 「丸め規則詳細」フォーム 105
 PCW23プログラム 138
 PCW25プログラム
 「価格表明細の生成」フォーム 113
 処理オプション 112
 用途 113
 PCW29プログラム 148
 処理オプション 172
 用途 171
 PCW33プログラム
 「サイズ定義による自動分割」フォー
 ム 29
 用途 29, 246

- PCW34プログラム 182
 PCW35プログラム 189
 PCW36プログラム 189
 PCW41プログラム 138
 PCW42プログラム
 「コレクション・テンプレート詳細」フォー
 ム 87
 PCW43プログラム
 用途 246
 PCW44プログラム
 概要 46
 PCW45プログラム
 概要 47
 「スタイル品目追加情報」フォーム 49
 PCW47プログラム
 処理オプション 210
 用途 202, 204
 PCW48プログラム
 用途 249
 PCW49プログラム 222
 処理オプション 226
 用途 220
 PCW50プログラム 220
 PCW51プログラム 38, 182, 189
 用途 178
 PCW52プログラム 221
 PCW54プログラム 182, 189
 概要 89
 処理オプション 90
 用途 91
 PCW55
 処理オプション 242
 PCW55プログラム
 用途 241
 PCW61プログラム
 概要 125
 事前設定 125
 「受注オーダー - スタイル品目行の -
 括更新」フォーム 128
 処理オプション 126
 用途 128
 PCW62プログラム
 処理オプション 197
 用途 195
 PCW93プログラム 195
 PCW96プログラム 202, 205
 PCW97プログラム 202, 205
 PeopleCodeの表記規則 xviii
 R31410プログラム 222
 R31F410プログラム 196
 処理オプション 230
 用途 220, 222
 R3482プログラム 202
 R3483プログラム 202
 R42520プログラム 138
 R42995プログラム 97, 133
 R43500プログラム 239
 R43510プログラム 239
 RCW01
 概要 50
 RCW01プログラム 38
 RCW02プログラム 124
 RCW03プログラム 239, 252
 RCW04プログラム 38
 RCW06プログラム 146
 処理オプション 162
 用途 138
 RCW07プログラム
 処理オプション 113
 用途 114
 RCW08プログラム 147
 RCW09プログラム 147
 RCW10レポート 88
 RCW23プログラム 102
 RCW28レポート
 概要 50
 処理オプション 52
 RCW29Vプログラム 148, 171
 RCW32レポート 40
 概要 68
 処理オプション 69
 RCW33レポート
 概要 69
 処理オプション 70
 RCW34レポート 40
 概要 70
 RCW36レポート 40
 概要 71
 RCW37プログラム 148, 171
 RCW53プログラム 183
 用途 179
 RCW60プログラム 147
 RCW93プログラム 196
 SPLITC 31
 SPLITI 31
 STRUCTURE 37
 UCC 50
 UDC 41/UC 51
 UCCおよびEAN13生成
 概要 50

UDC

- 41F/00 245
- 41F/CR 138
- 41F/NR 171
- 41F/PA 138
- UDC 41/S1 44
- UDC 41/S3 44
- UDC 41/UC 52

あ

- アクセサリ 11
- アパレル管理
 - 概要 1
 - 統合 2
 - 導入 5
 - 導入手順 6
 - ビジネス・プロセス 1
- アパレル管理システムの概要 11
- アパレル管理で使用するテーブル 253
- アパレル管理での割当 131
- アパレル管理の資材計画作業 201
- アパレル管理モジュールのシステム固定情報 205
- アパレル管理用製造現場管理 217
- アパレル管理用製造データ管理 177
- アパレル管理用調達管理 237
 - 一括オーダーについて 244
 - 一括オーダー・リリースについて 249
 - 購買オーダーについて 245
 - 購買オーダーの印刷について 252
 - 購買価格について 241
 - データの除去 240
- アパレル管理用調達管理の統合の図 237
- アパレル管理用調達管理のプロセス・ステップ 239
- アパレル産業 8
 - 資材計画の例 203
- アパレル製品のライフサイクルの図 9
- アプリケーションの基礎 xv

い

- 一括オーダーのリリース 249
- 一括オーダー・リリースの例の図 249
- 色
 - 定義 11
- 色による部品表の関連付けの図 181

お

- オンデマンドによるスタイル品目の部品表作成の図 179
- オーダー処理プログラム(R31410) 222
- オーダー数量の計算の例の図 220
- 「オーダーのリリース」フォーム 251
- 「オーダー見出しの改訂」フォーム 118
- 「オーダー明細」フォーム 245, 247

か

- 会社UCCコード
 - 定義 52
- 会社UCCコードの記述2
 - アクセス 51
- 外注作業 200
 - 為替レートの設定 197
 - 詳細のコピー 200
 - 詳細の作成 198
- 外注作業の為替レート・テーブル(FCW84) 259
- 概要
 - アクセサリ 11
 - アパレル管理システム 11
 - アパレル管理での割当 131
 - アパレル管理の資材計画作業 201
 - アパレル管理用製造データ管理 177
 - アパレル管理用調達管理 237
 - アパレル管理用調達管理のプロセス・ステップ 239
 - アパレル産業 8
 - 外注作業について 193
 - 家具産業 8
 - 革製品 11
 - 靴下 10
 - 作業工程指示について 189
 - 産業内の取引 13
 - 下着 10
 - 自動割当について 146
 - 手動割当について 144
 - スポーツウェア 11
 - 製紙業 8
 - 製鉄業 8
 - 納入提案について 165
 - 納入提案のアルゴリズムについて 166
 - 引当規則の設定 138
 - 標準引当処理について 136
 - フットカバー 10
 - 部品表について 178

水着 10
 割当提案について 150
 割当提案のアルゴリズムについて 150
 割当/納入提案の検証について 171
 価格の丸め規則, 参照: 丸め規則
 価格の丸め方法, 参照: 丸め方法
 価格表
 1スタイル品目の生成 114
 概要 97
 事前設定 100
 除去 102
 生成 113
 設定 101
 定義するステップ 98
 品目例外の作成 115
 プロセス図 98
 価格表為替レート, 参照: 為替レート
 価格表為替レート・テーブル
 (FCW38) 256
 価格表生成
 概要 108
 事前設定 111
 価格表生成(PCW25)
 「価格表明細の生成」フォーム 113
 処理オプション 112
 用途 113
 価格表生成(RCW07)
 処理オプション 113
 用途 114
 価格表生成テーブル(FCW40) 256
 価格表生成 - 品目例外テーブル
 (FCW42) 256
 価格表の作成レポート(RCW23) 102
 価格表プログラム(PCW17)
 概要 99
 処理オプション 100
 「価格表明細の生成」フォーム 113
 家具産業 8
 カテゴリ・コード
 引当規則の優先順位値の設定 143
 カテゴリ・コード(W4101B) 41
 カテゴリ・コードの優先順位値テーブル
 (FCW39) 138, 256
 カテゴリ・コード・ワークファイル・テーブル
 (FCW08) 253
 カラムの位置による関連付けの図 182
 革製品 11
 為替レート
 概要 107

事前設定 107
 設定 107
 関連ドキュメンテーション xvi

き

基準計画スケジュール - 複数事業所プログラム(R3483) 202
 共通フィールド xx
 業務環境および概念 7

く

靴下 10
 グリッド・コード 28
 クリーニング・コード
 概要 47
 追加 49
 グローバル導入の手順 5

け

計画メッセージ
 グループ化 213
 サイズ別数量の追加 212
 処理 211
 調整値の計算 214
 転送オーダーの生成 214
 分割 212
 理解 204
 警告 xix
 継承
 定義 12
 原材料分析テーブル(FCW96) 260
 原材料分析プログラム(PCW96) 202, 205

こ

ご意見 xx
 購買オーダー印刷プログラム
 (R43500) 239
 購買オーダー入力およびコレクション 246
 購買オーダーの印刷 252
 購買オーダー・プログラム(P4310) 239, 244, 245
 購買オーダー見出しスタイル品目タグ・ファイル・テーブル(F41F301T) 261
 購買価格 241, 243
 購買要求からの購買オーダー/一括オーダー・リリース・プログラム
 (P43060) 244, 249

顧客請求指示プログラム(P03013) 137
 顧客マスター・プログラム(P03013) 139
 子スタイル品目の作成/処理プログラム
 (RCW01) 38
 概要 50
 子スタイル品目の部品表の作成プログラ
 ム(RCW53) 183
 用途 179
 ご要望 xx
 コレクション
 概要 73
 購買オーダーの入力 246
 コレクション見出しの作成 81
 作成 82
 作成の概要 79
 スタイル品目の追加 83
 定義 12
 定義するステップ 74
 プロセス・フロー図 75
 マスター作業オーダーの処理 219
 コレクション管理(PCW07)
 「コレクションの改訂」フォーム 81
 処理オプション 80
 コレクション構造
 概要 74, 77
 作成 82
 事前設定 77
 定義 78
 コレクション構造コード 76
 コレクション構造コードの定義(PCW06)
 「コレクション構造定義」フォーム 78
 コレクション構造定義テーブル
 (FCW05) 253
 「コレクション構造定義」フォーム 78
 コレクション詳細(PCW08)
 概要 79
 「コレクション詳細」フォーム 83
 コレクション詳細構造作成(PCW16)
 概要 79
 「コレクションの作成」フォーム 82
 コレクション詳細テーブル(FCW07) 79,
 253
 「コレクション詳細」フォーム 83
 コレクション・テンプレート
 概要 84
 作成 87
 事前設定 86
 テンプレート名の定義 87
 コレクション・テンプレート詳細テーブル
 (FCW56) 257

「コレクション・テンプレート詳細」フォー
 ム 87
 コレクション・テンプレート入力(PCW42)
 「コレクション・テンプレート詳細」フォー
 ム 87
 コレクション・テンプレート見出しテーブ
 ル(FCW55) 257
 コレクション・テンプレート・リスト
 (RCW10) 88
 「コレクションの改訂」フォーム 81
 コレクションの作成 79
 「コレクションの作成」フォーム 82
 コレクション品目マスター・プログラム
 (PCW54) 182
 コレクション別スタイル品目(PCW54)
 概要 89
 処理オプション 90
 用途 91
 コレクション別スタイル品目プログラム
 (PCW54) 189
 コレクション見出しテーブル(FCW06) 253

さ

在庫移動プログラム(P4113) 62
 在庫管理
 統合 3
 在庫出庫プログラム(P4112) 57
 「在庫調整の処理」フォーム
 (W4114B) 61
 在庫調整プログラム(P4114) 60
 在庫トランザクション
 概要 25
 在庫状況の検討
 概要 63
 サイズ加重 31
 サイズ管理 26
 サイズ定義による自動分割(PCW33)
 「サイズ定義による自動分割」フォー
 ム 29
 用途 29
 サイズ定義による自動分割テーブル
 (FCW031) 261
 「サイズ定義による自動分割」フォー
 ム 29
 サイズ定義プログラム(PCW33)
 用途 246
 サイズによる部品表の関連付けの
 図 181
 サイズ分割 29
 サイズ・マトリックス・グリッド

概要 26
 定義 29
 「作業オーダー完了マトリックス入力」
 フォーム 234
 作業オーダー在庫出庫プログラム
 (P31113) 223
 作業オーダー入荷マトリックス入力ワー
 クファイル(FCW64) 258
 作業オーダーの作業工程テーブル
 (F3112) 222
 作業オーダーの入力ワークファイル・
 テーブル(FCW25) 255
 作業オーダー部品リスト出庫テーブル
 (FCW69) 259
 作業オーダー部品リスト・テーブル
 (F3111) 222
 作業オーダー・マスター(F4801) 220,
 222
 作業オーダー・マスター・タグ・テーブル
 (F4801T) 222
 作業工程指示
 子スタイル品目に対して生成 192
 スタイル品目ルート・レベル0の入
 力 192
 例外の定義 192
 「作業工程情報の入力」フォーム 192
 作業工程の入力/変更プログラム
 (P3003) 189
 作業工程の例外プログラム
 (PCW36) 189
 作業工程マスター(F3003) 189
 「作業工程例外の処理」フォーム 192
 産業内の取引 13

し

仕入先価格/カタログ・ファイル - 詳細
 テーブル(FCW71) 259
 仕入先価格/カタログ・ファイル・テーブ
 ル(F41061) 241
 仕入先価格/カタログ・ファイル - 見出し
 テーブル(FCW70) 259
 仕入先価格/カタログ見出し 242
 仕入先カタログ管理プログラム
 (P41061) 241
 事業所品目プログラム(P41026) 137,
 196
 事業所品目ワークファイル・テーブル
 (FCW10) 254
 資材不足分 205
 システム固定情報

SPLITC 31
 SPLITI 31
 STRUCTURE 37
 事前設定
 アパレル管理での割当 133
 アパレル管理用製造データ管理 177
 アパレル管理用調達管理 240
 一括オーダーの入力 244
 一括オーダーのリリース 250
 外注作業の設定 196
 計画メッセージの処理 208
 購買オーダーの入力 246
 作業工程指示の作成 190
 手動割当の実行 145
 提案納期の生成 170
 引当規則の設定 140
 部品表の設定 183
 割当提案の生成 162
 下着 10
 自動割当
 実行 146, 148
 自動割当プロセスの図 146
 シミュレーション集計部品リスト・テーブ
 ル(FCW962) 261
 シミュレーション詳細部品リスト・テーブ
 ル(FCW961) 261
 住所録マスター(F0101) 138
 受注オーダー
 再転記 133
 受注オーダー管理の標準引当処理の
 図 137
 「受注オーダー - スタイル品目行の一括
 更新」フォーム 128
 受注オーダー・スタイル品目の一括更新
 概要 125
 事前設定 125, 128
 受注オーダー - スタイル品目の一括更
 新(PCW61)
 概要 125
 事前設定 125
 「受注オーダー - スタイル品目行の一
 括更新」フォーム 128
 処理オプション 126
 用途 128
 受注オーダー入力(P4210)
 概要 121
 事前設定 121
 処理オプション 121
 受注オーダー入力(P42101)

「オーダー見出しの改訂」フォーム 118
 事前設定 117
 用途 118
 受注オーダー入力プログラム (P4210) 138
 受注オーダー入力プログラム (P42101) 138
 処理中受注オーダーの再転記 133
 受注オーダー見出しスタイル品目タグ・ファイル (F41F201T) 96
 受注オーダー見出しスタイル品目タグ・ファイル・テーブル (F41F201T) 261
 受注オーダー見出しスタイル品目タグ履歴ファイル (F41F2019) 96
 受注オーダー見出しスタイル品目タグ履歴ファイル・テーブル (F41F2019) 261
 受注オーダー見出しテーブル (F4201) 147
 受注オーダー明細テーブル (F4211) 139, 147
 受注管理
 概要 93
 機能 94
 事前設定 97
 データの除去 96
 統合 4
 バックオーダー 96
 プロセス・フロー 95
 出荷確認プログラム (P4205) 138
 「出庫処理」フォーム (W4112D) 58
 手動割当
 実行 144, 145
 手動割当プロセスの図 145
 詳細のコピー 200
 所要量計画
 統合 4
 処理中受注オーダーの再転記 (R42995) 97
 処理中受注オーダーの再転記プログラム (R42995) 133
 シーズン・コード 77
 シーズン年 77

す

スタイル
 定義 11
 スタイル最終品目ワークファイル・テーブル (F41F02WF) 249, 261

スタイル作業オーダー構成部品仕損情報
 テーブル (FCW103) 261
 スタイル作業オーダー作業工程テーブル (FCW68) 221, 258
 スタイル作業オーダー部品リスト・テーブル (FCW67) 221, 258
 「スタイル作業工程の処理」フォーム 189, 192
 スタイル作業工程マスター (FCW52) 189, 257
 スタイル作業工程マスターの処理プログラム (PCW35) 189
 スタイル代替品目プログラム (PCW48)
 用途 249
 スタイル・テンプレート・プログラム (PCW43)
 用途 246
 スタイル品目
 一括オーダー 244
 一括オーダーのリリース 249
 外注作業の概要 193
 業務環境および概念 7
 計画メッセージについて 204
 購買オーダー入力 245
 購買オーダーの印刷 252
 購買価格 241
 購買価格の作成 243
 コピー 44
 作業工程指示の概要 189
 作成 43
 仕入先価格/カタログ見出しの作成 242
 定義 11
 引当規則の概要 138
 部品表の概要 178
 マスター作業オーダーの処理 218
 「スタイル品目外注作業の為替レート詳細」フォーム 195, 197
 スタイル品目外注作業の為替レート・プログラム (PCW62)
 用途 195
 スタイル品目外注作業プログラム (PCW62)
 処理オプション 197
 スタイル品目構造 20
 概要 22
 スタイル品目在庫状況
 検討 66
 スタイル品目在庫状況プログラム (PCW05) 64

- 処理オプション 64
- スタイル品目残の除去レポート(RCW32)
 - 概要 69
 - 処理オプション 70
- スタイル品目残の除去ログ(FCW87) 260
- スタイル品目残の除去ログ・レポート(RCW34) 40
 - 概要 70
- スタイル品目仕入先価格/カタログ(PCW55)
 - 処理オプション 242
- 「スタイル品目仕入先価格/カタログ - 詳細の改訂」フォーム 243
- スタイル品目仕入先価格/カタログ・プログラム(PCW55)
 - 用途 241
- スタイル品目追加情報(PCW45)
 - 概要 47
- 「スタイル品目追加情報」フォーム 49
- スタイル品目追加情報テーブル(FCW61) 47, 182, 258
- 「スタイル品目追加情報」フォーム 49
- 「スタイル品目追加情報」フォーム(WCW45A) 40
- スタイル品目追加情報ワークファイル・テーブル(FCW63) 222, 258
- スタイル品目の外注作業詳細のコピー・プログラム(RCW93) 196
- スタイル品目の外注作業詳細の作成プログラム(PCW93) 195
- 「スタイル品目の外注作業詳細」フォーム 198
- スタイル品目の外注作業プロセスの図 193
- スタイル品目の外注作業へのコピー・テーブル(FCW93) 260
- 「スタイル品目の原材料分析の処理」フォーム 205
- スタイル品目の購買オーダーの印刷プログラム(RCW03) 239
- スタイル品目の購買オーダー・プログラム(RCW03) 252
- スタイル品目の購買価格処理の図 241
- スタイル品目の在庫
 - 移動 63
 - 出庫 59
 - 調整 61
- スタイル品目の在庫移動
 - 概要 61
 - 事前設定 62
- スタイル品目の在庫出庫
 - 概要 57
 - 事前設定 57
- スタイル品目の在庫調整
 - 概要 59
 - 事前設定 60
- 「スタイル品目の作業オーダー工程」フォーム 234
- スタイル品目の作業オーダー在庫出庫テーブル(FCW89) 260
- スタイル品目の作業オーダー作業工程プログラム(PCW52) 221
- スタイル品目の作業オーダー詳細テーブル(FCW66) 218, 221, 222, 258
- スタイル品目の作業オーダー処理プログラム(R31F410) 196
 - 処理オプション 230
 - 用途 220, 222
- スタイル品目の作業オーダー見出しテーブル(FCW65) 220, 222, 258
- スタイル品目の作業工程作成プロセスの図 189
- スタイル品目の作成
 - 概要 38
 - 事前設定 40
- スタイル品目の作成プロセス
 - 概要 24
- スタイル品目の資材計画プロセスの図 202
- スタイル品目の受注オーダー入力
 - 概要 115
 - コレクションの使用 117, 119
 - 事前設定 117
 - 設定の考慮事項 117
 - 用途 118
- スタイル品目の受注オーダーの印刷(RCW02) 124
- スタイル品目の調達管理プロセスの図 239
- スタイル品目の特性
 - 概要 23
- スタイル品目のバッチ生成
 - 概要 50
- 「スタイル品目の引当規則の定義」フォーム 138, 143
- スタイル品目の引当規則プログラム(PCW41) 138
- 「スタイル品目の部品表のコピー」フォーム 188

「スタイル品目の部品表の処理」フォーム 179, 187
 スタイル品目の部品表の例の図 195
 スタイル品目の部品表プログラム
 (PCW12B) 178
 スタイル品目のマスター作業オーダー処理プログラム(PCW49) 222
 処理オプション 226
 用途 220
 「スタイル品目のマスター作業オーダーの改訂」フォーム 231, 232
 「スタイル品目のマスター作業オーダー」フォーム 230
 「スタイル品目のマスター作業オーダー部品リスト詳細」フォーム 220, 232, 233
 スタイル品目のマスター作業オーダー部品リスト・プログラム(PCW50) 220
 スタイル品目別コレクション詳細
 (PCW082)
 概要 79
 スタイル品目マスターの除去レポート
 (RCW32) 40
 概要 68
 処理オプション 69
 スタイル品目マスターの除去ログ・テーブル(FCW88) 260
 スタイル品目マスターの除去ログ・レポート(RCW36) 40
 概要 71
 「スタイル品目マスター表示の処理」フォーム(WCW51E) 41
 スタイル品目マスター・プログラム
 (PCW51) 24, 38, 182, 189
 処理オプション 41
 用途 178
 スタイル品目マスター変換(RCW04)プログラム 38
 スタイル品目ルート・レベル0 39
 構造の添付 43
 定義 11
 スタイル品目レベル 22
 スポーツウェア 11
 スーパー・バックフラッシュ・プログラム
 (P31123) 221

せ

製紙業 8
 製造管理
 統合 3

製造原価計算および製造会計 183
 統合 4
 製造現場管理
 統合 3
 製造作業オーダー処理プログラム
 (P48013) 222
 製造データ管理
 統合 3
 製鉄業 8
 製品ガイド
 注文 xvi
 製品構造
 概要 20
 前提知識 xv

そ

倉庫管理
 統合 4
 相互参照 xix
 組成
 概要 46
 事前設定 47
 処理 48
 組成(FCW60)ワークファイル・テーブル
 (FCW62) 258
 組成テーブル(FCW60) 46, 258
 組成入力(PCW44)
 概要 46
 「組成の処理」フォーム(WCW44A) 40, 41
 組成の復元ワークファイル・テーブル
 (FCW94) 260

ち

注意 xix
 注意事項 xix
 調整
 計算 206
 調整計算
 概要 206
 例1 207
 例2 207
 調整計算テーブル(FCW963) 261
 「調整計算」フォーム 206, 214
 調達/外注管理
 統合 4
 調達管理
 統合 4

つ

追加ドキュメンテーション xvi

て

提案

バッチによる割当の検証 175
 割当/納入のオーダー詳細の検討 174
 割当/納入のオーダーの検討 172
 割当/納入の検討 174
 割当/納入の品目の検討 173
 提案オーダー詳細テーブル
 (FCW44) 147
 提案オーダー行詳細テーブル
 (FCW31) 147, 255
 提案オーダー詳細テーブル
 (FCW44) 256
 「提案オーダー詳細」フォーム 174
 「提案オーダー・リスト」フォーム 173
 提案処理詳細テーブル(FCW43) 147,
 256
 「提案の改訂」フォーム 175
 提案の検証プログラム(RCW29V) 148,
 171
 提案のサイズ加重テーブル
 (FCW46) 147, 256
 提案の適正配分計算プログラム
 (RCW60) 147
 「提案品目リスト」フォーム 173
 適正配分/配分率テーブル
 (FCW105) 147, 261
 伝票照合プログラム(P4314) 239
 テンプレート, 参照: コレクション・テンプレ
 ート
 データの除去 96, 240

と

統合

Financials 3
 アパレル管理 2
 在庫管理 3, 13
 受注管理 4, 13
 所要量計画 4, 13
 製造管理 3
 製造原価計算および製造会計 4
 製造現場管理 3, 13
 製造データ管理 3, 13
 倉庫管理 4
 調達/外注管理 4

調達管理 4, 13

輸送管理 4

割当 13

導入

アパレル管理 5
 アパレル管理固有 6
 グローバル手順 5

導入手順 6

ドキュメンテーション

関連 xvi

最新版 xvi

ダウンロード xvi

ドキュメンテーションのダウンロード xvi

に

入荷確認書の印刷プログラム

(R43510) 239

入荷確認プログラム(P4312) 239

の

納入提案

アルゴリズムについて 166

生成 170

理解 165

は

バックオーダー 96

バルク品目マスター(F41011)ワークファ
 イル・テーブル(FCW59) 257

ひ

引当可能数量

計算 205

引当可能数量計算

概要 205

例 206

引当規則 138

カテゴリ・コードの優先順位値の設
 定 143

コードの定義 141

定義 142

引当規則テーブルFCW41 138, 147, 256

「引当規則 - ユーザー定義コード」フォー
 ム 142

ピッキング・リストの印刷プログラム

(R42520) 138

表記規則 xviii

標準タイプ

概要 32

事前設定 33
 定義 33
 標準引当処理 136
 標準品目からスタイル品目への変換
 概要 38
 表見出しの印刷テーブル(FCW33) 255
 表明細の印刷テーブル(FCW34) 255
 品目階層
 概要 53
 作成 54
 品目改訂
 概要 55
 作成 56
 品目管理
 概要 19
 品目基本価格テーブル・ワークファイル・
 テーブル(FCW11) 254
 品目原価テーブル(F4105) 196
 品目原価テーブル・ワークファイル・テー
 ブル(FCW12) 254
 品目原価要素追加ワークファイル
 (FCW85) 259
 品目構造
 概要 35
 定義 36
 品目構造コード 35
 品目構造詳細テーブル(FCW01) 116,
 253
 品目構造定義テーブル(FCW02) 20,
 182, 249, 253
 「品目構造定義」フォーム(WCW02B) 40
 品目構造の処理プログラム(PCW01)
 品目構造詳細テーブル(FCW01) 22
 品目構造コード 35
 品目コレクション詳細(PCW081)
 概要 79
 品目出荷情報(F4908)ワークファイル・
 テーブル(FCW32) 255
 品目の改訂ワークファイル・テーブル
 (FCW09) 254
 品目保管場所テーブル(F41021) 147
 品目保管場所ワークファイル・テーブル
 (FCW13) 254
 品目マスター(F4101) 249
 品目マスター - サービス/保証(F4117)
 ワークファイル・テーブル(FCW58) 257
 品目マスター・タグ・ワークファイル・テー
 ブル(FCW14) 254
 「品目マスターの改訂」フォーム
 (W4101A) 41

品目マスター・プログラム(P4101) 137,
 196
 品目例外 115
 品目レベル・タイプ(PCW011)
 「品目レベル・タイプの改訂」フォー
 ム 33
 用途 33
 品目レベル・タイプ・テーブル
 (FCW011) 260
 「品目レベル・タイプの改訂」フォーム 33
 品目レベル・タイプ・プログラム(PCW011)
 品目レベル・タイプ・テーブル
 (FCW011) 22

ふ

複数属性
 定義 12
 「複数レベル品目の改訂」フォーム
 (WCW02AB) 41
 複数レベル品目の改訂プログラム
 (PCW02A)
 概要 55
 「複数レベル品目の改訂」フォーム 56
 フットカバー 10
 部品表
 色による関連付けの入力 181
 オンデマンドによる子スタイル品目の
 生成 187
 関連の入力 181, 182, 185
 子スタイル品目のバッチ生成 188
 コピー 188
 サイズによる関連付けの入力 181
 スタイル品目ルート・レベル0の入
 力 185
 用途の入力 186
 例外の定義 187
 「部品表情報の入力」フォーム 185
 部品表数量ワークファイル・テーブル
 (FCW86) 259
 部品表の改訂プログラム(P3002) 178
 部品表の関連詳細テーブル
 (FCW49) 179, 257
 部品表の関連マトリックス・テーブル
 (FCW50) 181, 257
 部品表の関連見出しテーブル
 (FCW48) 179, 256
 「部品表の関連を定義する基準〈変数名
 〉」フォーム 185
 「部品表の関連を用途別に定義」フォー
 ム 186

「部品表の例外の処理」フォーム 187
 部品表用途テーブル(FCW51) 182, 257
 部品表例外プログラム(PCW34) 182
 部品表ワークファイル・テーブル
 (FCW54) 257

ま

マスター作業オーダー 218
 オーダー詳細の処理 220
 オーダー見出しの処理 220
 完了 234
 検討 232
 在庫出庫 223
 作業工程指示の作成 234
 作業工程指示の処理 221
 詳細の入力 231
 処理 222, 234
 部品リストの改訂 233
 部品リストの作成 232
 部品リストの処理 220
 見出しの処理 223
 見出しの入力 230
 マスター作業オーダー処理の図 222
 マスター作業オーダーの例の図 218
 マトリックス
 概要 23
 「マトリックス管理 - サイズ別数量の追加」フォーム 212
 マトリックス・グリッド・テーブル
 (FCW03) 253
 「マトリックス・グリッドのサイズ定義の改訂」フォーム 28
 「マトリックス・グリッドのサイズ定義の処理」フォーム 28
 マトリックス・グリッド・プログラム
 (PCW03) 204
 マトリックス入力
 レベル・カラム見出し 37
 マトリックス入力(PCW10)
 概要 116
 マトリックス入力プログラム(PCW10) 218
 用途 244, 245
 マトリックス・ワークファイル
 (FCW20) 116, 255
 丸め規則
 概要 103
 事前設定 104
 設定 105
 「丸め規則詳細」フォーム 105
 丸め規則テーブル(FCW36) 103, 256

丸め規則プログラム(PCW19)
 概要 103
 「丸め規則詳細」フォーム 105
 丸め方法
 概要 102
 事前設定 104
 数学的丸め 102
 設定 104
 統一価格への丸め 102
 丸め方法テーブル(FCW35) 103, 256
 丸め方法プログラム(PCW18)
 概要 103

み

水着 10

め

「メッセージ・グループ化詳細」フォーム 213
 メッセージ・グループ化テーブル
 (FCW97) 260
 メッセージ・グループ化プログラム
 (PCW97) 202, 205
 「メッセージのマトリックス管理の処理」
 フォーム 211, 212, 214
 メッセージのマトリックス管理プログラム
 (PCW47)
 処理オプション 210
 用途 202, 204

ゆ

「優先カテゴリ・コード詳細」フォーム 144
 優先度カテゴリ・コード・プログラム
 (PCW23) 138
 輸送管理
 統合 4
 ユーザー定義コード
 06/G 196
 30/TB 178
 40/CM 196
 40/TB 177
 40/TR 178
 41F/00 31, 37
 41F/CS 76
 41F/GD 28
 41F/IS 35
 41F/RM 104
 41F/RT 104
 41F/SE 77

41F/ST 104
 41F/SY 77
 41/I 178
 48/SN 178
 概要 76

ら

ラベル

概要 46
 事前設定 47
 定義 12

れ

例

調整計算1 207
 調整計算2 207
 引当可能数量計算 206
 割当提案のアルゴリズムの設定と実行 153

例外

定義 12

例外管理

概要 24

レベル・カラム見出し 37

レベル番号による誤った関連付けを示す図 181

連絡先情報 xx

ろ

ロット・マスター・ワークファイル・テーブル(FCW22) 255

わ

割当

アルゴリズムの設定と実行の例 153
 自動的な実行 148
 手動での実行 145
 提案検証の概要 171
 提案について 150
 提案のアルゴリズムについて 150
 提案納期の生成 170
 提案の生成 165
 納入提案について 165
 納入提案のアルゴリズムについて 166
 バッチによる提案の検証 175
 割当/納入提案のオーダー詳細の検討 174

割当/納入提案のオーダーの検討 172

割当/納入提案の検討 174

割当/納入提案の品目の検討 173

割当提案

アルゴリズムについて 150

アルゴリズムの設定と実行の例 153

生成 165

理解 150

割当提案の検証/取消プログラム

(RCW37) 148, 171

割当/納入提案の計算(RCW08) 147

割当/納入提案の生成プログラム

(RCW06) 146

処理オプション 162

用途 138

割当/納入提案プログラム(PCW29) 148

処理オプション 172

用途 171

割当/納入提案リストの作成

(RCW09) 147

割当の統合図 133

割当プロセスのテーブルの図 148

ワークファイルF4016テーブル

(FCW16) 254

ワークファイルF41002テーブル

(FCW17) 255

ワークファイルF41171テーブル

(FCW15) 254

ワークファイルF43090テーブル

(FCW83) 259

ワークファイルF46010テーブル

(FCW19) 255

ワークファイルF49075テーブル

(FCW18) 255

ワークファイル追加システム情報(F4101)

テーブル(FCW57) 257

